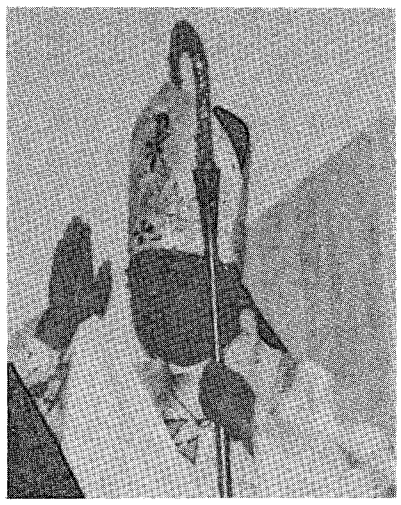
カトリック福岡教区報

年頭のことば

新年明けまして おめでとうございます

ヨゼフ松永久次郎司教



教区民に神の祝福を与える松永司教

皆様ご一同様の上に神の祝福を心をこめてお祈りいたします。時は神よりの尊いお恵みです。神の手の中にある時の営みに参加するお恵みを、わたしたちは今一度、あらためていただきました。天地万物を完成し人間の救いを働かれる神のご計画に、この一年心をこめて、積極的に参加して参りましょう。

一、新しい出発

新しい年を迎え、わたしたちも新しく出発する心構えを持たなければなりません。止まることなく過ぎ去り、同じようにめぐって行く時の流れに、年や月のしるしがつけられたのは、わたしたちに過去を振り返って反省する機会を与え、新しい心で再出発させるためでもあります。今年こそ、充実した時、価値ある働きの年にしたいものです。

キリスト者個人だけでなく、福岡の地に旅する神の民・福岡教区民もまた、新年を新しい出発の機会としなければならないと思います。共にみことばを学び、神の美しい礼拝を捧げるようつとめましょう。また、真理のことばを分かちあい、愛の業を実践することによって、周りの人に福音を伝えて参りましょう。よき福音宣教の年にしなければとの決意を新たにしたいものです。

二、家庭の祈り

福岡教区では、今年の年間標語として「家庭の祈り・平和のきずな」を選びました。祈ること、特に家庭で祈ることを学び、平和をつくる者となることを目指す標語です。

わたしたち信者は神に祈ることを学ばねばなりません。神がおられること、神の前で生きていることを信じているわたしたちですから、この大切な真理を度々意識するよう、そしてこの信仰にもとずいて自分の行為を整えるようにいたしましょう。神にご挨拶申し上げ、神のみ声を聞くように心がけるとともに、またわたしたちも自身のこと、そして自分に親しい人のことなどについて神とお話するよう習慣づけたいと思います。そして神のみこころに従って生きる力を願わねばならないと思います。

また家庭の中で、家族揃って祈ることは美しいことです。せめて幼い日の思い出に、お父さん、お母さんと共に、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に、またきょうだい揃って祈ったという、美しい信仰体験が残ってほしいものです。

また「愛する心は祈る」と言われます。親は子供のため、子供は親のため、夫婦はお互いのために、祈ってほしいものです。人はパンだけで生きるものではありません。人は神の恵み、人の愛のなかで育ちます。祈りは人の行う愛の働きの中で一番美しく、一番尊いものとも言えるのです。

祈りは、神と人とを結びます。人の心と心を結びます。そして社会の平和、世界の平和の基礎をつくります。「共に祈る」「ために祈る」ことで支えられる平和こそ、キリストの平和と言えます。

三、今村の信者発見百二十五周年

一八六五年三月十七日、長崎大浦天主堂で「キリスト信者発見」の出来事がありました。浦上の信者たちが二百数十年隠れて守り通した信仰を、新しく渡来した宣教師に対し、マリア像の前で、美しく表明したのでした。教会二千年の歴史の中でも特筆すべき出来事でした。

ところで、福岡教区筑後地区にも、隠れてカトリックの信仰を守っていた集団がありました。長崎での信者発見の年から約二年後、浦上から四名の信徒が、信者がいないかを確かめるため今村を訪れました。そして一八六七年二月二十六日、浦上の信者と今村の信者はお互いの信仰を確かめ合い、こうして今村の教会の新しい歴史がはじまったのです。あれから今年でちょうど百二十五年になります。

今村の信者たちがどのような組織で信仰を守り続けたか、どのような信心の習慣があったかなど研究すべきことは多く残っています。しかし、殉教者ジョアン又右エ門のお取り次ぎのもとに信者が信仰を守ったこと、そして「四旬節のつとめ」が今村の信者発見のきっかけとなったことは特記すべきことと思います。

今村の信者発見は、浦上の信者発見とも比較することのできる美しい出来事です。神の恵みと人のまごころがつくり出した美しい歴史、福岡教区の信者が世界に誇っていいすばらしい歴史です。歴史は人間が考えた理屈ではなく、単なる美しい想像の産物でもありません。生身の人間が神の恵みのもと歩いた足跡ですから、尊い価値をもっているのです。

わたしたち福岡教区の信者は、百二十五周年の機会に、これらの人々の信仰を何らかの形で顕彰しなければならないと思います。また彼らの信仰を思って、自分たちの今日の信仰態度を反省するところがなければならないと思います。

○　○　○　　○　○　○

永松司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

み国が来ますように

（マタイ6・10）

サン・スルピス　櫻井尚明神父

時の話題

小笠原勝己

教会のグループ活動

ふれあい会、鐘をならす会、お花を活ける会、結婚した人を支える会、詩編を歌う会、ボリビア支援の会、セシリア会、クララ会、ラシーヌすみれ会、CYG、奉仕者会、高校生会、青年会、共助組合、駐車場委員会、購買委員会、営繕委員会、基地委員会、交流委員会、広報委員会、図書委員会、典礼委員会、水巻教会史編さん委員会の二十四グループが現在水巻教会では活動しています。このようなグループに分かれての活動は五年目になります。誰でも、どれかのグループに所属して、何かをしようという申し合わせで生まれました。

日曜日、ミサが終って、急いで帰らないで、せめて昼頃まで何かをしようと日曜日の午前中は教会で過ごすことが普通になって来ました。神父様の説教が多少長くなってもあまり気になりません。婦人会はありません。男性でも女性でも自分が興味のあるところに所属します。現在、男女に分かれているのはCYGと奉仕者会ですが、そのうち奉仕者会にも女性が入会するかもしれません。

他に教会役員会、地区役員会、地区集会等教会運営上必要な集会がありますが、これはどこの教会も同じでしょう。司祭は必要だと感じた集会やグループに参加します。

全部のグループが一度に会合することはできませんから平日の夜や日曜日の午後、土曜日の夜などに集まることになります。

日曜日の他にもう一日教会に集まりましょう。となります。すなわち、すみれ会は木曜日、典礼委員会は金曜日、広報委員会は土曜日、建設委員会は月曜日等それぞれで工夫しています。そのためメリットもあります。それは二つも三つもグループに属することができるからです。活動費は各グループが予算を立てて教会役員会へ申込みます。毎年信徒総会でグループの代表を紹介し、代表は活動の内容を説明するとともに、グループ員の募集をします。また、通常の日曜日にも勧誘をします。

現在もいくつかのグループが生まれつつあります。それは中国語研究会、フィリピン研修会を支える会、越冬たきだしグループ、等です。お年寄の中からはミサの後お祈りをする会が生まれるかも知れません。

開かれた教会とは、まず自己を開くこと、そしてみんなで心を合わせて、何かをすることではないでしょうか。祈りながら、他の人のために自分に何ができるかを考え、自分でできるグループに所属しましょう。

これが水巻教会のグループ活動です。（水巻教会）

カレンダーが出来ました！

典礼暦や教区行事などが載った「福岡教区カトリックカレンダー」が出来ました。各教会、家庭、修道院、学校、施設に一部ずつ配布されます。今後、毎年教区の年間テーマが決まります。今年は「家庭の祈り・平和のきずな」です。家庭での祈りを大切にし、祈りによって神と家族の平和のきずながより一層強くなりますように励んでまいりましょう。

なお、このカレンダーは松永司教様からのプレゼントです。

在庫があります。ご入用の方は、教区事務所においでください。発送はいたしませんのでご了承ください。

（福岡教区事務所）

小神学校生徒募集

小神学校入学を希望する者は、下記の条件が必要ですが、主任司祭と相談の上、福岡小神学校（〒810 福岡市中央区浄水通38 TEL092-531-6821）までご連絡ください。

〔入学条件〕
①司祭職を希望するカトリック信者の男子（中、高生）
②主任司祭の推せんが必要
※途中編入も可
詳しくはお問い合わせください。

福岡小神学校
校長　松井　忠之

ぶちくさ

新しい年を迎えると人々の口から〝新年あけまして、おめでとうございます〟とあいさつのことばが発せられる。そこで、こだわりをもって考えてみる、なぜ新年なのだろう。なぜ年が変わるとおめでたいのだろうと。一年は、単に地球が太陽を一周する時間、その一周のはじまりが新年で終わりが大晦日、などと思ってみても別に新しさはない。ただ忙しさだけが目に止る。▼しかし、日は昇り沈むという出来事を毎日、規則正しくくり返える。その動と静に驚きを感じる。そして、太陽が日々新鮮に見えてくる。▼また〝おめでとうございます〟とお互いにあいさつを交し合いながら、新しい年への希望と期待をもって節目を迎え、心を新たにしたいとの願いがあるように思える。▼希望をもつことができることはすばらしい。明日への期待があることは尊い。希望と期待があるからこそ新しさが生まれる。▼もし、希望も期待もないとしたら、日々の生活はやりきれない。心から新年のあいさつを交し、新しい年に希望を持ち、期待される年になって、はじめて日々の生活に張ができてくるように思う。▼ところで、人は一年の計は元旦にありというが、初心を貫徹することは難しい。年のはじめに心新たにしても人間は弱いものである。だから、神は、人間が神とともに生きるために七日に一日神に心を向けるようにすすめられた。教会は朝昼晩、神を思い、神に祈ることをすすめた。弱い人間が日々新たにされ生きることができたらと思う。▼聖パウロは「たとえ、わたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます」（IIコリント4・16）と教え、信仰に生きることをすすめます。▼一九九二年を迎えた今、もう一度、信仰を問いかけ、神の民、神の家族としての歩みが新たなものになるように祈りたい。

□□□□□□□□□□□□□□□

信仰教育委員会
全国担当者会議

一九九一年十一月十八日
於　日本カトリック研修センター（名古屋）
出席者　三十五名（委員長平山司教、司祭十九、信徒十三、修道者二、事務局）

議題
一、中学生の信仰教育に関するメッセージ作りについて
二、「こどもとともにささげるミサ」についての報告

基調講演
「思春期について」
古川八郎氏（府中市）

児童期から成人へ移り変わる成熟の最も激しい発達期です。身体的、精神的にも成長が大きいが、また、心理的にも不安定で、矛盾している時期です。

この時期の危機は、
①連帯感の喪失（親からの独立、友だちからの離れ）
②大人になることの否定
③若者としての思い上がり（自己主張するが内省できない）
④社会への反抗（非行、いじめ、登校拒否、暴力など）

こうした中学生の現状からくる、不安、悩み、欲求などを私達大人はよく理解しているでしょうか？……　腫れ物でも触る思いで、そっと見て見ない振りをしているのではないでしょうか。無関心？　どのように接し、関わっていったらよいのでしょうか？……むずかしいけれども、共に考え、探して行きましょう。

NHKのテレビ番組日曜日午後一時からの「中学生日記」をすすめます。

平山司教様の話
「中学生についての所感」

中学生が現実に教会から離れてはいるが、私は、本人だけの責任とは思えない。利潤追求の現代社会では、父親を家庭から奪い、朝は早く夜は遅くまで会社で、子どもの顔を見ることが少ない。最近は、母親も仕事に出かける、家庭は空っぽです。親子の絆も、対話もないのが現状です。

学校では、偏差値で各人の進路が決められます。

教会は彼らをどのように受け入れているでしょうか。関心がうすいのではないか。私たち大人のリーダーの生きざまが、問われているのではないでしょうか……。

私たちは救いを得て、神から一人ひとりが愛されているという確信を持って生きるリーダーと子どもが、これを分かち合える時、めぐみのしるしである秘跡によって高められ、力づけられるのです。

分団会での作業

中学生のカテケージスについては、二年前から、全国情報ネットワークと各教区当てのアンケートの資料をもとにして四つの分団に分かれて、きたんのない話し合いをしました。これは、現役のリーダーたちが子どもの声を聞いて、それを教会共同体で、どのようにアプローチするか、私たち信仰教育委員会は、日本の司教団（司祭も含む）へ提言することになっています。

この内容の主な骨組みは次の通りです。正式な文書として、信仰教育委員会から、まとめて司教団と小教区へ、来年の復活祭頃に配られると思います。

①親たちへのアプローチ
両親が教会と共にあゆむ姿勢を！
父母の集まりをして、子ども達への意識を改革する。

②教会へのアプローチ
何を、どのように伝えるか（生涯養成の中で位置づける。体験学習、巡礼、週休二日制の使い方、主日のカテケージスなど）。
目的はキリストの弟子となること。
教会は中学生の場を確保して、暖かく迎える。
教会学校リーダーの養成を長期にかけてする。

③社会への呼びかけ
塾や部活について、学校文部省へ訴える。

情報交換のなかで

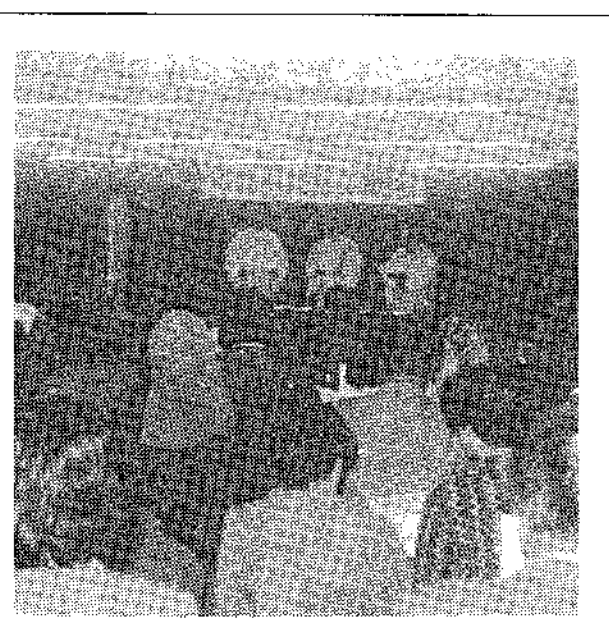
大阪教区
◎中学生と週末を教会で泊まって過ごしている。
◎父兄または校長先生に講演を頼む。

札幌教区
◎大自然の中でオリエンテーリングをして召命の集いをする。
◎スキーの季節に、中学生を合宿に呼ぶ。大勢集まります。

沖縄教区
◎海で福音を告げる。
小学生　三泊四日
中学生　四泊五日
高校生　五泊六日
効果抜群で召命にもつながる。他教区からの参加を歓迎します。

長崎教区
◎大人も子どもも年の黙想会には百%の出席です。
◎スポーツ大会（ソフトボール、バレーボール、綱引き）

北九州地区
公聴会



福岡教区での第一回公聴会が、去る十一月二十三日(土)北九州地区で開催された。

午前九時より開会、祈り、司教メッセージ、会長挨拶、経過報告と全体会を終り、九時三十分より分科会に入る。

第一分科会　性といのち
第二分科会　しつけと教え
第三分科会　学校と教会
第四分科会　社会生活と信仰
第五分科会　老後の生活
第六分科会　召命

の六分科会に各自の希望で分かれ、現状の分析から問題点を明確にし、その中で、教会の役割は何か、またそれらの問題に教会は対応できるのか、改善するならどこか、をさぐった。参加者は司祭六名、シスター五名、信徒一一三名であった。

信仰に基づく本音で、互いに心を通じ合わせながら、宣教する家庭像を求めて、熱心に話し合いが行われた。各分科会の内容は、詳細にまとめられて教区に報告されると思うが、ここでは概略を述べる。

第一分科会
男女交際、婚前交渉、受胎調節、中絶等についての内容であったが、若者、産婦人科医、いのちの電話担当者、中年婦人、神父、シスター等各階層から出席者が居たので、内容を深めることができた。

第二分科会
教会学校のおしえと家庭教育のギャップ、泣き部屋の是非、幼稚園教育の必要性、宗教教育即人間教育等の内容が話された。

第三分科会
中、高生が教会より部活、塾を選ぶのはなぜか、親の価値判断、教会の魅力等に問題があるのでは、また教会に来ている子にも問題があるのでは、等の内容であった。

第四分科会
分科会テーマの間口が広く、また集まった人数も一番多かったため、各種の問題が提示された。離婚、再婚者への対応、幼稚園の長時間保育と共働き、子供の時の信仰教育の大切さ、大人も必要。生涯養成の必要性等であった。

第五分科会
超高齢化社会となる中で、老人福祉への教会の取り組みを考えるべきである。また司祭の老後についても考えなければならない。

第六分科会
小神学生の激減の現実から、召し出しの苗床づくり、体験入学制度、祈りの必要性、神学校の経営の在り方等についての内容であった。

どの分科会においても、教会における相談的な機能を求める声が多く、共同体として、各種の問題について支援できる体制が必要と思われる。

十五時三十分よりミサを全員で捧げ、散会とした。

（北九州地区　信徒協会長
小笠原　勝己）

※読者のみなさまへ

自由席の欄は読者の方々が教区報をお読みになったことの感想、記事に対する意見などもお願いできればと思います。そして、以前にもお願いしましたように、信仰の喜び体験、ちょっといい話、家庭のこと、教会のこと、信仰者として感じることなど、紙面を通して分かち合いの場になればと願っています。

なお、字数は六百字程度（多少長くなっても結構です）でお願いします。原稿をお待ちしています。（編集室）

□□□□□□□□□□□□□□□

主のご降誕と新年の
お慶びを申し上げます。

1992年　元旦

福岡教区長　松永久次郎司教

〈福岡地区〉
司教館　山元　眞
深堀　勝人
山下　正
牧山　藤房
牧山　重光
黒川　博
大名町　青木　保
大水　幸一
浄水通　P・ブランガン
西新　山川　辰幸
糸島　平田　三郎司教
茶山　堤　要吉
笹丘　赤倉　稔
J・マカティ
高宮　須賀澤公男
春山　勝美
大楠　鵜野　泰年
美野島　畠山　七郎
吉塚　B・シュルツ
箱崎　T・リシャール
老司　竹森　勇
光丘　山田　成章
古賀　F・ハーン
乾　盛夫

二日市　堤　敏雄
小郡　下町　豊重
本郷　川上　惣一
今村　中浜　一男
久留米　平田　敬
三村　邦明
大牟田　西田　邦洋
呼子　田川　清美
馬渡島　伊東　誠二
大神学院　高見　三明
高木　善行
J・P・ラベル
J・ツルデル
A・ラプラトン
Z・イェール
大山　悟
櫻井　尚明
小神学校　松井　忠之
聖パウロ会　杉原　寛信
永富　久雄
黙想の家　鈴木　忠一
畠　基幸
M・ヴェッター
G・ブレシュト
イエズス会　S・オチョア
K・ウーリック

イエズス会　草野　純英
塩谷　恵策
外川　直見
皿山FC　S・ライル
聖母園　糸永　一
糸永　武男

〈北九州地区〉
八王寺　L・デシャンブ
E・モーゼ
門司港　徳山　登
門司　J・ガイヤール
小倉　岩永　義人
森山　信二
湯川　平田　寛
戸畑　浦口　均
C・バスチ
若松　M・コース
水巻　L・ベリオン
黒崎　J・バイヨ
H・キニュ
天神　M・ラバルタ
直方　平田　三好
飯塚　（A・ベルトラン）
田川　L・グロージャン
新田原　平田　正喜
行橋　浦　俊雄

〈佐賀地区〉
鳥栖　R・マグリン
佐賀　A・ディベルロ
唐津　G・カツァニーガ
多久　A・テンペリーニ
伊万里　C・ガッザルディ
鹿島・武雄　A・スカットロン
ロザリオの園　A・アレグリーニ
トラピスト　C・ミケレーナ

〈熊本地区〉
玉名　W・グリン
取手　B・ジョー
M・マッコンネル
健軍　牧山　勝美
島崎　W・カリー
荒尾　K・オマホニ
帯山　青木　悟
菊池　R・オウエンス
武蔵ヶ丘　H・オカロール
八代　J・ノーリス
人吉　T・フィッシャー
水俣　J・モラハン
本渡・大江　F・マッケー
崎津　P・ダイアモンド
交流センター　S・フランコ
中央協　渡辺　隆義

謹　賀　新　年

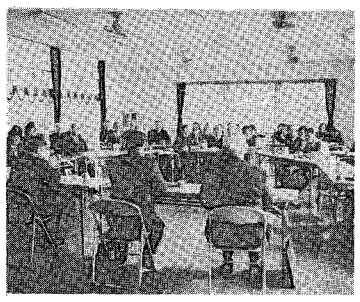
・祈りの日（毎火曜11:00～）※1/7はお休みします。
・聖　時　間（毎木曜19:30～）

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

松永司教を迎え 佐賀地区懇談会



佐賀地区（地区長＝ミラノ会ガッザルディ神父）では去る十一月二十三日、松永司教を迎え、午前十時から佐賀カトリック幼稚園講堂に於て地区懇談会が催された。

これは新しく着座された司教様に佐賀地区小教区の現状と諸問題を、司教の立場から色々聞いていただこうというもので、司祭、修道女、信徒代表など約六十名が参加した。

地区信徒会、北島会長の挨拶に続いて逐次各教会の報告があり、松永司教も肯きながら聞き入っていた。

問題点の主なものを挙げてみると、①教会、幼稚園の老朽化が進む中で新築資金の問題 ②維持費納入率が全体的に低い ③教会ではお金を集めることをタブー視する傾向があるが、意識の改革が必要だと思う ④クラブ活動のため教会へ来れない子供が多い ⑤オルガニストの人材不足 ⑥教会組織の見直し、唐津、呼子、松島、馬渡島を一緒にしたユニット（連合体）を考えてみては？ ⑦墓地管理と納骨堂の問題 ⑧施設の老人の中には洗礼が条件ならば講話を聞くのを止めるという人がいる ⑨司教様の説教をプリントして出していただくと嬉しいが（P神父）⑩鳥栖教会では来春、中村彰新司祭の誕生を祝う。一八八一年基山に信者が生まれて四代目の慶事。

〔松永司教のことば〕

教会に集まり互いに励まし、信者であってよかったという感動に度々触れていただきたい。古いロザリオの習慣を大事にして下さい。あの手この手で〝キリストの愛の行い〟を真心こめて隣人に伝えてゆくように。何事も神に捧げる気持を大切にしましょう。とりわけ、老後司祭の基金、教会堂建築など相互援助体制を確立してゆきたいと思います。

× × ×

第二部は午後三時から、一般信徒も参加して司教ミサに与かり、午後四時終了解散した。（佐賀教会　牧山満安）

レジオ・マリエ 福岡クリア五〇〇回

レジオ・マリエ福岡クリアでは、クリア集会五〇〇回の記念ミサと祝典を、十二月八日マリア様の記念日の「無原罪の聖母の祝日」に、午後二時より、大名町カテドラルで行った。

一九四八年十一月に第一回のクリアの集会を開いて以来、一九九一年二月まで、一一回の休会もなく、五〇〇回を迎えたことは、今までの会員の努力と、賛助会員のお祈りのおかげであった。

記念ミサは、松永福岡司教の司式で、レジオ・マリエにかかわりある神父様方八名の共同ミサで行われた。

ミサの終わりのところで、永年、レジオの活動会員として、教会の福音宣教に働いた方々二五名が、松永司教より表彰され、マリア様への信仰を深め、いっそう教会の福音宣教、使徒職に励むことを誓いあった。



続いて、記念祝典が階下のホールで開かれ、約一一〇名の参加者たちの喜びが会場いっぱいにあふれていた。

福岡クリアの初代会長であった伊東隆夫氏が、老駆をおして、広島からかけつけて、クリア発足時、レジオの使節ソロール・オーレバー氏とともに各地を飛び歩いたレジオの開拓当時の苦労話を披露された。会はにぎやかに推移し、午後四時二〇分すぎに無事終了した。

日本のレジオ・マリエは一九四八年、長崎と佐賀に発足し、現在は、北は北海道の函館から、南は沖縄の開南教会に至るまで、全国的な広がりを見せ、活動会員一五〇〇名、賛助会員四三〇〇名となり、プレシディウムは、全国各地にもうけられている。しかし、まだ未発足の教会も多々あるところから、今後は、さらにそれらの教会に伸ばして行くことの誓いを新たにした。

主の道を求めて

ウィチタの聖ヨゼフ修道会

皆様こんにちは。福岡教区の構成員として各修道会の紹介をしていただけるという朗報を受け、トップバッターとして登場しましたのが私共ウィチタの聖ヨゼフ修道会です。

聖ヨゼフ会と呼ばれるこの名称は、聖ヨゼフがイエズスとマリアに仕えられたのと同じ世話、優しい心遣い、愛徳、そして丁寧さをもって愛する隣人のために自己を差し出すようにとつけられたものです。

一六五〇年、熱心なイエズス会の宣教師、ジャン・ピエール・メダイユ師はフランスのル・プイという古い街で六人の婦人たちの小さな共同体を創立し、病人、孤児、老人たちの世話を人々の中へ出かけて行ってするという当時では画期的な生き方をするグループの指導を通して、聖ヨゼフ修道会の基礎が築かれました。

一八三六年には新大陸アメリカに拡がり、一九五〇年日本の京都へ第一陣三名のシスターが送られました。

現在も京都に地区本部があり、同じ京都に肢体不自由児施設、障害児のための養護学校、三重県に特別養護老人ホームがあります。

私共は支部共同体として、花と緑と清流の美しい熊本県菊池市の中心にある菊池聖母幼稚園で、神への愛、隣人への愛、隣人と隣人および、神と隣人との一致をめざし、常に「より以上」に向かって地域社会の人々と共に歩みながら幼児教育にあたっています。

家庭 第2回全国会議に向けて



みことばと家庭

子供達が結婚して肩の荷が少し軽くなったようなこの頃です。時々二人の孫たちが訪れてくれますが、夫と二人きりでする食事はテレビの音の流れる中に、途切れ途切れの会話で終ってしまい、とても淋しい気持ちになります。主日のミサに一緒にあずかり夕べの祈りも一緒に唱え、聖書通読会にも行っているのに、何故お互いに分かち合えないのだろうかと思い、一致の為に二人で家庭の祈りを毎晩しています。

つい最近のことですが、夕べの祈りのあと聖書を読もうと思い、夫と交替で声を出して読みました。決った祈りは、きちんとする真面目すぎる夫ですが、何かとまどった様子でした。そして二人が神様のみ前にいるということが、私はとても嬉しく感じました。残念なことに、その気持ちを分かち合うことはできませんでした。これからも度々一緒に聖書を開きたいと思ってます。神のみ言葉には、本当に大きな力を感じています。

子供のことで苦しみがあった時、信者でない価値観の違う子供に、どのようにして神様のことを知らせたらいいのか祈り続けました。祈りの中でイザヤの五五章のみ言葉をいただきました。「聖霊きて下さい。あなたのみ言葉を与えて下さったことを感謝します。」と祈りつつ早速手紙をだしました。それから祈ってみ言葉を書き、送り続けました。最初は何の反応も示さなかった息子が、ある時電話で「あれ読んでるから」といったのです。もう一度その言葉を聞きたいと思いましたが、私は涙で声はでませんでした。

今年四月に結婚した時、送ってきた荷物の中に、私が二年間、書き送った聖書のみ言葉が大事に入っていました。神のみ言葉によって救われました。み言葉には力があり、命の源であることを体験しました。この素晴らしい福音を宣べ伝える道具として神のみ旨を行いたいと望み祈り続けています。

南條　登志子（帯山教会）

家族で福音宣教を考える 第十七回CLC九州大会



今年のCLC九州大会は、十一月二十二日～二十四日行橋市研修センターで約六〇名が参加して開催され、東京・岡山・広島・松山・九州各地から車椅子の仲間や聾亜者、そして幼児連れの家族参加などで実に楽しい教会家族の集いとなった。

「私達は家庭の様々な出来事のなかで、家族の一人ひとりにどのように関わり、神の言葉を伝え合っているか」

「家庭を脅かしている社会の風潮に対して、どれ位たたかっているか。また、生命の育みを害するこの世の傾向にどの程度立ち向かっているか」など、生活と信仰の土台である家族関係について見直しを行った。

家族からはみだした考えや行動をする娘に腫物でも触れるような気持ちの母親。人生を一生懸命生き抜いてきて、やっと一服出来そうだと思ったら何時の間にか孤独に取り囲まれて慰めを求めている老婦人。納得のいく人生を歩みたいと熱心に本音を分かち合う入信前の母娘。また、言葉や耳の障害を越えて参加した仲間達、信仰の喜びを語り、生きること即福音であると説く彼等に、真の信仰を見せつけられ、生き方を変える必要を気づかされた大会であった。

ともあれ、たゆまずキリストの叫びに応え家族と共に教会の子達として進まねばならないことを確認した。

（新田原教会　小島武夫）

BOOK 読みま専科

★マリアの福音
G・ブラキエール著
福岡カルメル会 訳



この本は、黙想会でのお話をまとめたものです。

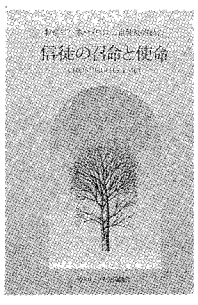
マリアの生涯は、私たちと同じように苦労しながら歩まれ、信仰のうちに完成されなければなりませんでした。

「教会憲章」八章を引用し、『神の御母マリアは、信仰と愛とキリストとの完全な一致の領域において私たちの模範である』ことを軸にして、黙想を指導しています。

ナイスII（家庭）に向けて一読をおすすめします。

聖母の騎士社　五〇〇円

★信徒の召命と使命



この本は、一九八七年に開かれたシノドス（世界代表司教会議）から、できるだけ多くの実りをという意向で出版されたものです。

第二バチカン公会議二十年後の教会と世界のなかで、信徒はどのような召命と使命をもっているのでしょうか。シノドスでは、このことを主題として取り上げられました。

新しい年の始めにあたり、教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告を読み、今年の課題を考えてみませんか。

カトリック中央協議会　一二〇〇円

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

一・二月の行事

※ゴチックは司教日程

一九九二年　一月

元旦　神の母　聖マリア
7日　司祭新年の集い
15日　修道女連盟集会
18～25日　キリスト教一致祈祷週間
19日　福岡ブロック成人ミサ
筑後ブロック成人ミサ
26日　馬渡島教会堅信式

二月

11日　福岡地区公聴会
佐賀地区公聴会
18日　司祭評議会
23日　福岡地区教会学校リーダー会
26日　今村信徒発見記念日

福岡黙想の家

一九九二年　一月・二月

※一月十三日以降と二月は空きがあります
皆様のご利用をお待ちしております
※祈りの日
毎週火曜日十一時～
※一月七日はお休みします
※聖時間
毎週木曜日十九時三十分～
※祈りの日・聖時間にどうぞいらして下さい

教区人事

櫻井　尚明師　十月帰国
サン・スルピス大神学院
中浜　一男師　今村教会
（八代一月十六日移動）
糸永　一師　引退（今村）
糸永　武男師　引退（今村）
J・ノーリス師　八代教会
（飯塚一月十六日移動）
F・ベルトラン師　飯塚教会
（着任までH・キニュ代行）
H・ハンター師　帰国（大江）

※糸永一師・糸永武男師兄弟は、すでに引退願いを出されこの度、司教より受理され、十二月末日をもって引退されることになりました。これまでの司祭生活のほとんどを今村教会のために捧げられ、その間、多くの司祭が誕生し、また、神学生養成のために尽力されました。これまでの働きに心から感謝し、引退後は聖母園での司祭生活と奉仕に神の豊かな祝福と実りを祈りましょう。
※H・ハンター師（コロンバン会司祭）は、十一月末、祖国オーストラリアに、病気療養のため帰国された。同神父は、水俣、大江で司牧・宣教に奉仕されていた。一日も早い回復をお祈りいたしましょう。

一九九二年度第一回結婚準備セミナー

福岡会場　（福岡カテドラル・センター4階）
日時（毎回午後七時から）
1月　18・23・25・30日
2月　1・6・8・13日
問い合わせ
ファミリーセンター・吉永
☎〇九二―五四一―六二〇七

熊本会場（手取教会）
日時（毎回午後七時から）
1月　20・22・27・29日
2月　3・5・10・12日
問い合わせ
手取カトリック教会・稲田
☎〇九六―三五二―三〇三〇

典礼＝聖歌と祈りの集い

日　時　1月26日(日)14:00～18:00
場　所　福岡黙想の家
指　導　深堀　純
参加費　1,000円
問い合わせ　黙想の家
(0940－32－3222)

1992年日本カトリック研修センター春季分コース案内

1．テーマ「地球にやさしい若さを求めて」
青年男女コース
。対　象　青年男女(20才以上)　定員25名
。と　き　1992年2月9日(日) PM15:00～
11日(火) PM13:00
。ところ　日本カトリック研修センター
。費　用　¥20,600
(宿泊費・食費・参加費・消費税を含む)

2．テーマ「小さきものとの共感をめざして」
福音宣教コース
。対　象　信徒・修道者・司祭・司教　定員30名
。と　き　1992年3月20日(金) PM15:00～
22日(日) PM13:00
。ところ　日本カトリック研修センター
。費　用　¥20,600
(宿泊費・食費・参加費・消費税を含む)

問い合わせは
日本カトリック研修センター
研究企画部へ
〒466 名古屋市昭和区広路町隼人30
☎052-831-5037　FAX052-831-5317

ヒゲの私

大水　幸一



最近、久しぶりに会う方方の私への反応はひどいものである。
「なんだそれ！」「汚い」「剃れって」などと笑いながら言い、それから突然まじめな顔になって「どうかしたのか？」である。心配してくれるのはありがたいが、いきなりこれはないと思う。ほっといてくれと言いたくなる。「どうしたのか？」と言われても、別にたいした理由などないのである。ヒゲをのばしてみたかった、ただそれだけである。

しかし、このようにいろいろと言われたことによっていくつか感じたことがある。それを紹介することにしよう。

ひとつには客観的立場から自己をふりかえることができたということである。つまり、私のヒゲを見る方々の反応は良きにしろ悪しきにしろ、私の気づかなかった自分自身を示してくれるのである。たとえば、ヒゲを生やすことによって威厳がでてきたなどと。うれしい言葉であるが、これは裏を返せば今までの自分に威厳がなかったことを意味するものでもある。また、考えようによっては、『威厳』という言葉のうちにはただ単に威張っているという厭味が込められているのかもしれない。考えすぎだろうか。しかしそう考えるとき、神父様・様・様なんて言われているうちに、描いていた司祭の姿を見失ってしまい、違った方向に進んでしまっている自分を反省させられるのである。ヒゲについてのこのような反応はいろいろあるが、要はこれからの私である。内容についてはこれくらいに控えることにしたいと思う。

もうひとつはヒゲを見る方方の反応を見、観察するということである。

私はよく天神を一人でぶら歩き、世の人々の顔やしぐさなどを観察することが好きである。もうだいぶ前のことであるが、恐ろしい体験をした。なんと天神という街の真ん中で熊と出会ったのである。熊に似ているんじゃなくて、熊そのものなのである。よほど死んだまねでもしようかと思ったが、目を合わせてしまったので平静を保ちながらすれちがった。そう、あれは確かハロウィンの頃でした。本当に恐ろしい体験でした。

私のヒゲにしても、天神に出没した熊にしても共通するものがあると思うのである。つまり、『こうなければならない』という見方を逆の立場から見ることができるということである。ちょっと、辛いかもしれないが、楽しいものである。

ところで、生涯、私たちは成長していくものである。成長とは様々な外的なことがらに出会っていくことであり、かつ自己への目覚めであるということができると思う。つまり、それは周囲のなんらかの働きかけによるものであり、その刺激あるいは変化によって気づかされていくのである。成長のためにそれらは必要なものである。そして、私にとってはこのヒゲもその手段となっているのである。しかし、同時にヒゲにならされてヒゲにごまかされた自分になっていくという危険も備えている。その時はごまかされた自分をヒゲとともにすべて剃ってしまうことにしよう。

一九九二年の初めにあたり、今のこの新鮮な気持ちをいつも大切にしていきたいものである。そのためにも、私たちに与えられる刺激・変化は重要な位置を占めるものとして受けとめていくべきであろう。



（大名町教会）

編集室から

▼謹賀新年　読者の皆様、今年もよろしくお願い申し上げます。
▼またたく間に、一九九一年も終わり、一九九二年を迎えて、スタッフ一同心新たに歩んで行きたいと思っています。
▼今年もカトリック福岡教区報が、教区民にとっての情報のよき手段として生かされますように、お祈りとご協力のほど、よろしくお願いいたします。
▼今年から神父様方と修道会・幼稚園のことで原稿の依頼をすることになりますが、快くご協力くださいますようにお願い申し上げます。

◎**時の話題**　今年は北九州信徒協に。
◎**木かげ**　教区邦人司祭に(読み切り)
◎**主の道を求めて**（修道会紹介）
会の精神、活動、召命へのすすめ
◎**幼稚園のできごと**（2月号より）
思い出、歴史など……
従来の欄の担当が変わりました。
新しい企画を準備しています。
お楽しみに！

一月命日の司祭

＊ジェームス・ドノフ師（聖コロンバン会）一九八五年一月二日元菊池教会主任
＊ジャン・マリ・マルタン師（パリ外国宣教会）一九七五年一月十八日元大牟田教会主任
＊グスターブ・ロー師（パリ外国宣教会）一九五〇年一月一日元人吉教会主任
＊アウグスチン・ハルブ師（パリ外国宣教会）一九四五年一月十四日元崎津教会主任
＊ルドビコ・ガルニエ師（パリ外国宣教会）一九四一年一月十九日元大江教会主任
＊ジョゼフ・フレスノン師（パリ外国宣教会）一九二九年一月元久留米教会主任

マスコミによる福音宣教は
私たちの使命です。

みことばを、いつもあなたに

聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株)メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKI　**藤木工務店**
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　上本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
(平尾四ッ角)
TEL092－521－0568㈹

カトリック 福岡教区報
1月19日
松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価--部60円

二つのブロックで 成人ミサ

福岡教区では、去る一月十九日、福岡・筑後の二つのブロックで成人ミサが捧げられた。

この成人式に向けて、福岡教区青少年担当司祭、青木悟師は、つぎのように成人式を迎える若者にメッセージを送っている。

若者には、たくさんの可能性があると思います。それをどう生かすかは、その若者自身と周りの人々がどうその若者と関わるかにかかっています。

「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」（マタイ19・16）ある金持ちの青年がイエスに問いました。

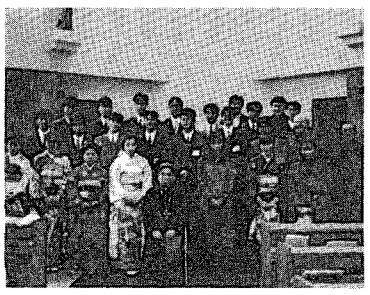
若者自身にとって、まず自分でできることを捜し求める心を大切にしてほしいものです。教会の中で、社会の中で。自分でも思わぬことさえできることがあるものです。いろんなことに自分の責任と自覚を持って、挑戦してほしいと思います。一人でできなくとも二人三人ならできるかも知れません。

日本の教会は、福音宣教推進全国会議を開き、歩むべき道しるべとして、「共に喜びを持って生きよう」というテーマを掲げました。それは、「この最も小さいものの一人」（マタイ25・40）と共に生きる道です。これは、若者にとって何に挑戦して行くかを示すものでしょう。

そして、周りの大人達にもお願いしたいと思います。若者に始めから完璧なものを求めるよりも、温かい目で見守ってほしいということです。人間というものは、失敗から学ぶことも多いからです。批判したりされることや、赦し合うことの生き方を学ぶことも大切な気がします。

若さ、と言うだけで、それはもう大きな神の恵みです。「すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される。」（ルカ12・48）また、「ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」（マタイ10・8）若い声で神を賛美してください。若い腕で弱い腕を支えてください。若い足で助けを求める人のもとへ急いでください。

成人式を迎えた皆さんに心から神の祝福をお祈りします。



福岡ブロック

大名町カテドラルにて一月十九日午後二時から成人ミサが、教区長松永久次郎司教司式のもと捧げられた。ミサには市内の四名の司祭をはじめ七十名あまりが参加し、二十二名の新成人のうえに神の豊かな恵みを祈った。ミサのあとささやかな祝賀会を行った。新成人となった若者はつぎの抱負を寄せてくれた。

「成人式といっても、はじめはあまり実感がなく、人ごとの様な気がしていましたが司教様のお話を聞いて、私もたくさんの人達のおかげで、ここまでこれたんだなと思いました。

二十年というのは、私にとって、やはり重いなと思います。いろいろなことがあっていろいろなことをしてきて、そして、今があるといった感じです。

たくさんの人達から『おめでとう』とか、『しっかりね』という言葉をいただいて、これからも頑張れると思いました。」（進藤恵美子）

「生まれてから二十年間、あっという間に時が過ぎ去った気がする。幼なかった頃は、早く大きくなりたいと思ったけど、大人になりたいとは思わなかった。その気持は今も変らない。

だけど、この世に生まれたのは何かの理由があるはずなんだ。そして、私は、人生とは花のように思える。

一粒の種子から芽を出し、天に向って伸び続け、美しい花を咲かせる。その一生は短くもはかないものかもしれないが、花にとってそれは素晴しい一生だろう。

成人式は、自分という形を整えた。次は、中身を築き上げていかなければならない。

花は見ているだけで、心に安らぎを与えてくれる。それは、あるがままに精一杯生きている姿を、素直に受け止めているからです。

私もこんな風に生きていこうと思う。」（末住直也）

筑後ブロック



神の恵みの中で、多くの人達を通して成長した新成人が久留米教会に集い、「神に感謝し、祝福を願うミサ」が、筑後ブロック青少年担当司祭下町豊重師司式のもと行われた。厳かな雰囲気で進められるミサでは、目をほそめる両親の見守る中、堤敏雄神父は「皆さんは教会の期待される人達です。キリストにならい大人の信仰を持ち、世の光、地の塩となって頑張って欲しい」と説教の中で語り、新成人は共同祈願をもって応え、大人の信仰を守り、教会の一員として活動していくことを新たにした。聖体拝領では両形態でいただき、イエス様と一緒に頑張れることを喜びとした。ミサ後、幼稚園のホールで祝賀会を行い、手作りの食べ物や飲み物に暖かさを感じた。世界一のカトリック教会を筑後に、そんな気持の溢れるひとときでした。

この成人ミサには新成人十二名、ブロック青年三十五名両親を含む参加者三十名、そして司祭団五名が集い、良き日をくださった神に感謝。

（ブロック会長　武井辰夫）

今年、新成人となった若者たちが、これから社会の一員として、教会の一員として新たな自覚と責任のもと歩むことができるように祈りましょう。

今月のみことば

神は愛なり

（Ⅰヨハネ4・16）

聖母園　糸永武男神父

時の話題

吉竹　樹人

皆さんとこのよろこびを共にできますことを神に感謝いたします。

私共信徒一同の長い間の望みであった新しい司祭信徒会館『門司カトリックセンター』が昨年十二月に落成いたしました。

かえりみますと、昭和二十八年六月の門司大水害により被災、同年十一月に現在の門司別院の地に再建された旧館は、昭和五十五年頃から、ひどくなった白蟻被害など、三十八年間にわたる長い風雪の歴史がございました。

また、聖母幼稚園園舎として使用された時期もあり、そこから巣立っていった園児も数多くございました。

この門司の地にあって、そこに住む私たちを、じっとやさしく見守ってくれていた旧館には、私ども信徒一同、親しみと尊敬を常に感じていた徒の総意を得て、翌三年四月より、旧館を取り壊しての建築がスタートしました。

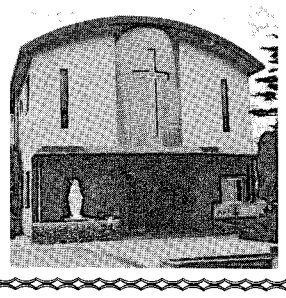
そして教会内外からの寛大なご理解と、多大なご援助、ご協力のおかげで、無事完成いたし、平成三年十二月十五日、松永司教様のご臨席を戴いて、めでたく祝別、落成式を迎えるよろこびとなりました。

「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない」（ルカ5・38）のたとえのように、神様から『門司カトリックセンター』という、新しい革袋をいただいた私たちは、それに入る新しいぶどう酒として、気持を新たにしてゆかねばなりません。

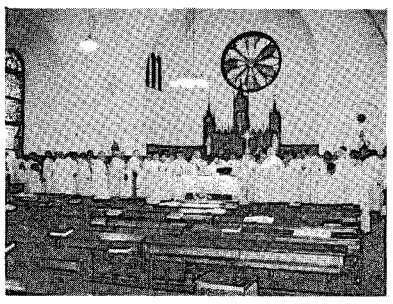
二十一世紀に向けての福音宣教の館となるよう、その機能を十分に活かし、後世に引継いでいきたいと思っております。

近くにお出での折は、是非お立寄り下さいますようお待ち致しております。

（門司教会）



古い革袋から 新しい革袋へ



教区司祭新年の集い

一月七日、浄水通教会に教区司祭九十名余が一堂に集い、旧年の感謝と新年への新たな恵みを願って、教区長松永久次郎司教と心を一つにして感謝の祭儀をささげた。司教は説教の中でキリストの救いの恵みの奉仕者、分配者として一層豊かな年になるように、そして家庭の祈り、教会当番の聖体礼拝、今村信者発見百二十五周年を通して信仰態度の見直しを司祭団にうながした。

ともに捧げるミサの中で、司祭としての生き方を新たにし、兄弟の交わりをともにし、新しい年に神の豊かな祝福を祈りあった。

その後、司教館で、楽しい会食のひとときを過ごし、それぞれ司牧・宣教の場に帰っていった。

小神学校生徒募集

小神学校入学を希望する者は、下記の条件が必要ですが、主任司祭と相談の上、福岡小神学校（〒810 福岡市中央区浄水通38 TEL092-531-6821）までご連絡ください。

〔入学条件〕
①司祭職を希望するカトリック信者の男子（中、高生）
②主任司祭の推せんが必要
※途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

福岡小神学校
校長　松井　忠之

みちくさ

人ごみの中を歩く機会は多くはないが、自然を、植物を眺めることは多く与えられている中で、寒い寒いと言いながら、樹木を見ていると、いろんな冬の越し方があるものだと思う。葉をすっかり落とし、木を休め、春の準備をするもの、寒い冬の間も葉を保つもの、さらに、この寒さの中、赤い花を咲かせるもの、さらに春の先取りをしているかのように花を咲かせるもの。▼寒さを迎えた十二月、一月にふとそんな自然の樹木の豊かさを味わった。そして、四季を通して、樹木は、私たち人間に、それぞれの役割をもって何かを訴えているように思える。▼今、緑の豊かな環境での生活に感謝しなければと思う。ビルの谷間、騒音の中で生活しなければならない人から、生活の忙しさの中で、そんな余裕はないと叱られそうだが、やはり、自然は心に豊かさを与えてくれる。▼自然は、それぞれの役割をもち、互いに尊重し、そして人間に豊かさを与えてくれているようでしかたがない。▼ところで人間はどのように生きているのだろうかと思う。自己主張を個性とし、独善を自由だとする風潮を感じる。▼パウロは愛の賛歌の前に、一つの体、多くの部分と題して私たちがそれぞれの役割にふさわしく生きることを勧めている。その中で『一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです』（コリントⅠ・12・26）と教える。▼私たちが、キリストによって、キリストのうちに生き、神の家族としてそれぞれ生きることによって、神と人々の中にある教会が、この一年を豊かさや、人生の尊さを伝えるものになればと思う。▼弱い人間が、キリストの教会を継承する中で、一九九二年も一か月が過ぎ、新しい心で歩みはじめて思うのは、やはり、共に祈ることのできる家庭、共同体であって欲しいと思う。そうしてキリストの教会づくりができ、共に喜びを分かち合えるように。

四旬節の精神

今年は、三月四日の灰の水曜日をもって四旬節が始まります。

四旬節は、復活祭を迎える準備の期間をいいますが、日曜日を除いて四十日間になります。

四十とは

旧約聖書では、ノアの時代の洪水による悪からの清めのために、雨が四十日四十夜地上に降り続いた（創世記7・12）、モーセが神との契約の板を受け取るため山に登ったとき、四十日四十夜、山にとどまり、パンも食べず水も飲まなかった（申命記9・9）、エリアが、神の山ホレブに着くために四十日四十夜歩き続けた（列王記上19・8）、荒れ野でイスラエルの民が、四十年の間、神の戒めを守るかどうか、また人は主の口から出るすべての言葉によって生きることを知るための神の試練（申命記8・2～5）などを思い出し記念する期間です。

新約聖書では共観福音書であるマタイ・マルコ・ルカはそれぞれ、イエスの生涯を告げる悪霊との戦いを四十日間昼夜の断食を通して告げます（マタイ4・2、マルコ1・13、ルカ4・2）、さらに、教会も復活から昇天までの四十日間、神から愛された者の道として試練と準備の期間として示されます（使徒言行録1・3）。

この旧約と新約における準備期間を記念して教会も復活祭を迎えるために四十日間を過します。

四旬節の目的

主イエス・キリストの復活を迎えるための四旬節は、イエスの十字架の犠牲を特別に思い出させるだけでなく、わたしたちを、それにあずからせる季節にあたります。

洗礼志願者は……。

復活のとき洗礼を受ける志願者にとって最後の準備期間になっています。昔から四旬節第一主日のミサ中に大人の洗礼志願式が行われていました。志願者にとっては、イエスとともにサタンと戦い、その勝利である洗礼を積極的に、また喜びをもって迎えるための準備期間となります。

信者は……。

洗礼志願者の先輩である信者も志願者のために祈り、また志願者とともにサタンとの戦いを続けてキリストの勝利にもう一度あずかるために第二の洗礼であるゆるしの秘跡を受けます。そして、堅信の秘跡を受けている信者は、キリストの証し人であることを忘れてはなりません。



今年の四旬節も「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です」（Ⅰコリント1・18）とパウロとともに宣言し、「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」（Ⅱコリント6・2）とすることができますように四旬節を迎えましょう。

今村の信者発見百二十五周年

一八六七年二月二十六日～一九九二年二月二十六日

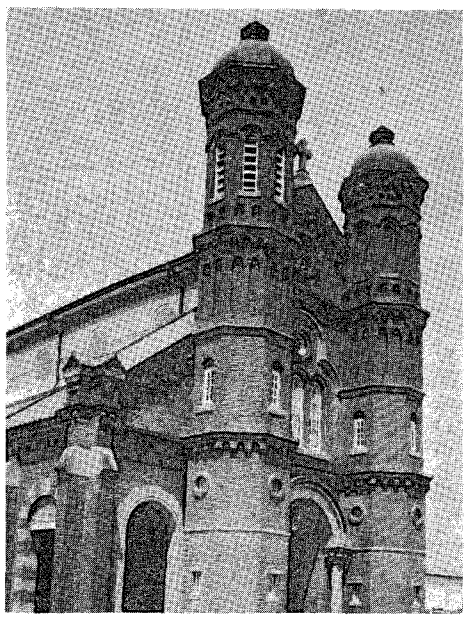
元治二年（一八六五）三月十七日、三百五十年以上も隠れキリシタンとして信仰を守り通した信者が、大浦天主堂にて発見されました。その二年後一八六七年二月二十六日には、長崎から今村を訪れた四名の信者によって今村キリシタンの子孫が発見されました。

今村のキリスト信者たちはその後も、明治初年まで続いた激しい迫害の中、信仰を守り通し、宣教師の訪れを待っていました。

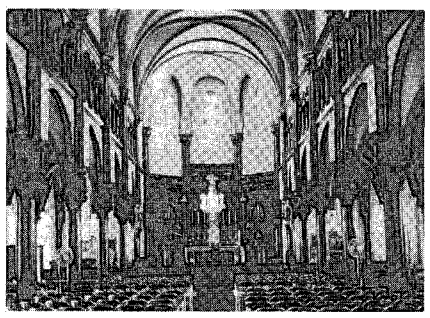
今年は、今村の信者発見の百二十五周年にあたり、十一月二十三日に先達たちの信仰のすばらしさが、喜びと誇りをもってお祝いされる予定です。

今村教会

現在、使われている教会は、本田保神父が、明治四十一年（一九〇八）から計画し、フランスを中心に外国からの寄付をはじめ、多くの方々の善意、地元信者の拠金を集め、労働奉仕の協力もあって、着工以来二年後の大正二年（一九一三）十二月九日に、二つの塔のついたロマネスク式赤レンガ造りの聖堂が竣工した。建て坪百七十二坪。設計施工は鉄川与助。コンパス長崎司教が祝別した。



七十八年の風雪に耐えてそびえる今村教会



きれいに維持されている聖堂内部

《カテドラル堅信式》

日時　6月7日(日)　14:00～

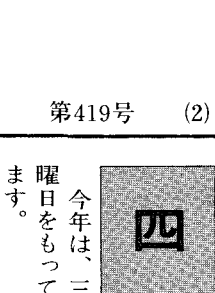
場所　大名町カテドラル教会

※この堅信式は福岡教区在住の大人の信者で堅信の秘跡を希望する人々のためのはじめての合同堅信式です。

※希望者は、各教会の主任司祭を通して4月20日までに大名町カテドラルにお申し込みください。

※準備は各教会で行ってください。

教区事務局長　山元　眞



全国担当者会議に出席して

この度、信仰教育委員会全国担当者会議が名古屋の日本カトリック研修センターにて、十一月八日から十一日までの三泊四日で開かれ、福岡教区代表として山元神父様と私が出席させていただき感謝しております。

日頃、教会学校を担当して、また、カテキスタとして、子ども達の要理（カテケージス）をしながら、どのようにして接し、楽しいものにしていくかと探し求めていたものが、この会議でざっくばらんに話し合われました。内容の差こそあれ、全国的にみんな同じ悩み、問題を持っていることに気づきました。

今年は、昨年に続いて「中学生のカテケージス」についてでした。基調講演は「思春期について」で、今の中学生の心身の発達と現状をよく知ることができました。二日目、三日目は分団会に分かれて、昨年の資料をもとにして、各教区の現状と合わせて活発な意見交換、分かち合いをいたしました。

この内容については、信仰教育委員会からまとめて、司教団と小教区、そして家庭社会へとアッピールするための提言をつくりました。これは来年の復活祭頃に各教会に配られると思います。

私はこの研修会に参加して、全国的視野で教会を見ることが出来たこと、また、いろいろの方々と情報交換して、分かち合えたことがよかったと思います。

ちなみに、福岡教区ではリーダーの研修会（年に二度）、聖書講座、講演会などがあげられ、湯川教会の子どもの出席率は高いほうでした。要理のリーダーとお手伝いの方にも恵まれています。ありがたいことと思いました。

（湯川教会　シスター杉本）

北九州教会学校リーダー研修会に参加して

信仰は自分ひとりのものではない。夫婦であればお互いに、親の立場であれば子供へ、教会学校のリーダーであれば周りの子供達へ、会社の中では同僚へ、また、友達へと、それぞれ影響を及ぼすのであって、けっしてひとりではありえない。同じ信仰を持ったもの同志であっても、影響し合い、強められ、深められていくものではないか。むしろそれなくしては、信仰を持って生きているとは言えないのである。

教会教育と言うと、子供に対しての教育のあり方の様に取られがちであるが、むしろ親、また、リーダーである私達に対しての教育ではないでしょうか。今回研修会に参加して強くそう感じました。

よく家庭は小さな教会であると言う。この家庭がカトリック教会の基盤なのであって、とても重要な共同体なのである。家庭と信仰教育というお話を、深堀さん、内藤さんからお聞きして、親の生き方、また、子供達に対する態度など、親の役目は大きいと思った。家庭で「話す、聴く、分かち合い、手を取り合う」家族であれば、子供達はすくすく育っていくにちがいないと。中学生になって教会離れをしても、それは巣立ちではないかと。きっとまた戻ってくる。その時、教会（家庭）は、温かく迎え入れ、子供達の意志を聴く教会（家庭）でなくては、とも言われた。とにかく親の教会学校への積極的な参加が必要なのだと感じた。

今回強く感じたことのひとつに「保護者会」の必要性がありました。今の手取教会には、それが希薄だと思う。この研修会の体験を生かし、少しでも反映できたらと考えています。

今回お世話下さった小倉教会の皆様には深く感謝いたします。

お話し下さった深堀さん、内藤さん、本当にありがとうございました。

（手取教会　藤本やよい）

今年の御公現

今年の一月五日は、主の公現の主日だった。マタイによると、東方の占星術の学者が、不思議な星を発見し、研究の結果、ユダヤ人の王がお生まれになったのだと判明し、はるばる旅を重ねて拝みに来たというものだ。

また、羊飼いたちには神が天使を送って彼等に救い主の誕生を知らせて下さった。

父なる神は、あらゆる人々が、それぞれの仕方で幼子イエズスに導かれ、知られるようはからって下さる。

今年のその主の公現の主日の頃、二日市教会で一つの主の公現があった。

夜、教会の門を締めるため、堤神父様が外へ出ると、闇の中で人声がする。よく見ると三人の少女が近づいて来て、「私たちは信者ではないのですが、この春、受験をする者です。合格祈願のため教会へ入らせて下さい。」とのこと。

神父様が聖堂へ彼女等を案内すると、何と三十分もお祈りをしていたそうだ。私はこれも、学問を通じての一つの主の公現ではないかと思う。

二日市教会の近くには、合格祈願で有名な太宰府天満宮がある。彼女等は、天満宮へも行き、更に教会へも祈願に来たのかも知れない。あるいは、教会へだけ祈願に来たのかも知れない。いずれにせよ、私は彼女等が大学合格だけでなく、神の国の門にも合格することを切に祈ってやまない。

主のご降誕、ご公現は、人々に喜びの訪れを伝えるものである。教会を訪れてくれた三人の少女にも喜びの訪れを願いたい。

（二日市教会　畠山春秋）

四旬節黙想会　ご案内

① 3/14(土)～15(日)
② 3/20(金)～22(日)
③ 3/28(土)～29(日)
④ 4/4(土)～5(日)
⑤ 4/10(金)～12(日)

お問合せ・申込みは ☎ 0940・32・3222

福岡黙想の家　〒814 宗像市名残1050

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

北九州教会学校リーダー研修会

十一月十八日（月）、小倉教会で北九州教会学校リーダー研修会が開催されました。

今回は「家庭と信仰教育」のテーマのもとに、母親として、父親としての体験をもとにした講話が、それぞれ深堀邦枝氏（福岡司教館）と内藤正氏（小倉教会）のお二人の講師よりありました。司祭、シスター、教会学校リーダー、信徒約五十名が集い、午前中のお二人の講話の後、午後からは十名程のグループに分かれて分かちあいがあり、各教会学校の現状報告や質疑応答が行われました。

講話の中で、深堀氏は「聴く、話す、分かちあう心でもって子供と接することが大切。そうすれば良い方向へ行こうとするエネルギーが働く。」と強調され、また、内藤氏からは「昔の信仰教育の中に、神からの怒りや罰や罪への恐れを意識させるような教育があったが、本当は子供の時は特別に意識しないように育てた方がのびのびと成長する。神様が大好き。神様と友達なんだ。と思うような子供になってほしい。」と話されました。お二人のそれぞれ違った立場での子供の信仰教育の体験談でしたが、教会の中だけが信仰の芽を育てる所ではなく、一番大きな影響を与えるのは家庭の中での信仰体験であって、そのためには親の信仰のあつさが重要な意味を持つと思います。分かちあいでは各教会のかかえる問題をいろんな人から聴いて、その問題の多さや共通点に、これから大人達がどう対処していくかを検討しあいました。

親は教会や日曜学校に行きたがらない子供に対して身をもって信仰の大切さを体で示して教えるべきだと思いました。そういう意味で、家庭の中での信仰教育のあり方が、子供達にとってどんなに大切かが研修の中で教えられました。一人のリーダーとして、今、何をしてあげられるかと思いめぐらす時、責任の大きさに身ぶるいする思いがしますが、私達が与えなければ、これからの教会の発展の芽までつみ取ることになるのでは……、そう思いながら会場をあとにしました。

初めての参加で得たものは大きく、これから他のリーダー達と共に、よりよい日曜学校にするため、お祈りしながら頑張っていきたいです。これからもっと多くの両親やリーダー達が参加されますよう願っています。

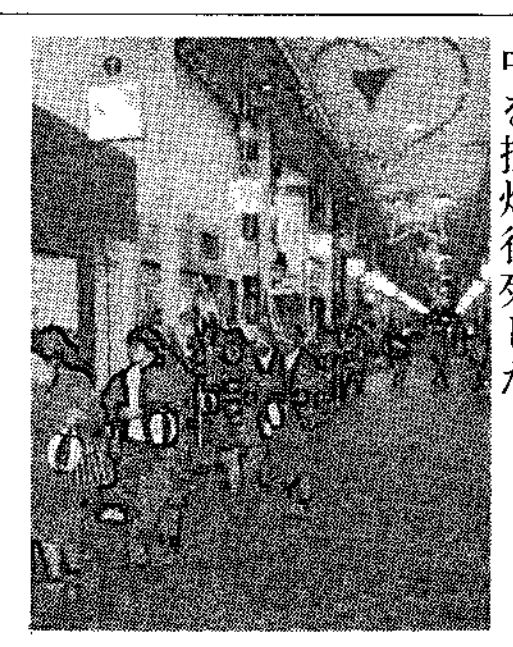
（手取教会　田代浩子）

八代殉教祭

昨年十二月八日、熊本地区八代カトリック教会（主任司祭・中浜一男神父）にて、八代殉教祭が行われた。

小西行長の時代、八代のカトリック信者は二万五千人を数え隆盛をほこっていたが、加藤清正の時代に迫害が起こり、十一名の信者たちが殉教をもって信仰を証した。

この処刑以来三百八十七年ぶりに殉教祭が一昨年から行われ、昨年は約百人の信徒が、先人たちの残してくれた真の勇気をたたえ、一人でも多くの人にこの殉教の歴史を知ってもらおうと、教会周辺の市中を提灯行列した。



幼稚園のできごと

暁の星幼稚園・今昔

暁の星幼稚園は、教会聖堂と並んでどっしりと建てられていますが、正面から見ると幼稚園があるようには思えません。

旧園舎だったとき、二階は福音の光修道会のシスターの「修道院寄宿棟」だったので幼稚園そのものが宿舎に見えたようです。また新園舎も大きなホールの壁側なので子どもの出入口は見当りません。それでも、この幼稚園が今まで地域の人々の中に入り込んで来られたのは、シスターや職員など関係者の方々が努力と知恵を尽してくださったお陰だと思います。

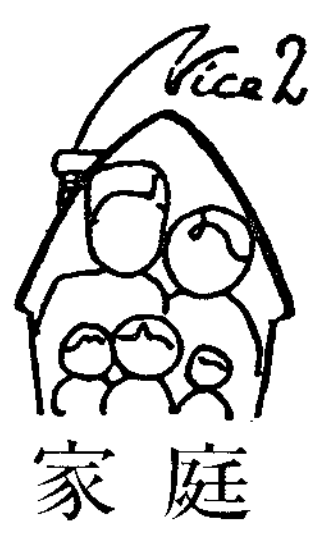
美しい緑の松林の中にポツンと聳える教会と幼稚園が、なぜ人気の少ない、不便な所であるこの地に新しく建てられたのかと言うと、先見と緊急な要請があったと言う二つの動機からです。

先見は「ここ十年後に人が来る」ということ。緊急な要請というのは、古賀にあった三つの国立療養所の数千人の結核の患者への福音的奉仕でした。これらを優先事として、同時に幼稚園教育で多くの人々と接して行く計画で始められました。

私は当時、献身的に奉仕されたシスターDの活躍を、今でも耳にします。病人、困難にある人々と共に生活の知恵を生かして治療と自立の一助として、隣人となって生きた姿は感動的だったと。

私は、このようなシスターたちの姿が、生活の姿として見られることは、子どもたちにとって尊いことだと思います。また、大人が「よそ見」をさせさえしなければ、尊い環境に恵まれ、育って行くと思います。血の通った真に人間らしい教育は、深い祈りと献身的に生きる人の姿によってもたらされるものです。それは、イエス様の囲りの人々がイエス様の姿を見たものと通じるものがあるのではないでしょうか。

（L・I・M）



家庭
第2回全国会議に向けて

子育てに思う

「今日、お母さんが帰って来た。暗かった家はパッと明るくなった。孝徳がいればうるさくて、いなくなると静かだからつりあいがとれないなあと思った。」これは私と三男が急用で二日程家を留守にして帰って来た時の娘のミニ日記である。

悪魔のささやきではないが、心の中からフツフツとわいてくる思いがある。それは「自分の時間が欲しい、何時になったら子育てから解放されるのだろう」等々。それでも娘のこんな気持ちに触れると、「愚痴など言っていられないな」といつものバリバリお母さんに戻ってしまう。

（注・『バリバリお母さん』は子供達から呼ばれている私の呼び名である）娘だけでなく、息子三人からも沢山の喜びを私達夫婦は貰っている。そして時々親の育て方を子供達からとわれ、試される時もある。

子供を育てる事は多くの時間と精神的エネルギー、肉体的エネルギーを必要とする。母親一人では子育てに限界がある。子供が大きくなるとよけいにそれを感じる。やはり二人ですべきである。でも現実にはなかなか難しい。主人の帰宅時間は夜の十時頃、子供と接する時間がほとんどない。唯一、日曜日だけである。いつもとはいかないが、魚つりに行ったり、キャッチボールをしたり、昼食を子供と一緒に作ってみたりと、共有できる時間をつくっている。そしてもう一つは、上三人は小学生なので日記で思っている事、感じたことをやりとりしている。返事を書くことは大変だろうが細く長く続けて欲しい。子供だけではない。夫婦で共有する時間もあまりない。主人は子供の人格を無視した育て方をしたくないと言う。そうしない為にも先ず夫婦がお互いを大切に思う気持ちを育てて行かなければと思う。意識して、話し合う時間をみつけよう。そして私達夫婦のたりないところは神に願い祈りつつ子供を育てていきたいと思う。

江村　初子（新田原教会）

門司カトリックセンター落成式

一九九一年十二月十五日、午後三時より教区長松永久次郎司教司式のもと、門司カトリックセンター（司祭館・信徒会館）の落成式が行われた。式には北九州地区の司祭・修道者、信徒も出席し、ともに喜びを分かち合った。

門司教会の信者からはこのセンターを略してMCCと呼ばれ、親しみが込められていた。

これからのMCCの司牧・宣教への歩みを祈ろう。

福岡教区修道女連盟研修会

新しい年を迎え、修道女連盟は一月十五日「現代社会に生きる修道女の役割」というテーマのもと研修会を、司教館新館にて行った。今回は外川直見師（イエズス会司祭）を講師に招き、百五十余名のシスター方はともに会して有意義な一日を過ごし、一九九二年を新たな心で修道生活を歩むための糧としてそれぞれ派遣された場に散会した。

井手一郎氏　聖シルベストロ騎士勲章

一昨年、秋の叙勲を授与されていた久留米聖マリア病院長井手一郎先生（八〇）は、一月十六日午後四時からバチカン大使館で、高田三郎氏、佐藤直助氏らとともに聖シルベストロ騎士勲章を授与された。

この勲章はグレゴリオ十六世によって一八四一年十月三十一日に制定されたもので教皇勲章の一つである。

同氏は、大戦後の日本においてカトリック医療組織の設立に尽力され、開発途上国の若い医師や医学生の養成・育成にも力を注いでおられることが認められて、今回の授与となった。今後のご活躍とご健康を祈りましょう。

〜映画ご案内〜

未来への伝言

〈福　岡〉
日時　2月22日〜3月13日
場所　福岡 大洋シネサロン
（東中洲バス停前）
☎ 092-291-4058

〈北九州〉
日時　2月29日〜3月13日
場所　小倉有楽　100
（馬借一丁目つくしギャラリー前）
☎ 093-521-3040

昭和30年代に大流行したポリオ（小児マヒ）に対して当時、ソ連で生ワクチンが大量生産され効果が著しかったことから、その輸入運動に立ち上がった母親たちを主人公にしている。

BOOK 読みま専科

★父さんの宝物　山浦　玄嗣著



カトリック信者の子として生まれ、親からキリスト教の精神をしっかりと教育された著者に、八人のこどもが授かりました。

タカラモノである八人のこどもが投げかける奇想天外な危機的問題を相手に、こどもたちにとっての偉大な父親であろうと志して泥まみれの苦戦を続けた一人の父親の手記。

パートIIの『父さんの聖書の話』では、父親という生身の人間の心に映った、生きた映像としての主イエスを愛のぬくもりをもって、こどもたちの魂に伝えています。

女子パウロ会　一、一〇〇円

★オラショの海　川口　清著



伝馬船で父と釣りに出た少年は、広い大海原で父と祈りを唱える。祈りの息が海にかかる。オラショの海である。広大な宇宙を色容している。時間空間を越えた生命との語らいがオラショである。

四季を通しての少年の日の行事にまつわる出来事。そこには父と母との生活の中で息づいている祈りが少年をあたたかく包み、逞しく成長させている。このような家庭から司祭が誕生している。

中央出版社　一、〇〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石・御影石・その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

二・三月の行事

※ゴチックは司教日程

二　月

11日　福岡地区公聴会
　　佐賀地区公聴会
　　熊本地区会計事務説明会
16日　北九州地区会計事務説明会
23日　福岡地区教会学校リーダー会
26日　佐賀地区会計事務説明会
　　今村信者発見記念日

三　月

1日　福岡地区会計事務説明会
4日　灰の水曜日（四旬節）
19日　松永司教霊名の祝日
20日　叙階式
22日　熊本地区公聴会
18日　司祭評議会
29日　人吉教会堅信式

福岡黙想の家

二　月

※10～11日
御受難きょうだい会黙想
聖母カテキスタ会黙想

三　月

※四旬節中毎週末
御受難会士指導による黙想会があります。
ご参加下さい。
――申込み受付中――

お詫びと訂正

一月の新年のあいさつで教区在住の司祭団名の欄にイエズス会　牛尾　幸生
梶山　義夫
山頭　原太郎
熊本信愛
の三名の記載もれがありましたのでお詫び申し上げます。
また、A・ラプラトン取手はA・ラプラトン手取の間違いですので訂正をお願い致します。

宿泊施設の特別提供

日本カトリック研修センターが進学、就職試験受験のため地方から名古屋に来る受験生とその関係者に下記の通り宿泊施設を特別提供します。

記

○期間　2月1日～3月末日
○対象　信徒の進学、就職受験生および信徒紹介による上記関係者
○料金　1泊（朝食付）3,000円
昼、夕食の提供および、長期滞在も可能

問合せ申込み

日本カトリック研修センター
〒486 名古屋市昭和区広路町隼人30
TEL 052-831-5037

教会会計事務説明会

熊本地区　2月11日　13:00～　手取教会
北九州地区　2月16日　13:00～　小倉教会
佐賀地区　2月23日　14:00～　佐賀教会
福岡地区　3月1日　13:30～　司教館

平成4年4月から教会会計をよりよくいたしたいと思いますので、神父様方、教会会計担当者の方は、必ずいずれかの会場にご出席くださるようにお願い申し上げます。

教会会計　深堀　勝人



夢の教会？

森山　信三

毎年、司祭叙階の記念日が近づいてくると思い出すことがある。それは、式の当日、挨拶の中で、自分が言ったことばである。

「現代の社会の中で司祭とは何か。司祭とはどんな意味があるのか。教会は、社会の中でどんな意味があるのか。それを問うていきたい。」そんなスピーチをしたのである。神学校時代、しばしば考えていた事であった。勿論、その答えは今も出ていない。叙階四年目に入ろうとしている今、教区内の二つの大きな教会の司牧に携わりながら、これらの問いは年々大きくなる。

ほんの数か月、あるいは一年見ないうちに街は大きく様変わりしてしまう。きらびやかなビルがいつの間にか建っている。若者たちはそこに集い、出会う。またある人々は、ビルの中に何か新しいもの、日常を忘れさせてくれるもの、あるいは何か面白いものを求めて集まる。もし、そのビルが消えてしまうならば、多くの人々が残念に思うであろう。自分が求めているものを見出したり、出会ったりできなくなるからである。教会はどうだろう。教会にも、日曜日にたくさんの人々が集う。勿論、教会に集う人々が求めているものと、きらびやかなビルに集る人々が求めているものは違う。価値が異なる。時限が違う。しかし、カトリック教会は、市民社会の中で、またそれぞれの地域の中でどんな重みをもっているのだろうか。企業は常に消費者のニーズを考え、日々新しい製品を発表する。教会は、そして司祭は、一般の人々にどんな事を提供していると言えるのだろう。司祭をはじめ、わたしたち一人一人が、何か精神的なもの、最高の価値、目に見えないものの存在、モノやお金を超えたところにある価値基準、そのようなものを提示していると言えるのだろうか。わたし自身、司祭としてこの事を考えるとき、肯定的であるとは言えない。毎日の生活や、雑用に追われていつの間にか、大切なことが後回しになってしまっている。

『収穫は多いが、働き手が少ない』（ルカ10・2）とも言われた。教会が、私たちの住む社会の中で、精神的な価値をもち、人々の支えとなっていく為には、私たち一人一人が、もっと意識を変えていかねばならないのではないかと思う。例えば、日曜のミサ、義務である。それに変わりはない。しかし、義務だから、ただそれだけの理由でミサに与るのならばあまりにも寂しい。もし皆が心から歌い、主を讃美し、祈るならば、自ずと、その姿は人の心をうつ。ここには世が与えない何かがあると気づくのである。そんな典礼だったらすばらしいと思う。初めて教会の門をくぐった人が、心洗われるような典礼。また、そこに集まっている人々が様々な問題を分かち合い、一週間の自分の小さな活動を披瀝しあっているとしたら、心ある人々はそんな姿にもうたれることだろう。社会から疎外されている人々に関わるグループ、病人を大切に見舞うグループ、あるいは、子供や外国人の人権を守るために尽力するグループ、家庭内の問題を共に考え歩もうとするグループ、そんな集いがある教会。

わたしは、このような教会を夢みている。そして、あの教会が、司祭がここにいてよかった、そんな教会であってほしいと願う。

（小倉教会）

主の道を求めて

希望への奉仕者　援助修道会

「来なさい。そうすれば分かる。」（ヨハネ1・39）

「援助修道会とはどんな会ですか。」と聞かれる時、私達はいつも前記の主のみ言葉をもって答えたくなります。

「この会はイエスのみ心の愛のお考えの実現です。」とアルスの司祭、ヨハネ・ヴィアンネが表現した煉獄援助修道会（通称＝援助修道会）は一八五六年福音みせつりのマリアによってパリに創立され、一九三五年来日しました。現在十五の修道院で会員はそれぞれが派遣される場で働き、ここ福岡教区では北九州市に於て、聖ヨゼフ幼稚園、老人ホーム、黒崎小教区活動を中心にして福音を告げるように努力しています。又、世界二十二か国にいる会員達も時が必要とする場で自分を捧げています。例えば要理教育、病院、エイズ患者施設、水上生活者、ホームレスの地区等。

その理由は私達は創立者から受け継いだ『心』は一つであっても、国により、文化により生活様式も使徒的働きも全く違っているからです。

「此の世の人の為に働く修道会は沢山あるが、その時の社会、教会の必要に合わせて自分を全く捧げ、且、亡くなった人の為に祈り、働き、苦しみを捧げる修道会は一つもない」と創立者は言っています。

「キリストの愛が私達を一つに集めました」との祈りの内に日々新しい力を受けながら、全ての人が「御父の愛の内に一つになるまで」

二月命日の司祭

＊ガストン・オーブリ師（聖スルピス会）一九八五年二月二十六日
元大神学院院長
＊フランソワ・ドルエ（パリ外国宣教会）一九八三年二月二十六日
元八王寺教会主任
＊ジョン・オマラ師（聖コロンバン会）一九七四年二月十四日
元荒尾教会主任
＊ジョゼフ・ボア師（パリ外国宣教会）一九五七年二月十七日
元黒崎教会主任
＊フランソワ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）一九四〇年二月二十二日
元門司港教会主任

編集室から

▼白梅・紅梅が花を咲かせて春の訪れを告げています。新しい年も一ヶ月が過ぎ、春への希望を感じています。

▼短かい三学期を有意義に過ごせますようにお祈りします。

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。

みことばを、いつもあなたに

聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

FUJIKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
(平尾四ッ角)
TEL092－521－0568㈹

カトリック
福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

神のみ旨を行う者は、永遠に生き続ける。

（Ⅰヨハネ2・17）

スルピス会　J・P・ラベル



家庭の祈り

家族の愛のあかし

司教教書

教区長松永久次郎司教は、三月四日灰の水曜日から始まる四旬節に際し、司祭、修道者、信徒に「家庭の祈り」と題する四旬節司教教書を発表しました。

今年の教区年間テーマである「家庭の祈り―平和のきずな」に基づき、特に家庭の祈りについて、神学的というよりは、わたしたちの日々の信仰生活に根ざしたものとして、どれほど祈りが大切であるか、生活の中で具体的に祈るためにどんなことに心をとめて祈るべきか、どんな祈りを大切にすべきかを、教区民に問いかけている。また、祈る家族が、神の愛のうちに、神の愛のあかし、家族の愛のあかしとなるように願っている。

わたしたち福岡教区民が、祈る家族として歩み、神の恵みの中で、神とキリストとともに、家族のみんなとともに歩むことができるようになりたいものである。

※全文は三面に掲載

†††††††††

三月十九日　聖ヨセフ
松永久次郎司教霊名の祝日

司教様の霊名の祝日にあたり、福岡教区の牧者として、神の民を教え、導き、治め、神の国へ共に歩むことができますように、教区民心を一つにして司教様のために祈りましょう。

叙階式

中村彰助祭　司祭に
中村信哉神学生　助祭に

3.20

三月二十日（春分の日）に大名町カテドラル教会において午後一時より叙階式が行われる予定である。

二名の叙階者の上に神の豊かな恵みをともに祈り、教区の大きな喜びを分かち合いましょう。

平野禎神学生　宣教奉仕者に

三月十四日(土)、サン・スルピス大神学院にて、平野禎神学生が、宣教奉仕者に選任されることになりました。司祭職への歩みに豊かな恵みを祈りましょう。

※召命について昨年教区報でも取りあげましたが、わたしたちの家庭からあとに続く召命がありますように。

福岡・佐賀両地区で公聴会

去る二月十一日(祭日)に福岡地区・佐賀地区でナイスⅡに向けての公聴会が行われた。

福岡地区は大名町カテドラル教会で司祭、修道者、信徒百五十名が参加して行われた。松永久次郎司教の参加者への励ましに続いて、「家庭―生活を通してまた人との関わりの中で育つ信仰」をテーマにまず体験発表「生活の証しのプレゼンテーション」を全員で聴き、ついで分散会での分かち合いが行われた。

佐賀地区は、佐賀カトリック幼稚園で司祭、修道者、信徒七十八名が参加し、地区長ガザルディ神父、地区信徒協会長北島治慶、ナイス準備委員長山元神父のあいさつのあと地区家庭問題のアンケートの説明がなされ、そのあと六つの分科会にわかれて分かち合い、最後に感謝のミサをささげて散会した。

福岡・佐賀両地区の公聴会の内容については次月号以降に掲載の予定である。ナイスⅡの歩みのため掲載の折は、ご利用ください。

═ 四旬節　愛の献金 ═

四旬節の間天災・人災で苦しむ人々、貧しい人々のために、祈りと犠牲をお願いいたします。教会にポスター、献金箱などお送りしています。
修道会、学校などで必要な方は司教館の方にお申し込みください。なお集まりました献金は司教館の方にお送りください。
教区でまとめてカリタス・ジャパンに送金いたします。
カリタス・ジャパン教区担当司祭　岩永義人

時の話題

「学校五日制」に思う

長谷川　徹

学校五日制が、本年九月から導入され、全国の国公立の幼稚園、小、中、高校、特殊学校は月一回、第二土曜日が休みとなります。この制度の実施理由などについてはこの欄では触れませんが、教育に携わる一員として問題点を一つ指摘したいと思います。高等学校では、普通科、農業科、商業科、工業科などで大いに事情が異なりますので、この場合、普通科に限定します。

現在、高等学校は五十分授業を、一年間三十五週実施して一単位という計算をしています。したがって、一年間三十四単位、三年間で一〇二単位を修得して卒業が認定されるのです。

今回の「五日制」が導入されても、この単位制度は変わりません。したがって、月一回土曜日の四時間の授業をどのように取り扱うかが問題になっているのです。夏休みを短縮して補う方法、休みになる土曜日を試験日に当てる方法、その同じ月の適当な日に振り分ける方法、その週の月～金に振り分け、その週だけ一日七時間授業を行う方法などです。

生徒の学習活動にはリズムが必要です。一週間の時間割は、たんに授業を消化するためにあるのではなく、教育活動がより効果的に行われるよう勘案され、組まれているのです。月一回とはいえ、授業を振り分けする方法では、そのリズムが狂うのです。たとえば、教師の出張などで時間割に曜日変更などが生じたりすれば、彼等のリズムが狂い、四十五名クラスの一、二名は必ずといってよいほど教科書なしで授業を受けているのです。このような状態は好ましいものではありません。生活のリズム、授業のリズムを狂わせずに、この制度を実施するにはどうすればよいのかをどの学校でも真剣に取り組んでいるところです。

子供の教育は、学校、家庭、地域社会の三者が一体となって行われてはじめて教育効果が上がるものと、私は考えています。この意味で、子供たちが月に一回でも保護者とともに家庭で過ごし、温かい地域社会に育まれることは良いことだと思います。子供たちの将来を考えるとき、保護者であり、地域社会の一員である私達大人の責務はさらに重大になってくると言わざるをえません。そして、私達の教会もこの制度を研究し活用する方法を考える時期でもありましょう。

（県立門司高等学校勤務　小倉教会所属）

《カテドラル堅信式》

日時　6月7日(日)　14:00～

場所　大名町カテドラル教会

※この堅信式は福岡教区在住の大人の信者で堅信の秘跡を希望する人々のためのはじめての合同堅信式です。

※希望者は、各教会の主任司祭を通して4月20日までに大名町カテドラルにお申し込みください。

※準備は各教会で行ってください。

教区事務局長　山元　眞

Fr. ケヴン・スカロン C.M.
Sr. ブリージ・マッケナ O.S.C.

来日による行事のお知らせ

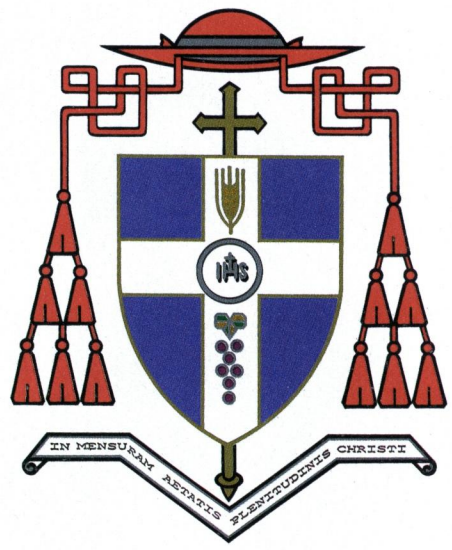
1）修道女・一般信徒のための講話
場所　カテドラル聖堂
福岡市中央区大名２－７－７
日時　4月12日(日)　14:00～16:00

2）司祭・大神学生のための講話
タイトル「司祭職」～わたしはあなたを呼んだ～（ミサ聖祭あり）
場所　カテドラル聖堂
福岡市中央区大名２－７－７
日時　4月13日(月)　10:30～15:00

3）「一般のための四旬節黙想会」
場所　健軍教会
熊本市健軍３－８－37
日時　4月14日(火)と15日(水)
午前の部　10:00～12:00
午後の部　14:30～16:30
夜の部　19:00～21:00
※どの部かにおいて、ミサ聖祭あり。

みちくさ

三月ともなれば、なんとなくあわただしさ、忙しさを先に感じる▼でも、三月はただそれだけなのだろうか、子供の頃に思いを馳せてみると、そうでもない。誕生日以上に何か一つ大きくなるといった感じがしたものではないだろうか。特に、小学生から中学生に、中学生から高校生に、そして大学生に、社会人になるといったとき、四月からはとの思いで、期待と希望に夢を膨らませるときではなかったのだろうか。▼でも、今では、ただ時の流れを早く感じ、この忙しい時期を無事に終えることができたらそれでよいと思うようになってしまった。▼今の子供たちは何を思って年度末を迎えるのだろうか。受験戦争で、もうそんなゆとりはどこかに消え去ってしまっているのかと思ったりする。▼生活は昔よりはるかに便利になった。なんでも時間は短縮され、時間的にはゆとりが出てもよさそうなのに、そうではない。時間が短縮された分、忙しくなった子供の世界を見ながら、たいへんだと思ったり、かわいそうと思ったりもする。▼この年度末こそ自分をゆっくりと見つめ直すことができたらと思う。自分の歩み、人との関わり、神との交わりについてゆっくりと味わって新しい年度への過渡期として過せたらと思う。▼小教区では、主の復活祭への準備として年の黙想会がある。いつも、年度末の時期にかかることがほとんどである。この年の黙想会が、教会の一つの習慣に終わることなく、また、信者の年の務めとして義務的に行われるのではなくて信仰を通して生活を見直すときとして大切にされることを期待したい。▼大人社会が先にゆとりある生活を身をもって示し、子供たちが、それに倣って大切なものを見失うことなく、しっかりと成長できる環境が与えられないものかと思う。▼そして、体だけでなく、知恵だけでなく、心も成長し、新年度を新たな気持で迎えられたらと思う。



キリストの満ちあふれる
豊かさに達するために

ヨセフ松永久次郎司教

1991．1．15 着座
福岡教区第５代教区長

※松永久次郎司教着座後、一年以上過ぎて、ようやく待望の、一面に掲載しています写真を教会、修道会にお配りすることになりました。この機会に教区報では家庭にも、その心を伝えることができればと思い、裏面に司教紋章と標語聖句、着座年月日を記載しました。使徒継承の教会を信じ、司教のもと信仰を一つにするわたしたちとなるための一助になればと思っております。

切り取って、祈祷書にはさんだり、額に入れたりして、生かしてくだされば幸いです。

（編集室）



家庭
第２回
全国会議に
向けて

愛と慈しみの老後生活

ナイスIIのテーマが『家庭』として示されて福岡教区も各地区ごとに公聴会が開かれ、皆さんもそれぞれ「家庭とは」「家族とは」「生活とは」といろいろお考えになっている昨今だと思います。私のところは子供等もそれぞれの家庭をもち、現在は主人と二人だけの生活ですので、家庭ではもっぱら老後の夫婦生活、死に対する話し合いが多くなっております。体が動かなくなった時、又一人になったらどうしようか、老人ホームに入った方が良いかしら、福岡地区にも今村の聖母園の様なホームがあったらなあ等々『老いとの戦い』のようです。

福岡に帰ってきて主人との年金生活になって十年、この二、三年は、教会活動等に参加するため私の方が外に出る機会が多くなり、朝から出掛けて夜遅く帰宅することも度々です。留守を守ってくれる主人は、私宛ての電話に出てくれたり、買物を始め（これは運動不足解消のため）昔から好きだった料理の腕をふるって、私の帰りを待っていてくれます。それでも昼間は、祈りをしたり、新聞書籍等を読んだり、テレビを見るかで話し相手もなく過ごしているせいでしょうか、私の帰宅時間がとても気になるようです。初めの頃は帰ると「帰る時間位言って行けばいいのに！」とぼやいていました。主人が勤めている時は毎日の様に待ちぼうけをしていた淋しさを、今は主人が味わっているのだと気がつき、それからはバスに乗る前に電話連絡をして帰るようにしています。おかげで帰宅と同時にあつあつの料理が出てきて感謝感謝の中に食事となり、その日の出合った色々な嬉しかったこと、残念だったこと、どういうことが福音宣教につながるか等を話し、時には口論になることもありますが楽しい一時です。

年老いたときの家庭内では愛といたわりが是非必要だと思います。

日本も高齢化が進むにつれ社会における家庭も変わりつつあります。私たちカトリック者も今一度老後の家庭生活について考える必要があるのではと思うこの頃です。

村尾　慶子（大名町教会）

教区広報研修会

日時	平成４年５月10日(日) 10:30～15:00
場所	北九州市小倉北区香春口 小倉カトリック会館２Ｆ （小倉カトリック教会内）
講師	西川正義氏 （朝日新聞西部本社記事審査室勤務門司港教会所属） 牧山満安氏（元佐賀新聞勤務、佐賀教会所属）
主催	カトリック福岡司教区広報委員会
目的	「小教区の広報のあり方を学ぶ」

年の黙想会

四旬節を迎えて、年の黙想会の予定をアンケートしたら別表のようになった。教区のほとんどの小教区で信徒のために黙想会が行なわれる。

よい習慣は大切に、習慣に流されることなく有意義な、恵みのひとときとなるように祈ります。また、自分の小教区の日程の都合の悪い人は、（特に福岡・北九州地区）隣りの小教区に行くための一助になればと思います。詳しい時間については小教区に問い合わせください。

なお、一覧表は報告をいただいた分だけです。ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

地区	教会名	日　程	指導司祭	テ　ー　マ
福　岡	笹　丘	4月12日	大山神父	復活祭を迎える準備
	浄水通	3月29日	外川神父	回心
	大　楠	合同		福音の喜び
	高　宮	3月21～22日	金啓春神父	常によろこべ
	大名町	3月3～5日	赤倉神父	四旬節と灰の水曜日
	茶　山	4月4～5日	櫻井神父	ミサ
	西　新	3月23～25日	櫻井神父	祈る家庭
	美野島	4月5日		
	老　司	4月4～5日	川口清神父	
	糸　島	3月15日	櫻井神父	復活の神秘と信者の関係
	今　村	4月4～6日	松井神父	秘跡と祈り
	大牟田	3月29日	牧山(重)神父	ナイスの心
	小　郡	3月14～15日	山元神父	家庭の信仰
	久留米	3月8～10日	棚町神父	めざめよう 誇りをもとう自分の信仰に
	古　賀	3月30～31日	森山神父	回心とは
	二日市	4月3－5日	高見神父	
	本　郷	4月7～9日	山元神父	信仰の見直し
北九州	黒　崎	3月24～26日	下川神父	現代において信仰に生きるとは
	小　倉	3月12～14日	村上神父	信仰の喜び
	天神町	4月6～7日	バスチ神父	信仰の喜び
	戸　畑	3月8～10日	沢田神父	若い人に魅力ある教会
	八王寺	4月3～5日		回心
	湯　川	3月14～16日	畠神父	信仰の源泉に立ちかえる
	若　松	3月27～29日	大原神父	福音宣教 NICEII
	飯　塚	3月29日	畠神父	キリスト信者とは
	新田原	3月23～25日	山内実神父	
	水　巻	3月27～29日	高見神父	家庭と召命
	行　橋	3月22日	山口神父	（豊津 3月23～24日）
佐　賀	伊万里	3月29日	櫻井神父	復活の信仰とキリスト者
	唐　津	4月11～12日	山元神父	小教区は宣教共同体
	佐　賀	4月10～12日	櫻井神父	
	多　久	4月5日	テムペリーニ神父	家族　主の小教会
	鳥　栖	3月14～15日	春山神父	司祭職について
	馬渡島	3月16～18日	伊東神父	祈り―共同・ミサ典礼の中で
	呼　子	3月14～15日	深堀神父	教会―神の民の歩み
熊　本	熊本市内	合同黙想会　健軍教会　4月14～15日		
		スカロン神父　シスターマッケナ		
		午前の部 10:00～　午後の部 14:30～　夜の部 19:00～		
	水　俣	3月28～29日	山頭神父	家庭と祈り
	大　江	3月20～22日	川添神父	
	崎　津	3月21～22日	畠神父	家庭での祈り　主日のミサの大切さ

宮ノ尾カトリック幼稚園

本園は、周囲の住居や街並を一望できる高台にあり、閑静で、清澄な空気、四季を折りなす草木で飾る自然のなか、昭和三十四年、小倉カトリック教会の附設幼稚園として、宮ノ尾カトリック幼稚園が創立されました。

園舎は、教会の古材で建てられ、近隣の信者にとって、集会の場が与えられることを願い、大変喜び、労を惜しまぬ協力と支援があったと…。また、地域住民も幼児教育の必要を日々の保育から感じとり、理解と協力のもとに園の発展を見ることが出来たと…。

古園舎ではあったが、黒ビカリした柱、床下には、教会の建物であっただけに、何だか祈りのひびきが刻み込まれた感触があり、私は、初代の園長先生、諸先生方、そして地域の方々のご苦労を思い、教話の時間に、園児たちに話し、感謝の心を抱かせました。

しかし、老朽化に伴い、遂に九年前に鉄筋二階建に建て直されました。

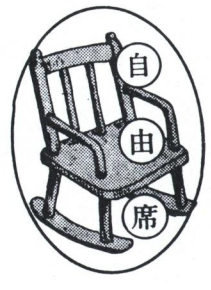
園舎、園児は変っても、園庭のイチョウの木、桜の木は昔も今も変りなく、神の御手の業を語りかけ、園児と共に共感し、讃美と感謝の良き教材にしております。

また、玄関の母子像は、毎朝登園する子ども達の心を魅きつけ、手を合わせて祈る姿は頼もしく、素直さそのもので、心豊かな人間形成の基盤とも言え、大切に育て、学んでおります。家庭にあっては、父母を助ける教育と協力の必要から、出来るだけ行事を宗教化し、研修会、参観日に積極的に参加し、子どもの祈りに合わせて合掌の心、信頼と回心の恵みを願っています。

現実は、園児減少に伴い、困難の中にありますが、MATERNELLE（幼稚園）母親のふところにも似た広い心で、子どもの自立を願い、自他を大切に生きてもらいたいと希っております。（橋口嘉子）

幼稚園のできごと





元理容・美容師さーん
来て下さい

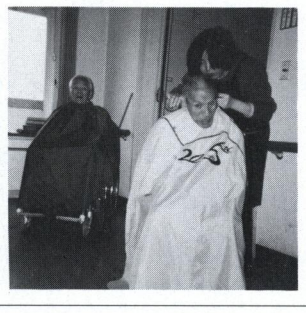
あなたの眠っている技術を活かして下さいませんか。

福岡地区婦人会のボランティア活動の中に、老人ホームでのカット奉仕グループが有ります。現在は前原町の『富の里老人ホーム』に四人で行っておりますが、理・美容師の方にはわかると思いますが、週一度の定休日は貴重な一日です。それを現役の美容師が月一回参加して下さっています。それでも全員をカットしてあげる時間がなく、心を残しながら帰って来る事がたびたびです。ホームの皆様もいつも待っていて下さり、大変喜んでくださいます。それで家庭で眠っている元技術屋さん、現在の技術がどうこうは問いません。私自身二十年間眠らせていた者です。もちろん現役の理・美容師さん大歓迎です。

連絡をお待ちします。

☎八四三―二〇六〇
久野

※転居する時



就職、進学、転勤などで転居する時、現在の所属教会に行って「信徒転出届」を頂き新しい教会に提出してください。転出先の教会が分からない時は、前の教会か教区事務所へお尋ねになってください。（教区事務所）

四旬節黙想会ご案内

①3／7～8　十字架につけられたキリストを…(Fr. 鈴木)
②3／19～20　イエスとの親しさ(Fr.マテオ)・最初の弟子マリアとともに(Fr.畠)
③3／28～29　キリストの勝利(Fr.ガブリエル)
④4／4～5　特別黙想会―聖母マリアのシンフォニー(Fr.鵜野)
⑤4／11～12　献げ物の子羊はどこに(Fr.畠)
⑥4／16～19　聖なる過越の三日間の黙想

申し込み受付中
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056 ☎0940－32－3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎４丁目２ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

一九九二年四旬節

司教教書　家庭の祈り

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」（マタイ一八・二〇）と主は仰せになりました。まことの愛によって結ばれる家庭の集いにはキリストがおられます。そのキリスト仲間のいのちの印とも言うべき祈り、家庭の祈りについて考えることにいたしましょう。

一、祈りのこころ

祈りとは神に心を開くことです。心を開いて神のみ声をききそれを受けとめること、神に賛美と感謝を捧げ、お願いすることが祈りです。神を父と仰ぎ、子としての交わりを深めることが祈りのこころです。

父なる神とわたしたちとの交わりの場はキリストです。神のひとり子が人となって、わたしたちの間に住まわれ、天と地、神と人々のかけはしとなってくださったからです。このキリストにおいて、わたしたちは神の呼びかけをきき、神の恵みをいただき、神と語り、神に願いを申し上げるのです。すなわち、キリストのこころ、キリストの思い、キリストのことばに与かって、神との親しみを深めることが、わたしたちの祈りなのです。

キリストのこころは父を思うこころですが、また同時に同じ父の子である兄弟たちを思うこころでもあります。ですからキリストのこころに与って祈るということはキリストの兄弟たち、すなわち人間仲間に心を開くことでもあります。心を開いて家族の者、また近くの人を受けいれ、彼らから受けいれてもらい、家庭の交わりを固め、隣人の輪を広げていきましょう。祈りのこころはキリストのこころ、キリストのこころは仲間のこころともなるのです。

神なる父の子であることを認め、神の前にキリストにおいて兄弟であることを認めるならば、神のこころに叶う生き方、兄弟に対してよき隣人としての生き方をめざすことになります。こうして、祈るこころは真のキリスト者として生きるこころにつながります。

祈りのこころは、結局キリストのこころ、キリスト者のこころ、キリスト者として忠実に自分の人生を生きるこころなのです。

二、祈りのかたち

キリスト者は、祈りのこころだけでなく、祈りそのものを身につけるよう心がけなければなりません。身体において生きる人間は、こころを形で表すように、また形をととのえることで心を養うようにつくられています。ことば・かたちで祈りのこころを表してこそ、キリスト信者なのです。

祈りの要素の第一は神のみ声をきくことです。そのために聖書に親しみ、みことばをきくことを学ばねばなりません。日本の信者は、全体として、聖書を読むことができる恵まれた状態にあるのですから、家庭の中でも聖書を共に読み、みことばを分かち合いながら、こころの糧を得てほしいと思います。

また、キリストが教えてくださった「主の祈り」、聖霊の導きのもとに発せられた「天使祝詞」など、みことばを用いて祈ることも大切です。そしてまた、聖人たちの美しい表現を活用して教会がつくり、教会が勧める種々の祈りも、わたしたちの宝物です。わたしたちは、これらの祈りと親しみ、できれば暗記して、必要なとき、自然に口に出てくるようにしておきたいものです。

もちろん信者は誰でも、聖霊を受けているのですから、その導きのもと、自分のことばで祈ることを学んで行かねばなりません。特に家庭の中で、お互いのための願いなどを、信仰のこころをこめた自分のことばで祈ることは、美しく尊いことです。子供たちが自分のことばで祈りをつくって、祈りのこころを養い、親もまた子供の祈りを指導しながら、自分の信仰生活を整えるようにすべきだと思います。

三、祈りの場

生活の場こそ家庭の祈りの場であるべきです。生活そのものの中に祈りがおりこまれ、祈りの声が生活の場でききとれるようになってほしいものです。

朝起きて一日をはじめるとき、お互いに挨拶するのが礼儀であるとすれば、神の子として、神に御挨拶する、朝の祈りを誦えることは当然の礼儀だと思います。

また、生きて行くためには食べ物が必要です。ところで、「人はパンだけで生きるものではない」のです。食事の前後に神に祈らねばなりません。特に食物は結局、神のおくりものであることを思えば、食事のときに神に感謝の心を表すのはごく当然のことと思います。

また、わたしたちは働いて生活していきます。しかし、神の計らいの中でなければ、よき働きの実りはありません。「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなしい」のです。仕事のはじめと終わりに、祈りのこころ、祈りのことばを神に捧げることは、大切なことだと思います。

人間はまた弱い存在です。種々の困難や不幸に出遭います。過ちを犯します。困難を克服できるよう、困難に耐えることができるよう、神よりの力を祈り求めること、また過ちの赦しを願うことも必要です。

四、お互いのための祈り

人間は共に生きています。家庭は人間が共に生きる最も自然で最も基本的な場です。そこでは夫婦の愛が、親子・兄弟の愛が仲間をつくります。ところで、まことの愛は神よりのものです。夫婦は愛し合うとき、神のこころをいただきます。親になるとき、子供を愛するこころをいただき、神に祈るこころをいただきます。愛が与えるこの祈りのこころを大切にしてください。

それで真に愛し合う夫婦はお互いのために祈ります。親心は子供のために祈ることを教えます。こうして、家庭は祈りの場、お互いのための祈りの場となるのです。夫婦となり親となって、人は神のこころに与かり祈ることを学んで、より完全な一人前のキリスト者に成長するように方向づけられているのです。

五、ロザリオの祈り

平凡な信心、家庭の祈りとして勧められる信心にロザリオがあります。あの古いロザリオの祈り、と思われる方もあるかも知れませんが、ロザリオの祈りのよさにもう一度、眼を向ける必要があると思います。

ロザリオを構成する祈りに主の祈り、天使祝詞、栄誦がありますが、まず「主の祈り」はキリストがお教えくださった祈り、聖書にあるみことばです。「天使祝詞」、すなわちめでたしの祈りは、前半は聖書のみことば、後半は聖母マリアへの信者の心をこめた短い呼びかけです。そして「栄誦」は、三位一体の神への賛美です。ロザリオは神のことばと人間のまごころを組み合わせてつくられた美しく実用的な祈りです。

そして、使徒信経と十五玄義の黙想は、知らず知らずのうちに、キリストによる救いの秘義にわたしたちを招きいれます。ロザリオはみことばによる祈り、平凡な信者の福音書でもあるのです。直接、福音書に親しむ機会のなかったあのキリシタンたちは、このロザリオを通して、救い主キリストのみあとをたどっていたのでした。

もちろん、ロザリオは単調で興味にとぼしいと思われ、長すぎると感じられる難点を持っています。特に子供たちにとってそうです。しかし、信心には「行」となる要素も必要です。あの長さが一つの「行」になるのではないでしょうか。また信心は一生のためです。子供はいつかは大人になり、老人になります。大人になったとき、子供のとき誦えていたロザリオの祈りが味わいのあるものとして、真価を発揮するのではないでしょうか。

福岡教区でも、ロザリオの祈りを大切にし、毎日子供と一緒に誦えているという家庭の実例を何度かききました。信仰のまごころがここに生きていると感じました。神の祝福があることを確信いたしました。

六、典礼の祈り

祈りの中心は典礼の祈り、特にミサの祈りです。「司祭キリストとそのからだである教会のわざである典礼の行事は、すべて、卓越した聖なる行為であって、その効果においては、教会の他のいかなる活動も、同等の理由や程度で、これに匹敵するものはない。」（典礼憲章7）と教えられている通りです。

従って家庭の祈り、個人の祈りは一週間毎の主日のミサの祈りに合わせて捧げられることが最も自然で、最も美しい姿です。と同時に、毎日小教区の教会で、また全世界の教会で捧げられるミサに、信者は一日の生活を合わせて捧げるよう勧められます。主任司祭は自分に委ねられた信者の毎日の生活の祈りを、キリストの十字架の犠牲に合わせて捧げる意向をもって週日のミサを捧げてほしいものです。

七、イエスの模範

マルコ福音書の第一章二十一節から三十九節の間に、宣教者イエスの二十四時間の活動が記されています。（このところは、「カファルナウムの一日」とも呼ばれます）。イエスはみことばを宣教し、悪霊を追い出し、病人をいやされるという忙しい活動の只中にあらわれました。また人々は競って、イエスのお話をききに集まっていました。しかしその中で、イエスは特別に時間をつくって祈っておられたのでした。

現代のわたしたちの生活も忙しくなりました。家庭生活にも雑事があり、毎日が忙しい毎日です。しかしイエスに倣って、忙しくとも毎日祈りを忘れてはならないと思います。そうしてこそ、わたしたちの間に生まれ、わたしたちと生活を共にされたイエスに倣う者、真のキリスト者としての道を歩む人になるのです。

今回は福音宣教と祈りのことを直接には取りあげませんでした。しかし、家庭の祈りが大切にされるなら、福音宣教活動はより活発になり、より実り多きものになると信じます。宣教者イエスの模範が、それを保証しています。

結　び

信仰のあかし、天の父への賛美の捧げものとして、またお互いを思う夫婦・親子の、そして家族の愛のあかしとして、家庭の祈りを大切にするよう特別にお勧めする次第です。ここに真にキリスト教的で幸せな家庭づくりの秘訣があると思うからです。

福岡教区の信者の皆様と皆様の御家庭の上に、そして皆様に親しいすべての方々の上に、神の祝福を心をこめてお祈りいたします。

一九九二年三月四日

カトリック福岡司教区

教区長　ヨセフ　松永久次郎

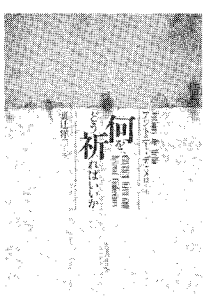


BOOK 読みは専科

★何を、どう祈ればいいか

アントニー・デ・メロ　著

裏辻　洋二　訳



デ・メロ神父は、しばしば八日間の黙想、三十日間の霊操を指導しました。この折の講話集とでもいうべき性格のものです。

この講話は、おもに司祭や修道者、また神学生を対象にしたと思われます。しかしながら、お読みいただくとおわかりになるように、内容は祈りの道にすすみたいと願う人には、だれでもすっと入っていけるものとなっています。

私は自分の祈りの参考にしようと考えて、ゆっくりと読み進みました。読み進み、彼がすすめる祈りを実践しました。半年で次のような体験に導かれました。

まず第一に、彼がくりかえし言うとおり、かならず大きな実りを刈りとる、驚くほどの益をうけるであろうと述べているところを少しずつ実感し始めたのです。

具体的な祈りの手引きの書として、多くのかたがたの力になると確信します。

どうか神を信じ、いのちの源と仰ぐすべてのかたがたが本書に提示される助言に励まされて、祈りの道に精進されるよう祈念します。

訳者あとがきより

女子パウロ会　一、五〇〇円

※この欄に女子パウロ会に依頼して良書紹介をお願いしています。パウロ書院のみならず出張販売の折もよく生かしましょう。

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材 { 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

三・四月の行事

※ゴチックは司教日程

三　月

1日　福岡地区会計事務説明会
4日　灰の水曜日（四旬節）
19日　松永司教霊名の祝日
20日　叙階式
22日　熊本地区公聴会
29日　人吉教会堅信式

四　月

16日　聖香油ミサ（大名町）
19日　主の復活
26日　本郷教会堅信式
29日　福岡市内ウォーカソン

※12日～19日聖週間を迎えます。特に聖なる三日間を大切にし、典礼に参加しましょう。

福岡黙想の家

7～8日　四旬節黙想会
・鈴木神父指導
14～15日　熊本・青年黙想会
19～20日　四旬節黙想会
・マテオ神父指導
・畠神父指導（五名限）
21～22日　大名町教会中学生黙想会
22～23日　福岡雙葉高校生黙想会
23～25日　アメリカ短期宣教師研修会
28日　泰星学園職員研修
28～29日　四旬節黙想会
・ガブリエル神父指導

一九九二年度第二回結婚準備セミナー

福岡会場（福岡カテドラル・センター4階）
日時（毎回午後七時から）
4月　25・30日
5月　2・7・9日
14・16・17日
問い合わせ
手取カトリック教会・稲田
☎〇九六―三五二―三〇三〇

熊本会場（手取教会）
日時（毎回午後七時から）
4月　20・22・27日
5月　6・10・11日
13・18日
問い合わせ
ファミリーセンター・吉永
☎〇九二―五四一―六二〇七

三月命日の司祭

ともに祈り信仰のよろこびをわかちあいましょう!!
「実生活の中で四旬節の典礼を生きる」
日時　4月3日（初金）am11:00～pm3:30
ところ　福岡市中央区小笹4―11―35　師イエズス修道女会　福岡修道院
講話　シスター西田千彰子（師イエズス修道女会）
会費　¥1,000（昼食を含む）
申込　TEL092-531-0486
〆切　3月末日
御希望の方お電話ください!!

＊ルッチ・ミケレ師（ミラノ外国宣教会）
一九八七年三月二日
元鹿島教会主任
＊ルイ・マリ・ベリボ師（聖ドミニコ修道会）
一九七七年三月十六日
元箱崎教会主任
＊フランソワ・マリ・ヴェイヨン師（パリ外国宣教会）
一九七三年三月十二日
元唐津教会主任
＊ユウゼーヌ・ジョリ師（パリ外国宣教会）
一九六六年三月六日
元久留米教会主任
＊ジェームス・ドイル師（聖コロンバン会）
一九六二年三月二十六日
元荒尾教会主任
＊マキシム・ボア師（パリ外国宣教会）
一九五九年三月十九日
元新田原教会主任
＊ヨゼフ・オブライエン師（聖コロンバン会）
一九九〇年三月二日
元手取教会主任
＊ジョージ・ベラス師（聖コロンバン会）
一九九〇年三月十九日
元熊本少年の町創立者

幼きイエス会（旧サンモール会）



幼きイエス会は、一六七八年ミニム会修道司祭ニコラ・バレ神父によって創立されました。

一六六二年、バレ神父は当時の社会の中に精神的に打ち捨てられている子供達を見て彼らにキリスト教的教育の場と、霊的母を与えたいと願い、祈り、計画しました。バレ神父の愛と熱誠に心打たれた信仰深い数名の女性の協力によって学校教育が始められ、献身的に働く女性達が増加するのに従い、バレ神父は本会を創立しました。本院をパリのサンモール街に設け、以来この会を会の中心として、四世紀に亘る世界の厳しい歴史の中を経て今日に至っています。

日本には一八七二年、明治五年に五名の会員が派遣され横浜で始めた孤児院と施療院は、やがて横浜雙葉学園とインターナショナルスクールになり、明治八年東京で開かれた語学校は、今の東京の雙葉学園の前進です。その後静岡、福岡に姉妹校、長崎では教区学校聖マリア学院の教育を担当しています。「徳においては純真に、義務においては堅実に」は世界共通の校訓で、現在ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米の会員は創立者の精神に結ばれて宣教に励んでいます。公会議後は、学校以外にも教会が必要とする種々の宣教活動に奉仕しています。

「バレ師の言葉＝私達の王はまぶねの幼きイエスです。謙遜、愛、単純、信頼、幼きイエスこそ私達の理想なのです。」

菜の花だより

よく知っている信者さんたちが直方教会を訪ねて来てくれました。私が、直方の印象はどうですか？と聞いてみた。ある信者さんは「もっと田舎で、町はずれにあり、まわりは田んぼかと思っていた」と。訪ねてくれる方は、たいていそういう印象をもっているらしい。実は私も、直方教会に着任するまではどこにあるのか知らなかった。

筑豊と言えば、以前は炭坑の町です。筑豊は田川・飯塚・直方の三つの町があり、炭坑がにぎわった頃はたくさんの人間であふれていたそうです。聞いたところによると、このあたり、川すじ気質と言われるそうです。遠賀川沿いで、荒っぽい（詳しくは辞典などで）ことらしいです。今、遠賀川は菜の花が咲き、人々の憩いの場となっています。今年はトヨタ自動車の進出もあって、新しく生まれ変わろうとしています。

ある友人が訪れてくると言うので、場所を説明しました。教会に着いた友人は一言「わかりにくかった」と言いました。直方の町に入って「カトリック教会はどこにありますか」と尋ねるけれども「わからない」との返事だそうです。「殿町で、教会には幼稚園がありますか」とまた尋ねると、今度はわかったらしく、詳しく教えてくれたということです。

『カトリック教会』よりも『平和幼稚園』の方が直方の人たちには知られている。そう言えば思いあたることがあります。ある用事で警察署に行きました。手続きをして、書類を提出すると、受付の女性が話しかけてきました。「平和幼稚園ですか。私も平和幼稚園の卒園です」と。タクシーに乗っても、「カトリック教会」よりも「殿町の教会」しかも「幼稚園のある」と言うか、「平和幼稚園」と言わないとわからないようです。

これから園児たちには、もっと教会・神さまのことをおはなしし、出会う人々には「カトリック教会」と言おうと思いました。

直方の五つの教会

平田　三好

直方の町には、キリスト教会が五つあります。＝聖公会・ルーテル教会・バプティスト教会・日本キリスト教団・カトリック教会＝五つの教会は、車で十分位の範囲内にあり、信徒数も百名前後で、似たようなものです。残念ながら、司祭または牧師がいるのは、聖公会・ルーテル教会・カトリック教会の三つだけ、他の二つの教会は専従の牧師はいません。

先日、三つの教会の司祭・牧師の集まりをしました。最初の集まりですので、まずは自己紹介をし、互いの教会の問題点を出し合いました。共通した点は、百名前後の信徒数ですから、信徒が高齢化してきたことでした。若者を見ないのか、少ないのかわからないが？それにもう一つは、二つの教会に専従の牧師がいないことを考えると召命の点もあげられると思う。召命が少ない。どの教会も悩みは同じようです。互いに助け合っていくことは、これから大切なことだと思います。

五つのキリスト教会が、直方の町（人口約六万人）に寄り沿いながら、存在していくわけですが、この町に五つの教会が？と思われるかもしれませんね。でも、それだけキリスト教に触れた人々が多くいることにもなるのではないか。たとえ少しでも神様のことばを、キリストという名を聞いた人々がいることになるのではないか。

小さいながらも、少ないながらも、この町に五つのキリスト教会が、これからも存在していってほしい。司祭・牧師の減少や信者の老齢化で、教会が閉じられないようにと祈るしだいです。

（直方教会）



典礼　聖歌と祈りの集い

日時　4月26日　2:00～5:30
場所　福岡黙想の家
お話　鈴木忠一神父
指導　深堀純氏

第3回ぶどうの樹の会勉強会　フィリピン・インド見聞録

★日時　1992年3月15日　日曜日　11:00AM～12:30PM
★場所　福岡カテドラルセンター1F講堂
★お話　荒金愛彦氏（彭府カトリック教会所属）'89～'91ラジオ・ベリタス　フィリピン放送局スタッフ
＊どなたでもご自由に、ご参加ください。
★主催　ぶどうの樹の会
★問い合わせ　☎092－851－9467　高木（夜9時以降）

ミカエル竹森猛氏

竹森勇師（老司教会）の尊父で享年81歳、2月20日帰天長崎滑石教会で22日、葬儀ミサ、告別式が行なわれた。

編集室から

▼年度末を迎えて、あわただしさを感じるようになりますが、心のゆとりだけは大切に。▼いつも感謝の心を忘れずに感謝で終わる年度末に。

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株)メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL　092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810　福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社　092-761-5885　自宅　092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24（平尾四ッ角）
TEL092－521－0568㈹

カトリック 福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀　勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座 福岡6－20729
定価一部60円

神の民の喜び

中村彰師　司祭叙階

中村信哉神学生　助祭に



三月二十日、午後一時から大名町カテドラル教会にて、福岡教区長松永久次郎司教司式のもと、前教区長平田三郎司教他、司祭六十六名、修道者、信徒七百名あまりが出席し、司祭、助祭の誕生を喜び、感謝の祈りをささげた。

松永司教は説教の中で「神の民は、司祭の民である。神の民の中から司祭は生まれる。神の民は、司祭を待っている。司祭を生み出す時、神の民はほんとうの意味で神の民であり、生きたものとなる」と語り、召命の尊さ、大切さを新たにするように勧めた。また、「もはや、あなたがたを僕とは呼ばない……わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。…わたしがあなたがたを選んだ。」とのみことばを引用しながら司祭とは何かについて次のように語った。「司祭は互いに愛し合い、助け合い、支え合い、神の民の中から選ばれ、神のために生き、キリストの救いのみ業に神の民をあずからせるものである」と。

そのあと、叙階された中村彰新司祭は、司教とともに感謝の祭儀をささげ、中村信哉助祭は、助祭職を務めた。

ミサ後の祝賀式は、松永司教のあいさつ、信徒代表のお祝いのことば、司祭代表の歓迎のことば、花束贈呈、受階者のお礼のことば、最後に新司祭から両親、参列者へ祝福が与えられた。

その後、一階ホール、ロビーにて祝賀会が行われ、松永司教の開会の祈りのあと、思い思いに新司祭、助祭にお祝いのことばがかけられ、記念品贈呈、平田司教の乾杯の音頭のもと、なごやかな雰囲気のうちに、新司祭誕生を心から喜びあった。終わりに、「司祭のこころ」を合唱し、喜びと感謝のひと時を終えた。

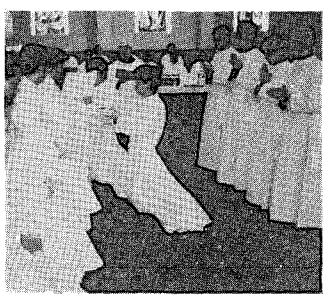
尚、今日のこの喜びをともにするため二人の受階者の出身教会である烏栖・小倉両教会からはたくさんの信徒がかけつけ、司祭、助祭誕生の喜びを共同体としてあらわしていた。



教会奉仕者　宣教奉仕者　選任式

三月十四日(土)福岡サン・スルピス大神学院にて、松永久次郎司教司式のもと教会奉仕者、宣教奉仕者の選任式が挙行された。今回の選任式で、教会奉仕者三名（浅田照明、村川啓一郎、大水文隆〈長崎教区〉）宣教奉仕者五名（平野禎、〈福岡教区〉、久志敏則、川原拓也、辻原達也〈長崎教区〉、金城風次〈那覇教区〉）が選任された。式には、選任者の出身小教区の司祭、家族らが出席し、大神学生の典礼奉仕の中、喜びと感謝を神に捧げた。

福岡教区所属の平野禎神学生は大名町教会出身、大学卒業後、大神学院に入学、昨年五月助祭・司祭候補者認可式を受けている。



教区人事

異動

大名町　山川辰幸師(西　新)
中村　彰師(新司祭)
浄水通　青木　保師(大名町)
西　新　平田　敬師(久留米)
老　司　平田正喜師(新田原)
光　丘　青木　悟師(帯　山)
久留米　山田成章師(光　丘)
新田原　竹森　勇師(老　司)
帯　山　大水幸一師(大名町)
飯　塚　A・ベルトラン師
（帰　国）
大　江　牧山重光師(司教館)
イエズス会福岡修道院
P・ブランガン師
（浄水通）
A・セトアイン師
（イグナチオ）

転勤

イエズス会　草野純英師
山口教会へ
イエズス会　牛尾幸生師
広島学院へ

各種委員会・担当（新任）
信仰教育・聖書　青木　悟師
教会学校　川上勉一師
司祭生涯養成　平田　敬師
広　報　山元　眞師
教区報編集長　下町豊重師
教区青少年　大水幸一師
神学生育成　松井忠之師
宣教地司祭育成　松井忠之師
典　礼（副）　中村　彰師
国際協力　平田三好師
エキュメニズム　櫻井尚明師

今月のみことば

皆が完全に一つになるように
（ヨハネ17・23）

糸島　平田三郎司教

福岡教区第31回クルシリヨ案内

日　時　5月2日(土)午後7時～5日(火)午後4時
場　所　福岡黙想の家
参加費　12,000円(宿泊・食事・用品代として当日受付)
携行品　ロザリオ・着替・寝巻き・洗面用具
福岡教区クルシリヨ事務局
(連絡先)☎803 北九州市小倉北区中井4-7-7-204
佐々木　信　幸
TEL (093)582－1654

《カテドラル堅信式》

日時　6月7日(日)　14:00～

場所　大名町カテドラル教会

※この堅信式は福岡教区在住の大人の信者で堅信の秘跡を希望する人人のためのはじめての合同堅信式です。

※希望者は、各教会の主任司祭を通して4月20日までに大名町カテドラルにお申し込みください。

※準備は各教会で行ってください。

教区事務局長　山元　眞

下町　豊重師「カトリック福岡教区報」新編集長に

四月一日付で、本紙「カトリック福岡教区報」の編集長に下町豊重師が任命されました。

下町師は、編集長の任命に際して、「教区報が、これまで同様、教区民の皆様をはじめ、購読されている方々に、親しまれ、役立つものになるように」と抱負を語り、「今後とも、皆様のご協力の中で、頑張りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます」とのことです。（編集室）

時の話題

髙島　昭平

信徒の奉仕活動

キリストによってあがなわれ、キリストによって結ばれている私たちが、互いに思いやる心で自主的に積極的に奉仕活動に参加し、温かい共同体を作ろうと、戸畑教会で「奉仕活動」を始めて四年目になります。

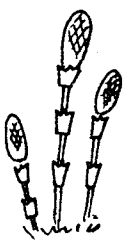
信徒の奉仕活動は、教会内部に対する奉仕と、外部に対するものとがあります。教会内部に対する奉仕には、典礼委員会、聖書朗読者、オルガン演奏者、聖歌隊、生花係、案内係、献金係、営繕、聖堂掃除、外庭清掃美化、教会学校（土、日曜学校）中学生、高校生の宗教教育の世話、ステファノ会の世話、CYGの世話、麦の穂会（聖職者召命のための祈り、集会）、研修、親睦、広報、図書、名簿、納骨堂、高校生会、青年会、寿齢会（お年寄りの親睦を計り、出来る仕事を担当する）、その他（鐘つき等）のグループと、外部に対する奉仕として、正平協、慰問、社会活動（アムネスティなど）等全部で二十九グループあります。

教会運営上では他の教会と同じ様に運営委員会、地区委員会、婦人会があって夫々月例的に集会があり運営されています。

教会内の諸行事は、ともすれば役員依存の傾向になりがちですが、仕事を持っている人も、家庭の人も、学生も男女の別なく、自分にできる範囲の奉仕グループに名を連ねることにより、自分が責任をもって奉仕に参加出来る様になりました。今迄の行事はすべて人々に「おんぶ」されがちな、お年寄りの方々も昨年十月には寿齢会主催の、ゆったりとしたバスハイクで近くの教会訪問等を行い親睦を計り、お年寄り独自の活動も予定されつゝあります。若い人達も負けてはおられません。

奉仕活動グループの登録は二年毎に見直しを行うことになっていますが、活性化するためにみんなで自分にできるグループに所属して活動してもらいたいと思います。

奉仕とは自分のもっている良いもの、貴重な時間を、それを必要としている方々に提供すること、それにはやはり多少の痛みを感ずることもあるかも知れません。いくらかの犠牲を棒げることによって、キリストの「愛」につながるものと思います。



（戸畑教会）

みちくさ

一年間、広報とカトリック福岡教区報を担当させていただきました。この短い間、読者の皆様の多くの支えに、そして人々を通して恵みを与えてくださった神様に心から感謝申し上げます。▼このみちくさの欄、季節と時の流れの中で、心の思いを語らせていただき、みちくさしたり、よりみちしたり、楽しい思い出になりました。いつも悩まされたこの欄、でも書き始めると、そこに神がおられるという感じで、いや、神が見ておられるという思いでした。▼四月年度始め、皆様が新たな心で一つの節目を歩まれるようにお祈り致します。▼ところで新しさとは、新たにするとは、どんなことだろうかと思う。▼今までにないことをすれば、新しさが生まれてくるのだろうか。確かにその一面はあるように思える。しかし、新しさを追い求めているうちに疲れが生じるのではないかと思う。▼新しさをいつも保つために何が必要なのだろうか。キリストは「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように……」（ヨハネ13・34）と言われた。キリストの新しさは「愛」だけである。キリスト教の道徳生活は、旧約の十戒に基づく、この十戒を愛をもって生きるとき、新しさが生まれる。不思議なことのように思えるが、確実に新しさを感じる。▼わたしたちの日々の生活、祈りにおいて、このキリストの愛があったらと思う。毎日くり返される営み、考えたらこれほど単純なものはないのかもしれない。でも、単純だからこそ、だれでも例外のない営みだからこそ、そこに愛があればすばらしいと思う。▼新しさ、新たにするということは、わたしたちの毎日の生活の中にどれだけ、キリストにならった愛を、真心を持つかということではないだろうか。▼このカトリック福岡教区報が、愛と真心のある機関紙となるように祈り、この一年間のみちくさを終ります。

パウロ糸永武男師二月二十三日帰天



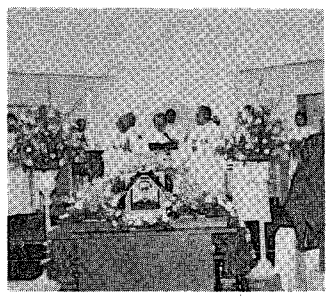
昨年末で引退されていた、パウロ糸永武男神父が、二月二十三日(日)午前四時四十五分帰天した。七十三歳。

二月二十三日午後七時から今村教会にて、松永久次郎司教司式のもと、二十五名の司祭、四百名あまりの信徒、聖母園関係者が聖堂内を埋め尽し、通夜の祈りをささげた。

翌二十四日(月)午後十二時半より大名町カテドラル大聖堂にて、松永久次郎司教司式、平田三郎司教、深堀敏高松司教、司祭六十四名の共同司式、約五百名の信徒が参列して葬儀ミサ、並びに告別式が執り行われた。

同神父は叙階して四十二年の司祭生活の間、病気との闘いのうちにも、そのほとんどを今村の地にあって、教会、清心保育園、聖母園のためにささげた。

主よ、永遠の安息をパウロ糸永武男神父に与え、不滅の光で照らし給え!



福岡地区 公聴会報告

「家庭―生活を通してまた人々の関わりの中で育つ信仰」をテーマにまず体験発表「生活の証しのプレゼンテーション」を全員で聴き、ついで分散会での分かち合いが行われた。

「生活の証しのプレゼンテーション」では、渋谷寿氏(光丘教会)が自分が受けついだ信仰の遺産を家庭での祈りを通して子供たちに伝えたいことの困難を熱っぽく語った。山崎昌典・真由美夫妻(糸島教会)の分かち合いでは、家族をさしおいて教会活動に専念する夫の姿勢に信仰とは何かと妻が疑念を抱き二人の間に溝ができたが、対話を通してまた特に自然な家族計画の実践によって互いの思いやりと愛情が育まれるようになった経過が赤裸々に語られた。最後に谷口純子さん(大名町教会)が障害児をかかえての苦悩の中で周囲の人や子供たちのことばに我を取り戻し支えられ励まされて、今ではその障害の子が生まれたことも含めてすべて神のご計画だったのだと受け止め、希望を持って生きていると力強く発表した。

分散会は十二のグループに分かれて行われ、その中で家庭を「ハウス」ではなく「ホーム」に、自分を発見し会いたい人のいる場に変えていけたら、その中心は夫婦のきずなだ、子供の信仰教育はまず大人の信仰教育から、福音を知り信仰を持った喜びを感じそれを子供に、周囲に伝えていきたい、など積極的な意見が多く出された。その他、離婚、再婚などのカトリック相談所や大人の信仰養成の場の設置、教会全体での障害者対策などの要望も聴かれた。もっと頻繁に家庭について分かち合える場を持つという提案もあった。

佐賀地区 公聴会報告

第一分科会 しつけと信仰教育

一、親の権威(強制)だけで子供を教会に行かせようとするのは無理。

二、親が先ず教会に行く、祈る、それだけでよい。中高生は後で教会に来るようになるかも知れない。

三、中高生は学校の勉強、クラブ活動等問題は多い。中高生が参加出来るような地区行事をもっと組んで貰いたい。

四、中高生の年齢は親には言えなくても友達には言える時期である。そういう場を教会行事、地区行事の中で持てるようにしてはどうか。

五、教会離れを防ぐ為、スポーツ等の行事でつなぎとめるようにして欲しい。その場合子供の自主性を尊重してやらせることも必要、所謂お膳立てのし過ぎは禁物。

第二分科会 生きがいと信仰

一、生きがいがないと思っていたが、高齢者大学に行って多くの人と交際し、とても楽しい。生きがいが見付かった。

二、残された時間を如何に過ごすかを考える年齢になった。成人した子供が教会を離れている。彼等が教会に戻って来るのが生きがいである。子供の教会離れについて「祈りはしているが難しい」という発言に対して「それは祈りが足りないから。真剣に祈れば神様は必ず聞き入れてくださる」という励ましの答えがあった。

三、子育てが終り、自分のことを考えるようになると何とも言い難い不安が生じた。結婚十四年記念日に受洗、その後、多くのすばらしい人達との出会いがあり新しい気持になった。今は終末医療などのボランティア活動に関わるようになり、生きがいと信仰が一つになっている。

四、仕事以外の生きがい、ライフワークの生きがいが欲しい。

五、主人と二人暮らし、生きがいとは何だろうと思って参加した。

六、ある重度の身体障害の方が不自由な体で、社会奉仕をしているという発表もあった。

第三分科会 よりよい老後を送るために

一、現在老人に如何によりよく暮らして貰うか。

① 活動の場所を与える。場所の問題では、家族と一緒に暮らすのが一番よい。老人ホームがよい(家庭生活が崩壊する恐れ)。

② 生きがいを与える。祈ること。独りぼっちに(差別を)しないこと。子供と一緒に暮らす。例えば、二階が老人ホーム、一階が幼稚園のような施設があればよい。

二、現在をよりよく生きる。その為には惚けないこと、絶えず学ぶこと、祈ることを懸命にやる。心身共に美しく保とう、みすぼらしくしていると心までそうなる。若い者とつき合う。家庭で疎外しないようにする。信仰を持たない人に対しては信仰に導く方法を考える。

三、子供を嫁にやる時が心配。その家の宗教に入るのか。カトリックであることを前以って話しても必ずしも理解して貰えるか分からない。

四、神社の長男(跡継ぎではない)に嫁いだが、宗教の自由を認めてくれ、結婚後受洗した。子供にも自由に自分の宗教を選ばせてくれる。只今勉強中。自分一人信者で、理解して貰っているが、家族への献身も惜しまない。要はお互い相手の立場を尊重することが大切。夫へ受洗は強要しない。仏教や神道の勉強もして相手を知るということも大切ではなかろうか。

五、一人だけ信者の場合、自分が亡くなった時、果たして教会で葬式をするように事を運んで貰えるか心配。骨はどうなるのか。寺には、葬式をしなければ駄目だと断わられた。

六、神社への寄付の問題がある。付き合いと考え寄附をするのか、または毅然とし断わるのか。情況によると思う。一概に言うことは出来ない。

第四分科会 他宗教と家庭生活(先祖の祭祀を含む)

一、家族の中で自分一人だけ信者である場合、周囲に対して気兼ねがある。しかしカトリックの教えに真理を見出し、受洗をかくしてでも教会へ行きたい。

二、熱心な仏教の家庭で育ったので幼い時から祈る姿を見て来た。カトリックの信仰を恵まれ周囲から反対されてもそれを守って来た。日曜日のミサの時、姑から仕事をいいつけられたが、未信者の夫の理解が大きな励みとなった。父には臨終の時洗礼を授けることが出来た。

第五分科会 ウェディングベルを鳴らすには

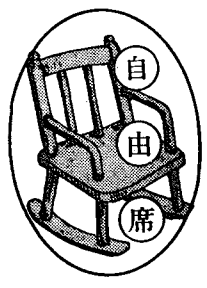
一、信者である父親が結婚に差支えるという理由で子供に洗礼を受けさせない例がある。男と女では考え方がはっきり違っている。男の場合は相手が信者、未信者を問わない。女の場合は相手の姑が洗礼を許さない例がある(家の宗教に従うことになるのか?)。

二、離婚のことを考えると結婚に踏み切れないという人がいる。

三、男は家の宗教のことを考えるので、未信者には宣教出来ないと思いとどまる。しかし、二人で子供に信仰を伝える。

四、最近の若い女性には堕胎を簡単に考える傾きがある(神父には相談しない。答えが分かっているので)。

第三十一回クルシリヨのおさそい



この黙想会に参加すると、神との対話ができるということを聞きながらも、最初の一晩は正直言って何も感じないままに就寝。二日目、このままクルシリオが終わるのかな、家でする祈りと大して変わらないな…そう思いながら告解を終え、二晩目のミサに与っているときだった。まわりがボーッとかすんで、目に入るのは正面の十字架のみで身体の中より熱いものがこみあげてくるのを感じた。「主の平和」と周囲の方と手を取り合う挨拶の中で突然、主が私の中に入ってこられ、これが本当の分かち合いなんだよ、と教えられた時に涙がとめどなく流れ落ちた。

人間として持って生まれた悪をすべて洗い流すかのように、どうしようもなく止まらなかった。『主よ、信じます。私は信じます。』と強く祈る中で聖霊が入ってきたことをはっきりと自覚した。

どのくらい時間が過ぎただろうか。ふと、我に返ると身体を震わせ、啜り泣きをしながら祈っている仲間を見て、主は、一人ひとりに聖霊を送り語りかけておられるのだと悟ると同時に、神の業が行われているこの場所に居れることをただただ感謝した。なんと素晴らしいことではないか。

本当の意味でのキリストの兵士になろう。何も目立たなくてもよい、キリストの望まれることを進んでできる兵士に…そう決心したとき、心の中は、晴れ晴れと青空のように澄んでいた。

クルシリオ、馴染みの薄い名称なので知らない方も居るでしょう。知らない方こそ、一度この祈りの会に参加してください。愛と慈しみのあるところ……という聖歌の通りに、クルシリオにはそれがあります。

(渋谷　寿)

ご会葬御礼

福岡教区司祭、故パウロ糸永武男神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜わり、温かいご芳志をいただき、心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡小神学校と社会福祉法人希望の丘に寄贈させて頂きましたのでご諒承くださいますようお願い申し上げます。実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

平成四年三月　福岡教区長　松永久次郎

小神学校基金への寄附の御礼

故パウロ糸永武男神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄附を小神学校における司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。

平成四年三月　福岡小神学校　松井忠之

社会福祉法人希望の丘への寄附の御礼

故パウロ糸永武男神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄附を老人福祉活動のためにいただき心よりお礼申し上げます。

平成四年三月　希望の丘理事長　萩原アサエ

黙想会へどうぞ!
四旬節・聖週間を黙想の家で…
① 4(土)～5(日)・聖母マリアのシンフォニー　鵜野泰年神父指導
② 11(土)～12(日)・献げ物の子羊はどこに……畠基幸神父指導
③ 聖なる過越の三日間の黙想
〈申込・問合わせ〉 0940(32)3222
※ＪＲ赤間駅南出口より
自由が丘南3丁目行きバス
自由が丘南2丁目バス停前
福岡黙想の家

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

堕胎問題については性教育が必要である。今は医学的にも正しい粘液法というのがあって、計画的に受胎が出来ることを知って欲しい。

五、ある女性は胎内の子供が障害児であることを知りながら出産し、二人の障害児を頑張って育てておられるとのことだった。

六、未信者の男性と結婚した場合、毎週教会へ来ることは出来ない。来てもすぐ帰らねばならない。維持費も夫から貰わなければならない。

第六分科会

伝統的信者の生き方

一、バチカン公会議以前に受洗し信仰教育を受け、その信仰を守って来た信者は、現在行われている他宗教への対応や社会的活動に抵抗を感じる。

二、教会に行ってミサに与かることについて、現在は以前と比べあまりやかましく言っていないような気がする。神優先であったのが今は人間優先になっている。

三、秘跡についても、前記と同じことが言える。もっと秘跡を重んじるようにしたい。

四、典礼について、新しい聖歌、フォークミサに馴染めないでとまどっている。

五、イエス様の時代には皆熱心だったので、教会の掟も無かったし必要もなかった。時代を経るにつれ、それ程熱心でなくなったので所謂教会の掟なるものが出来た。大切な掟は神を愛し隣人を愛することで、そこから出発しないと、今私たちがやっていることも形式的なものに堕する。

六、宣教を含めた社会への働きかけについては、人それぞれ得手、不得手があり、内を固めるのが得意な人もいるし、外への働きかけが得意な人もいる。要はお互いが相手の立場を尊重し、例え自分の不得意な分野であっても、非難しないことである。

七、所謂伝統的信者と若い世代の信者との断絶も、年輩の信者が我慢して、若い信者にもよく分かる祈りの本（口語体）を作らなければならない。また、ミサや秘跡に対する考え方も神への愛から出発するという価値観があれば、それに対する義務感は自ら生じて来る。そうすれば所謂伝統的信者も新しい若い信者も共通の場を有することになる。

山元神父

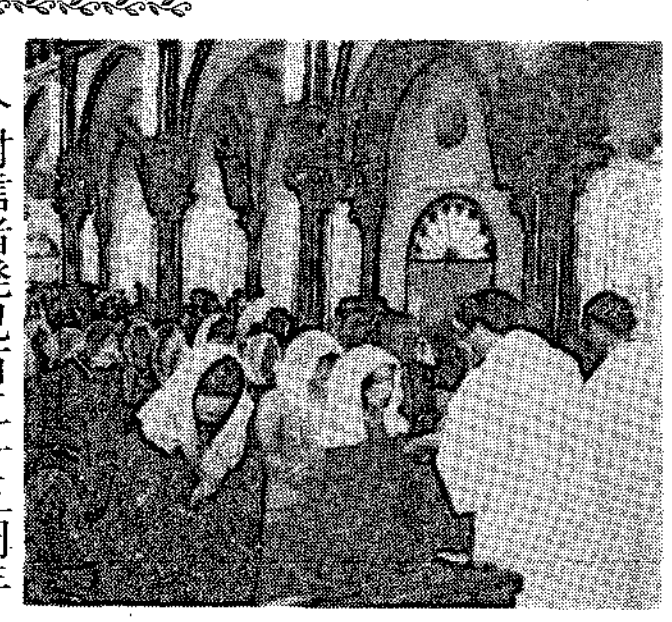
今日の公聴会に出席して教会が生きていることを実感した。イエス様の生き方は私たちの実生活に於ける個々の場合の全部を教えている訳ではない。何が原則で何が規準であるかを教えている。イエス様が教えた愛の原則を私たちの現実の生活に生かそうとする時、苦しみや喜びがある。その場合場合に応じた福音の伝わり方があり、問題にぶつかって、本当の福音が理解出来るようになる。

以上のような主旨の指導があった。

ガザルディ神父

我々の側の十%の協力がなければ神様からの九十%の助けを貰うことは出来ない。例え少し（十%）でも、精一杯頑張りましょう。

今村教会信者発見百二十五周年を祝う



今村信者発見百二十五周年を迎える二月二十六日、今村教会と本郷教会合同主催で、信仰の遺産を新たにしながら記念ミサがささげられた。

この記念ミサには、松永久次郎司教をはじめ、今村教会出身の司祭、筑後地区の司祭十八名が参加し、聖堂内は、今村、本郷教会ばかりでなく、今村教会にゆかりのある信徒たちで、満ちあふれ、神に感謝をささげた。信者発見を祝いながら信仰の尊さを新たにし、十一月二十三日に公式に祝われる信者発見の記念式典に向けてのすばらしい準備となった。

家庭　**第2回 全国会議に向けて**

母の祈り

主の平和。私は、平成元年三月に受洗することができ、満たされた生活を感謝しながら、二十五年前の私の罪のつぐないのためにも何かお役に立つ手伝いがしたいと思っていました。イエズス様は私の気持ちをご存知だったのでしょう。願いが十分に生かせる奉仕を与えてくださいました。「結婚準備セミナー」です。平成二年より奉仕させていただくようになり、心から感謝しました。

若い人たちだけでなく、結婚生活に疑問をもっている方、生活が十分満たされていると思っている方でも自分を知るために参加されることをおすすめしたい程です。テーマは、

○夫婦愛を育てる新婚時代　○家庭経済　○カップル間に豊かな対話を
○いのち・性・妊娠（その一）（その二）
○夫・妻・父・母　○二人で歩む道の価値観　○結ばれた二人の道　の八セッションです。

ビデオや夫婦の証し、参加カップルの為の体験学習・対話などが組み込まれたどのテーマも、私にとっては反省することが多く、結婚生活に対する自分の無知を思い知らされました。特に「いのち・性・妊娠」についてと「二人で歩む道の価値観」の体験談を聴いた時は、今まで、それほど大きな罪とは考えなかった「中絶」について、自分が大きな罪を犯していたことを知りました。そして、心の底から「こんなおろかな母を赦して、本当にごめんなさい…」とゆるしを願う祈りをしていました。

現在、社会人として元気に働いている二人の子供には、受洗する以前に中絶したことを話していました。ペンを執る気持ちになったのは、生まれていたら今年二十五歳になる息子の夢を見たからです。＝聖母への祈り、めでたし＝を今日も祈りながら、赦されている幸せを感謝して過ごします。

そして、「命の尊さ」「夫婦愛」の大切さと、私のおろかさを教えてくださった「結婚準備セミナー」の奉仕も、自分の健康がゆるす限り続けていきたいと思っています。

白石宣子（手取教会）

典礼
聖歌と祈りの集い

日時　4月26日
　2：00pm～5：30pm
場所　福岡黙想の家
お話　鈴木忠一神父
指導　深堀純氏

1992年度　日本カトリック研修センター
コース案内

期　日	コース名	費用（宿泊食費を含む）
5月2日(土)～5日(火)	福音宣教コースⅠ －生活で育てる信仰－　定員25 対象：信徒、修道者、司祭	￥24,000
7月28日(火)～31日(金)	宗教・倫理教育ワークショップ　定員30 （中・高宗教倫理担当者のため）	￥35,000
7月31日(金)～8月3日(月)	典礼コース 新しい賛美の歌を求めて （募集発表作品を含む）　定員60 対象：信徒、修道者、司祭	￥24,000

いずれも場所は、日本カトリック研修センター
問い合わせ、申込みは、日本カトリック研修センター　TEL052-831-5037
〒466 名古屋市昭和区広路町隼人30　研究企画部室

幼稚園のできごと

吉野 天使 幼稚園

園児たちの思い出、それは、とてもすてきなものです。

随分永く教会の幼稚園で働かせて頂きましたが、最近は子どもの体力が無い、骨が折れ易い、遊べない、などと言われます。けれども、おさな児のすばらしさの本質は昔も今も変わらないようにも思えます。

いつも夢中で喧嘩、でもやっぱりお互い近寄って遊びたい引力を持つ男の子。尻込みや、できない友を見るとすぐ何くれと世話をしながら自分の事は？と見れば、さっぱり出来ていないほほえましいお世話やきさん。毎日飽きずに細かい砂だけを選び出し、口にくわえた水でこね、すべすべの硬い土だんごを作っては宝物と言って持って廻る子、秘密の場所に隠して帰る子、この努力と真剣さ。

常緑樹のカシの木は四月に一斉に新芽と古い葉が交代します。毎日降るような落葉、私がくま手（まつ葉ぼうき）で掃きだすと、すぐ我もわれもと掃くやら散らすやら、「僕のほうきが無い！」と大さわぎ、みるみる落葉の山ができると、ザンブ（？）と飛び込んでもぐり込む姿。（ああきっと、この子どもたちは森や木の好きな大人になってくれる）と、勝手なことを考えています。

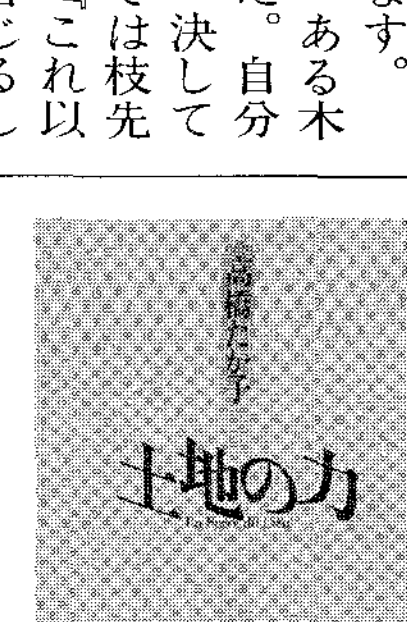
木登りさせたくて、ある木にロープを巻きました。自分の能力の所まで登り、決して無理はしません。今では枝先の赤い実を取る程で、『これ以上はストップ！』の目じるしを枝に付けました。木登りの効用は、握力がつき、四肢のバランスがとれ、決断力が生まれると、専門家から聞きました。私には三〇〇万円の鉄製遊具よりこの木に価値があるように思えます。だまって木の下に立っていると誰かが登り出します。そこで誉めたり励ましたりが始まります。

好奇心と意欲一ぱいの園児たちの姿に「おさなごのように」とおっしゃった『みことば』がだぶり、心に響いてきます。

（徳原淑子）

BOOK 読みま専科

★土地の力　**高橋たか子著**

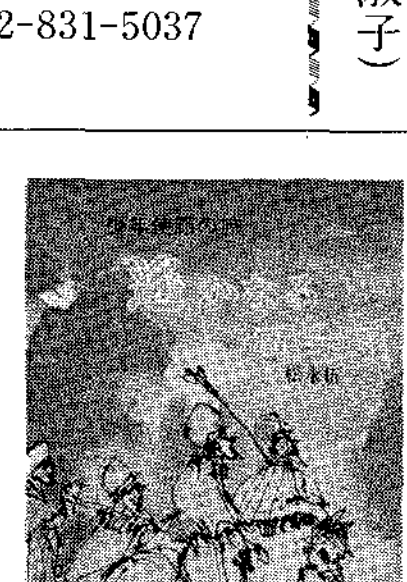


人間の内部を見つめ、じいっと見つめ、神との出会いを渇望しながら「神しかない砂漠」へと巡礼の旅を重ねていく女性を主人公とする話。

この作品は旧約の『雅歌』にも似て、出会えたと思ったら隠れる神、捜さずにいられない神をテーマとし、恋人の呼び声に誘われて、出会いの予感にふるえながら、捜しに出る人の歌である。

女子パウロ会　一、六〇〇円

★遥かなるローマ　**松永伍一著**



今から四百年以上も前、四人の少年たちが三年余の歳月をかけてローマにおもむき、時の教皇グレゴリオ十三世に謁見した。

長く、苦しい旅の途中、少年たちは何を考え、どんな思いを抱いていたのか？　そして、彼らの目に映ったヨーロッパは？

少年たちの涙ぐましい努力のあとを、いまの若い人たちに知ってもらいたいと願い書かれた、天正の少年使節が日本をたってから八年後、すっかり成人して帰国するまでの物語。

女子パウロ会　五二〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・**建設**／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

四・五月の行事

※ゴチックは司教日程

四　月

16日 聖香油ミサ（大名町）
19日 主の復活
23日 司教講話―婦人対象
26日 本郷教会堅信式
29日 福岡市内ウォーカソン

※12日～19日聖週間を迎えます。特に聖なる三日間を大切にし、典礼に参加しましょう。

五　月

2～5日 第31回クルシリヨ
3日 唐津教会堅信式
10日 大楠教会堅信式
24日 広報の日
31日 八代教会堅信式

福岡黙想の家

1～2日 雙葉学園職員研修
2～3日 小倉教会中・高生の集い
4～5日 四旬節特別黙想会＝鵜野神父（大楠教会）指導＝
小倉教会青年の集い
7～8日 笹丘カトリック幼稚園職員研修
11～12日 四旬節黙想会＝畠神父（御受難会）指導＝
16～19日 聖なる過越の三日間の黙想
21～22日 広島祇園教会黙想会
26日 典礼・聖歌と祈り研究会

一九九二年度第二回結婚準備セミナー

福岡会場（福岡カテドラル・センター4階）
日時（毎回午後七時から）
4月 25・30日
5月 2・7・9日
14・16・17日
問い合わせ ファミリーセンター・吉永
☎〇九二―五四一―六二〇七

熊本会場（手取教会）
日時（毎回午後七時から）
4月 20・22・27日
5月 6・10・11日
13・18日
問い合わせ 手取カトリック教会・稲田
☎〇九六―三五二―三〇三〇

教区広報研修会

日時 平成4年5月10日(日) 10:30～15:00
場所 北九州市小倉北区香春口 小倉カトリック会館2F
講師 西川正義氏（朝日新聞西部本社記事審査室勤務門司港教会所属）牧山満安氏（元佐賀新聞勤務、佐賀教会所属）
主催 カトリック福岡司教区広報委員会
目的 「小教区の広報のあり方を学ぶ」

第31回 朝禱会全国大会〈福岡〉

期間：1992年6月12日(金)～14日(日)
会場：福岡国際ホール(西日本新聞会館16階)
申込：1992年5月5日まで
- 福岡県と佐賀県の方は司教館プラザー杉山まで (092-522-5139)
- 熊本県の方は熊本朝禱会まで (代表：高木慶治、0963-52-4454)

※詳しくは教会に案内をお送りします。

あなたのお子様を心豊かに育ててみませんか
エリザベト音楽大学付属音楽園 福岡教室
生徒募集
(1)教室 泰星学園内・特別教室(福岡市中央区輝国)
(2)募集人員 30人程度
(3)入園資格 満4歳（平成4年4月2日現在）から小学6年生まで
(4)募集科目 ソルフェージュ（1クラス5名位のグループレッスン）
(5)募集受付期間（年2回）
＊前期 平成4年3月10日(火)～4月8日(水)
＊後期 平成4年9月10日(木)～10月7日(水)
♪お申し込み・お問い合わせは…エリザベト音楽大学付属音楽園福岡教室・佐伯智恵子（☎092－831－5356）まで
♪詳しい募集要項は、聖パウロ書院にもあります。



幼きイエズス修道会

幼きイエズス修道会はフランスのピュイの「教育会」から分離、独立という形で、一八五九年、ショファイユにて、ローマ聖庁直轄の修道会として誕生しました。それ故、正式の名称は『ショファイユの幼きイエズス修道会』です。創立者にはブアンジュ師とメール・オグスティヌ・アンティエを頂いています。

日本での奉献生活は一八七七年、プティジャン司教のお招きに応じて四名のフランス人修道女が派遣されたことに始まります。

現在、日本管区本部は宝塚市仁川にあって、北海道から沖縄まで全国三十か所の支部を包括しています。会員は三百余名を数えます。

此処福岡教区では、福岡市、久留米市、熊本県と市に、合わせて七つのコミューテがあり、夫々の使徒的働きの場＝神学校、養護施設、病院、学校（幼・中・高・短大）へ、及ぶ限り、福音を伝えようと努めています。人数的には約百名も居りますので、皆さまにお目にかかる機会も多く、たぶん仲よく(?)させていただいてるのではないでしょうか。

本会の霊性は「マリアのうちに幼子となられた神の愛の秘義を示す」賜を受けた創立者レーヌ・アンティエに倣う生き方です。この秘義を深く観想すればするほど、私共の使徒的活動は、より貧しくされたところへと向かってゆくのです。

自分の課題を問い続けて…

生まれて此の方、猫の死に立ち会ったことはあっても人の死に立ち会ったことはない。危篤の人を何度か見舞ったことはあるが、人が息を引き取る瞬間に立ち会い、いわゆる人の死を看取るということをしたことがない。もともと幽霊話など怖がるぐらい臆病なほうだから積極的に立ち会いたいと望んでいるわけではない。然し司祭達が臨終の人のもとに駆けつけて祈り、その人の死を看取ったという司牧の体験を語るのを耳にするとき、なんとなく羨ましくなる。

八年前の冬のある日、神学生だった私はひとりの先輩の神学生とガン末期の病人を見舞ったことがあった。その病人は神学校で長い間働いてくださっていたご婦人だった。当人も自分がガンであることをご存知で長い間入退院を繰り返した末の死を待つ床だった。それまで幾度か不治の病の人を見舞ったことはあったが、この方のように医療器具のいろいろな管や線を体に付けられ、息づかいが苦しそうだがガン末期の痛みをじっとこらえている壮絶な姿を見るのは初めてだった。先輩の神学生は普段と同じ様子でいろいろと言葉をかけていたが、私は身が竦み、何も言えずにいた。結局私はその先輩の肩ごしにのぞき込むようにして、「頑張ってください。お祈りしています」と言うのが精一杯だった。

その夜、このご婦人は亡くなられた。私たちが病室を辞して四、五時間後のことだった。その訃報を受けた時、後悔の念に駆られた。もっと何か力づけることができなかったのか、と。

それからである。困っている人、力を落としている人、悩んでいる人を励まし、支えていくことができるようになることを自分の課題として意識しはじめたのは。具体的な手段をとったわけではないが、少なくともそういう司祭でありたいと思い続けてきた。

司祭として、これまでたびたび病人を見舞ったり、相談に乗ったり、困っている人を助けようとしてきた。自分なりに誠意をもって対処してきたが、なにか心に引っかかるものがある。

さらに、一般に人が最も苦しみ、不安な状態になり、力を落とすのは死を前にしたときである。そういう人に対して今の自分に何ができるか、どのように見守れるだろうか、と時々思う。だから、自分がまだ人の死に立ち会ったことがないことが気になる。まだ自分が一人前ではないというコンプレックスだと思う。

けれどもこのコンプレックスを大切にしたい。つまり、今の自分に満足することなく、いつまでも向上心を失いたくない。いつも求める心を大切にしたい。

司祭になって六年が過ぎた。振り返ってみると、司祭になった当初は相談を受けたりすると、あたかも自分が人生の師であるかのように得意になって自分の考えを言おう、何か答えようとしていた。病人を見舞っても、キリスト教の病気の意義を説くようなことをしていた。勿論、それなりに一生懸命だった。

しかし、段々と、自分が何かを与えるよりも、自分が相手の心をかえるよりも相手が自分でかわっていくのを辛抱強く待つことが大切だと思うようになった。だから、相談を受けても、話の中でいろいろな可能性を探しながら、結局は自分で決めてくださいと言うようになった。病人を見舞っても、まずその人の病気の辛さを理解しようと出来るだけ努める。

最近、カウンセリングの専門家の牧師さんから、「カウンセリングは人生相談ではありません」と言われた。つまり、答を提供するよりも、その人が自分で決定できるように、その人と誠心誠意関わっていくことが大切なのがカウンセリングだそうだ。これを聞いて少し安心した。

今はこう考えているが、これからもずっと自分の課題を問い続けていきたい。

（スルピス会・櫻井　尚明）



四月命日の司祭

＊大野正恒師（イエズス会）
一九八五年四月十二日
元泰星学園校長
＊ジョゼフ・ドレル師（パリ外国宣教会）
一九八四年四月十五日
元直方教会主任
＊フランソワ・ブレンゲ師（パリ外国宣教会）
一九四六年四月五日
元佐賀教会主任
＊アンリ・レウトル師（パリ外国宣教会）
一九四四年四月二十五日
元新田原教会主任
＊カール・シュミッツ師（御受難修道会）
一九八八年四月七日
元黙想の家院長

編集室から

▼最後の編集になりましたがこの一年間ありがとうございました。読者の皆様、教区報に寄稿、投稿くださった皆様、編集に心から協力くださった皆様に感謝します。これからも教区報を愛してください。

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01 福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL 093－771－3657

技術 真心
黒崎・小倉 城野・行橋
(株) メガネの正視堂
小倉香春口交差点 ☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1 TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三 福岡支店長 小田正人

有限会社 共立総合防災
＊消防設備 設計・施工
＊電気工事 保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役 ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人 信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24（平尾四ッ角）
TEL092－521－0568㈹

カトリック
福岡教区報

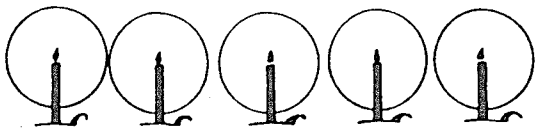
松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価　一部60円

今月のみことば

悲しむ人に喜びを
与えるキリスト

八王寺教会　E・モーゼ神父

復活節を生きる

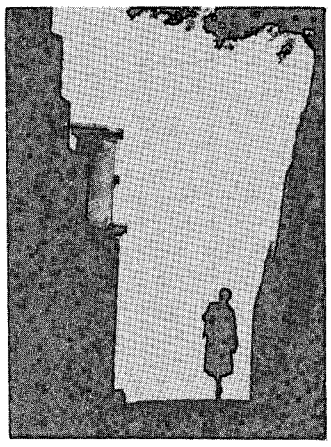


復活節

今年も全世界の教会は一つになって復活の徹夜祭を祝いました。それは、人類の贖いを成し遂げた主の復活そのものを祝う、典礼暦年の中で最も重要な時です。ところで、この復活の主日から聖霊降臨の主日までの五十日間を復活節といいます。それは、キリストが復活後四十日にわたって使徒たちに現れて神の国について話し、天に昇って、五旬祭の日（過越祭から五十日目）に聖霊をお遣わしになったことを記念する季節です。天の栄光に上げられたキリストは、わたしたちの将来の姿でもありますが、今や、御父の右に座し、すべてのものの「主」となられたキリストは、復活の命を聖霊を通して与える者となられたのです。教会は、この復活節を「大いなる主日」として喜び祝います。アレルヤ（「主を賛美せよ」の意）という言葉がよく唱えられるのはそのためです。なお、復活節を締めくくる聖霊降臨は、教会の歴史の幕開けの記念日でもあります。教会は、聖霊に導かれた使徒たちの福音宣教によって発展し成長していったからです。

主の復活を信じる

弟子たちは、イエスのご死去とご復活の予告を何度か聞き、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる」（ヨハネ一一・二五）という言葉も聞いていました。しかも、イエスの墓を見に行った婦人たちは、イエスの空の墓を見ようとしませんでした。しかし、主と出会う中で復活への信仰を固めていったにちがいありません。復活節は、わたしたちが使徒たちの信仰のあかし（聖書と伝承）を通して受け入れた復活の信仰を暖めるときかもしれません。



復活節を生きる

今月ミサの中で読まれるヨハネ福音書は、復活節に対するメッセージです。それによると、命のパン、良い羊飼い、ぶどうの木である主キリストは、自分を与えることによって他人を新たに生かす方です。彼なしには誰も生きることはできません。彼は愛の掟を教えるだけでなく、それを徹底して実行されました。ご受難、ご死去とご復活がそれです。死は自分の自我に死ぬことと言えます。罪は自我から生まれますから、自我に死ぬことは罪に死ぬことであり、それはそのまま別の新しい命に復活することを意味します。イエスの復活は、結局自分を神と人に与えることの勝利なのです。この復活の恵みをわたしたちは受け、それを生きるように招かれています。

聖パウロは、わたしたちに「キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。…地上のものに心を引かれないようにしなさい」（コロサイ三・一～二）とさとしています。「地上のもの」とは、みだらな行い、貪欲、怒り、悪意、そして、うそなどあらゆる罪のことです。それは、神の望みに対して不従順であること、自我に固執し、自己中心的であること、結局「古い人」のことです。イエスが死んだのはこのような古い人を滅ぼすためです。従って、復活したキリストは罪から解放された新しい人、つまり憐れみの心、謙遜、柔和、寛容、赦しを実践する人、一言で言えば神と人に自分を完全に与え尽くす愛の人なのです。

聖パウロはまた、「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりますと、命のパン、良い羊飼い、ぶどうの木である主キリストは、自分を与えることによって他人を新たに生かす方です。彼なしには誰も生きることはできません。彼は愛の掟を教えるだけでなく、それを徹底して実行されました。ご受難、ご死去とご復活がそれです。死は自分の自我に死ぬことと言えます。罪は自我から生まれますから、自我に死ぬことは罪に死ぬことであり、それはそのまま別の新しい命に復活することを意味します。イエスの復活は、結局自分を神と人に与えることの勝利なのです。この復活の恵みをわたしたちは受け、それを生きるように招かれています。

聖パウロは、わたしたちに「キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。…地上のものに心を引かれないようにしなさい」（コロサイ三・一～二）とさとしています。「地上のもの」とは、みだらな行い、貪欲、怒り、悪意、そして、うそなどあらゆる罪のことです。それは、神の望みに対して不従順であること、自我に固執し、自己中心的であること、結局「古い人」のことです。イエスが死んだのはこのような古い人を滅ぼすためです。従って、復活したキリストは罪から解放された新しい人、つまり憐れみの心、謙遜、柔和、寛容、赦しを実践する人、一言で言えば神と人に自分を完全に与え尽くす愛の人なのです。

聖パウロはまた、「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、なんとかして死者の中からの復活に達したいのです」（フィリピ三・一〇～一一）とも言っています。彼は、体の復活の恵みに浴するためには、キリストの復活の力を信じて、今ここで、キリストの苦しみと死に与らなければならないと言います。そしてそれは、福音のために苦しみ、命を献げることによっても示されると言いたいようです。

キリストの復活の力を信じて、キリストと同じように自分を神と隣人に与えることによって、復活の命を生活態度によってあかしし、その喜びに与らせていただきましょう。

サン・スルピス大神学院
院長　高見　三明

松永久次郎司教御母堂
マリア松永ミツ様　帰天



四月十一日午前九時十分平戸紐差のご自宅で亡くなられました。享年八十六歳。

十一人のお子様を育てられ松永司教様は次男。四人のシスターがご活躍中です。

十二日午後三時からの葬儀告別式には福岡教区からも二十名あまりの司祭、大神学生、修道女、信徒が参列し、司教様のお母様のご冥福をお祈りいたしました。

お母さまの永遠の安息をお祈りするとともに、教区のために天の御父に取り次ぎを願いましょう。

†††　†††　†††

四月十五日にカテドラルにおいて追悼ミサ並びに告別式が行われました。

変更のお知らせ

六月七日カテドラルの堅信式は十四時を九時に変更いたします。

（教区本部事務局）

時の話題

松尾　静香

戦後新設された若松カトリック教会、天使園と洋裁学校が建てられた教会聖堂の建物も古くなり、一昨年各信徒の支援で内部改造され明るく美しい聖堂になりました。

わが国は世界でも豊かな国と言われており、生活は戦前と異なって余裕があるように見えます。しかし私達の生活は必ずしも贅沢ではありません。そんな中で信仰の力により、主の家を改造出来た事を忘れてはいけないと思います。

昨年より年間テーマとして『共同体としてお互いに支えあい外に向けて働きかけよう』と教会の目標をたて、外への働きかけをしています。

クリスマスの夜は区内の賑わう街中をローソク行列、主の御誕生の御こしならぬ馬小屋を担いでカトリックのPRに努めました。

信徒の今一番の願いは

数十年前から新教との合同祈祷会など、キリスト教一致にも努力しています。各グループの活動で信徒の協力により内部の活動は行われ、外に向かって働く必要な助けとなっています。

主任神父様は先頭にたって正平協とJOCの運動をはじめ、フィリピン、ネグロス島ラ・グランハ・ナガシ村の共同体との交流や日雇、野宿労働者への炊出し、パトロールやその他外部の活動のために手本を示しておられます。

信徒もこれについて考えさせられています。

主と共に生活するためには、幼児より、小、中、高の各年代の信仰に対しての教育をしっかり育て、本当の信仰を身につける基本的な生活を、今こそ学校教育とともに行なうことが必要であることを痛感しています。

学校生活でのいろいろなグループ活動のために教会に行かれない、とひと言で片付けてよいでしょうか。大きな疑問です。

日曜日の教会のミサに子供の姿が少ない。このことについて、親も教会も子供達のために何か手を差し伸べることはできないでしょうか？

教会が信徒の心に今こそ力をそそぎ大いに努力し、祈ることによる神の御恵みを願いたいと思います。

教会が子供たちの霊魂のために、手を差し伸べ、神に導くためにこのことについて声を大にして叫びたいのです。

（若松カトリック教会）

小神学校　新入生紹介

今年は五人の新入生を迎えました。

素晴らしい召命の芽を大切に、充実した日々が送れますように、共に祈りたいと思います。

ヨゼフ　岩崎大輔（小　倉）
アシジ・フランシスコ

山本篤実（小　倉）
シモン

崎本孝紀（小　倉）
パウロ

中村貴紀（鳥　栖）
フランシスコ

濱村直樹（新田原）



右から、中村君、山本君
崎本君、岩崎君
濱村君、松井神父

みちくさ

司教様から、「してください」と言われた。「どうしよう」の言葉が心に充満する。「私にはできません。他の人にはもっと才能があります」と断り続けたけど、ついに時が来てしまった。「ああ、神さまは、ないものまで取られるのか」と聖書の一句をつぶやく▼こうなれば、やる・つき・やない。ないものを取られる神は憐れみ深い方だから、新しい善いものを下さるに違いない、という信頼のもとでやっていくしかない。この時点では自分の損得を勘定している。神と取引をしている。でも、神からいただかなければもともと何もないのだから、どうにかしてくださると自分に言いきかせる。神の家族のためだからきっとどうにかしてくださる。それに自分だけでするのではなくて強力な協力メンバーが居るのだから、もっと気楽に気楽に…▼かつて、イエスはペトロに言われた。「あなたは若い時には自分の思うところに行くことができたが、年老いたら人から帯をしめてもらい、自分の思うところではないところへ連れて行かれる」（ヨハ二十一・十八）と。年寄りのように熟考できないが、自分では身体は丈夫で、（にげ）足の早い青年と思っている。では、足の早さと神の思いの早さはどちらが早いか。もちろん、神の思いは私より先に目的地に着き、そこで私が走って来るのを待っておられるのであろう。そして、さあ、一緒にゴールしようと言われるに違いない▼できるだけのことをさせてもらおう。できないところはできないのだ。パウロは、「自分のとげ（弱いところ）を去らせてください」と神に祈った。神は、「私の恵みで充分である」（IIコリ十二・九）と答えられた。又、パウロは、「神は耐えられない苦しみは与えられない、むしろ耐えられるように必要な道を用意してくださる」（Iコリ十・十三）とも言っている。人生は勉強、身は衰えていっても神の思いを受けながら前進しよう。【S】



1991年度 福岡教区教勢 (1991.1.1～12.31)



※司祭・修道者・神学生の数は含まれません。

地区名	小教区名	信徒総数			洗礼		求道者	堅信	ミサ参加者			婚姻				転入			転出			死亡	不明
		男	女	計	幼児	成人			主日	復活祭	降誕祭	信徒	信ブ	混宗	他	教区内	教区外	他	教区内	教区外	他		
福岡地区	茶山	252	284	536	7	5	1	15	460	500	600	1	0	3	0	11	12	0	31	2	0	1	0
	大名町	588	828	1,416	22	31	24	80	750	1,200	3,200	4	0	37	89	40	48	39	43	40	2	8	331
	二日市	173	224	397	4	0	6	0	200	270	500	1	0	5	0	7	11	0	17	11	0	1	11
	箱崎	138	180	318	2	0	3	0	100	180	250	0	0	0	0	13	11	0	9	18	0	0	0
	笹丘	313	405	718	8	9	10	7	300	500	700	3	0	4	13	12	18	3	14	10	1	3	5
	光丘	504	565	1,069	6	1	12	0	285	430	650	0	0	2	3	24	38	0	15	12	7	8	16
	本郷	322	331	653	16	2	0	1	350	500	550	1	0	4	0	6	2	0	8	5	1	5	14
	今村	440	513	953	23	6	2	29	650	850	900	2	0	7	0	0	1	0	6	3	0	15	0
	浄水通	161	225	386	5	13	137	10	232	295	1,000	2	1	16	80	10	21	0	0	7	1	0	5
	古賀	326	354	680	8	3	17	3	220	350	480	3	0	5	3	31	18	2	2	18	0	3	0
	久留米	489	590	1,079	16	10	8	0	400	600	1,300	2	0	18	18	6	16	0	24	12	0	5	9
	美野島	62	76	138	0	0	0	0	52	77	200	0	0	1	0	6	2	0	1	0	0	1	40
	西新	516	620	1,136	20	3	2	43	400	500	500	1	0	4	0	33	24	2	29	30	189	4	34
	小郡	161	200	361	3	6	1	17	120	300	350	0	0	1	0	12	2	0	4	0	0	1	7
	大楠	85	100	185	7	6	0	1	70	120	250	1	0	2	3	10	5	0	8	14	0	1	0
	大牟田	70	130	200	4	2	10	1	70	180	190	0	0	3	24	1	2	0	4	1	0	0	0
	老司	279	320	599	8	5	6	3	200	300	950	0	0	5	1	12	13	0	4	11	0	4	5
	高宮	213	334	547	7	8	5	14	110	200	300	0	0	7	28	2	23	0	10	14	0	3	12
	吉塚	295	380	675	11	2	9	36	310	510	610	1	0	4	1	4	4	0	13	1	0	6	0
	糸島	109	106	215	2	0	3	4	95	120	160	0	0	1	0	29	7	0	4	0	0	0	0
小計		5,496	6,765	12,261	179	112	256	264	5,374	7,982	13,640	22	1	129	263	269	278	46	246	209	201	69	489
北九州地区	八王寺	92	121	213	0	0	9	15	75	115	200	0	0	1	7	0	1	0	0	4	0	0	0
	飯塚	105	137	242	1	0	3	0	75	160	200	0	0	1	27	3	2	0	11	17	0	3	1
	小倉	1,094	1,422	2,516	7	20	34	16	550	750	1,600	4	0	8	44	15	23	4	33	20	0	9	28
	黒崎	410	653	1,063	11	9	10	34	400	450	700	0	0	10	9	2	8	0	2	6	0	8	55
	水巻	282	346	628	6	5	10	3	200	300	500	1	0	4	3	10	6	0	1	1	0	4	0
	門司	156	225	381	0	1	3	1	170	220	400	1	0	1	1	7	0	0	10	0	0	4	0
	門司港	73	95	168	0	1	2	1	60	130	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16
	直方	51	67	118	0	1	3	9	30	80	90	1	0	0	1	3	4	0	0	0	0	1	0
	新田原	902	970	1,872	24	3	4	36	800	1,300	1,300	2	0	14	0	8	21	0	5	7	0	8	0
	田川	66	103	169	1	0	2	0	40	100	140	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	26
	天神町	131	179	310	3	1	2	0	80	140	180	0	0	1	0	5	8	1	2	3	0	5	7
	戸畑	384	382	766	4	8	12	6	200	350	750	0	0	7	7	1	2	0	4	8	0	4	0
	若松	150	180	330	3	2	0	27	60	160	210	0	0	2	1	0	5	0	0	0	0	4	0
	湯川	547	636	1,183	7	3	6	2	350	600	700	1	0	5	0	14	8	0	2	7	0	4	0
	行橋	302	338	640	2	7	9	28	250	420	500	1	0	7	2	11	5	0	4	7	0	10	0
小計		4,745	5,854	10,599	69	61	109	178	3,340	5,275	7,610	11	0	63	102	79	93	5	74	80	0	66	133
福岡合計		10,241	12,619	22,860	248	173	365	442	8,714	13,257	21,250	33	1	192	365	348	371	51	320	289	201	135	622
熊本地区	荒尾	37	96	133	1	4	13	4	50	70	100	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	3
	人吉	64	137	201	1	5	1	0	75	120	260	0	0	1	6	0	1	0	1	0	0	6	0
	本渡	39	60	99	0	2	0	1	30	100	120	0	0	1	4	4	0	0	5	0	0	0	35
	健軍	220	275	495	1	3	5	28	200	250	400	0	0	3	0	3	18	0	9	32	0	3	37
	菊池	26	48	74	0	0	1	0	20	45	120	0	0	1	0	4	1	0	0	0	0	1	0
	水俣	34	62	96	1	1	0	0	27	44	52	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	2
	帯山	125	173	298	1	4	6	17	130	150	180	1	0	2	1	7	12	0	0	16	0	4	32
	島崎	142	216	358	2	3	8	0	150	210	300	0	0	1	3	1	3	0	4	0	0	4	0
	大江	129	186	315	0	0	1	0	150	180	300	0	0	3	8	0	0	0	0	3	0	9	0
	崎津	116	160	276	6	0	0	0	80	170	190	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	2	0
	玉名	53	70	123	3	0	1	7	50	120	120	0	0	0	0	6	3	0	0	1	0	0	2
	手取	504	708	1,212	7	28	19	38	520	600	700	1	0	17	53	13	19	2	21	22	0	21	101
	八代	42	88	130	0	2	0	2	90	110	400	0	0	1	4	2	9	0	10	3	0	2	0
	武蔵ヶ丘	179	204	383	5	3	8	2	163	310	390	0	0	0	0	1	1	2	14	4	18	1	5
小計		1,710	2,483	4,193	28	55	63	99	1,735	2,479	3,632	3	0	31	83	42	67	4	68	84	18	54	217
佐賀地区	伊万里	99	119	218	3	1	2	1	50	120	170	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1
	唐津	157	199	356	8	2	0	0	70	130	200	4	0	4	1	6	0	0	1	6	0	0	0
	鹿島	21	24	45	1	0	0	0	8	20	40	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	1	0
	佐賀	268	428	696	4	5	10	0	160	300	400	0	0	9	15	8	28	0	2	25	0	3	5
	武雄	31	38	69	1	0	0	0	15	60	80	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	鳥栖	129	180	309	12	2	8	14	130	230	300	2	0	2	0	2	3	0	9	5	1	1	0
	多久	51	55	106	0	0	2	0	25	50	80	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7
	呼子	196	178	374	5	0	0	0	337	350	500	1	0	2	0	0	1	0	5	1	0	3	0
	馬渡島	176	155	331	2	0	0	0	280	320	340	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0
小計		1,128	1,376	2,504	36	10	22	15	1,075	1,580	2,110	8	0	18	16	20	33	0	21	43	1	11	13
総合計		13,079	16,478	29,557	312	238	450	556	11,524	17,316	26,992	44	1	241	464	410	471	55	409	416	220	200	852

宣教する共同体を目指して

例年、小教区の主任神父様、信徒の皆様のご協力により、上掲のように教区の教勢を見ることができます。福音宣教推進全国会議に見られるように、今、日本の教会はかつてないほど、福音宣教に力を入れております。

しかし、これはなにも新しいことではなく、主イエスが教会に委ねられた根本的な使命のひとつなのです。

受洗者の数だけで福音宣教の成果をはかることはできないと思いますが、宣教の努力をしなければ受洗者が増えないことも事実です。

ここ三年間の成人受洗者数の推移を見ますと、一九九一年度は一九九〇年度に比べて七十六人減。一九八九年度に比べて四十二人減。一九八八年度に比べると百十六人の減になります。

毎年増えるといった性格のものではないと思いますが、この減少は気になるところです。

信徒総数は、ここ四、五年、二万九千人台をなかなか越えることができません。不明者数が確実に減っているのは評価できると思いますが、その分が信徒総数に加わっていることを思えば、受洗者数の減少はやはり大きな問題ということができるでしょう。ちなみに、幼児洗礼数は横ばいです。

受洗の恵みは「恵み」ですから、人間の力だけでどうこうできるものではないということも言えるかも知れませんが、ともかく、すでに、洗礼の恵みをいただいている者として、福音宣教に最大限の努力を投じる使命と義務は無くなるものではないでしょう。

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。」

（マタイ二十八・十九）

事務局長　山元　眞

緑深い黙想の家の丘に
アンジェラスの鐘 鳴り響く
――4/19復活の主日より美しい音色がこだましています――
★召命徹夜祈禱会・5/30夕食後～31日朝食迄
―召命をともに祈りましょう！―
〈申込み・問合せ〉0940(32)3222
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056
※JR赤間南口より
自由ヶ丘南3丁目行き
自由ヶ丘南2丁目下車

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

神父様へ質問します　Q

この前、ある教会のミサに行ったら、途中でみんなひざまずきました。わたしの教会では、ひざまずきません。教会によって違うのですか。また、なぜミサのとき立ったり座ったりするのですか。（六年　S・T）

先日、ミサにはじめてあずかった人が、ミサの中で何度も立ったり座ったりするので疲れたと言った人がいました。お祈りする時の姿勢、それはどうでもよいわけではなく、大切なことです。T君の学校ではお友達は、ほとんど仏教の人でしょう。仏教でもお経を唱える時皆きちんと正座するでしょう。また禅でも足を組んで、姿勢を正しくしてきちんと座ります。お祈りをする時、テレビを見る時のように寝ころんでするのは、やはり神さまにたいして失礼ですよね。それで、最高のお祈りであるミサの中でも姿勢は大切です。

さて第一の質問ですが、たぶん「聖なるかな」の後、ミサの大切な部分でひざまずいたのでしょう。しかしミサの中でひざまずく姿勢、これは正式には義務（決まり）ではなく、必ずしもひざまずかなくともよいのです。T君の教会には、もうひざまずき台がないようですね。ですから誰もひざまずきません。しかし、ある教会では、台が付いています。ですから、皆ひざまずきます。義務ではありませんから、ひざまずかない人に「なぜしないのですか」と言うことはありません。また、ひざまずいている人に「やめなさい」と言う必要もありません。結果的には聖堂の事情に合わせて、ということになると思います。でも、ひざまずくという姿勢は、神さまの前でふさわしい姿勢だと思います。神さまを信じる人々が、きれいに手を合わせて、ひざまずいて祈る姿はとても美しいと思います。

また、第二の質問の「立つ」「座る」という姿勢についてですが、これは、いいかげんにしているのではありません。きちんと意味があります。ではミサのどんな時に立っているか考えてみてください。始まる時は、ずっと立っていますよね。第一、第二朗読の時は、座ったままです。「アレルヤ唱」で立って福音を聴きます。そして座るでしょう。「座る」というのは神さまのことばを注意深く聴き、またそれをしっかりと心に納めるためです。また、神父さまの話を注意深く聴くためです。ずっと立っていると疲れるからというわけではなく、また眠るためでもありません。「マルタとマリア」の話を知っていますか。ある日、イエスさまはこの二人の姉妹の家を訪問されました。お姉さんはイエスさまのために何かおいしいものを作ろうと一生懸命働いていました。でも妹のマリアは「イエスさまの足もとに座って、その話に聞き入っていた」と書いてあります。こんなふうにみことばを聴けたらいいですね。また、「立つ」という姿勢は、復活されたキリストが今もわたしたちの真ん中に立っておられ、今もわたしたちとともにいてくださることを考える姿勢です。復活されたキリストは、弟子たちのところに度々、お現れになりましたが、聖書の中でもいつも「彼らの真ん中に立ち…」「彼らの前に立ち…」と書いてあります。わたしたちのキリストが死を乗り越えて永遠に生きておられることを示すのですね。ミサの時、神父さまが「主は皆さんとともに」と言われると、皆は「また司祭とともに」と何回も言うでしょう。それは、復活されたキリストが、今もここにおられますよ、という呼びかけなのです。また、イエスさまは病気の人を治される時、「立ちなさい…」と言われます。立つというのは、今から何か新しいことが始まることを示しています。学校でも授業の始めに誰かが「起立」と言うでしょう。きちんと皆礼をしてから授業が始まります。新しいことの始まり、キリストの復活は新しい時代の始まりでした。

ミサの時の姿勢、大切にしてくださいね。イエスさまのことを考えながら立ったり、座ったりできるとすばらしいですね。（「教えの手帖」より）

小倉教会・森山信三



家庭　第2回全国会議に向けて

性教育に排卵法を！

私が初めて出産に立ち会ったのは十八歳のときでした。産声を聞いたときの体を突き上げてくるような感動と、不思議な力を目の当たりにしたようで、茫然自失の状態になり、無性に母が恋しくなって涙を流しました。そして、生命の誕生に立ち会うことに魅力を感じて、助産婦になったのです。病棟は喜びにあふれているのですが、外来では苦悩する女性たちを見ました。

妊娠をきっかけに、私は臨床から遠ざかりました。二人の息子たちが成長するにつれて、性教育をどのようにすべきか悩んでいた、ちょうどそのとき、ビリングス夫妻の講演があることを知り、早速出かけました。

排卵法（ビリングス・メソッド）について夫妻の体験を話されるお二人の姿は、理想の夫婦のあり方を会場にいる私たちに示してくださったのではないでしょうか。そのおり、ビデオを買い求めました。子をもつ母親の性教育のあり方を学習したときには、そのビデオを利用しました。大切なことは繰り返し述べてあるので、非常に分かりやすいものです。ビデオを見てから、排卵法を試みて、すぐに妊娠された方もいます。

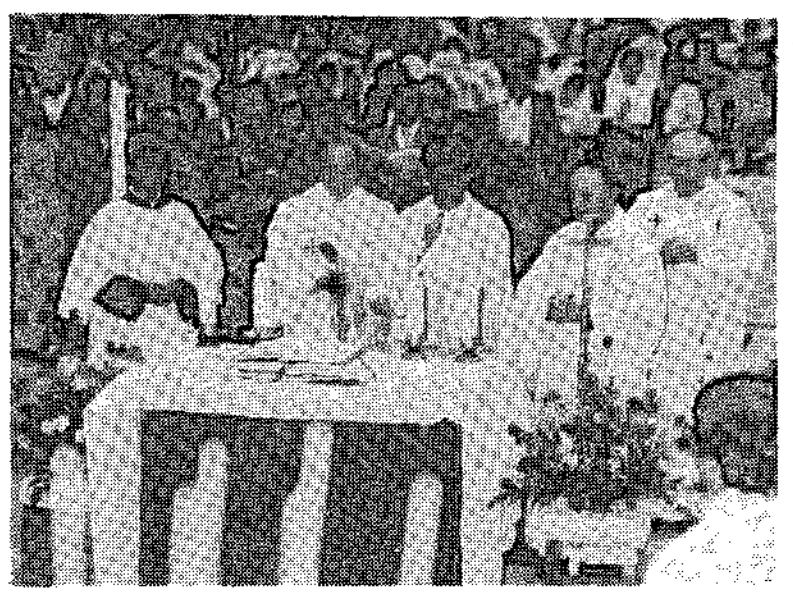
日本では、年間の中絶件数が百五十万といわれています。自分の体ですから管理できないというのは、悲しいことです。そんな現状ですから、なおさら夫婦のあり方や性教育の見直しが問われていると思います。

私は今、ある病院で母親学級の講師をしており、排卵法の説明もしています。体のリズムをしっかりつかみ、夫婦で協力して、健康を害することのない受胎調節をすべきこと。生まれてくる子にも、命の大切さをふまえた性教育と排卵法を母親が教えること。この二つを指導しています。

『明るい家庭を築く会』の方々は排卵法の普及に努力しておられます。健全な夫婦であることこそが、何よりもいい性教育を与えることになるのですから、今後ますますのご活躍をお祈りしております。

福岡市　母親学級講師
宇治　松枝
（ノンクリスチャン）

鳥栖教会百年目に うれしい初ミサ



三月二十二日は鳥栖教会にとって、もう何年も待ち望んだ特別の日だった。三養基郡基山町に中村・占野・藤田という三つの家庭から信仰が芽生え、鳥栖小教区の礎となってから百年目にして、中村彰神父様の初ミサである。

きづかわれた天候も、会場作りを始める頃には回復し当日は快晴。初ミサの会場となった鳥栖市民体育館では、司祭二十名、修道者六十名等約八百名が集り、荘厳なミサが捧げられた。はつらつとした新司祭誕生である。

幼稚園に会場を移しての祝賀会では、うどん・おでん・喫茶部の模擬店もあって、信徒総出の鳥栖教会らしい家庭的雰囲気で賑わった。

幼稚園のできごと

鹿島カトリック幼稚園

鹿島のカトリック幼稚園は、信者の少ない地区にも布教を勧めるため、ミラノ宣教会に依って造られた。昭和四十二年、新町の教会を執行分に移動して新設される事になった。建築中、近くに仏教の鹿島幼稚園が開園された。封建的な土地柄のせいか、土着の人々からは、耶蘇という感覚で取られ、仏教保育園によるカトリック潰しという障害にも遭った。初代園長（ルッチ・ミケレ神父）は祈る外なかった。佐賀、武雄カトリック幼稚園を経験した主任は、新任の二人と方々に園児募集に回った。結局、三人の縁故関係で、市内は遠くから点々と、市外は塩田からなどで三七名を集め、ワゴン車の送迎で一年目をスタートした。熱心な父母のお蔭で二年目は八〇名近くになり、六年目五クラス一七〇名に達し有名になった。

初め「カトリック」の名に抵抗が強く、断わられる毎に、園の名前を別の呼び方にしたらとも思った。

然し現在は、卒園生一、四六〇余名となり、父母園児共にカトリックの名称に愛着を持つようになった。

開園時は、周り一面田畑で、雀の群れ飛ぶ様子に園児と見とれたりした。運動会の折は、農家の方達が甚平姿で立ち並んで見学されていた。今は周りに家が立ち並び、教会も幼稚園も遠くからは見えなくなってしまった。近くに市役所、市民会館、農協会館、新設小学校も出来、住宅中心街となっている。でも一歩出れば自然観察は充分出来、菜園では園児がいも掘りを楽しんでいる。

運動会では園児の祈りである『平和のうた』をつけた風船を飛ばし、十年間に九州各地、遠くは広島まで飛んで、多くの人から便りを頂いた。朝の集まりでは、「世界中の恵まれない子供を幸せにして下さい」と祈っている。

このように園生活で、種々の体験を通して、神の存在とその恵みを身近に感じさせるようにしている。

元主任　森田由佐子

《カテドラルで聖香油ミサ》

四月十六日（木）朝十時三十分より聖香油ミサが行われました。このミサは、何よりもイエス様によって司祭職が制定されたことを祝うものです。

司祭職は、最期の晩餐の時、御聖体と共に制定されました。キリストの体である御聖体、そして、キリストの体である教会と結ばれている司祭職の恵みを共に祝い、感謝しました。

この日の司祭の共同ミサは、このキリストの体に結ばれている司祭同志の兄弟的交わりの中で行われるのです。「兄弟のように共に住むのは美しく楽しいこと」とある言葉の通りです。

八十名近くの司祭が、信者の皆さん、そして司教様と共に、一つの祭壇を囲んで、ミサを献げることができたのは、意義深いことだと思います。

自分も一人の司祭ですが、同時に司祭仲間と共にあって、司祭職の恵みに与らせて頂いていることを新たにした日でした。

光丘教会・青木悟神父

1992年度　日本カトリック研修センター　コース案内

期日	コース名	費用(宿泊食費を含む)
7月28日(火)～31日(金)	宗教・倫理教育ワークショップ　定員30　(中・高宗教倫理担当者のため)	￥35,000
7月31日(金)～8月3日(月)	典礼コース　新しい賛美の歌を求めて　(募集発表作品を含む)　定員60　対象：信徒、修道者、司祭	￥24,000

いずれも場所は、日本カトリック研修センター
問い合わせ、申込みは、日本カトリック研修センター　TEL052-831-5037
〒466 名古屋市昭和区広路町隼人30　研究企画部

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

五・六月の行事

※ゴチックは司教日程

五月

2～5日　第31回クルシリヨ
3日　唐津教会堅信式
10日　大楠教会堅信式
教区広報研修会(小倉)
16日　パイプオルガンチャリティーコンサート(カテドラル聖堂)
広報の日
24日
31日　八代教会堅信式

六月

2日　教区内全司祭集会
7日　カテドラル堅信式
12～14日　朝祷会全国大会
14日　久留米教会堅信式
16日　司祭評議会
聖ペトロ使徒座への献金・戸畑教会堅信式
28日

福岡黙想の家

2～5日　クルシリヨ
24日　小郡教会　婦人会黙想会
24～26日　韓国より　婦人グループ静修
28日　雙葉小卒業生　グループ黙想会
30～31日　召命徹夜祈祷会
＝申込受付中＝

一九九二年度　第二回結婚準備セミナー

福岡会場（福岡カテドラル・センター4階）
日時　（毎回午後七時から）
5月14・16・17日
問い合わせ
ファミリーセンター・吉永
☎〇九二―五四一―六二〇七
熊本会場（手取教会）
日時　（毎回午後七時から）
5月6・10・11日
13・18日
問い合せ
手取カトリック教会・稲田
☎〇九六―三五二―二〇三〇

教区広報研修会

日時　平成4年5月10日(日)
10:30～15:00（閉会後ミサあり）
場所　北九州市小倉北区香春口
小倉カトリック会館2F
目的　「小教区の広報のあり方を学ぶ」
講師　西川正義氏
（朝日新聞西部本社記事審査室勤務・門司港教会所属）
牧山満安氏（元佐賀新聞勤務、佐賀教会所属）
主催　カトリック福岡司教区広報委員会

松永久次郎司教様の 教皇文書勉強会

場　所：カテドラルセンター大名町
日　時：4月23日(木)から隔週木曜 10：30～12：00
テキスト：「家庭」…愛といのちのきずな
参加費：1回 500円
問合せ：司教館「司教様勉強会」 TEL092-522-5139
主　催：福岡教区福岡地区婦人会
対　象：どなたでもご参加下さい。

第31回 朝禱会全国大会〈福岡〉

期間：1992年6月12日(金)～14日(日)
会場：福岡国際ホール（西日本新聞会館16階）
申込：福岡県と佐賀県の方は司教館プラザー杉山まで　(092-522-5139)
熊本県の方は熊本朝禱会まで
(代表：高木慶治、0963-52-4454)
※詳しくは教会に案内をお送りします。

第2回 パイプオルガン チャリティーコンサート

―聖母マリアの歌とともに―

日　時　5月16日(土)　開場15:30　開演16:00
会　場　大名町カトリック教会大聖堂
内　容　J.S.バッハのオルガン曲・聖歌ほか
出　演　林裕美子(ソプラノ)・佐伯智恵子(伴奏)・江尻孝子(オルガン)
主　催　ぶどうの樹の会
協　賛　女子パウロ会
問合せ　TEL092-851-9467(高木PM9:00以降)
(パウロ書店)　TEL092-741-4588
チケット　〈前売〉小学生以上¥800〈当日〉¥1,000

主の道を求めて

カノッサ修道女会

愛徳の娘貧しき者のはしため

創立者は聖マダレナ・カノッサ（一七七四年～一八五五年）北イタリアのベローナにあるカノッサ候爵家の次女として誕生。一八〇八年、愛徳の娘、貧しき者のはしため修道会（通称、カノッサ修道女会）を創立。一九八八年十月二日、ヨハネ・パウロ二世により列聖。総本部はローマ。日本管区本部は東京。

創立者マダレナは、最高の愛、完全な愛をお示しになった十字架上の主イエズス・キリストを模範として仰ぎました。従ってカノッサ会員はあらゆる愛の奉仕職（学校教育活動、福音宣教活動、病者のための奉仕活動）に必要な活力を十字架上のイエズスの観想から頂きます。

『イエズスが知られ、愛されるためにイエズスを知らせて下さい。地の果てまでも……。』これは、聖マダレナが常に口にしていた言葉です。

一九五一年、故深堀仙右衛門教区長により、四人の外国人シスターが招かれ、大牟田市に明光学園を設立、『地の果てまで』が実現された。

現在、福岡教区では、教区の吉野天使幼稚園勤務、水俣の明光幼稚園があり、他の教区では、鹿児島に大口明光学園、東京にマダレナ・カノッサ幼稚園、そして名古屋では教区、小教区レベルでの活動に協力し、それぞれの場と時代の貧しさがもたらすニーズに応えるべく微力ながらも献身しています。

若かば

「若花田！」「貴花田！」満員御礼の続く場所に黄色い声が響く。若・貴に代表される大相撲人気はすさまじいものがある。昨年の九州場所の際、すぐ近くにある本郷小学校にあのハワイ出身の関取曙が来た。老若男女が鈴なりに集まっていた。そのせいもあるのか、子供達から「神父様、曙に似てる!?」とよく言われるようになった。曙ではなく貴花田位にしてくれないかなあなんて自分では思っている。でも考えてみると、この数年の間に体重は随分と増えてしまったものである。だからなのか、以前いた教会や出身の教会の信者達にお会いすると決って言われるのが「こんにちは」の挨拶の代りに「太ったね」「どうしたの?そんなに太って」である。以前は「太ったのではなく、ふくよかになったんですよ、神様のお恵みで」と答えていたが、最近は、この大相撲人気にあやかって「これが今トレンディなんですよ。この大相撲人気を先取りしていたんです」と答えている。

時の流れは早いもので、司祭に叙階させていただいて丸六年が経っている。身体の方は確かに過ぎる位ふくよかになっているが、心は、司祭として、人間としての自分は、どれだけのものなのだろうかとつくづく考えさせられる。以前ある神父様の説教の中で「キリストは食べられるために来られた」と話されたことが、今でも忘れられず私の心の中に刻まれている。キリストは食べられるために…。その尊いお命さえもあの苦しみの十字架を通してお捧げ下さる程命がけで私達を愛して下さった。それだけでなく、私達を満たし、深く一つに交わる為に、食べていただく為にご自分をお与えになって下さる。どれ程神は、キリストは、私達をお愛しになって下さっているのだろうか。どれだけ、ご自分を私達の為に与え尽くされるのだろうか。つくづく感服させられる。

私達信者は、これだけ神から愛されている。それだけでなく洗礼の秘跡を通して、キリストと同じ神様の子どもとしていただいた位、より強く愛されている。それだけに神からより愛されている者としてこの世にあって、神様の愛を人々の中で具現する者でなくては神様にとても申し訳ない気がしてならない。そうでないと神様は私達に片想いになってしまう。片想いはつらいものである。それでも神様は私達を愛し続けるであろう。

神の愛でふくよかに

その神様の愛に応え、人々に自分を与え、人々の為に自分を役立てていければ幸いである。

現代社会は真の愛に飢えている。先日も「はッ」とさせられたことがあった。それは今やレンタルも家族にまで及ぶという事が報じられていたからである。独り暮らしや年老いて二人で生活している老夫婦等に子供家族を演じる人々が派遣されているとの事である。何と淋しい事なのかと考えさせられた。こんな現代社会こそ真の愛、キリストの愛が必要なのではないだろうかと思う。

真の愛とは何だろうか。それは、キリストが食べられる為に来られ、自分を与えられたように、自分を与える愛である。真の愛を生きる為には、自分を人々の中でいかに与え、いかに人々の役に立つか、人人の幸せに寄与できるかにかかっていると思う。そしてそれが心の豊かさ、ふくよかさにつながる事だと言える。馬鹿らしい、何故自分だけがと思うかも知れない。しかしその心がこの世に愛を失わさせていると言えるのではないかと思う。

「キリストが愛したように」キリストの愛に生きれたら…。キリストが食べられたように自分も人々に食べていただけるような豊かさな身体と心をもつことができたらと思う。

今年は今村信徒発見一二五周年という記念すべき年である。祖先はこの世よりも神を選び、その労苦をいとわなかった。この祖先に応える意味でもキリストの愛を身につけたいものである。

真の愛に生きるキリスト者が大相撲人気を超えてトレンディに成り得たら、神の国はもうすぐそこまで来ていると言えるのではないだろうか。

本郷教会・川上惣一

五月命日の司祭

＊フェルナンド・チリ司教（パリ外国宣教会）
一九三〇年五月十日
初代福岡教区長
＊フランソワ・ルマリエ師（パリ外国宣教会）
一九四五年五月五日
元八代教会主任
＊ヨハネ棚町正刀師
一九六八年五月十五日
元茶山教会主任
★佐賀教会ディベッロ神父様のお母様、ディベッロ・エレナさんが四月二十日午前三時帰天されました。ご冥福をお祈り下さい。

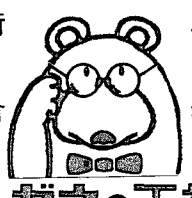
編集室から

▼「教区の顔」と言われる教区報の編集は大事な仕事である。携わる時、肩に力が入る。きれいな顔に傷をつけてはいけないし、今までの質を保たねばならないと思うからである。多忙な聖務の中でやりこなした先輩諸師の苦労が偲ばれる。▼読者の皆様の寄稿を宜しくお願いしたい。「教区の顔」が輝きを放つように。

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋

㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810　福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885　自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
(平尾四ッ角)
TEL092－521－0568㈹

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TFL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

神の導きを実感

教区クルシリヨ開かれる



クルシリヨという運動は、一九四九年、スペイン・マヨルカ島の教区長ヘルバス司教様が、管区の司祭や信徒達の協力を得て計画し、始めたものです。パウロ六世教皇様は使徒聖パウロをこの運動の保護者として宣言されました。日本では北は北海道、南は沖縄にまで普及しています。

日本のカトリック信仰の「ふるさと」である長崎での第一回クルシリヨは、御受難会ウオード神父様の指導のもと、畑野氏(東京教区)を錬成長として開かれました。その後、長崎教区の指導者の方々の神への祈りに徹した呼びかけが実を結び、福岡教区においても、昭和四十三年一月、大雪の中、司祭七名、信徒二十八名が参加し、福岡黙想の家で第一回クルシリヨが開かれました。第二回からは深堀敏神父様(現高松教区長)の指導のもと、福岡教区の司祭、信徒によって行われるようになり、主のみ恵みはもとより、クルシリヨの度ごとに多くの人々から寄せられる祈りと励まし『パランカ』(霊的花束)が、福岡教区におけるクルシリヨ運動を支え、いつの間にか既に二十四年を経ています。この二十四年間には色々の成功と同時に反省される問題も少なからずあり、会を重ねる度に改善して、よりよきものにしようと努めてきました。

ところで、クルシリヨの真の目的は参加者の自己完成と共に、そこから生まれる当然の宣教活動の実践にあります。勿論この宣教活動はその人、その人の立場とか環境に依って千差万別なのですが、私たちは一宣教者として、相手の中に良いものを見つけ出し、それをのばすお手伝いをし、相手を理解する事が大切ではないかと思います。そして、自分から心を開いて裸になり、相手の奥深いところにふれ、苦しみ、悩みを知るという心のふれ合いを持つ努力が必要です。そうすることによって、相手に援助や助言をするという心のかけ橋ができるのです。

クルシリヨ運動は信徒に何かしなければという熱意を燃えたたせ、この精神は諸所に燃えています。

今回参加した二十九名の方方も感動のうちに体験したことを、自分たちの信仰生活の中で、輝かしていくことが出来るよう励まし、語り合っていただきたいものです。

クルシリヨ世話役
松尾光敏

司教様霊名のお祝い


祈りの先唱をする松永司教

四月二十八日(火)、カテドラルセンター(大名町)において、ヨセフ松永久次郎司教の霊名の祝いが行われた。三月十九日(聖ヨセフの祝日)は、叙階式等のため改めて行いたいと意向を出していた司祭団が主催したものである。

司教はミサに先立ち司祭団に感謝の言葉を述べ、七十名の司祭と司式を共にされた。司教は、ミサ中マリア様の陰で忘れられがちな聖ヨセフについて「マリア様が、ご自分のお恵みを一番多くあげたいと思った方、あげた方はヨセフ様だったでしょう」という親しみを込めた言葉に、参加していた信徒の多くがホッとした表情でうなずいていた。

また、処女マリアの浄配である聖ヨセフについて「私たちは弱い存在です。神との間の純潔を守って行かなければなりません」と語った。さらに「ヨセフ様は全ての人の救い主を育てた方、キリストの教会、一人一人の信者、司祭の守護者であり、神さまに深く愛された人だったと思います。特に、私たち司祭の守護者である聖ヨセフの取り次ぎを願いましょう」とミサが続けられた。ミサ後、一階ホールで祝賀会が催された。

NICE・2に向かって

第二回福音宣教推進全国会議(NICE・2)が来年の秋に長崎で開催される。テーマは『家庭』であるが、月末に定例司教総会が開かれ、そこで本会議の課題が決定される予定。

福岡教区では昨年から公聴会やアンケートを通して信徒、修道者、司祭の声を聞いてきたが、この度、NICE・2準備委員会の方で『家庭』をテーマとした課題案を以下のように作成し、全国会議事務局に提出した。

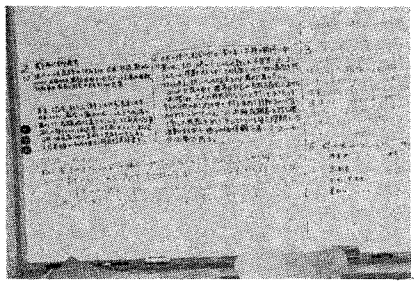
①家族のかかわり　②青少年の信仰教育　③社会生活と家庭　④いのちと性　⑤別居・離婚・再婚(教会法上の重婚)　⑥弱い立場におかれている人々とのかかわり

以上の六つの課題案にはそれぞれ提案理由が付けられている。

この六つの課題案と提案理由は、教区NICE・2準備委員が復活祭の日に黙想の家に泊まり込み、作成したものである。

司教団によって課題が決定されるまでは、各小教区でミニ公聴会のようなものを開いて『家庭』のテーマを深めていただきたい。

NICE・2準備委員会
委員長　山元　眞



恵みに生きる 教区の司祭達

福岡教区では、毎年司祭の叙階を記念しお祝いする。

今年司祭叙階六十周年、五十周年、二十五周年を迎えた方々は以下の通り。

《六十周年》
ツルデル師(サン・スルピス大神学院)

《五十周年》
デシャンブ師(八王子教会)
グロージャン師(田川教会)

《二十五周年》
ディベロ師(佐賀教会)
ベリオン師(水巻教会)
平田　寛師(湯川教会)

式典は司祭職制定を記念する「聖香油ミサ」後に行われた。

金祝のデシャンブ師は「走るべき道のりを走り尽くし、神から栄冠をいただきたい」と述べた。喜びの時であった。

尚、ツルデル師のダイヤモンドの祝いは、五月二十六日、大神学院(福岡)にて行われた。

次号に詳しくお載せしたい。

みちくさ

「私はあなたに信頼をおいています。私のことを許し、祝福を与えてください」。これは教会にいく度に心に表す言葉である。そして家庭に帰って、家庭祭壇にひざまづいて同じように祈る。これは正しいことである。何もなしに単に義務感で家庭と教会を往復するよりも価値がある▼ところで、『ふろしき信者』という言葉があるのをご存知か。K神父が「この前はこの言葉で話しをした」と教えてくれたものである。『ふろしき信者』、それはまず、教会に行く時には必ずといっていい程、祈禱文、ミサの本、聖歌集、ベール(女性なら)を一つの袋に入れ持参する。教会に着いたならそれを開け、手にする。ミサが終り、家に持って帰るが家では開くことがない。教会でもらったパンフレットもそのまま。そして次の日曜日を待つ。袋は教会だけで開かれる。もしかしたら私たちの信仰生活もそうではないか。教会では「主よ、何々をお願いします」と言っては他の人以上に願いの祈りを口にするが、実際にいただいた恵みを家庭においても社会においても公開せず、袋に入れたままにするのである。これでは、主も、「何を考えているのだ」とやきもきされるのではあるまいか。よく忍耐しておられると思う▼私たちは教会だけの信者ではなく、教会という建物以外の、広範囲に亘って恵みの分配者でなければならない。私たちは教会から遣わされるのである。「行きましょう、主の平和のうちに」「神に感謝」ミサ終了時に唱和するのは何の意味か。主の恵みを持って、さあ、多くの人が主に組み入るように出かけましょうという意味ではないか▼主は言われた。「主よ、主よと言う人が救われるのではない。主のみ旨を行う者だけが天の国に入るのである」と。主のみ旨とは何か。『主と共に恵みのうちに生きること』である。ふろしき信者で終らないように。今はバッグかも知れないが、バックしない信者であるように。【S】

時の話題

計り知れない神の警告

冨田　敦夫

五月中旬、昨秋の台風による倒木の撤去作業のため自衛隊が出動したというニュースが報じられました。林業農家の人達にとって年月をかけて育てた山林が一瞬にして無に帰したというだけでなく、放置すれば二次災害の恐れがあるうえ、あらたに植林も出来ないため林業を継続することさえ出来ぬ状態にありながら、風倒木の撤去には、多額の費用と人手を要するため、山林所有者の生産意欲にかげりがみられるところであったので、自衛隊の出動には前途に一筋の光明を見た思いがしたことでしょう。

ところで樹木の伐採というと、自然環境保護の観点から、一律にマイナスイメージで受け取られる方もあるようですが、林業に詳しい方に聞くところによると、計画的な植林、間伐など適切な管理をおこない、育てた木を伐採して正しく活用することが大切だそうです。私達日本人は、低コストで入手出来るというだけで、いったん伐採しつくすと再生が困難な熱帯林を伐採し続けたため、東南アジアの山などは、はげ山となって保水の機能を失い、下流では水害を多発し、人々の生活基盤を破壊しているそうです。そして一方では、その安価な輸入材のため、国内材が売れなくなった結果、国内の林業は大きな打撃をうけ、山林は手入れ不足となり、充分な間伐もされぬ植林のモヤシのような木は、少しの風にも倒れやすくなっているというのです。だとすると、去年の台風による山林の被害は、単に天災とばかりはいえないのかもしれません。

これ迄の様な安易な外材の大量輸入は、それこそ一部の人達を潤したかもしれませんが、それ以上に、多くの不幸を引き起こしているといえるでしょう。東京農工大学の永松明憲氏は、熱帯材の使用量を減らすため、我が国において適切な施策をとるとともに、現在の林業施策を見直すならば、国内林業の再興も可能であり、また熱帯林とそこに生活する人々を守ることも、更に大きな視点に立てば、地球の温暖化を防止するという重大な役割を果たすことさえ可能であり、この様な方法による国際貢献こそが、平和憲法を持つ我が国にはふさわしいと述べています。

林業従事者にとっては、本当に無残な台風の被害ですが、考えようによっては、自然が、いや、神様が私達に与えた警告なのかもしれません。今一度何が正しいのか、どうすれば神の御心にかなうのか、祈りとともに問い直す必要があるのではないでしょうか。

(天神町教会)

今月のみことば

勇気を出しなさい。
わたしは既に世に勝っている。
(ヨハネ16・33)

教区本部事務局　山元　眞　神父

イエス様の聖心の思い

六月を迎えると聖心の月として、イエスの聖心に対する信心を意識するが、そのことについて少し考えてみよう。

イエスの聖心とは

イエスの聖心は、父である神と聖霊と交わる神の愛の象徴である。また、人となられたキリストの愛の象徴である。最後に、感覚的愛の象徴でもある。

聖心の信心の歴史

千年頃まではイエスの聖心の概念は知られていなかった。十二世紀に愛に満ちた苦しめる人の子が崇敬への対象となっていった。

現代、イエスの聖心への信心は聖女マルガリタ・マリア・アラコクにおける啓示に起原を負うところが大きい。

聖女は一六七三年から一六七五年にかけて幾回か「人類をかくも愛し、忘恩をもって報いられた聖心」を示され、イエスの聖心の祝日、月の初金曜日における償いの聖体拝領、木曜日の夜における御受難の黙想が要求され、イエスの聖心に対する信心への豊かな恩恵が約束された。

イエスの聖心の精神

聖パウロは、「キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。」(コロ・2・9~10)と教えているが、イエス・キリストの神として、人としての愛に満たされ、キリストの愛に応える生き方を新たにできる六月になればと思う。そして、聖心に対する信心を通して、父である神と人となられたひとり子、聖霊の愛を味わい、キリストの愛に生かされた恵み豊かな日々となるように心がけたいものである。

イエスの聖心の信心

月の初金曜日に九か月間、ミサにあずかり聖体拝領をする者に対して臨終のとき特別の恩恵を聖女アラコクに約束された信心。他に、イエスの聖心のスカプラリオ、イエスの聖心の連禱、イエスの聖心への奉献などがある。

イエスの聖心の祝日

典礼では、聖霊降臨後第二主日後の金曜日に祝われる。今年は六月二十六日。

今年五月三十一日に、聖女マルガリタ・マリア・アラコクの霊的指導者として、聖心の普及のため大いに貢献した福者クロード・ドゥ・ラ・コロンビエール(イエズス会)の列聖が行われた。

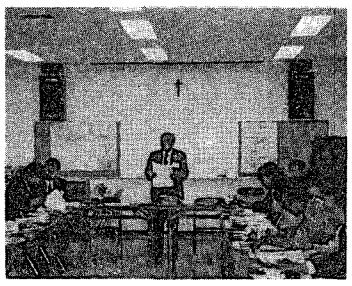
この恵み豊かな年、イエスの聖心を通して、キリストの愛を人々に証し、神の愛に背く罪に対して償いを果たし、愛に生きる心を新たにできますように。

教区本部・深堀勝人神父

5月10日

教区広報研修会
―教会報づくり―

小倉



五月十日、小倉カトリック会館二階ホールで福岡教区の広報研修会が開かれた。参加者四十六名。遠くは高知、長崎からの参加者もあった。

十時三十分に開会。教区広報担当の山元眞神父から挨拶と、松永久次郎司教からのメッセージ紹介があり、続いて小倉教会主任司祭の岩永義人神父挨拶、講師の紹介がなされた。

松永司教は、研修会参加者へ宛てたメッセージの中で、「教会広報活動には二つの役割がある。その一つは、信者が真の仲間としての互いの交わりを深め、互いによく知り合うこと。他の一つは、人間はすべて神を求める権利をもっているので、キリストを回りの人に知らせることである。また、キリスト信者はすべて広報活動の担い手であるので、この務めをよりよく果たすためにキリストをよく知らねばならない」と勧めた。

午前中は西川正義氏(朝日新聞西部本社地方版編集長・門司港教会信徒)が「教会報のつくり方」というテーマで、編集者としての基本的な心構えを説いた。要旨は以下のとおり。正確さこそいのち・編集の仕事は奥深い・教会報は何のため・教会暦とともに・「足で書く」を基本に・「へたでもよい」と開き直ろう・編集者は最初の読者・見出しは最も短い記事・読まれる教会報をめざして。豊富な体験に基づいた西川氏の講話は参加者に感銘を与えた。

午後は牧山満安氏(元佐賀新聞社総務局次長・佐賀教会信徒)が「広報紙のあり方」というテーマで講演。広報に関する教会の基本的な文書を紹介した後、全国の小教区から集めた百十八の「教会だより」をもとに教会報のあり方を説いた。個性ある教会報として「迫力ある・魅力ある・欲張りの」教会報の紹介、および百十八の「教会だより」の整理と分析に参加者は驚いた様子だった。また、一九九二年三月十七日に教皇庁広報評議会から出された「新しい時代」と題する広報機関に関する司牧指針の内容も紹介された。

参加者は、「教会報作りの基本的な注意点がよくわかったし、全国のいろいろな教会報を実際に見て励まされた」と感想を述べた。

元福岡教区報編集長で現在カトリック新聞編集長渡辺隆義神父(福岡教区司祭)の参加も大いに励みになった。

小倉教会報「しゃろーむ」編集部のスタッフのご協力に心から感謝したい。

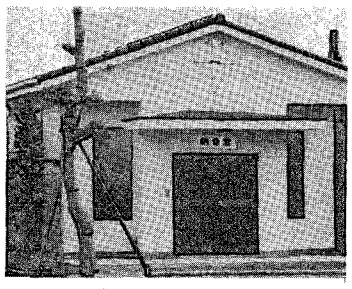


ひとりでは歩けない!
第3回福岡ウォーカソン

「おなかがすいた!」昼食予定のパウロ会修道院を横目で見ながら、午後一時すぎて笹丘教会へ向かう。十字架旗を掲げてひたすら歩く快晴の四月二十九日。百人もの人たちが、いったい何のために、ぞろぞろとビルの谷間を歩く連休の初めかな。よく見れば昨年も、一昨年も共に歩いた仲間が、ここあそこに! 大楠教会では鵜野神父様がルルドに咲く大輪のバラの花を切って、こどもたちにわけてくださり、高宮教会では須賀澤神父様が、聖堂の美しいステンドグラスの物語をしてくださった。笹丘教会では赤倉神父様をはじめ信徒の皆さんがお茶とお菓子でもてなしてくださって、一同感激! 新緑の眼にしみる美しいパウロ会の広いお庭でみんなで食べたお弁当の何とおいしかったことか! 各聖堂で召命を求めて祈ったハイキングのような小さな巡礼だった。松井神父様に率いられた小神学生達、杉原神父様、永富神父様に率いられたパウロ会の小神学生達も、かわいいシスター志願者達も、大神学生達の姿も見られた。司祭、修道者の召し出しに限らず、全ての人が神さまに呼ばれている。一人ではきっと歩けない、歩こうともしない道のりですが、共に歩けば、主も共に歩いてくださるのだと思った。

御受難修道会・梅田修平

二日市教会
納骨堂完成



五月十七日、松永久次郎司教様司式により、納骨堂の落成式が盛大に執り行われました。神父様方、太宰府市長はじめ地元有志の方々も参列。

納骨堂建設について初めて話しが持ち上がったのは九年前。機が熟しておらず、先送りになっていました。

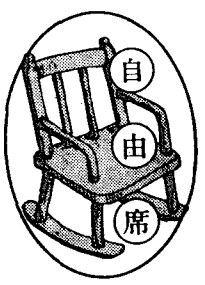
一昨年、建設の話しが再度持ち上がり、同年十月に教会委員の中から納骨堂準備委員五名が選出されました。場所、建設費等について検討。建築可能の目算がたち、建設委員会が発足。堤主任神父様及び建設委員の皆様方の熱意と尽力、並びに松永司教様の適切なご指導と地域住民の方々の温かい理解により、今年一月十五日着工の運びとなり、三月末に完成。納骨堂の三方に奉安室七十八室が設置。明かり窓も取り入れています。

これからは日々、キリストの復活にあずかり、希望をもって生活していくことができることを神に感謝いたします。

二日市教会広報委員

金丸チズカ

司教様と一緒の勉強会



今年初めて司教様と一緒に、「教皇文書の勉強会」を始めることになり、四月二十三日に第一回目の勉強会が開かれました。教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的勧告(邦訳)『家庭―愛といのちのきずな』を教材とし、その中で司教様は、「今日の家庭の光と影、結婚と家庭の持つ、かけがえのない価値と深い意味について、信仰の光に照らされながら、福音つまり、『よい知らせ』を伝えることが急務であると感じている。それには、結婚と家庭が今どのような状況におかれているかをまず理解しなければならない。それは福音宣教に欠くことのできない必須条件である。聖霊に導かれながら、教会は現代の若者、夫婦、両親の疑問や不安、希望などの現実を通し結婚や家庭の尽きることのない神秘をさらに深く理解できるように努力しなければならない」とお話しされ、私たちがNICE・2に向けての公聴会、話し合いを通して討議していきたい事等、詳しくかんでふくめるように述べられました。勉強会では、どんなことでも疑問に思うことは質問をし、直ぐには答えられない事は次回への宿題として残されます。

司教様は多くの信徒と話し合いをしたいと望んでおられます。平日なので、若いお母さん、熟年で家庭におられる男性も沢山参加しましょう。お待ちしております。

福岡地区婦人会

村尾慶子

第16回老司教会バザー5月10日



好天に恵まれ、近隣の小教区や未信者の方々およそ五百名が参集。八年前に新築された聖堂の借入金返済と昨年の台風の被害を受けた信徒会館屋根修理の資金捻出と老司教会共同体のより深い協調、近隣未信者への福音宣教が大きな目的である。ご支援とご協力により、盛会のうちに終えた。老司教会・本松純一

ご会葬御礼

過日、亡母　マリア松永ミツ儀死去に際しましては心あたたまるご配慮をいただき、追悼式にはご多忙中にもかかわらずご参列くださり、ご鄭重なるご芳志を賜わり心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡小神学校に寄贈させて頂きましたのでご諒承くださいますようお願い申し上げます。実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

平成四年　五月　福岡教区長　松永久次郎

小神学校基金への寄附の御礼

故マリア松永ミツ様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄附を小神学校における司祭養成のためいただき心よりお礼申し上げます。

平成四年　五月　福岡小神学校　松井忠之

御受難修道会 福岡黙想の家
申込受付中 ★ 8日間黙想 ①7/26~8/4 ②8/6~8/15
おしらせ ★ 第11回イエズス村(小4~中3男子) 8/4~8/6
〒811-41 宗像市名残1056 ☎ 0940-32-3222
※JR赤間南口よりバス 自由ヶ丘2丁目 下車

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096-352-3306 096-352-8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

全国典礼研修会

「心に響いて真に信仰表明の場となり、かつ宣教へのエネルギーとなる典礼を生み出そう」NICE・1で提案されたこの課題を受けてすでに試みているものを分かち合い、深め合って具体化への道を探ろうという研修会が、去る五月十一日から十三日まで名古屋の日本カトリック研修センターで開かれた。典礼委員会・宣教研究所主催のこの「合同典礼研修会」のテーマは「今の典礼をめぐる課題―日本固有の典礼を豊かにするために―」で、全国から司教、司祭、修道者、信徒約六十名が参加した。その時の発表と実践例の中から――、

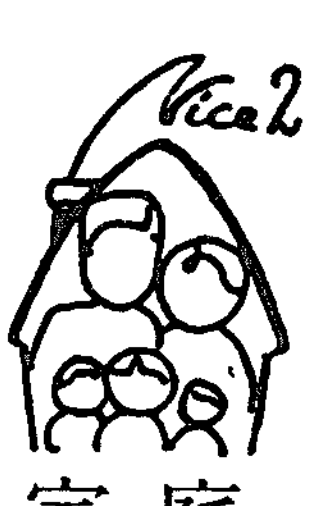
「元日」は日本人にとって特別感慨深い日であるから、未信者も参加できるように朗読個所の選択に工夫をこらしたり、光のシンボルを使ったりしている。未信者の参列が多い葬儀ミサで、誤解や違和感がないように式文の言葉や聖歌の選択に細心の注意を払っている。青少年のための野外キャンプでは、自然の環境を利用してイエスの言行を追体験するような形のミサを考案している…。このような試みに共通するのは「人の心に響く典礼にするために、それが行われる時と場、参列者の顔ぶれを考えることがまず先決」という認識である。

以上、特別な状況でのミサの試みとして興味深いが、通常の主日のミサについては現行の「ミサ総則」と「ミサ注記」を再度確認しよう。創意工夫のできる部分を時と場合に応じて一層利用しよう。これが新しい試みの出発点では、という意見もあった。沈黙の間の活用「招きのことば」や「祈願文」の創意工夫、先唱者、朗読者、聖歌隊などの奉仕者を養成し活用することなどである。そんな中で、司祭が聖体をまず会衆に拝領させてから最後に自分が拝領しているという報告は、ミサと司祭のあり方がしるしとしてよく表されている実践例として参加者の共感をよんだ。また、俳句を駆使したみことばの解説は聖書に親しませるひとつの方法として面白い。

実際に行われた茶道のお手前の心を取り入れた「和室でのミサ」、フランス・テゼの聖歌による夕べの祈りは、静けさと間、動作の美しさが大切にされ大変印象深かった。

教区典礼委員・深堀純


(日本カトリック研修センター提供)



家庭　第2回全国会議に向けて

生命と性の研修会に参加して

私は三十二歳の社会人で青年会では最年長で、洗礼は三年前に東京の方で受けました。今回の「生命と性」についての講話、分かち合いに参加させて頂きまして感じたことを述べさせて頂きます。

まず最初に男性としていかに女性の心と身体について知らなかったか、また、講師のお話の中で、夫婦間だからかも知れませんが男性の言葉が女性を励ますと同時に、いかに一生消えない傷を残すかということを思い知らされました。が、何よりもこれまで教会の中でタブー視されてきた性について話し合いの場を持てたということがまさに革新的だと思われます。

今の社会においては性について隠しきれないことがたくさんあります。性が氾濫しているからです。しかし、こういう問題に関しては青年の方から進んで真剣な姿勢で学ぶべきではないでしょうか。とくに、青年会のメンバーはみな若く、ほとんどが学生のため、当然のことながら性についての免疫ができておらず、私も単純にもう十年早くこの講話を聞いていれば、今とは違った性意識が生まれていたと思いました（特に家庭における性教育について）。

また、青年という若い層といっても、今回はカトリックの同じ信仰を持つ仲間の間での分かち合いでしたが、もしこれを同じ世代のカトリック以外の一般の若者たちに話したとしたら、理想と現実の違いの大きさに笑い飛ばされそうな気もします。理解してもらうのはかなり困難でしょう。そこで、まずは私たちカトリック信者の間から始めることが先決であると思います。

これを機会に、今回限りでとどめることなく、私たちから積極的に「生命と性」についての話し合いの場を設け、お互いに理解を深め、輪を広げていかなければなりません。

そしていつか、私たちが親となるであろうその時に、自分の子供にも正しい知識を伝えていきたいと思います。

最後に、神様は男と女を造られたのだから、お互いにその立場を理解し、尊重し合い助け合っていくべきだと考えます。

杉浦　宏（手取教会）

司祭・修道者・信徒への講話

去る四月十二日〜十五日にかけて、司祭・修道者・信徒のための講話があった。講師はシスターブリージ（聖クララ会）、ケヴィン神父（ヴィンセンチオ会）の二人。カテドラルセンターでは教区が主催、健軍教会では熊本市内の教会が主催した。教区内外から延べ二千九百人の参加者を得た。講話では、聖霊に導かれ、力強い確信に満ちたはりのある声で、聴く人に深い感銘と喜びを与えた。


講話するシスターブリージ

典礼のこころ　典礼聖歌研究会

宗像市にある福岡黙想の家では、年四〜五回ほど典礼聖歌研究会が開かれている。もう十数年続いている。深堀純氏（大名町教会）が、長い歴史をもつカトリック教会の典礼の心を説き明かしながら指導していく。

さまざまな才能・経験を持つ男女参加者は、黙想の家の聖堂のなかで、心からの思いをこめて歌いながら祈り、祈りながら歌う。閉会には、その日の晩課（教会の祈り）を壮厳に捧げる。マリアの讃歌をおごそかに、高らかに歌う時、教会の美しい祈りの伝統の豊かさに、心から感謝したい気持ちに溢れる。

第二バチカン公会議のあと、神の民の礼拝・祭儀である典礼は、日本人の文化の中で行われるように勧められている。

高田三郎氏を中心に編纂されたあの『典礼聖歌集』は、二千年におよぶ教会の祈りの伝統と習慣のなかで育まれた典礼の精神を礎にして、現代日本に生きる私たちの祈りの捧げ物である。それは、メロディーを着た聖書（みことば）である。そこでは、衣服を身にまとったひとりの人のように、ことばとメロディーが一体である。それだからこそ、キリスト・イエスに心を開き、耳を傾け、心をひとつにして父なる神のみ業をたたえ崇める私たちの歌となる。

心をこめて正しく歌い、豊かにみことばを味わうためには、典礼聖歌についてやっぱり勉強していかんばねと今更ながら感じたと言う人は参加者の中に少なくない。

黙想の家・鈴木忠一神父



世界召命祈願の日

さわやかな聖母月の十日、子どもたちとともに、召命を願って歌い、祈りました。

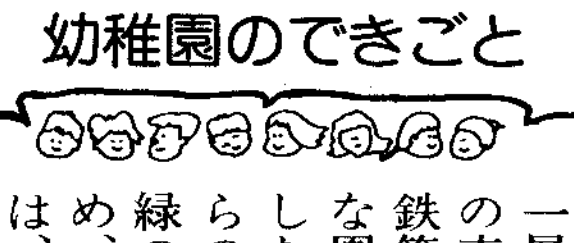
当教会には、来年の司教叙階を準備している助祭と小神学校に入学した三人の中学生がいます。

ミサでは召命の恵みを感謝し、彼らのために祈りました。また、多くの人々が神さまの呼びかけに応えることができますよう、聖母にロザリオを捧げました。

小倉教会　S・M



茶山カトリック幼稚園



幼児教育の為に絶好の場ともいうべき閑静な小高い丘の上に十字架の赤い塔を頂く教会、その側に子供たちの人間としての心の糧と情操を与える為に静かに横たわる園、それが茶山カトリック幼稚園です。昭和三十九年に周囲の人人の要請に応えて創設され、

昭和五十三年には、一層の教育と施設の充実を計る為、鉄筋二階建の瀟洒な園舎を新築しました。特に屋上からの眺めは最高で、緑の芝生をしきつめ、プールの季節は、真っ黒になって水しぶきをあげたり、ねころがったり屋外活動に利用しています。

四月十一日に入園式を終え、かわいいお友達を迎えたばかりで、まだ母親から離れる時に泣き叫んでいる三歳児の姿を見るのですが、それがとてもほほえましい光景にかわるのです。母親から離れると泣きながらいつもやさしく根気強く待ってくれる年長児の方に丁度自分の母親にすがりつくように走りよっていくのです。つい先日まで友達に何か言われた、手があたったとけんかをしたり、泣いたり、自分の事で精一杯だった子供たちが年長になった途端みちがえるように成長して登園してくると、泣いている子に「待っててね」と大あわてで飛びこんで行きます。そして手をにぎりしめていつの間にか砂遊びに熱中させているのです。

こんな姿を見る時、毎日の朝と帰りのイエス様やマリア様への挨拶、一週間に一度教会で園長先生から話して頂く神様のお話、日常心がけている友達への思いやりなどの心がしっかり子供たちの心にも育まれている事を感じ、とてもうれしく思います。

当園は徒歩通園で、朝は親子で登園。帰りは職員と数人の当番のお母さんと降園。お母さんの手作り弁当。このように親子、友達、友達のお母さんと心の通い合いも大切に、カトリックの信仰・道徳の理念のもとに園児一人ひとりの個性をのばしていきたいと願っています。

主任　中垣義香

BOOK 読みま専科

★みことばの花籠　松永久次郎著



松永司教が福岡教区長に就任して初めての書き下ろし作品。心の糧としての聖書のみことばが興味深く、かつ平易に説かれている。司教の著作は読みやすいと好評であるが、決して軽い読み物ではなく、学問的な裏付けがはっきりと読み取れる。「百五十三匹の魚」に見られる数の説明などはひじょうに興味深い。

聖母の騎士社　五〇〇円

★ねえ、お母さん　山谷のり子編集



「どうして私は泣き虫なの」「ママ怒ってばかり。私のこと嫌いなのかしら」お母さん！　こんな子供たちの声がきこえますか。お母さんがどんな人生観をもち、どんな日常を送り、何を伝えるかで、子供ののびる方向がきまります。

女子パウロ会　一、二〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石・御影石・その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

六・七月の行事

※ゴチックは司教日程

六月

2日　教区内全司祭集会
教区顧問会
4日　教皇文書勉強会
5日　聖書講座第1回
7日　カテドラル合同堅信式
12日　聖書講座第2回
12～14日　朝祷会全国大会
13日　朝祷会全国大会ミサ
14日　久留米教会堅信式
16日　司祭評議会
18日　教皇文書勉強会
19日　聖書講座第3回
21日　湯川教会堅信式
26日　聖書講座第4回
28日　聖ペトロ使徒座への献金・戸畑教会堅信式
30～7/4日　司教総会

七月

3日　聖書講座第5回
5日　教区信徒協代表者会議
10日　聖書講座第6回
12日　多久教会堅信式
14日　教区内全司祭集会
17日　聖書講座第7回
21～23日　少年・召命錬成会
24日　聖書講座第8回

福岡黙想の家

6～7日　聖霊降臨祭
11～12日　仙台YBU
13～14日　福岡レジオ・マリエ
18日　聖公会婦人の集い
20～21日　きょうだい会
21～22日　聖母カテキスタ会黙想
26～28日　マリッジ・エンカウンター
幼きイエズス会黙想
30～7/2日　聖公会九州教役者会

※6/1日は休館



Y氏との出会い

司祭になっての最初の赴任地は熊本でした。そこで初めてY氏と会いました。最初に話す機会があったのは、沖縄の「聖霊による刷新セミナー」に一緒に参加した時でした。

彼は小児麻痺で、車椅子に乗っており、話す言葉も不自由でした。そのセミナーの時、同室になったのです。

彼は自分の体の故に施設に入りました。しかし、そこでは自由に教会に行ける様な状態ではなかったので、教会に行ける所で自力で生活することに挑戦しました。

やはり周りの人からは、自分だけで生活できる訳がないとか、却って迷惑をかけるとか言って、批判されました。

でもどうにか車椅子で、自分でボランティアの人を探して生活しています。

彼にとってつらいことは、自分がはっきりと話せないので、相手が聞き返すのを遠慮して、結局自分の言いたいことが伝わらないということです。

彼は言います。自分は話すのに必死にならなければ話せない。一つの言葉を発するのにも相当苦労する。だから、聞く人も別に気を使わないでいいが、とにかく自分が話すぐらい苦労して聞いて欲しいということです。

体の不自由さ、それは単にそれだけの問題ではありません。本人にとって、何故、このようにして生まれ出て来たかという問が大きくのしかかっているのでした。

しかし、彼は聖書の言葉に希望を見つけました。

「さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちが、イエスに尋ねた。『ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。』イエスはお答えになった。『本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。』」(ヨハ・9・1～3)

それで、彼はこの不自由な体で神を賛美し、話しにくい口で神に祈ることが神の栄光を顕すことだと思えるようになりました。

Y氏は話すのに不自由でも、自分なりに声を出して歌ったり、祈ったりしています。カラオケも好きです。

大きなハンディを負っていても神に向かう心はどんな人にも負けないものを持っています。こんなY氏の生き方には心を打たれる思いがします。

自分がどれだけ神を信じ神を賛美し、神に祈っているか、問われる思いがします。

いわれのない苦しみの中にある人こそ、本当のやさしさとか思いやりを持っているし、持っているようです。病人訪問をするなかで、やはり、大きな励ましを感じるのは、私だけではないと思います。

弱さの中で心から神を求める人の生き方は、自分の司祭生活を支えてくれる大きな恵みとなっていると信じています。

光丘教会　青木　悟神父



第31回　朝禱会全国大会〈福岡〉

期間：1992年6月12日㈮～14日㈰
会場：福岡国際ホール（西日本新聞会館16階）
係　・福岡県と佐賀県の方は司教館プラザー杉山まで　(092-522-5139)
・熊本県の方は熊本朝禱会まで
(代表：高木慶治、0963-52-4454)
※詳しくは教会に案内をお送りします。

「新しい賛美の歌」募集！

応募要項

1 作詞のみ、または作詞・作曲で応募できます。
2 作詞・作曲は同一人、ペア、グループでも可。
3 詞・曲ともに作品の形式は問いません。
4 作曲は五線紙(B4またはA3)に記したメロディーの下に歌詞を記入した上、別紙に歌詞のみを書き添付してください。なお各作品毎に片隅に住所・氏名・電話番号を明記のこと。
5 入選作品の採用にあたっては詞・曲ともに添削することがあります。
6 入選作品の著作権は主催者に属します。
7 応募作品は返却いたしません。

〔締　切　り〕　6月末日
〔入選・賞金〕　最優秀(一編)　賞　金 50,000円
優　秀(二編)　賞　金 30,000円
佳　作(三編)　記念品
〔入選発表〕　8月2日　同センター典礼コース会場において。およびカトリック新聞8/9号。

問い合わせ・申込み

〒466 名古屋市昭和区広路町隼人30
日本カトリック研修センター　☎052(831)5037

あなたのお子様を心豊かに育ててみませんか
エリザベト音楽大学付属音楽園　福岡教室
生　徒　募　集

(1)教　　室　泰星学園内・特別教室（福岡市中央区輝国）
(2)募集人員　30人程度
(3)入園資格　満4歳（平成4年4月2日現在）から小学6年生まで
(4)募集科目　ソルフェージュ（1クラス5名位のグループレッスン）
(5)募集受付期間　（年2回）
＊後期　平成4年9月10日㈬～10月7日㈬
♪お申し込み・お問い合わせは…
エリザベト音楽大学付属音楽園福岡教室・佐伯智恵子（☎092-831-5356）まで
♪詳しい募集要項は、聖パウロ書院にもあります。



カトリック愛苦会
修道会

カトリック愛苦会修道会は、一八八四年、当時今村教会の主任司祭パリ・ミッション会のソウレ師のご尽力により、浦上十字会の岩永キク姉をむかえて今村教会の平田ロク外五名の熱心な乙女たちによって創立されました。

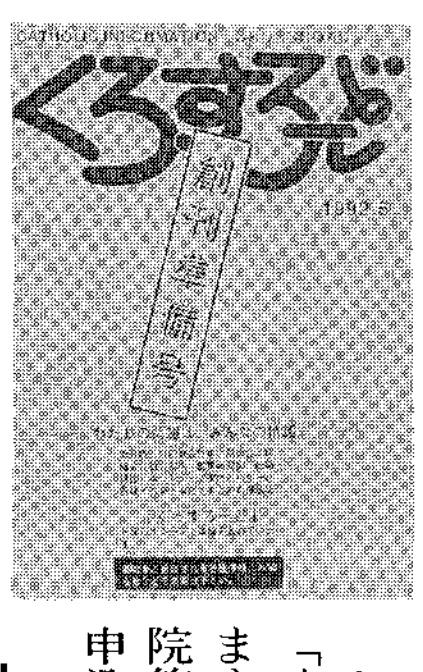
本会はキリストの福音的勧告に従い、十字架の死に至るまで御父のみ旨に従われた主イエス・キリストの愛に倣い、人々の救霊のため愛の掟に従い、人々の救霊のため愛の奉仕を通して神の光栄のために働くことを目的としています。

創立当初は、農業に従事しながら今村教会の信徒の世話、教理授業、病人訪問、死に臨む幼児に洗礼を授ける等の活動をし、司祭の賄い等の奉仕をしていました。終戦後は戦争孤児や捨て子が大変多く、そのため今村信徒の皆さんの協力を得ながら乳児園、養護施設、カトリック診療所等の福祉事業に従事する中に、キリストの愛の実践と奉仕の活動を行って来ました。

現在では教会奉仕、カテキスタ典礼奉仕、サクリスター（香部屋係り）、教会オルガニスト、司祭の賄い等教会奉仕に携わる傍ら保育園、養護老人ホーム、特別養護老人ホームといった社会福祉事業を通して、福音宣教使徒的活動に献身しています。そして天の御父のみ旨に従われた主イエスの、その愛の深さを証しするよう毎日を大切にして行かなければと、姉妹一同心を合わせています。

◆情報誌発刊◆

～わたしの情報は
みんなの情報～



七月から、教区情報交換誌「くろすろーど」が発刊されます。見本は各小教区、修道院等にお送りしております。申込みは教区本部事務局まで。

小神学校基金への ご寄附

◎ミカエル竹森猛様の香典返しとして竹森求様より金一封を小神学校基金としていただきました。
◎マリア松永ミツ様の香典返しとして松永金次郎様より金一封を小神学校基金としていただきました。
故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。
福岡小神学校　松井忠之

マリッジ・エンカウンター
（ご夫婦の練成会）

結婚の秘跡を一層よく生きるために…
新緑の黙想の家で、お二人だけの時間を

日時：6/26㈮ 午後7時～28㈰ 午後6時
場所：宗像黙想の家
問合せ：黙想の家（0940-32-3222）
深堀純・邦枝（092-801-5351）

六月命日の司祭

＊平田好師
一九三八年六月二十一日
元門司港教会主任
＊ドミニコ深堀仙右衛門司教
一九八五年六月二十一日
第三代福岡教区長

編集室から

▼電車がくる。通勤ラッシュ時に一緒に乗る。気持がわかる。汗だくになり、朝の疲れが会社へ、帰りはそれが家庭へ▼仕事と家庭、仕事と教会、両立させなければなるまい。全ては神の恵みである。

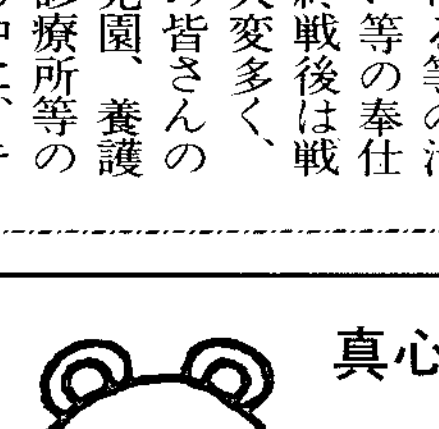
マスコミによる福音宣教は
私たちの使命です。

みことばを、いつもあなたに

聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657


技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創（つく）る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川　東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
（平尾四ッ角）
TEL092－521－0568㈹

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

聖霊の賜物を願う

カテドラル合同堅信式

六月七日、聖霊降臨の祭日に合同堅信式がカテドラル大名町教会で松永久次郎司教司式のもとに執り行われた。多くの信徒が見守る中、福岡、北九州地区から集まった四十八名が堅信の秘跡を受けた。


▲司教より堅信を受ける信徒

教会の誕生の日であり、主イエスによって約束された聖霊が送られた記念日であるカテドラルで教区長が堅信式を行うことは意義深いことである。

この合同堅信式は昨年の司祭評議会で提案されたもので、教区としては初めての試み。大名町、浄水通、老司、二日市、久留米、飯塚、黒崎の各小教区から四十八名の受堅希望者、そして代父母がカテドラルに一堂に会した。

受堅者のほとんどはこの春に洗礼を受けた方々で、各小教区で準備をして来た。

九時から始まったミサの説教の中で、松永久次郎司教はイエスの遺言ともいうべき当日の福音を説明しながら、次のように受堅者を励ました。

「私たちは信じるだけでは足りない。行動によって、生活によってその信仰を証ししなければならない。しかし、私たちは独りぼっちではない。御父と御子、聖霊が私たちの中におられ、そして力となり、光となって下さる。

このようなイエスの御言葉、遺言を頂いたので、本当に心強く頼もしい気持になって、自分の信仰と自分の信仰に基づく自分の人生を、しっかりと生きていかなければならない。

大人としての受洗は神の特別な恵み。今は少し熱がさめているかもしれない。この堅信の機会に、もう一度、自分たちが頂いた恵みの記憶をはっきりさせて、これからは自分で責任を持ち、自分で理解し、自分で進んで信仰を生きて行くという決意を新たにしていただきたい。

回りの人々の中で『私はキリスト信者である』と言うだけの勇気をもち、また、言うだけの価値のある人生を送るような一人前の信者であってほしい。このことはとりもなおさず神ご自身のお望みであり、私たちに対する期待である。そして、神ご自身がそれを全うするための充分な力を与えて下さる。堅信は大人の秘跡、信者の協力を求める秘跡。そのための恵みは確かに与えられる」

式後、カテドラルセンターで茶話会をし、喜びの中に神の霊に満たされて散会した。

今月のみことば

あなたの踏み行かれる
跡を知る者はない
（詩編77・20）
武雄　A・スカットロン

時の話題

切江敏夫

国民経済の豊かさとはうらはらに、精神文明の廃頽が言われる昨今である。あたかも世界は破滅に向かって暴走するかの如く、国は国、民は民、民族は民族の間で互いに憎しみをもって対立を深めていく現世に、神の嘆きを知る思いである。

社会がいま最も必要とするものは、主のみ旨を説き、主の愛を世に示し、これを教え導く司祭、修道者であることを痛感するものである。しかし、その必要とする司祭、修導者の志願者が年々少なくなっていくさまは真に悲しい現実のようである。新田原小教区においてもその傾向は否めない事実である。

小教区に赴任された歴代の主任司祭は、召命について熱心で精力的に取り組み、その成果も大きく、司祭、修道者の誕生という素晴らしいお恵みに与っている。

主の愛に応えよう！
召命は他人ごとではない

約二十年前、当時の主任司祭、山川辰幸神父様は、神学生、修道志願生の家族を対象に父兄会を作り、毎月第二火曜日午後七時半から召命のミサ聖祭を捧げられた。そしてそのあと、平田正喜神父様に引き継がれ、召命ミサは連綿として二十年の長きにわたり続けられている。

本年四月、当小教区に赴任された竹森勇神父様は、また、殊の外召命に熱心で「召命は、神学生、修道志願生の父兄だけのものではない。全信徒が連帯感をもって共に祈り、共に歩み、小教区にとって最も優先しなければならないもの」と言明された。

早速、第二火曜日の召命ミサにたくさんの信徒が与ることができるよう取り計らい、また全信徒に呼びかけられた。

そのため小教区の召命ミサに参加する信徒は、平日とはいえたくさんの方々が参加される状況にある。また信徒の召命に対する意識も高まり意欲的なものが感じられつつある。

ある友人は「私は孫を神学校に入れたい。結果としてたとえ司祭にはなることはできないとしても、神学校で学んだ事は決して無意味なものではない。当人にとって大きな宝となることを確信する」と語り、その顔は真剣そのものであった。

然り、召命は他人ごとではない。各自がそれぞれの立場で主の愛に応えることこそ、召命の第一歩と思う。

（新田原教会）

司祭団 信徒に聴く

＝NICE・2に向けて教区全司祭集会＝



去る六月二日（火）カテドラルセンターにて、「家庭の祈り」のテーマのもとに教区内の全司祭の集いが行われた。来年秋に長崎にて行われるNICE・2『家庭』に向けて、司祭一人ひとりが家庭という現場を知るうえでも意義深い集いとなった。

祈りのうちに始まったこの集いは、三名の信徒の方々の発題と、その発題および四旬節司教教書『家庭の祈り』を基にした分かち合いを中心に進められた。そこでは、家族揃っての家庭の祈りの困難さ、それにどのように対応していったか、父親中心に集う家庭の祈りの大切さ、更に家庭での祈りに対して、小教区の取り組みなど具体的なことが発題され、分かち合われた。

価値観の多様化の中で祈りの重要性が見えなくなっている現代である。しかし、そのような中にあっても、「祖父母や両親の祈りの姿のなかで、祈りの習慣を身につけた」という言葉を耳にすることがよくある。『家庭の祈り・平和のきずな』という教区の年間スローガンが掲げられているが、まさにそこだと思われる。夫婦・親子の愛の絆、共に祈り合う絆のうちに祈りの重要性が出てくるのではないかと。そのためにも、まず司祭自身が祈りの姿を示さなければならないということを痛感させられるのである。

朝祷会全国大会 開かれる

朝祷会全国大会が、六月十二日から十四日まで、福岡市の国際ホールを会場に全国から三百四十名の参加を得て開催された。


教派を超えて祈り合う

朝祷会は一九五七年一月、大阪クリスチャン・センターに集まったキリスト者有志によって始められた「キリスト者の一致を目指す超教派の祈りの集い」で、カトリック信者も第二バチカン公会議後参加するようになった。定期的に集まり、聖書を朗読し、祈りを捧げ、引き続いて簡単な朝食をともにして交わりの時を保つ。福岡教区の中でも福岡市、熊本市、北九州市、そして佐賀市でこの朝祷会が行われている。

大会では「御霊によって進もう」という標語の下に、参加者たちは三日間にわたって祈り、信仰体験の分かち合いを通して、キリスト者の一致への想いを強めた。

大会のなかで、十三日には長崎二十六聖人記念館館長の結城了悟神父が「キリシタンたちの祈り」と題して講演し、翌十四日朝には福岡教区の山元貢神父による早天祈祷会が行われた。

十三日午後三時からカテドラルで全国大会のために松永久次郎司教司式によるキリスト者の一致のミサが捧げられた。プロテスタントの信者が多い大会では、ミサは自由参加であったが、殆ど参列し、福岡教区のカトリック信者とともにキリスト者の「真理であり、愛であるキリストにおける一致」を願い求めた。

エキュメニズム委員長
桜井尚明

「召命学校」ご案内

主任神父様　信徒の皆様へ

今年も大きな希望をもって、「召命学校」を開催いたします。
昨年の参加者の中からは5名が、今年の4月に小神学校に入学してきました。
神父様、信徒の皆様、司祭職を希望しているお子さんがいらっしゃいましたら、ご紹介下さい。

記

日　時	8月17日(月)午後2時～19日(水)午後1時
場　所	福岡小神学校
対　象	小学校5、6年生男子(中学生の希望者も可)
参加費	￥2,000　(交通費各自負担)
定　員	30名
申込先	〒810 福岡市中央区浄水通38　福岡小神学校 松井忠之神父 宛　TEL 092-531-6821 FAX 092-524-7373

お手数ですが、8月10日までにお申し込み下さい。
お申し込みのあった方に、プログラム、持参品をお知らせいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。

1992年7月　福岡小神学校
校長　松井忠之

みちくさ

朝早く教会を出て駅に向かう。途中たくさんの人に出合う。「お早うございます」と挨拶を交わす。気持がいい。また歩き出す。きれいな道の真ん中に瓦のかけらが見える。めざわりだ。蹴って道端へ飛ばそうか、手で取ってどかそうか。蹴っているのを見たら人々はどう思うか。かといって手でどけるのもわざとらしい。そっとしとこう。結局、かけらはそのまま▼電車からバスに乗り換えて目的地まで徒歩でもう少し。少し先におばあちゃんが、左手に杖、右手にホウキを持って歩いている。追い越しかげんに横目で見る。なんとおばあちゃんは、曲がった体を杖で支え、右手のホウキで落葉を道の端に掃き寄せながら歩いていたのだ。しかも坂道を。無言の老婆から教えられた。人の目を気にしていたら善業も損得のぶるいにかけられてしまう▼「自分の前でラッパを吹くな」（マタ・6）イエスは「善業は自然の振舞いがよろしい」と言われたのだろう。が、自然に振舞うには習慣が必要ではあるまいか。信仰生活も同じことである。絶えず神を忘れずに生きる人は自ずと信仰を表せる。たとえ口で言わなくとも姿に表せるのである。神のみ旨に生きる習慣をつけたいものである。憶することなく、神の子の自分を表していくようにしよう▼帰りの電車は満員だった。ふと、座っている男性のひざの上に英語の単語帳を見た。一生懸命憶えようとしながらも疲れのせいか本人は眠ってしまった。開かれているページの最後の単語は、こともあろうにウエイクアップ（Wake up）、（起きなさい）であった▼神のお望みに目ざめて応える者でありたい。右手に神のみ言葉、左手に支えの信仰、あとはやる気。【S】

私は無原罪の宿りです

ある日、一人の中学生が教会に来た。笑顔が美しい少年であった。聞いてみると以前はプロテスタントの教会に行っていたと言う。二か月ぐらいたったある日曜日のミサのあと、彼は私に言った。

「借金のある人は、まず、自分の借金を返さない限り他人の借金まで返す事はできないでしょう。そのためには、マリア様は借金のない無原罪でなければならなかった。それは、アダムとエワの犯した罪が、罪のないイエス様と無原罪の聖母によってあがなわれるためであったと思います。マリア様は無原罪の状態で造られ、たとえ誘惑にあっても、それに耐え、エワが誘惑に負けて犯した罪をあがなってくださいました。罪なくしてイエス様をお生みになったことで、エワがアダムに対して犯した罪も償う事が出来ました。マリア様のいないところではいずれ滅びがあると聞いていますが、それは、どうしてかというと、いつまでたってもエワの罪が償われないからです」

私はびっくりした。

「君はなんの本を読んだの?」

「昨日、風呂の中でこのような考えが浮かんできたのですが、これでいいのでしょうか」

私はうろたえた。「どうせ、子どもだから」と言う気持ちで、彼の存在に重きを置いていなかった私は、大きなハンマーで後頭部を殴られたような思いであった。

ベルナデッタがその昔、洞窟に現れた貴婦人の名前を、「無原罪の宿りです」と答えたときの主任司祭の驚きと戸惑いも、このようなものではなかったろうか。

「おまえは無原罪がどういうものか分かっているのか…」

「よく分かりません」

聖母マリアの無原罪について、世界中が議論していた時代の出来事であった。

「マリア様のいないところではいずれ滅びがある」と言ったあどけない少年の顔を私はまじまじと見つめた。

もちろん、その日から洗礼を授けるために公教要理を始めたのは言うまでもない。

「父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした」

(マタ・11・25)

大楠教会・鵜野泰年神父

神父様へ質問します Q

イエズス、イエス、イエス・キリスト、キリストなど、いろいろと呼ばれますが、イエスさまのほんとうの名前は、いったいどれが正しいのですか。

(M・S)

どれが正しいかと言われれば、みんな正しいと言えるでしょう。ただ日本語では発音のしかたで呼び名が変わっているわけですが、みな同じお方であることに間違いはありません。「イエス」とは「神は救う」という意味で、当時一般にあった名前だそうです。しかし、どうしてこんな違いがでてきたのでしょう。私たちは、カトリック教会に属していますが、三十年位前までは全教会でラテン語でミサが行われていました。そのラテン語でイエスは(Jesus)と書きます。これを発音するとイエズスとなります。ところがプロテスタント教会では中国語の「邪蘇」からとったと言われています。これを発音すると「イエスー」というのだそうです。そして次第にイエスと言うようになったのです。そこでカトリックでは「イエズスさま」と呼び、プロテスタントでは「イエスさま」と呼んでいました。

五年程前に、新共同訳と呼ばれる両方の教会の共同訳が出版され、その時この名前のことが問題になりました。そして最終的には「イエス」の呼び名でいきましょう、ということになったのです。しかし、ミサの時に使う本には、当然イエズスと書いてあります。それで二つの言い方があり、ミサでも両方が出てくることになりました。

さて、今度は「キリスト」という呼び名についてですが、「キリスト」とは「油注がれた者」という意味です。ですからこれは、名前というよりは、イエスがどんなお方であるか説明していると言ってもよいでしょう。旧約時代、王の即位式のとき、王たちは油を注がれました。それは王になる人を神さまが選び、祝福して認めて下さっている、ということでした。私たちも同じように洗礼のとき油をうけて神さまの子どもになります。

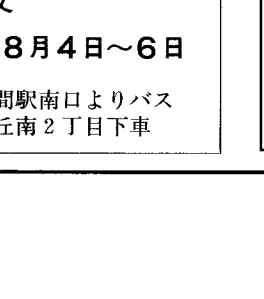
「キリスト」という言葉は、神さまが選んだお方、救い主、メシアだということです。ですから、イエス・キリストというとき、それは、イエスさまは、神の子、救い主だという一つの宣言なのです。ご質問のイエスさまの四つの呼名は、どれも正しいのですが、「イエス」あるいは「キリスト」では十分ではなく、「イエス・キリスト」が一番正式な言い方ということになるでしょう。

小倉教会・森山信三神父

修道女の姿とは

—教区修道女連盟総会—

五月二十四日、福岡雙葉学園を会場として、福岡教区内の三十三の修道院より、百余名のシスターが参集して総会が開かれた。一日のプログラムは、修道女たちのNICEへの意欲的な取り組みを示すものであった。松永司教様は、自著「みことばの花籠」を引用されながら「祈りこそ福音宣教の必須条件である」ことを、修道女たちの心深くにインプットした後、NICEのテーマである「家庭」について講演された。①家庭とは ②シスターと家庭 ③教区・小教区も家庭 ④修道会も家庭 というあらゆる次元を含む開かれた共同体としての家庭理解へと導かれた。最後に、教区司祭の召命のために祈り働いてほしいとの熱い嘆願に、一同、牧者たる慈父の心に胸の高鳴る思いであった。



午後、深堀邦枝氏(大名町教会信徒)は、結婚の召命、家庭生活の現実を経験を通して分かち合われ、修道女への寛大で優しい眼差しをもって次のような心の望みを披瀝された。創立者たちがそうであったように、より広い世界の叫びに耳を傾け、彼らの隣人となるように、特に、教会共同体の「お母さん」であってほしい! と豊かな母性の実現を促された。

総会は、恵みのうちに松永司教様司式のミサで閉会となった。

修女連では、今、NICEに向かって着実な歩みを進めている。

シスター　黒木紗耶子

知っておきたい 教会法

(1) 結婚の準備

「ワンポイント教会法」という記事をこの教区報に連載したことがあります。五年前だったと思います。おもに結婚についての教会法を紹介いたしました。

新教会法は一九八三年に発布されましたが、今年の二月に日本語訳が発行されたので、皆様の中には法典をお待ちの方もおられると思います。今月号から「知っておきたい教会法」と題して連載をしたいと思います。前回に書いたことと重複するところがあるかも知れませんが、大切なことですので繰り返しになっても悪くないと思います。

「教会法」と聞くと、堅い印象を受けるかも知れません。しかし、信者として教会の中で生きていく上で大切なこと、魂の救いの手引きとなるものなのでぜひ理解していただきたいと思います。

最近、驚くべきことですが、信者は教会で結婚しなければならないことをご存じでない方がおられます。当人だけではなく、親も知らない場合があります。人生の大事な出来事である結婚を教会は祝福します。結婚が決まったら出来るだけ早く教会に知らせていただきたいと思います。披露宴会場の予約が済んだ後や、挙式の日取りを決めた後に教会に来られる方がおられますが、教会でもいろいろな準備があるので、まず、教会に知らせてください。小教区によって挙式受付の締切りが違いますが、少なくとも三カ月前までには知らせてほしいものです。

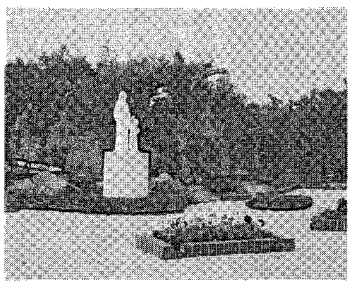
次に、これも最近多いケースですが、離婚された方との結婚を望まれる信者がおられますが、原則として挙式はできません。どうしても望まれる場合は出来るだけ早く主任司祭と相談してください。

(山元　眞)

祈りの庭 祈りの散歩道完成

—新田原—

行橋市のはずれにある聖母訪問会新田原修道院の庭に、小規模ながら車椅子でも自由に散策できる祈りの散歩道が完成しました。この庭には聖母子像が置かれています。



去る五月十五日、竹森勇師によって祝別されたこの像は、サレジオ会ファロニー師の作。聖母はすべての人に、これがあなた方の先生、この方に聞き従いなさい、と御子を差し出し、御子は右手を高く上げて、天の父と私たちの帰る神の国を指し示しています。この姿はマリアにならう私たち聖母訪問会の素朴な生き方を現しています。今後この庭がすべての人に開かれ、ここを訪れる人々が自然の中で祈り、神をたたえ、愛を深める場となりますことを願っています。

聖母訪問会新田原修道院
シスタービビアナ　大水

お知らせ
聖パウロ書院　FAX　変更になります
〇九二—七一六—四一四二

自由席 シスター・ブリージ・マッケナの祈る会に参加して

シスターはいくつかのテーマについてお話しになりましたが、私が強く印象に残ったのは、ミサの大切さを強調されたことです。特にご聖体に対する信仰です。私たちにとってミサとは何か、ご聖体はどんな意味をもっているのか。いうならば私の信仰とは何かを問いかけるものでした。

「信仰は決断です。私たちは信仰に精力を注ぎ込まねばなりません」「もしあなたがミサ聖祭に正しい態度であずかるなら、あなたの人生、生活は変わります」とシスターは著書の中でも述べています。

次に、ご聖体とみ言葉の中にイエスを現存させる司祭に対して、愛と深い敬愛の念をもつことです。「司祭職は私たちの人生すべてに影響を与えます」「罪人のために信仰の共同体すべてを導きます」と司祭職に対して感謝と尊敬と愛をもつことを求めました。

ミサ聖祭、ご聖体、司祭に対する態度、いずれも私たち信者にとって身近なものです。ややもすると習慣的に陥り、生温い信仰に傾いていることに気付かずにいることがあります。今一度自分の信仰を再吟味し、ご復活の喜びにあずかることができるよう祈り求めてゆきたいと思います。

シスターについては、福岡のファミリーセンター訳、発行で本人の著書「祈り—恵みの泉—」に詳しく書かれています。ご一読をお勧めします。

小郡教会・井上輝正

御受難修道会　福岡黙想の家
おしらせ
★ルルド祭　7月9日(木) 午前11:00〜ミサ・於ルルド
★初ミサ　7月15日(水) 午前11:00〜於大聖堂
御受難修道会新司祭・森山健四郎神父
★第11回イエズス村(小4〜中3男子) 8月4日〜6日
〒811-41 宗像市名残1056　☎ 0940-32-3222
※JR赤間駅南口よりバス 自由ヶ丘南2丁目下車

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096-352-3306
096-352-8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

ツルデル師叙階60周年迎える



▲喜びのツルデル師（中央）

五月二十六日、聖スルピス大神学院において、長年司祭養成のために働いてきたJ・ツルデル師（聖スルピス会）の司祭叙階六十周年記念感謝ミサと祝賀会が行われた。

ツルデル師はカナダ人で一九〇六年生まれの八十五歳。一九三二年にカナダ・アモスで司祭に叙階され、一九三六年十月に初来日、翌年大牟田に予科神学校を開設し、以来五十六年にわたって司祭養成のために働いてきた。来日して数年後に太平洋戦争のため三年半の抑留生活を強いられるなど苦労があった。戦後一九四八年に福岡聖スルピス大神学院を開設した。そして会計士として、現神学院の土地購入、校舎・聖堂の建設のために東奔西走し、一九五一年に現神学院を完成させた。

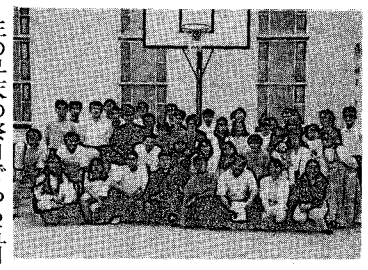
大神学院ではラテン語と聖歌を教えてきた。ラテン語の厳しい授業は有名で、ときどき勉強しない神学生に腹を立てて教室を出たこともあったという。しかしそれも、神学生のことを心から愛し、いつも真剣に指導していたからで、今も多くの卒業生司祭から慕われている。

当日は教え子の司教司祭約九十名を含む、二百名が集まり、ツルデル師とともに感謝のミサを捧げた。ミサ後行われた祝賀式典で同師は感謝の言葉を述べたが、「本当に幸せな六十年でした」と淡々と自分の六十年を振り返る同師の言葉は、同師の苦労を知る多くの人々を感動させた。

尚、ツルデル師は今も現役でラテン語と聖歌を教えている。

サン・スルピス大神学院【S】

よう来んしゃった
―移動青年歓迎会―



主の昇天の祭日である五月三十一日に、長崎教区からの移動青年を歓迎する福岡ブロック青年の集いが司教館の四階で午後二時から行われた。参加者は中村彰・青木悟・山元眞神父、伊東神学生、三十七名の福岡地区青年、六名の移動青年、四名の韓国の青年と全部で五十一名であった。

ブロック会長である貝沼茂氏の挨拶、担当司祭である中村、青木両師の励ましの言葉があった。つづいて互いに紹介し合い、たくさんの人と話をすることができ、盛り上がった。その後、ジュースや菓子をつまみながらの歓談をした。そして、小神学校のグラウンドを借りて、希望者でドッチボールに汗を流した。子供の頃を思い出してなごやかに始まったが、途中から真剣になりだし、迫力のある展開となった。

最後に終わりの祈りをし、記念撮影をして四時半過ぎに解散となった。

晴天のもと、移動青年の歓迎は青年たちの交流を深めた。今後の活躍が期待される。

移動青年担当司祭　中村　彰

クルシリヨに感謝

〝クルシリヨってどんな事するんだろう?〟私は興味と期待でワクワク?!しながら黙想の家へ向かいました。初めのうちは老若男女二十九名、同じ教会の人以外は知らない人ばかりで、少々緊張気味の私。ところが二、三日と過ごしていくうちに、社会的地位や年齢の壁なんかどこかへ消えて、子供のような自由な心で語らい、考え、食べ、笑い、時には涙し、思い切りはしゃいだりと、まるで兄弟のようになっていくのです。皆の瞳がだんだんキラキラ輝いて来て、その人それぞれの個性や良さを一緒に喜び合える、そんな仲間へと変わっていきました。

この変化は私の心の中にもじわじわと伝わってきました。一緒に参加した兄弟との出会い、その中の一人である私自身との出会い、そして神との出会い、いろんな出会いがあり、その出会いが私の心の扉を少しずつ開いていく。言葉で言い表わせない喜び、感動がよみがえる。数多くの方々の祈り（霊的花束など）に支えられ、どんなに勇気づけられたことか。喜びで胸が一杯。心より感謝。

このクルシリヨでいただいた多くの恵みは私を支え、勇気づけてくれることでしょう。すぐに心の扉を閉じてしまいそうな弱い私ですが、今度は私の方から心を開いていき、これからの出会いを大切にしていきたいと思っています。

神さまは必要なものを与えてくださった。あとは、自分次第。これが難しい。

戸畑教会・佐々木智子

福音を伝えるために
―北九州教会学校リーダー研修―

五月二十一日（木）の風薫る一日、小倉教会で、総勢、約八十名、遠くは長崎・浦上教会の神父様、シスターも初参加され、福岡地区からも四つの小教区から出席がありました。

午前の部では、本年度から教区の教会学校担当になられた川上惣一神父様のお話。日頃現場で感じていること、身近な問題が提起され、続いて森山信三神父様の「聖書の読み方」について。み言葉をどのように読んでいけばよいのかが具体的に示されました。

午後の部ではシスター菊地多嘉子が『子供の信仰教育―信仰を育てる為に何を子供に伝えるか』のテーマで講演。二時間以上にわたるお話の内容はたいへん豊富で、いくつもの大切な事柄を語られました。福音であるイエス、その愛を子供たちに正しく紹介し、共に神の慈しみを体験し、実践をもってその愛に応える必要を説かれました。

小倉教会・神野美子

目覚めて祈る
―徹夜祈祷会―

五月三十日（土）夜より三十一日（日）朝まで、福岡黙想の家において、召命をともに祈る会主催の徹夜祈祷会が開かれた。福岡小神学校、パウロ会小神学校の各小神学生をはじめ、各修道会の学生志願者やシスター、青年、信徒四十数名が、朝まで祈り続けた。

代表の松井神父の基調講話の後、わかちあい、また目的を持って誰かのために聖体の前で祈る時をとった。ビデオをみたり、深夜、ルルドの洞へのろうそく行列、ロザリオの祈り、マルコ福音書全朗読、夜明けの十字架道行などを行い、感謝のミサ後、散会した。

家庭 第2回全国会議に向けて



家庭で育くまれる性と命の尊さ

熊本ブロック青年会で「性と命」の講話があり、分かちあいがありました。それを通して性と命について知っておくことは、とても大切な事だと思いました。

私の母は、私たち娘に、性と命について、きちんと話してくれています。たぶん多くの家庭では、命についてはともかく、性については教えてもらったり、話し合ったりできないのではないでしょうか。それができないのは、恥ずかしさや照れのせいかもしれません。しかし、母からこれは大切な事だと言われ、真剣に考えなければと感じました。

母と、命と性について話した内容の中には「性と命の講話」の中でも大きく取り上げられた婚前交渉についても、それから、中絶・結婚・結婚後の生活やその他いろいろな事があります。離婚についてもありました。又、尊く大切だからこそ、私の身の振り方について厳しく言ってくれます。

例えば、部屋で男の人と二人きりにならないようにとか、暗い所を一人で歩いてはいけないとか。そのような事は母に言われたからではなく、自分のために守らなければと思っています。今の時代には性が氾濫しています。このような環境の中で特に親がその現実をしっかりと見つめ、子供に命と性について話さなければいけないと思います。子供は、教えてもらわなければわからない部分がたくさんあります。『自分で経験してわかっていけばいい』と言う親は、性と命に関して無責任だと思います。

それは、命が、それとは切り離せない性が、あまりにも尊く大切なものだからです。

どうか一人でも性と命に関して傷つく人が少なくなりますように。

狩谷百合子（手取教会）

幼稚園のできごと

小倉カトリック幼稚園

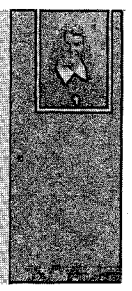
今日も幼稚園には子供たちの元気な声が響いています。とくに無邪気で好奇心旺盛な三歳児は、遊ぶ術、楽しむ術を心得ていて、遊びの種には事欠きません。パンをくわえたまま部屋から脱走は朝飯前、今日も「帰りの用意をしますよ」の声に瞳を輝かせて一歩二歩後ずさり、脱走を企てたのですが、三歩目に「コン」と柱に頭をぶつけて思わずうずくまり、しょんぼりとしてしまいました。担任の「どうしたの?」の言葉に「死ぬかと思った」とぽつり。

「何してたの?」「先生とかくれんぼ」「?」そのT君、十五分位して部屋をのぞくと帰りの雑踏の中、大の字になって寝息をたてていました。思わず笑ってしまいました。そんな素直で人を信じ全くの信頼を寄せる子供を見ていると幸せな気持になります。

俗にいう五月病の季節となり、私たち職員にも疲れが見え始めた下旬の土曜日。姉妹園である宮ノ尾カトリック幼稚園と合同で研修会が行われました。仕事を終えてから四台の車に乗り込み、宗像の「黙想の家」まで出かけ、施設を見学したり園長先生や副園長先生のお話を聞きました。聖堂に入り、各々黙想をしたあと、みんなでお祈りを捧げました。毎日忙しさに追われている私たちにとって、とても静かなひと時でした。そしてお祈りの意義や方法、主祷文についてのお話など、日頃何げなく子供たちとしているお祈りについて深く考えさせられました。一人ひとりそれぞれ感じるものがあったようです。このような研修を通していろいろな事を知り、考え、互いに助け合って、神様のお恵みを感じながら、子供たちと共に育ちあっていきたいと思います。T君のような子供を見ていると、笑顔と共に「子供のように素直に神様の御言葉を受け入れなければ神の国に入ることはできない」の御言葉が浮かんできます。どうぞ神様、私たちに、たくさんのお恵みをお与え下さい。

主任　桑原貞子

BOOK 読みは専科



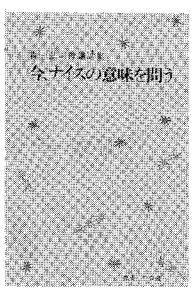
★シスターブリージの自叙伝の邦訳「祈り―恵みの泉―」

読んで、親子で対話出来、親子の信仰の絆が深くなる。

興味深く読め、読みやすく、信仰の共感を深める本。八か国語に訳され、ベストセラーになっている。この本の希望者はハガキかFAXで。

〒八一五　福岡市南区皿山四―十四―二十七　カトリック　ファミリーセンター　FAX　092-552-5022

一、三〇〇円（送料別）



★今、ナイスの意味を問う

森　一弘司教著

日本のカトリック教会がひとつになって向かっているナイスは、なぜ、どのようにして開催され、そこで教会は福音宣教をどのように方向づけていくのか。ナイスと深くかかわってきた著者が、聖霊に導かれて歩み続ける教会の姿を語る。

女子パウロ会　八〇〇円

ジャパン建築
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材
石の理想の大御影
石他
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

七・八月の行事

※ゴチックは司教日程

七　月
～4日　司教総会
3日　聖書講座第5回
5日　教区信徒協代表者会議
10日　聖書講座第6回
12日　多久教会堅信式
NICE・2準備委員会
14日　教区顧問会
17日　聖書講座第7回
21～23日　少年・召命錬成会
24日　聖書講座第8回

八　月
6～15日　平和旬間
9日　熊本地区婦人会講話
平和祈願ミサ
15日　教区墓地ミサ
17～19日　召命学校

※教皇文書勉強会は七・八月は休みです

福岡黙想の家

6/29～7/1　福岡教区大神学生黙想
6/30～7/1　聖公会教役者会
4～5日　インマヌエル会黙想
7～11日　幼きイエズス会研修
9日　ルルド祭（午前十時ゟ）
15日　御受難修道会新司祭森山健四郎神父初ミサ
18～19日　福岡地区信徒協夏季研修会
20～22日　幼きイエズス会大浦志願院黙想
24～25日　笹丘教会土曜学校練成会
25～30日　聖パウロ女子修道会黙想
31～8/4日　サダナII
※7/7日　祈りの日は休みです

《青少年平和巡礼》

昨年から始まった《青少年平和巡礼》ですが、今年も以下のように企画いたしました。多くの高校生・青年たちの参加をお待ちしています。

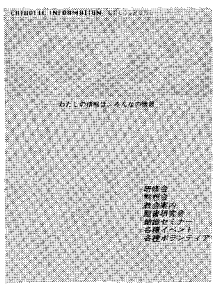
広島平和巡礼
日程：8月5・6日（水・木）
内容：平和行進・平和祈願ミサ・広島観光
定員：15名
締切り：7月12日
連絡先：中村神父（大名町教会 092-741-3687）

長崎平和巡礼
日程：8月9・10日（日・月）
内容：平和ミサ・たいまつ行列・長崎巡礼
定員：20名
締切り：7月12日
連絡先：森山神父（小倉教会 093-921-0093）

天草殉教祭
日時：10月25日（日）
内容：ミサ・キャンドル行列
締切り：10月10日
連絡先：大水神父（帯山教会 096-382-9413）

※詳細については後日お知らせ(各教会へ)いたします。
参加費は3000～5000円くらいの予定です。

◆情報誌発刊◆



～わたしの情報は　みんなの情報～

教区本部の事務局にはいろんな情報が集まってきます。

そんな情報を見ると、みなさん、それぞれの場で、福音宣教のために一生懸命頑張っていると感じます。そして、このような「頑張り情報」を一人でも多くの人に知ってもらえたらいいと思います。

「くろすろーど」の発刊を思いたったのは、そのような理由からです。幸い、快く協力してくださる方々も見つかりました。

「福岡教区報」は主にニュースを伝える新聞の性格をもっていますが、「くろすろーど」は教区内外のさまざまなイベントをお知らせする情報誌です。みなさまの情報提供をお待ちしております。

七月から隔月で年六回発行。購読料は年間三千円(送料込)です。お申込みは教区本部まで。

（広報委員長　山元眞）

1992年度福岡地区夏季信徒研修会

日　時　7月18日(土)・18日(日)
場　所　福岡黙想の家
テーマ　キリストを伝える
教皇ヨハネ・パウロ2世の教え(回勅「救い主の使命」より)
講　師　松永久次郎司教
参加費　一泊二日　¥6,000(定員60名)
通い二日　¥2,000(定員30名)
※両日参加が原則です
詳しくは主任司祭にお尋ね下さい。



牧者の心



今年の三月二十日に司祭叙階の恵みを受けて、四月から大名町教会で奉仕させていただいています。着任当初は何もかも初めての経験ばかりで、やたらと肩がこったことを覚えています。リラックスしながら、マイペースでと言いながらも、初めはやはり緊張していたようです。自分はまだまだ小さかったということを悟るいい体験になりました。

最近、叙階のときの御絵のことばである『司祭の心は救い主の心、心ひたすらに病める羊求む』ということばが心に響いています。説教からだけでは、信者は救えないとある人から言われました。ありがたい話をしても、困っている人、苦しんでいる人の友にならなければ、本当の牧者ではないと言われたように思います。

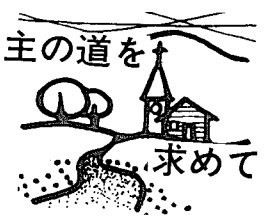
そこで、牧者の心とは何だろうかと考えさせられています。牧者の心でまず大切なのは、牧者の愛であると思います。大牧者キリストの愛をいつも汲み取っていなければ、自分だけの愛はすぐ枯れてしまいます。牧者の愛は、すべての人に開かれた心で、かつ、今関わっている人に全力を注ぎます。しかし、人間の能力は限られたもので、多くの人とそれぞれ真剣勝負で関わっていたら、時間的にも、体力的にも、精神的にも余裕がなくなっていきます。そこに、牧者としての賢明が必要となってきます。相手の事情や状態、自分の事情や状態を考えた上で、ここまでと線を引かなければいけないときがあります。それが、ときには賢明という名のもとに、相手から逃げているのかもしれません。そんなとき、自分の弱さを痛感しますし、もう一度、頑張ろうという気持ちが湧き上がってきます。そこに牧者の愛が働いていると思います。愛は忍耐強いからです。

こんなことを考えると、善き牧者キリストの心にはまだまだ近づいていないなと実感させられます。牧者の賢明ばかり使って、牧者の愛に燃え立っていないからです。また、牧者の賢明もまだ本物ではないかもしれません。これから、神の愛に導かれながら、自分が関わる人々に教えられながら、だんだんと本物の牧者の心を身に付けていきたいと思います。説教台の上からだけではなく、自分が関わる人の友となれるよう努めていきたいと思います。

これからも、皆さんのお祈りと御指導をよろしくお願いいたします。

大名町教会
助任司祭　中村　彰

福岡カルメル会修道院



福岡カルメル会修道院は一九五一年に、ベルギーのカルメリットたちによって「カルメル山の聖母の修道院」として、大神学院の近くに創立されました。

会の精神と使徒職、それは常に祈り、愛に生きること。

聖なるおとめマリアを会の母、及び保護者と選び、マリアの生涯とキリストとの一致の秘義を、私たちの模範、理想として仰ぎ「孤独と念祷と貧しさ」の上に築かれた家族的な小共同体のなかで、福音的勧告を生きながらひたすら「神との一致」をめざし、念祷と観想的祈りに専念すること。そしてこの観想生活全体を全面的に人々の救いと教会への奉仕、特に司祭方のために献げ、すべてを使徒的意向によって行いながら教会から与えられている祈りによる使徒職に従事しています。

「教会のために祈り、生き、働かないならば、あなた方は主がここに集めてくださった目的を行ってもいず、果たしてもいないのです。」
（創立者アヴィラの聖テレジアの言葉）

現在七十七か国八五六の修道院で一万三千余名の修道女が同じ精神、同じ使徒職に生きています。

福岡のカルメル会では、ろうそく、ロザリオ、カード、翻訳、お菓子、野菜作りなどの手仕事を通して、地域の方方とも親しく交わらせていただいています。

典礼研修コース

新しい賛美の歌を求めて
＝作品募集発表を含む＝

期日：7月31日(金)～8月3日(月)
定員：60名
参加・宿泊費：26,000円
※問い合わせ・申込み
〒466　名古屋市昭和区広路町隼人30
日本カトリック研修センター
☎ 052(831)5037

表記統一のお知らせ

「イエズス」の表記は今後、「イエス」に統一いたします。
（教区報編集部）

小神学校基金へのご寄付のお礼

故マリア川上ツル様の香典返しとして、川上義盛様より金一封を小神学校基金としていただきました。

故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

一九九二年　六月
福岡小神学校　松井忠之

七月命日の司祭

※ジョセフ・ブルトン師（パリ外国宣教会）
一九五七年七月二十五日
元呼子教会主任

※ルネ・ルリエ師（パリ外国宣教会）
一九七〇年七月二十八日
元聖小崎育児園園長

※ヤコブ平田勇師
一九八〇年七月二十日
元西新教会主任

※ジョルジュ・ラグレブ師（パリ外国宣教会）
一九八二年七月二十五日
元門司天使園長

※ウイリアム・シュルツ師（スカボロ会）
一九八七年七月二十日
元吉塚教会主任

※ヨハネ平田惣五郎師
一九八九年七月三十一日
元浄水通教会主任

編集室から

▼田舎と都会を原稿が通う。人は暑さに負けるが、原稿は厚さに耐える。沢山欲しい。

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810　福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885　自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
(平尾四ッ角)
TEL092－521－0568㈹

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに
（イザヤ53・4）

御受難会　鈴木忠一神父

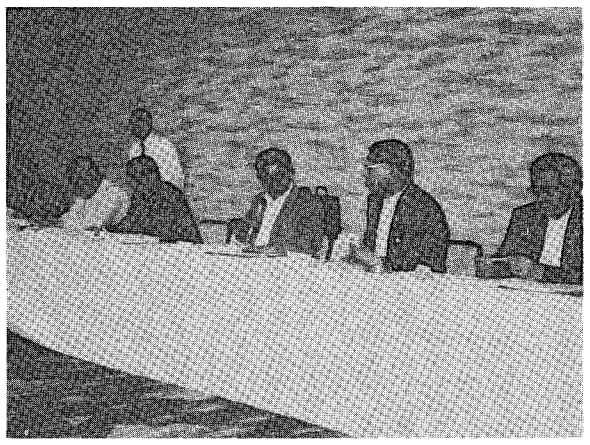
定例司教総会開かれる

第2回全国会議の課題決定

「家庭の現実から福音宣教のあり方を探る」

＝神のみ旨に基づく家庭を育てるために＝

毎年一度開かれている定例司教総会が六月三十日から七月四日まで東京で開催され、その中で、来年秋に予定されている第2回福音宣教推進全国会議の会期、参加人員、課題などが審議、決定された。＝写真



写真提供＝カトリック中央協議会広報部

第2回福音宣教推進全国会議（第2回全国会議）の会期は一九九三年十月二十一日（木）から二十四日（日）まで。場所は長崎教区。各教区参加人員の枠は教区長の他に、信徒六名、修道者二名、司祭三名（担当司祭一名を含む）。この外に、教区広報担当者も参加できる。

課題は『家庭の現実から福音宣教のあり方を探る～神のみ旨に基づく家庭を育てるために』に決定。この課題は司教団メッセージとともに発表された。（二面に全文を掲載）

メッセージの中で司教団は、信徒が家庭の諸問題に対してその解決のために懸命に努力していることを評価。さらに、現状を克服し変えていく力となるのは苦しみ復活したキリストである、とその信仰を宣言している。そして、復活され、今も生きておられるキリストが私たちの生活の中でどのように働いておられるかを聖霊の導きを祈りながら探し、見つけるように勧めている。

『課題』は、一、家庭の現状を他人事としてただ見つめるのではなく、自分のものとして共感、共有するように努力する。二、現実の諸問題の中でキリストが具体的にどのようなメッセージを送っているのか、祈りの中に聞き、探す。三、キリストのメッセージを聞き、見つけた後、信仰共同体のあり方を見直す。

今後は「神のみ旨に基づく家庭を育てるために、家庭の現実から福音宣教のあり方を探る」努力が続けられる。

松永司教　家庭委員長に就任

今回の司教総会では常任司教委員会、各種委員会や団体の担当司教の改選がおこなわれたが、福岡教区長の松永久次郎司教は、常任委員と家庭委員会担当（責任）司教に就任した。来年の第2回福音宣教推進全国会議のテーマが「家庭」ということもあり、司教の今後の活躍が期待される。

課題を受けて

＝福岡教区では＝

定例司教総会で発表された第2回全国会議の『課題』を受けて、教区ナイス2準備委員会では七月十二日に第十二回目の会合を司教館で開き、『課題』を研究するとともに今後の教区での対応を話し合った。

今回の『課題』によれば、まず、単に家庭の現状を見つめるだけではなく、全国会議に向けて、第三者としてではなく、家族の痛み、苦しみをお互いに自分のものとして共感し、家庭の抱える問題を共有するように分かち合うことが求められている。

昨年から今年にかけて各地区で開催された公聴会では、『課題』の一、に示されているような具体的問題（姿）が出され、それをすでに分かち合ったようにも思えるが、今回、強調されているような「共感、共有する」という観点は欠けていたように思える。この点に関してさらに突っ込んだ分かち合いが必要と思われる。

『課題』についての教区としての具体的な対応は、九月十一日に開かれる「全国会議担当者会議」後に決定される。それまでは、先に挙げた観点から、各小教区やグループで引き続き分かち合いを進めていただきたい。

時の話題

久保　守

辺り一面は全くの焼け野原だった。死臭が漂い、森閑とした死の町を、妙に周囲とは不釣り合いな、だだっ広い道路が一本浦上駅から家野町の方へ真っすぐにのびていた。

原爆忌を迎える度に、長崎に原爆が落とされた丁度ひと月目に浦上駅頭に立ったときの情景を思い浮べる。あの時ほど、戦争なんて何と馬鹿げたことかと思ったことはない。それでも戦禍はこの地球上から消えることがない。今この時でさえ、戦火の煙は消えず、人が殺され、貴重な建物が壊されてゆく。何かが欠けている。何かが間違っている。

戦争のための戦争は多分ありえない。やはり何か大義名分が立てられなくてはならない。曰く、民族独立のためにに等々。

しかし、「平和」という大義名分以上の大義名分があるだろうか。「平和」は、現代社会を導く理念であるから、何人たりとも、これを否定することは許されない。だが、ここに落とし穴がある。

原爆忌に思う

時に空想することがある。四年に一度、無条件に一切の戦争を止めて、全世界こぞって、本当に平和が必要なのか、平和とは何か、それを実現するための手段は何かを冷静に議論する場を設けたらどうだろう。多分、喧々囂々の議論が無際限に続き、さしたる成果もなく空しく終ることだろう。かえって、出席者の心の中には、自分の主張が理解されなかったことへの憤懣が燃え盛り、嫉妬と落胆との交錯する複雑な心情のうちに己がじじ散会してゆくことだろう。

平和を論じながら自分の心の中では平和が崩壊してゆく矛盾の空しさを味わいながら。

力の論理が信奉されるかぎりこの世から戦争はなくならない。

力の論理を否定するものは何か。やはり前コリントの信徒への手紙13章の「愛は忍耐強い。愛は情け深い。……不義を喜ばず、……」という愛の憲章を思い出す。平和は世界的課題であるかぎり正義をもたらす社会的活動も必要である。だが、それ以上に、自分の心のうちに、そして人々の心のうちに「愛」を実現することの必要とその難しさを痛感する今日この頃である。

（西新教会）

新司祭誕生



森山健四郎新司祭

七月五日、大阪大司教区の池田教会で、御受難会所属のヨセフ森山健四郎助祭の司祭叙階式が安田大司教によって執り行われた。

新司祭は福岡の箱崎教会出身で、小倉教会助任、森山信三神父の弟にあたる。福岡では、十二日に箱崎教会で、十五日に宗像黙想の家で初ミサを行った。インタビューの答え。「動機…最初は修道生活の形態自体に憬れていたけれど、そのうち変わって。叙階式の感想…最高の気分です。抱負…共同体作りに励みたい。みんなと一緒にいろんな問題に関わっていきたい。」

夏季信徒研修会開かれる

～教区長と共に宣教について学ぶ～

福岡地区

七月十八日から十九日まで御受難会の福岡黙想の家で夏期信徒研修会が開かれた。主催は福岡地区信徒使徒職協議会。約八十名の信徒が教皇ヨハネ・パウロ二世の回勅「救い主の使命」をテキストに、松永久次郎司教の講話を聞き、教会が求める宣教について学んだ。

（関連三面）

みちくさ

暑い、寝苦しい、地獄のようだ。よく口に出す。小さい頃に父が話してくれたこと、「あるおじちゃんはね、暑い時には冷たいのが体にいいと言ったけど、暑い時にも熱いものを食べたり飲んだりする方がいいんだよ」。父の話は絶対だと思っているから、私にすればおじちゃんの説は間違いなのである▼暑い時には冷たいものを頂きたい。頂き過ぎてついに腹をこわす。父の言った通りだ。母は、暑いからと言って腹を出して寝ないように注意してくれる。二人そろって生活の知恵を身につけてくれる。言うことを聞かない子供は不注意から病気したりする。親に心配の種は尽きない。親は一心に子供を見守るのである▼若者に成長した頃、両親と漁に出た。夜釣りだ。空一面の星、波もなし。その時の面白い程の魚獲。一時間位経った時、にわかに空がどんよりしてきた。遠くからまっ黒な雲が雨をつれて足早にやって来る。「突風ばい。糸をあげてお前は空のいけすに入っとれ！」。言われるままに。小舟ははげしく揺れる。父母は大丈夫だろうか。「神さま助けてください」と祈る。しばらくして、ふたをノックする音。恐る恐る持ち上げてみると、にっこりと微笑む父母。助かったのだ。〝神に感謝〟父母は子供を安全な所に避難させ、自分達は隠れる所となく、暴風雨に撃たれながらも舟につかまっていたのだ▼親は有難いものである。文字通り、有ること・・が難しい存在だから、有るうちに大切にしたいものである。しかし、思うだけで何もしないのは罪だろうか。私たちを見守ってくださる天のおん父に対してもそうである。暑い、寒いと感じとれる生命のあるうちに孝行しなければ。【S】

「福音宣教を考える日」

―大名町教会―

「福音」とは何か、「福音宣教」とはどういうことかも今一度考えていただきたい。

七月十二日、大名町教会で主日のミサ後、小田武彦神父の講演会が開かれた。小田師は大阪教区司祭で、第2回福音宣教推進全国会議事務局長および日本カトリック宣教研究所研究員。

大名町教会委員会では毎年「福音宣教を考える日」を企画し、信徒の福音宣教の意識を啓蒙している。講演会には小教区内外より約百二十名の信徒が集まった。

小田師は講演会に先だつ主日のミサで、当日の福音であった「よきサマリア人」のたとえ話を説明しながら信徒の使命について話した。困っている人、弱い人、助けを必要としている人の隣人になることが問われており、その人たちに実際に手を差し伸べることによって初めて救いが実現する。イエスの教えを頭で理解するだけでは足らず、聞いたことを「実行しなければ意味がない」と説いた。

続いて開かれた講演会では教会の福音宣教の歴史や、日本における司教団の呼びかけをわかりやすく説明しながら次のように語った。福音を宣教するにあたっては、まず私たち自身が福音と出会い、それを喜びの便りとして感じなければならないこと。イエスと同じ立場に立って現実を見ること。イエスの「立場」はとりもなおさず「苦しむ人の立場に立ち、それを分かち合う立場」であり、私たちもその立場を取らねばならないこと。そのように、視点を変えることで生活が改まり、それがひいては社会を福音化する原動力になる。

参加者の中には、初めて教会を訪れた人もおり、この講演会自体が福音宣教になったともいえる。

第2回福音宣教推進全国会議
司教団メッセージ

信徒、修道者、司祭の皆さま

ちょうど二年前（一九九〇年八月）、司教団は、第2回福音宣教推進全国会議（以下「第2回全国会議」と略します）のテーマを「家庭」とし、皆さまにこのテーマをどのように取り上げたらよいかを考えてくださるようにお願いいたしました。短い期間であったにもかかわらず、誠実に討議課題案をお送りいただき、本当にありがとうございました。

わたしたち司教は、このたび開催された司教総会において、各教区から寄せられた討議課題案をまず真剣に受けとめ、検討し、第2回全国会議において、何を取り上げ何を話し合っていくべきかを協議いたしました。そして「家庭の現実から福音宣教のあり方を探る」ことにいたしました。

家族のつながりは、現代人にとって大きなよりどころであるだけに、喜びでありますが、ときには苦しみになっている事実も否定できません。わたしたちは、討議課題案から、現代の家族が、さまざまな痛みや悲しみを抱え、うめき、きしみ、切実な叫びをあげていると同時に、それらを乗り越えて生きようと懸命に努力している姿に改めて気づきました。

それらの原因となっているのは、人間のもっているエゴイズムや未熟さであったり、経済を中心にして発展する複雑な日本社会からの重圧であるということが明らかに見えてきました。わたしたちは、苦しみ復活したキリストこそが、このような現状を克服し変えていく力となってくださると信じます。今も生きておられるキリストは、わたしたちにどのようななぐさめ、光、力、希望を与えてくださっているのでしょうか。わたしたちは、キリストを求め、わたしたち自身のキリストとのかかわりを見直しながら、現代人にとって非常に重大な問いかけに取り組んでいきたいと願っております。

来年の十月二十一日(木)から二十四日(日)にかけて長崎教区で開催される第2回全国会議に向けて、聖霊の導きのうちに話し合い、準備してくださいますようお願いいたします。そして、イエス・キリストのお言葉に従って、御父のみ旨がこの地上で実現されることをともに祈ってまいりましょう。

一九九二年七月四日

日本カトリック司教団

聖母の被昇天



マリアは全世界の信者から尊敬され、慕われていますが、それは処女のままイエスを産んで神の母としての地位を与えられたばかりでなく、実際にイエスの母として生きたからです。特別な活動とか目を見張るようなことはしていませんが、父なる神のみ旨を尊び、イエスに進むべき道を進ませ、その苦しみや痛み、心を自分のものにしました。

聖霊がイエスの弟子たちを満たしたとき、マリアも彼らと共にいて聖霊からくる喜びに満たされました。その後も謙遜に、特に、祈りをもって教会を助けました。そして、地上の生活が終わったとき、霊肉共にイエスの復活にあずかる栄誉を受けました（聖母被昇天）。

マリアが迎えられた天国は、活動的な静けさに満ちています。マリアは三位一体の神のもとで人々のために執り成すことによって、わたしたちの母としての務めを絶え間なく続けています。人々のために祈ること、神の愛の完全な鏡として人々を愛し続けること、これこそ天国におけるマリアの喜びであり、仕事です。

マリアの被昇天はわたしたちとかけ離れた出来事ではなく、わたしたち一人ひとりの未来の姿を示しています。イエスにおいて父なる神と出会い、すべてを静かにする静かなる神の静けさの中に迎えられること、これがわたしたちの希望であり、喜びであるからです。

マリアと同じ栄誉を受けるためには、マリアがたどった道をたどることです。特別なことをしなくても、今日自分がなすべきことを神からのものとして受け入れ、祈りの心をもってしていくことです。

母親は母親として、父親は父親として生きるとき、本当の意味での母親、父親となっていきます。神のみ言葉を聴き、それによって生きようとするとき、次第にイエスの心、生き方、姿勢を自分のものとしていきます。それは、過ぎて行く時の中で永遠を種蒔くことでもあります。今、この時に種蒔くものが永遠に価値あるもの、意味があるものになります。マリアの被昇天がその証です。

間もなく「聖母の被昇天」の祭日がやってきますが、ただ単に迎えるのではなく、その意味を心で味わいながら迎えたいものです。

健軍教会・牧山勝美神父

福音を伝える
＝教会学校リーダー研修＝

福岡地区



六月十五日、福岡地区教会学校リーダー研修会がカテドラル一階ホールで開かれた。今回は、北九州や新田原、行橋から参加されたシスター方を含め、二十四名のリーダーが集まった。

新しい信仰教育担当の青木悟神父様（光丘教会）と教会学校担当の川上恕一神父様（本郷教会）の挨拶の後、山元眞神父様による〝初聖体に用いられる歌〟の指導が行われた。一つひとつのことばを生かして大切に歌うこと、メロディーは耳から覚えさせることを参加者も共に歌いながら学んだ。歌の中にはプロテスタントの歌もたくさんあって、こんなところにもエキュメニズムに積極的な神父様方の姿勢がみられた。引き続き、福岡地区リーダー担当の松井忠之神父様が、初聖体についての話をされた。【初聖体】ということばがいつごろ、何故使われるようになったのかを初代教会から現代までの歴史の中にみる時、ご聖体をいただくことの大切さ、それを子どもに教えていくことのむずかしさを改めて思った。

午後は、それぞれの教会の初聖体の方法を紹介し合った。子どもにとって大切な日であるだけに、どの教会も充分な準備と工夫がされていて、リストは具体的にどのようなメッセージを与え、どのような力、希望、なぐさめをくださっているのでしょうか。祈り、聞き、探しましょう。

三、すべての家庭にキリストを伝え、キリストをあかしする信仰共同体をめざす

キリストの現存と姿に新たにめざめて、わたしたちは、信仰共同体のあり方を見直し、キリストがわたしたちに期待しておられる使命にこたえていきましょう。たとえば次のような側面から見直していけばどうでしょうか。

①信仰共同体（教区、小教区、修道院、家庭）の回心と使命の自覚②典礼や儀式その他の刷新③組織、行政の見直し④信仰教育の確立⑤日本社会とアジア、世界へのかかわり　など

てくださるキリストが働いておられると信じます。

課題
家庭の現実から福音宣教のあり方を探る
＝神のみ旨に基づく家庭を育てるために＝

一、共感と共有を求めて家族の現状を見つめる

すべての人を愛される神は、苦しみ叫ぶ人々の声に心を動かされ、モーセを派遣されました(出エジプト記3章参照)。その神の愛を思うとき、わたしたちは、全国から寄せられた課題案の中ににじみ出ている家族の苦しみや悲しみに共感し、問題を共有するプロセスの必要を感じます。全国会議に向けて、第三者としてではなく、家族の痛み、苦しみをお互いに自分のものとして共感し、家族の抱える問題を共有するように分かち合いましょう。

なお、わたしたちが共感すべき問題には、たとえば次のような個々の具体的な姿があります。

①夫と妻（男と女）②性③生命の伝達④親と子⑤信仰の伝達⑥高齢化する家族⑦単身者⑧別居、離婚⑨家制度⑩病人、障害のある人⑪弱い立場におかれている（差別されている）人⑫国籍の違う人⑬地域社会とのかかわり⑭職場（企業）とのかかわり⑮学校とのかかわり　など

二、一人ひとりを大切にしておられるキリストとの出会いを深め、愛の共同体を育てる

わたしたちは、これらの現実の中に、一人ひとりを本当に大切にし、家族共同体を育

神の望まれる結婚
M・E

六月二十六日から二十八日まで宗像の黙想の家で、恒例のMEウイークエンドが開かれた。各地域から九組の夫婦が参加。鶯や時鳥の鳴き声しか聞こえない静寂の中に「わたし、わたし達、わたし達と神、わたし達と家族や社会」といった関わりの振り返り、見直しに取り組む夫婦の真剣な姿があった。また、それは「わたし達夫婦に神が望まれる結婚」を聴き取ろうとする前向きな姿でもあった。

参加者の声「私たち夫婦は結構仲がいい方だと思っていましたし、よく話しもしていました。だから参加する必要を感じていませんでした。友人に勧められた時、それでも何か物足りなさをいつも感じている自分に気付き参加してみる決心をしました。仲良し夫婦と思っていた裏に、波風立てないようにお互いが演技し策をこうじ不自由になっていた自分に気付きました。本音の無い話ばかりしていた自分にも気付きました。そして、今、大きな解放感が私たちに有ります。神様の恵みの力です。この事を大切にして行きたいと思っています」。



召命学校ご案内

日　時：８月17日(月)14時～19日(水)13時
場　所：福岡小神学校
対　象：小学校５、６年生男子
　　(中学生の希望者も可)
参加費：2,000円(交通費各自負担)
定　員：30名
申込先：福岡市中央区浄水通38
　　松井忠之神父
　　TEL：092－531－6821
　　FAX：092－524－7373
締切り：８月15日

ホスピス的看護のカトリック病院

本紙三面「命の対話」の記事の中で述べられている病院は、

新田原聖母病院
行橋市東徳永三八二

琵琶崎待労病院
熊本市島崎六―一―二七

イエズスの聖心病院
熊本市上林町三―五六

です。

心をひらいて　10月10日
むなかた・TEN・TEN まつり
10月9日　前夜祭　「おとなも 子どもも 行ってみよう!」
福岡黙想の家
〒811-41 宗像市名残1056　☎0940－32－3222
※ＪＲ赤間駅南口よりバス
自由ヶ丘南２丁目　下車

熊本石材株式会社
熊本市島崎４丁目２ノ68
電　話　096－352－3306
　　096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 SOU-EN
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区信徒夏季研修会
テーマ キリストを伝える

「キリスト教を伝える―教皇ヨハネ二世の教え（回勅『救い主の使命』より）」

今年で第四回目を迎えた福音宣教信徒研修会（主催福岡地区信徒使徒職協議会）が、講師に松永司教を迎え、七月十八・十九の両日、福岡黙想の家（宗像市）で開かれた。

「福音宣教について日頃の思い、実践、困難を分かち合いつつ、教会が今宣教について何を望み、何を信徒に期待しているか研修しよう。神の民『福岡教区』の牧者である司教と共に、司教を囲んで」の呼びかけにこたえて二十五の教会・修道院より約八十名の司祭、修道者、信徒が参加した。

司教は、回勅全体を解説しながら、教会の使命は単に対話、自由、正義、良心の尊重などを促すことではなく、それらに真の意味を与える唯一の救い主イエス・キリストを言葉と生活の証しによって告知することである。宣教の真の主役であり、語る人の中にも聴く人の中にも働かれる聖霊（キリストの霊）に促されて、福音が教える嘘のような



ことが真実であることを証ししていくように。キリストの司祭職、預言職、王職にあずかる信徒はすべて宣教者であり信仰は伝えられてこそ真に深められるのであるから、それぞれの仕事、奉仕、祈りと犠牲を通して、人々を実際に洗礼にまで導くことに力を尽くすよう励まされた。

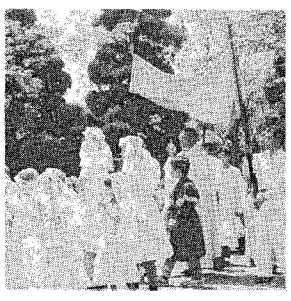
自由な質問の時間には子供の宗教教育、洗礼前の要理の勉強、脳死、臓器移植、献体、世間を騒がせている新興宗教についてなど日頃の悩みや疑問が出され、一つ一つに対して司教から懇切丁寧な解答が与えられた。

参加者からは「司教自ら教皇のメッセージを解説することの意義深さを実感した」「新しい視点を示され、新鮮な喜びと勇気を感じている」「司教様と親しく接することができ強い親しさと信頼が湧いた」「分かち合いを通して多くの出合いがあり、各分野で頑張っている姿に感動した」「小教区の置かれている地域性がその教会の特質になっている所は地域に生きている感じがしてたのもしかった」などの声があった。



聖体と歩む

梅雨の晴れ間の澄みわたる空の青。六月十一日、熊本島崎教会で聖体行列が行われた。



午前十時のミサに続き、行列は白衣の花播きの少女らを先頭に教会を出発、賛美の歌をうたいながら島崎の町を行き、約一・五キロの行程をフランシスケン修道院まで。

――聖体行列は、四月の花岡山殉教祭と共に島崎教会の伝統行事。遠来の参加もあって、主への賛美を共にする――

行列は桜、楓の新緑の茂みをくぐり待労院の前へ。ご聖体の祝福。少女らは一斉に花を播く。点在する聖像、薔薇、百合、紫陽花。老人ホームのお年寄りにも祝福。

ご聖体は修道院に到着。一同も共に聖堂へ。山頭原太郎神父様の説教の後、聖体降福式が行われた。参加者は百六十人余。聖体行列の後昼食会が開かれ、日頃静かな院庭はこの日は信徒たちの和やかな触れあいの場となっていた。

島崎教会　三牧和子

教区の功労者帰天

▼シスターアンナ・マリア・ショネンベルゲン様
マリアの宣教者フランシスコ修道会修道女。心不全のため六月一日死去。ドイツ生まれ。札幌と熊本で看護婦として働く。享年百二歳。

▼マリア石井ヤス様
聖母マリア幼稚園（熊本）園長。肝不全のため、六月二十日死去。享年八十一歳。

お二人の安息をお祈りください。

家庭 第2回全国会議に向けて



命の対話

ホスピスや尊厳死など終末医療への関心が高まってきています。ホスピスでは、末期患者の身体の痛みだけではなく、精神的な痛みにも対応していきます。死ぬためのものではなく、残された日々をいかに充実して生きるかを援助するものです。

カトリック病院では、ホスピスという言葉は用いていませんが、以前よりホスピス的看護を行ってきました。福岡司教区には、現在三か所の修道会運営のカトリック病院があります。伝統あるカトリック病院でのさらに充実したホスピス的看護が、今後社会的に求められてくると思います。その際、福岡司教区全信徒の理解と支援が大きな励ましとなります。

皆さんは、人生の最期をどこで迎えたいですか？　在宅医療サービスのスタッフは、本人が望む環境で生活することを、また介護する家族を援助します。そのため、信念と理念を持つ医療スタッフが求められています。しかし、それ以上に大切なことは、最期まで家族が本人の希望通りに、傍で温かく見守るという心構えです。それを培うことが幼児期からの死の準備教育の場としての家庭の役割なのだと思います。残念なことに、死や性という命に関する本質的な問題は、日本の家庭ではまだタブーのようです。

無言である胎児の生命が抹殺されている現代社会で、尊厳死が熱心に語られているのに強い疑問を感じます。人生の終末の命だけではなく、生命の誕生に対する尊重があって初めてひとつの命に対する認識ができるのではないでしょうか。家族と共にロザリオを繰る毎日の信仰生活によって、生命の誕生から人生の終末に及ぶ、家庭での命の対話の基盤がゆっくりと築かれていくように私は思います。

産婦人科・ホスピス医　井田栄一（大名町教会）

幼稚園のできごと

高宮カトリック幼稚園

《その笑いとユーモア》

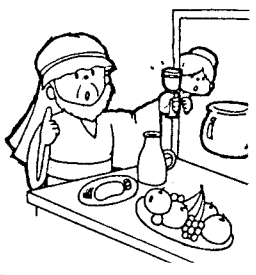
笑いは人間の特性です。それは、理性をもっている人間に与えられた特権です。自然界に規則があって、ある時、突然例外を生じる。その意外性にぶつかったときに人は笑うのです。

赤ちゃんを抱き上げて、たかいたかいをしながら放り投げると、初めは身を硬くして怖がるが、途中で抱きとめられる事が解ると、きゃっきゃっと喜んで、もう一回と催促するようになる。それが犬であったらどうでしょう。いっぺんで逃げ出してしまうでしょう。例外を理解しないからです。こうすればああなる、という事をよく解っているものだけが、その例外も解るのです。

子供たちが私の顔を見るたびに「えんちょう先生、手品して」とせがみます。子供たちは手品が大好きです。タバコが出たり、消えたり。カードがだんだん小さくなって無くなってしまったりすると、子供たちはおおはしゃぎ。あるはずのものが無くなったり、消えていたものが又出てきたり、子供たちはその意外性に目を見張るのです。犬に棍棒を振りかざしたとします。そしてその棍棒が突然消えて無くなったとします。犬が笑うでしょうか。もう一回と言ってせがむでしょうか。知恵のある人間だけが手品の意外性が解るのです。

自然界には決まりがあります。社会にも決まりがあります。しかし、ときには例外もあるのです。自然界の例外が奇跡であり、社会生活の例外がユーモアです。決まりを良く理解しながらその例外を広く受け入れて、楽しんでいくところに人間生活の豊かさがあると思うのです。

園長・鵜野泰年神父



父の日に共に祈る

鳥栖カトリック幼稚園

当園では毎年六月の第三日曜日、父の日に園児のお父様方を招いて「父の日祝い会」を催し、子供たちと共に楽しいひと時を過ごしています。


お父さんとフォークダンス

お父様方にこの日の子供の喜びや美しさをプレゼントしたい、そんな願いが園の行事として行うきっかけとなったのです。

祝い会の第一部は、遊戯室にて園児の祈りと賛美歌に始まりました。この様な時、私はいつも「子供は真の宣教者だ」と痛感させられずにはいられません。第二部は、園庭で小運動会を行いました。

神様がお与え下さった祝福が、二百名余りの全園児のお父様方の心に広がった父の日祝い会でした。

主任・坂田久美子

バザー盛大に
＝セコの会＝

SE・CO（奉仕と分かち合い）の会は、一九八三年イタリアのパルマ、聖心のウルスラ宣教女修道会で、在俗ボランティアによって結成されました。続いて、八九年に福岡の修道会でもSE・COが誕生しました。

フィリピン・カバングラサンで、日夜暑さと風土病と闘いながら、宣教、援助活動中の神父、シスター、ボランティアの方々を支え、奉仕するのが今の私たちの大きな役割です。


聖ウルスラ幼稚園で

六月二十一日、恒例のバザーを開催し、その収益金を現地に送りました。また、ミルク、衣類などを段ボール詰めにして、年間、数十ケース発送しています。

ボランティアによって、愛と祈りの援助活動を続けています。

★カトリック冠婚葬祭
泉　富士男著



その時になってあわてることの多い冠婚葬祭。そういうとき役立つのがこの本。「婚姻」「葬儀」はもちろん「カトリック教会とは」「一般行事と教会の行事」「神に捧げる生活」といった項目に分かれています。

カトリック教会にはとても興味あるけれど、難しい本や求道者勉強会には少し抵抗があるという方のためにも、教養や典礼について学ぶ糸口になるよう配慮されています。

あわてる前にどうぞ。

中央出版社　一、〇〇〇円

BOOK 読みは専科

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

八・九・十月の行事

※ゴチックは司教日程

八月

6〜15日 平和旬間
9日 熊本地区婦人会講話
平和祈願ミサ
15日 教区墓地ミサ
17〜19日 召命学校
27日 地区婦人会「モニカ祭」
30日 教区広報研修会
◎教皇文書勉強会・八月休み

九月

3日 教皇文書勉強会
10日 教皇文書勉強会
（以後日程は未定）
18日 聖書講座第9回
23日 修女連地区集会
25日 聖書講座第10回
27日 伊万里教会堅信式

十月

2日 後期聖書講座第1回
9日 聖書講座第2回
12〜16日 教区司祭黙想会
16日 聖書講座第3回
17日 デーケン師講演会
18日 小倉教会堅信式
23日 聖書講座第4回
25日 天草殉教祭

福岡黙想の家

7/26〜8/4日 8日間の黙想 マテオ神父指導
7/31〜8/4日 サダナII
8/4〜6日 イエズス村
6〜15日 8日間の黙想 マテオ神父指導
9〜15日 東京マリア会黙想
16〜22日 サレジオ会黙想
22〜24日 カノッサ修道女会黙想
御受難会主催・青年のための黙想会
25〜26日 八代白百合学園高校職員研修会
26〜27日 日本基督教団周船寺教会研修会
27〜28日 泰星学園職員研修会
29〜30日 久留米信愛女学院職員研修会
30〜9/4日 オブレート会黙想
6日 典礼・聖歌と祈り研究会
14〜15日 御受難きょうだい会
25〜26日 聖母カテキスタ会
雙葉小6年生練成会

聖書講座【ルカ福音書を読む】

場　所：カテドラルセンター
受講料：5,000円
時　間：毎週金曜日19:00〜21:00

後　期

10月2日 エルサレムへの旅 1　山元　眞神父
10月9日・16日 エルサレムへの旅 2　大水　幸一神父
10月23日 エルサレムへの旅 3　松井　忠之神父
10月30日・11月6日 エルサレムにおける宣教　平田　寛神父
11月13日 イエスの受難と死　松永久次郎司教
11月20日 （テーマ未定）　Sr. 今道瑶子
11月27日・12月4日 イエスの受難と死　松永久次郎司教

※申込方法：教区本部事務局
TEL：092－522－5139
FAX：092－523－2152
9月末日締切り

◆研修会のお知らせ◆

＊講師＝神の母共同体メンバー（米国）司祭・既婚の男性・女性の三名（通訳つき）
＊月刊「毎日の黙想」発行者（邦訳あり）

場所＝福岡カテドラルセンター
テーマ＝「家庭生活における神の救い」
日時＝8月28日〜29日 午前9時〜午後5時
（司教司式ミサ28日午後4時）

場所＝手取カトリック教会
テーマ＝「聖霊の働きと信仰生活」
日時＝8月30日 午前9時〜午後5時
（ミサ聖祭あり）

＊両会場とも、参加費は自由献金です。
申込先＝8月15日までに左記へ会場明記の上ハガキまたはFAXでお申し込み下さい。〒八一五 福岡市南区皿山四—一四—二七 カトリックファミリーセンター FAX 〇九二—五五二—五〇二二

青少年平和巡礼

★広島平和巡礼：8月5・6日
連絡先：中村彰神父
（大名町教会 ☎092-741-3687）
★長崎平和巡礼：8月9・10日
連絡先：森山信三神父
（小倉教会 ☎093-921-0093）
★天草殉教祭：10月25日
連絡先：大水幸一神父
（帯山教会 ☎096-382-9413）

1992年度 天草殉教祭

期　日　10月25日
場　所　祇園橋・殉教公園（千人塚）
本渡カトリック教会
式典行事　カトリックミサ（千人塚）
16:00〜16:30
キャンドル行列（雨天の場合は中止）
出　発　18:30（千人塚）
お祈り　19:40
（千人塚〜銀天街〜本渡カトリック教会）
＝詳しくは、本渡カトリック教会へ＝
本渡市大浜町3-28 ☎0969-22-2758



まだ かけ出しです

小教区に赴任して、はや三か月の月日が流れていきました。この三月に松永久次郎司教様より助祭に叙階していただき、聖職者一年生として毎日がむしゃらに頑張っています。

ここに来て、大きく分けて三つの仕事が与えられました。子供の要理教育（高校生、中学生、小学生）、青年会、そして病人の方に御聖体を持って訪問することです。当小教区は、教会のすぐ近くに信者さん方の家が集まっているため、週日の御ミサにみえる方も多く、子供たちの教会学校も、小・中学生あわせて、二百人ほど集まってきます。私は元来子供がとても好きなのですが、さすが二百人のパワーには圧倒されています。そんな中で、最近気がついたことなのですが、子供たちの御聖体に対する尊敬がうすいように感じられます。これは、どの教会の子供にも言えることかもしれませんが、聖変化のときもそっぽを向いていたり、聖体拝領のときに「アーメン」と答えなかったり、答えても小さな声であったりする子供が多いようです。また、子供たちが御聖体をいただきに来る顔を見ていても、嬉しそうな顔をしている子はあまり見受けられません。もちろん子供たちは、教会学校で御聖体が神様、イエス様であることを聞いて知っています。しかし、週に一時間ほどの教育で、イエス様のすばらしさをすべて伝えることはとうてい無理な話です。そのため、家庭での信仰教育が必要なことは言うまでもありません。

毎週金曜日に病人の方に、御聖体を運んでいます。ご年配の方が多いのですが、そのときいつも感じるのが、どの方も御聖体（イエス様）を心待ちにしておられるということです。あるおばあちゃんは、「今日は本当に良かった。ありがとうございます。」と涙を流して感謝してくださいます。そんな姿を見るとき、「このすばらしい信仰を子供たちに伝えなければ」と思うと同時に、自分自身ももっと見習わなければと考えさせられます。キリストの愛の形見である御聖体に対する信仰を一人の司牧者として広め、かつ、育てていきたいと思っています。

なにぶんまだかけ出しのためご迷惑をおかけしますが、これからも、皆さんのお祈りとご指導を仰ぎつつ、一歩一歩、司祭職への道を歩んでいけるように努力していきたいと思います。

新田原教会　助祭　中村信哉

聖ペトロ使徒座への献金 報告とお礼

ヨハネ・パウロ二世教皇様の宣教活動援助のために、去る六月二十八日に指定献金をお願いいたしましたが、今年は約二百八十万円の献金が集まりました。昨年は約二百二十万円でした。信徒、司祭、修道者の皆様のより一層のご協力を感謝申し上げます。
今後ともよろしくお願いいたします。

（教区会計）

八月命日の司祭

＊アルベルト・ブルトン師（パリ外国宣教会）
一九五四年八月十二日
第二代福岡教区長

＊エミール・ベノア師（パリ外国宣教会）
一九六二年八月六日
元門司港教会主任

＊ミカエル木村義巳師（マリンガ教区）
一九六七年八月十四日
元馬渡島教会主任

＊パチフィコ・マルケシーニ師（フランシスコ修道会）
一九八〇年八月八日
元待労病院付

＊ジョン・オーサリバン師（聖コロンバン会）
一九八三年八月十二日
元熊本地区長

＊マルコ・ボヌカズ師（パリ外国宣教会）
一九九一年八月四日
元田川教会主任

＊ステファノ川口康頼師
一九九一年八月十九日
元小神学校校長

＊教会報、ポスター、チラシ等々…に！

手描き文字セミナー

広報、町内会、PTA、幼稚園のお仕事にいかせる。
講師：濱田美恵子（POPクリエーター1級）
●日時：8月30日（日）PM13:30〜16:00
●場所：大名町カテドラルセンター1F
●受講料：1000円（当日払い）
●主催：教区広報委員会
●申込み方法：教区本部事務局広報部へ TELかFAXで。
TEL.(092)522-5139 FAX.(092)523-2152

小神学校に新しいバスケットゴール

昨年、小神学校の元校長であった川口康頼神父様の葬儀に、かつての小神学生が集まりました。当時の同窓生からバスケットゴール一対が寄贈されました。



九月命日の司祭

＊ピエール・コトレル師（パリ外国宣教会）
一九二八年九月三日
熊本地区で宣教

＊アナトール・ヒューゼ師（パリ外国宣教会）
一九四四年九月十五日
福岡司教館

＊ユスチン・ヴィオン師（パリ外国宣教会）
一九六九年九月二十九日
福岡司教館

＊ピオ・オジョニ師（ミラノ外国宣教会）
一九八二年九月十七日
ロザリオの園付

小神学校基金へのご寄付のお礼

故前畑キクノ様の香典返しとして、前畑秋芳様より金一封を小神学校基金としていただきました。
故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。
一九九二年七月
福岡小神学校　松井忠之

◆休刊お知らせ◆

九月号はお休みです。
十月号をお待ちください。

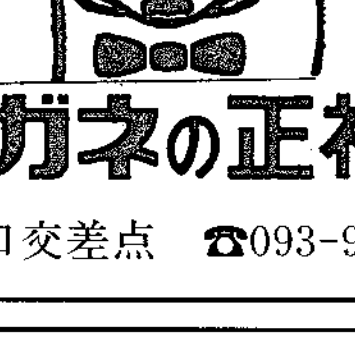
編集室から

▼起きて髪をとくが如く、毎日編集のことを考える。ここはぬけていないかな。ここには整髪料が必要だな。

♡結婚準備セミナー♡
【福岡会場】福岡カテドラルセンター
日　程　9月5日・10日・12日・17日・19日・24日・26日・27日
申込み照会先　福岡市南区皿山4－14－27
TEL092－541－6207
FAX092－552－5022
【熊本会場】手取カトリック教会　信徒会館
日　程　9月7日・9日・14日・16日・20日・21日・28日・30日
申込み照会先　熊本市上通町3－34
TEL096－352－3030
※いずれの会場も毎回午後7:00〜9:20

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋

㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ——安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
（平尾四ッ角）
TEL092－521－0568㈹

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL 092－522－5139
FAX 092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

動きの中に神は在す

小神学校で召命錬成会

去る八月十七日から十九日まで、福岡小神学校にて、福岡教区内の小学生男子を対象に当小神学校の生活を体験してもらおうと、召命学校が開かれた。小神学校校長の松井忠之師の指導のもとに、二十八名の参加者が福岡の小神学生七名、聖母の騎士の小神学生一名、そして大神学生三名と共に、祈りと活動を通して小神学校の生活を味わった。

初日には、まず小神学校についての説明を受け、小神学生による毎日の生活の体験談を聞いた。二日目には、近くにある九州エネルギー館の見学と聖パウロ会の小神学校でのスポーツ交流、そして夕食後には、インタビューというおもしろい趣向で、小神学生が、参加した子供たちに感想を聞き、楽しい一日を過ごした。最終日に、召命祈願ミサの中で松永久次郎司教は参加した子供たちに「福岡教区は、人口や信者数に対して、司祭は少ないので、一人でも多くの人が司祭になってください」と話した。

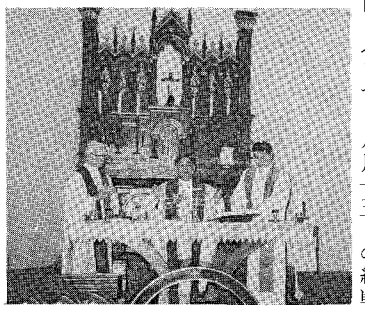


平和祈願ミサ

今年の平和旬間の日曜日八月九日には、教区内の各小教区で平和祈願ミサが捧げられた。福岡教区長松永久次郎司教は、当日熊本手取教会で平和祈願ミサを捧げ、説教の中で次のように語った。

「カトリック教会では、八月六日の広島、九日の長崎両原爆記念日、そして、八月十五日の終戦記念日を含む十日間を平和旬間とし、全国で平和のために祈る。

本当の真理を頂いている私たちカトリック信者は、本当の平和のことを考え、『平和をつくる人は幸い』と言われたイエス様のお言葉に従って、真の平和の協力者にならなければならない。教皇様は、全てを支えているのは愛であると教えておられるが、この点も忘れてはならない。平和は人間の協力で実現する。私たちは、平和のために心だけでなく、私たちの活動も提供しなければならない。そのためにミサを通して神の恵みを祈り求めよう」。



今月のみことば

全世界に行き、すべての者に福音を宣べ伝えなさい。
（マルコ16・15）
田川　L・グロージャン

時の話題

神の願いを知ろう

原　英文

先日新聞で、広島に原爆を投下するために、太平洋上のテニアン島を離陸しようとしているB29（愛称エノラゲイ）の乗員を祝福した従軍神父が、戦後は被爆直後の広島や長崎を見てまわり、反戦運動に身を捧げ、世界平和回復のために一生を送って、最近帰天したというニュースが報じられていた。

戦争による環境破壊だけではなく、今では経済的、商業的な大国の思惑による利害の犠牲となった私たちの住むこの地球について真剣に考えていかなければならない時に来ているといえよう。

貴重な酸素を生み出す熱帯や温帯の森林が無秩序な伐採や亜硫酸ガスの大気汚染による酸性雨のために枯れて、無残な姿を見せている。毎年、日本の森林面積に匹敵するくらいの森林がこの地球上から消えているという。そのため、その場所を生息地としていた動物の生存が脅かされ、かなりの種類の動物が絶滅または絶滅の危機に直面している。また、家庭の冷蔵庫の冷媒ガスとして使われ、毎日便利に使っている自動車のクーラー、ヘヤースプレーの充填ガス、IC産業でのICの洗浄にも使われているフロンガスによる地球のオゾン層の破壊で、太陽からの有害な紫外線が直接地表に届き、皮膚ガンや生物体系に異変が起きるかもしれないと言われている。

ここ十年位で、医学面では医療技術の発達により、多くの難病が克服されて、人類は命を失うことなくその恩恵に浴している。その一方では、エイズ（後天性免疫不全症候群）渦問題が人類を震撼させている。この性の問題は時代を問わず、人類に課せられた大きな課題といわれている。

神がこの問題でも、ご自分の本意が何であるかを知って、目覚めてほしいという願いから、私たち人類に警告と試練を与えているのではなかろうか。

来年のNICEのテーマが『家庭』であり、この性の問題についても真正面から真剣に取り組んでもらいたいものである。

神は人間をご自分の似姿としてつくられ、「地上の万物を治めよ」と命じられた。

「治めよ」というのは人間にとっても、万物にとっても良い環境であってほしいという神の願いなのである。

（直方教会）

司教講演会

熊本地区婦人のため

八月九日午後二時から、熊本地区の婦人を対象にした松永司教の講演会が手取教会で開かれた。主催は熊本地区信徒使徒職協議会。テーマは「家庭―その使命―」

家庭が持っている四つの使命・役割は、「人間仲間―愛の共同体をつくる」「生命に仕える」「社会に参加する」「教会の生命活動への参加」である。

「不平等を耐え忍ぶ心を育てなければならない」「人間は美しく勝つことも、美しく負けることもあるということを教えなくてはいけない」など、意外とも思える言葉の中に大切なことが秘められており、参加者は真剣に耳を傾けていた。講演後に行われたベネディクション（聖体賛美式）では、ご聖体の前で静かに祈り、満たされた一日であった。

各地区で墓地ミサ

死者のために祈る墓地ミサが各地区で行われた。

福岡地区では、八月十五日午後二時に和田墓地で行われた。好天の下、五百人以上の参列者と共に、松永司教と七名の司祭がミサを捧げた。聖母マリアの被昇天の典礼が用いられたミサの中で、司教は「墓地は生きる者の再会の場であり、死者との交わりの場である。信仰者にとっては、愛の絆を強めるものであり、永遠の生命を約束するものである。大切にしなければならない」と語った。ミサ後、糸永武男師をはじめ、この一年間に亡くなられた方々の遺骨が司教の祈りの中で納骨された。厳粛な時であった。



共に祈る松永司教　―福岡―

熊本地区では、十日午後六時より市内の黒髪町にある教区墓地で。司式は手取教会のマッコネル師で、参列者約六十人と共に厳粛のうちに挙行された。先の台風一過で好天に恵まれ、死者を思い出す最も適した雰囲気であった。尚、同墓地には市内の四つの教会がくみする納骨堂が設けられており、この日も新しい納骨を迎えて祈りが捧げられた。

北九州地区では、十五日十一時に市内の葛原で挙行された。雨のため、ミサは納骨堂の中で行われたが、悪天候にもかかわらず参列者は多く、ルルドの広場、畑などにも傘の列が見えた。用意された四百部の式次第はすぐになくなった。司式は八王寺教会のデシャンブ師で外三名の司祭が加わった。尚、堂内には北九州全体から納骨のため、六百三十の枠が設けられている。

助祭叙階式

―伊東成晃神学生―



今春、福岡サン・スルピス大神学院を卒業し、司祭職へ向けて準備をしていた伊東成晃神学生の助祭叙階が決定。十月十六日（金）の午後二時から出身の古賀教会で松永久次郎司教により助祭に叙階される。伊東神学生はこの春から福岡小神学校で松井忠之神父と司祭志願者の指導にあたり、九月からは新田原教会主任司祭竹森勇神父の補佐を務めながら、司牧実習をしている。皆様のお祈りをお願いします。

平和巡礼

教区青少年委員会

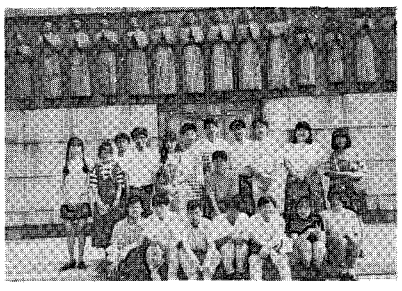
広島では

平和旬間の八月五、六日に福岡から中村彰、青木悟両神父、伊東成晃神学生、青年、高校生の計十三名が広島のカトリック平和記念行事に参加した。平和公園の資料館や慰霊碑を見学し、公園から平和記念堂へ平和を願いながら行進した。その後、三末篤實司教（広島教区長）司式による原爆犠牲者の慰霊と平和祈願ミサに、五日の夜と六日の朝の二回参列。宿泊した翠町教会では各地の青年と交流をした。今後、大名町教会で今回の巡礼の感想を分かち合い、平和について考え、祈り、行動することの意識をあらたにする。

長崎では

八月九日の長崎平和祈願ミサに、福岡から森山信三、川上惣一両神父、中村信哉助祭、青年合わせて約三十名が参加した。原爆資料館では生々しい写真や遺物などが数多く展示され、その当時の様子や原爆の恐ろしさを物語っていた。浦上天主堂での平和祈願ミサと爆心地までのたいまつ行列にも参加した。この巡礼を通して平和の尊さと真の幸せを参加者全員が感じたに違いない。

長崎でお世話下さった多くの方々に感謝したい。



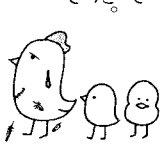
人事

福岡教区修道女連盟担当
山元眞師（任期・今年度一杯）

みちくさ

X師はある教会の黙想会に行った。最近話題になっている「小斎」についても説明した。「小斎は新教会法で復活しました。皆さん守りましょう。毎週金曜日には肉を控えましょう。もし、食べるならそれに替わる愛徳、犠牲、償いをしましょう」という風に。もちろん、食べなくても善業を為すことは相応しく正しいことである▼黙想会は無事に終り、X師は帰途に着く。バスに乗る。夕方のバスは帰宅を急ぐ中高生で一杯だ。けれどシルバーシートだけは空いている。しめしめ、X師はバス料金をサイフから取り出すためにシルバーシートに座ったのである。そして事無くバスを降りた。彼は初老にも達していない▼次は電車である。やはり満席。一緒に乗り合わせた老婆が吊り革に手を伸ばそうとした時、座っていた学生二人が立ち、口をそろえて「どうぞお座りください」と言った。「次の駅で降りますからいいですよ」「いえ、どうぞ」。学生は立ったまま。駅に着いて老婆は「ありがとう」と感謝の笑顔。学生の顔は輝いていた。X師はその光景を目の当りにして愛徳を示せない自分を恥じた。「言うは易く、行うは難し」である。キリストも故事を引いて言われる。「医者よ、自分自身を治せ」（ルカ4・23）又、当時の教師、ファリサイ人に向かって、「あなた方は白く塗った墓のようだ。外側は美しいが内は汚れている」（マタイ23）と言われる。キリストの言葉を説くX師は自分の身に痛みを覚えた。折しもその日は金曜日であった▼反省は猿でもできるそうだ。その後が問題である。

【S】



ロザリオの信心

十月はロザリオの月。聖母マリアが最も喜ばれるロザリオの祈り、そして私たちキリスト者にとって、最も日常的で、身近な信心業である「ロザリオ」の大切さを、今一度思い起こしてみよう。

一、ロザリオの起源

「ロザリオ」という語は、ポルトガル語か、スペイン語のRosarioのいずれかに由来し、キリシタン時代の宣教師によって導入されたとも言われている。ロザリオはコンタツ(ポルトガル語)とも言われ、ラテン語ではRosariumと言われる。聖ドミニコが、異端と戦った時、フランスのツールーズでロザリオの信心が、その武器として聖母から啓示されたと言われており、ドミニコ会士によってロザリオの信心が弘布されるようになった。

二、ロザリオの目的と内容

ロザリオは、まず、信仰宣言の祈りを唱えて信仰箇条を確認する。そして、一回の「主祷文」に続く十回の「天使祝詞」と、一回の「栄唱」は、キリスト又は聖母マリアの生涯の主な出来事を黙想するようにあてはめられ、更に、曜日によって、「喜びの玄義」「苦しみの玄義」「栄えの玄義」の黙想内容が五玄義(五つの内容)ずつ折り込まれている。いわゆる、マリアとともにキリストの救いのみわざを黙想しながら、キリストの救いの奥義にあずかるような内容の祈り(信心業)である。ロザリオの祈りは、司祭の唱える聖務日課(教会の祈り)の代わりになるような目的も含まれており、「小聖務日課」とも呼ばれるぐらいである。

教会は、一年の中で最もすばらしい月である五月を聖母月に、そして、十月をロザリオの月にそれぞれ定めている。喜びにつけ、悲しみにつけ、気軽にはせ参じて想いを寄せながら、人生の旅路の希望の星と仰ぐ、私たちキリスト者の母であるマリア。そのマリアが最も喜ばれる信心業であるロザリオ。それは子供から大人まで、いつ、どんな時でも、どこでも、容易に、単調に、なおかつリズミカルに献げ、唱えることの出来る祈りの花束でもある。

私たちは、人々へのお祝いと喜び、尊敬と感謝のしるしとして、季節ごとの美しい花束を贈って、人を喜ばせることに嬉しさを感じる。

同様に、聖母マリアの好きな「主の祈り」という花、「天使祝詞」という花、そして、「栄唱」という花を、美しい『ロザリオの花束』として、ことある度毎に、マリア様に献げて、聖母マリアへの信心をなお一層深め、大切にするように努めよう。

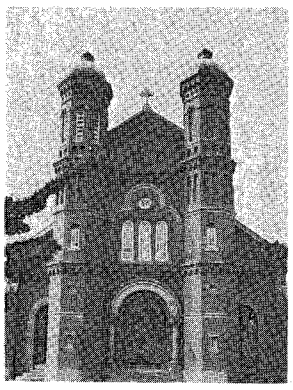
新田原教会・竹森　勇神父

今村教会は一二五周年準備

今村・本郷両教会は、潜伏キリシタンが発見されて、百二十五周年を迎えています。

今村での奇跡的な信徒発見は、福岡教区全体の喜びであり、誇りでもあると考えます。

祖先たちから代々信仰の遺産を受け継いだ両小教区の信徒は、松永司教様の要請のもと、一致協力して、信仰の祖先をふさわしく顕彰し、自分たちの信仰を活性化させ、使命を一層自覚するために十一月二十三日に、「今村信徒発見百二十五周年記念式典」を盛大に催すべく、毎日祈りながら準備に取り組んでいます。



現在は、六つの小委員会を組織して仕事を分担し、各小委員会毎に話し合いを重ね、出された意見を実行委員会で検討し、承認または決定しながら準備を進めています。「記念誌」の発行準備も進められています。

記念式典会場には、二千名位収容できる場所と駐車場の手配もめどがつきました。当日の記念式典には、喜びを共に分かち合い、私たちの信仰を一層奮い起こす契機となすためにも、皆様の多数のご参列を心からお待ちしています。

今村教会・中浜一男神父

NICE・キャッチ1

ご存じのように来年十月下旬に、長崎で「第二回福音宣教推進全国会議」が開催されます。第一回は今から五年前に京都で開かれました。

この会議は、どのように福音宣教を推進していったらよいかを考えるために、全国の各教区から代表者が集って開かれるものです。福岡教区には、この会議のための「準備委員会」がありますが、今回から教区報で「全国会議」への教区としての取り組みを紹介しながら、信徒の皆様のご協力をお願いしてまいりたいと思います。

この欄の見出しは「NICE・キャッチ」としました。それは「福音宣教推進全国会議」の英語訳の頭文字をとると「NICE」となり(日本語で「ナイス」と読みます)、それについて知っていただきたいことをこの欄で取り扱っていくからです。ちなみに、「福音宣教推進全国会議」のことを「ナイス」と呼んだり、単に略して「全国会議」といったりします。

「全国会議」は、それぞれの小教区や小グループで分かち合うことが土台になっています。この「分かち合い」こそが、NICE(ナイス)そのものであり、全国会議はその結果にすぎません。

分かち合いは、七月に司教団から出された「課題」についてしていただきますが、十一月下旬までに準備委員会の方で「手引き」を作ります。

この十一月中までに、皆様にしていただきたいことは以下のことです。

一、司教団が出したメッセージと全国会議の「課題」を読んでいただくこと。(教区報八月号、くろすろーど第一号参照)二、来年の聖霊降臨祭までの主日の一日を「福音宣教を考える日～第二回全国会議に向けて(仮称)」に決めていただくこと。

詳しくは来月号でご説明いたします。

準備委員会担当・山元　眞

生と老い・死をみつめる会

「福岡　生と老い・死をみつめる会」(代表　高宮教会　鬼木保之)が発足しました。

「現代の私たちは、老人や病人、孤独な人々の生と老い、死について無関心になりがちです。宗教・宗派を問わず、生と老い、死について考え、学び、行動することをめざしています。」(趣意書)

福岡では老いを会の名称に加えました。十月十七日の大名町教会でのデーケン教授(顧問)の発足記念講演会を通し、広く市民の方への呼びかけをします。いろいろな分かち合いを考えた定例会を毎月最終日曜日(十四時)に大名町教会で開きます。



教区の各地に同様の会が、発足することを願っています。

連絡先

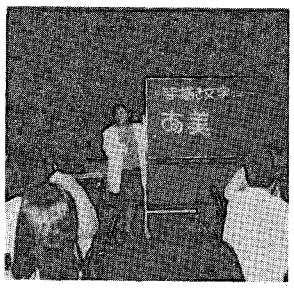
浄水通教会・大山美穂子

☎〇九二・七二三・八五三三

手描き文字セミナー
～広報研修会～

八月三十日午後一時三十分からカテドラルセンターで広報研修の一つとして「手描き文字セミナー」が開かれた。講師はPOPクリエーター一級の資格を持つ溝田美恵子さん(小倉教会所属)。大名町、糸島、本郷、小郡、小倉教会や女子パウロ会から十五名が参加。ポスターやチラシを作る際の注意点や要領を楽しく学んだ。

何よりも読みやすいこと、楽しさを表すようなデザインを考える、キャッチフレーズは十五文字以内、紙面の中に強弱をつける、色合いを大切に、ふさわしい道具選び、などについて指摘があり、具体的に実習をした。



次回は十一月十五日にカテドラルセンターで。読みやすいレイアウトや見出しのつけ方について研修する。(詳しくは「くろすろーど」参照)

知っておきたい教会法
結婚の準備(2)



前回は信者は教会で結婚式をしなければならないこと、できるだけ早く挙式の受け付けをしていただきたいことを述べました。その理由の一つは結婚をよく準備するためです。結婚「式」の準備は万難を排して行われているようですが、結婚そのものの準備が、まず大切だと思います。

教会で式を挙げるためには結婚準備セミナーに参加しなければなりません。このことは今では信者でない方にもよく知られています。準備セミナーは地区で行われている場合もありますが、それぞれの小教区で行われている場合がほとんどです。そして、時間やプログラムもそこそこで異なっていますが、その目的は一つです。「結婚」をよく準備するためです。

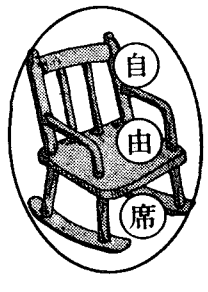
かつては「結婚の要理」と呼ばれて、公教要理の復習をしていましたが、最近は相手方が未洗者であったり、当人が永い間、教会を離れていたりするケースが多いので、生き方の問題やしっかりとした宗教観や価値観を持つことの大切さが説かれています。信者にとってはこれだけで充分なわけではないのですが、教会側にとっても当人たちにとっても、これだけで精一杯というのが現状のようです。

それもこれも、教会への挙式の申し込み状況を見ていますと、信者でない方は随分前から相談に来られるようですが、信者の方がのんびりしていたり、義務感からなのか、ぎりぎりになって申し込む場合が多いようです。

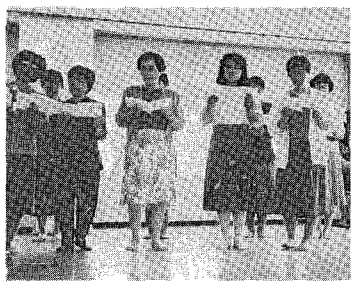
以上のような理由から、挙式の申し込みは披露宴会場などを決める前に、出来るだけ早くしていただきたいと思います。

(山元　眞)

施設訪問をして



「あなたが人にしてくれたことは私にしたのである」とキリストは言われる。現代多くの魂が愛されることを求めている。そして多くは触れ合いの中で満たされる。私たちの教会では、毎年六月に近くの身障者施設を訪れる。今年も婦人会と教会学校の子供たちが一緒になって触れ合いを求めて訪問した。園生は思うようには動けない身体で合奏をして私たちを迎えてくれた。神の栄光を感じた。その時の感動は何にも勝るものであった。私たちは聖歌を合唱し、子供たちは劇をし、主任司祭も芸を披露した。最後はフォークダンスでしめくくった。



お互いに別れを惜しむ程のすばらしい交流となった。今は同和・差別と高い壇から話されるが、実際に弱いと思われる人とどう関わっているのかが問題であろう。自らの体験を通してこそ多くを語ることができるのではあるまいか。身近な人から愛を示そう。私も弱いが、あなたも弱い。だからお互いに支え合って生きていこう。私たちには未来も大切だが、今が最も大切なのである。弱い自分がどれ程必要とされているか、神に栄光を帰するためにそれを問い続けたい。

小郡教会・婦人部(M)

心をひらいて　10月　10日(土)
むなかた・TEN・TEN　まつり
10月9日(金)　前夜祭　「おとなも子どもも行ってみよう!」
福岡黙想の家
〒811-41　宗像市名残1056　☎0940-32-3222
※JR赤間駅南口よりバス　自由ヶ丘南2丁目　下車

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

神の恵みの体験

キャンプ

北九州CYG

二十五周年を迎え、北九州CYG（カトリック・ヤング・ガールズ）の大きな活動の一つである夏季キャンプが、今年は「あたたかい心を咲かそうCYGの花」というスローガンのもとに行われました。小教区を超えて仲間たちが出会い、奥日田（上津江村）の美しい大自然の中でおいしい空気を味わいながら、子供たちは元気いっぱいに、神様やお友達のこと、そして自分のこと等を学びながら過ごしました。

キャンプの最終日は「みんなみんなありがとう！」というテーマで過ごし、ミサで、各自が咲かせた「あたたかい心の花」で祈りました。

今、静かに祈る時、笑顔いっぱいの子供たちの姿が浮かんできます。

神父様はじめ、バスを運転して下さった方、リーダーたちの深い信仰と、子供大好きの情熱に支えられた有意義なキャンプでした。

北九州CYG・リーダー





写真＝上　北九州・下　熊本

熊本地区

熊本地区サマーキャンプが、七月二十三日から二十五日にかけて天使園で行われました。

今回も、市内と郡部の九つの小教区より小学高学年、中学生、総勢七十名が参加しました。

今年は担当者の交代がおくれたため、熊本信徒協総会後にキャンプ地の場所決定となり、計画、準備、実施までに十回の会議を重ねました。

大きなテントを張り、神が恵まれた自然と親しみ、きっと心に残ったことでしょう。

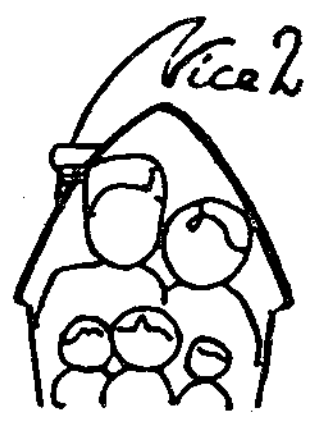
良く準備されたプログラムでは、子供たちが「隣人愛」をよく捉えることができた様です。

キャンプファイヤーの出し物では、各班がアイデアを凝らしていました。中でも、善きサマリア人の劇は、心にくいほどの感動を与えました。

ある男子の「僕は来年参加できない。残念だ。参加したい！」との声を聞いた時、神は私どもの祈りを聞き入れて下さったのだと実感致しました。

神の導きと人々の協力に改めて感謝したキャンプでした。

熊本地区信徒協司牧部
藤井恵美子



家庭　第2回全国会議に向けて

家庭の中の祈り

結婚して十四年、父母と同居し五人の子供に恵まれ、昨年は父母の結婚六十周年を盛大にお祝いすることができました。毎日の平和と幸せを心から神に感謝しなければと思っていた矢先、高齢とはいえ突然の事故で今年の三月母を亡くし、八月には父も亡くしました。

人並に「人生とは何だろう」と考える歳になりました。

今、家庭の中での祈りが少なくなったと言われます。わが家も家族揃って家庭祭壇の前に跪くことが少なくなっています。中でも「子供と共に祈る」ことの必要性と大切さを強く感じながらも、ついつい毎日の生活の忙しさに流されていることが多いようです。中学二年生の娘を頭に五人の子供を育てていると、当然、祈りの方法や内容も「同じ」という訳にはいかないようです。幼児期の頃、小学生低学年の頃、小学生高学年から……。大人の祈りや、どこの家庭でも使っていたと思われる文語体の「黒い祈り本」を利用しても、私自身がそうであったように、今の子供たちにはますます分かりにくく面白くないものになっているような気がします。私たち夫婦は、子供たちとの祈りをなるべく子供に分かる言葉で、神さまと会話ができるようにと心がけて来ました。

しかし、子供たちが成長してくるとそこにもう一つ工夫の必要性を感じているのも事実です。私たちと同じように、子育て進行中の皆さん、参考になるご意見を教えてください。ご一緒に考え、がんばりましょう。

子供たちと共に祭壇の前で手を合わせる時、何よりもまして心がなごみ、今の幸せと平和と「神の豊かな愛」を感じます。

内藤　正・律子（小倉教会）

佐賀地区でも

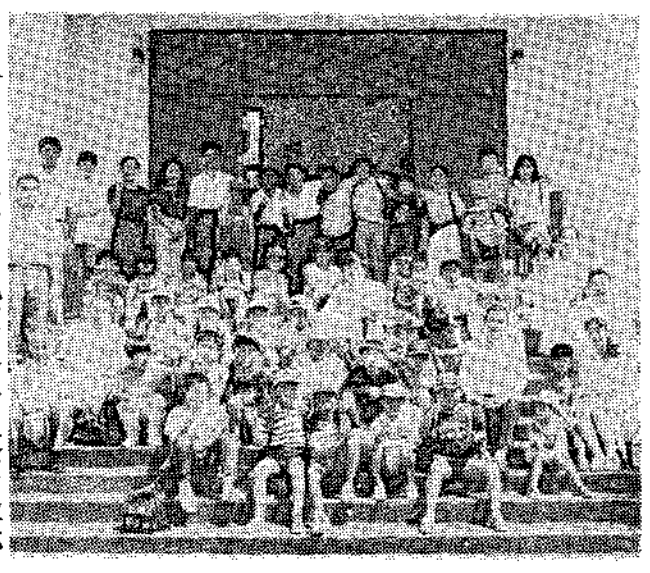
今年の小学生夏季学校は、神父様の「厳しくしましょう」というお話で始まりました。実際子供たちに接してみると、私たちの時分とは大分様子がちがいます。無関心、無感動、無責任、根気が無い、敏感すぎるなどの子供についての声は、よく耳にする言葉ですが、残念ながら、今回の夏季学校の中でも確かにそういう部分が多く見られました。兄弟が少ない、マスメディアの影響、便利、快適、使い捨ての奨励、また目に見える形のみを重視した価値判断など、心の貧しい文明が、子供の意志と知性を複雑にしてしまっているのでしょう。それでも子供たちの心は、真理の光に照らされたいと精一杯に神様の方へ向かっています。この出会いは、お互いの心が育まれたよい三日間でした。

佐賀教会・櫻井文子

修道会では

小・中学生召命錬成会

七月二十一日から二十三日まで、福岡・小笹の聖パウロ修道会志願院で子ども召命錬成会が開かれた。三十四名の小・中学生が集まり、福岡県内の子供たちが大半でしたが、遠くは横浜、大阪、唐津、鳥栖、そして長崎県の平戸からも参加した。



一日目は自己紹介、修道院案内、二日目は先輩志願者の召命のきっかけの話や同じ家族修道会のシスターたちのお話、そして小学生の子供たちの質問に対する先輩志願者の応答。午後は広いグラウンドでスポーツをしたりゲームをして楽しみ、夜、キャンプファイヤー、バーベキュー、花火で楽しい一日を過ごした。最終日に子供たちが書いた感想文には、大半がバーベキューや花火大会がとても楽しかったと素直に記していた。朝食後、感謝のミサ、記念写真を撮り、また来年を期して散会した。

今回多勢の子供たちの参加があったことについて、教会の神父様方やシスター、ご両親の召命への温かいご配慮の表れだとして感謝している。

聖パウロ修道会
永富久雄神父

福岡地区では

光丘教会では、七月二十五～二十六日、子供三十四名、スタッフ二十名が古賀教会でキャンプを行いました。

朝十時三十分に到着、早速テントを張り、子供たちに箸を自分で作らせようと竹を持参し、ナイフを持たせたものの、日頃使ったことのない子供たちは四苦八苦。昼食後は海で思う存分泳いで、夕食は嬉しいバーベキュー。夜は楽しいキャンプファイヤー。忘れられない思い出になったと思います。

「今年こそは、子供たちに何でもさせて、大人は指導、助言の方に回りましょう」と言っていたのに、結局主だった所は全部大人がやってしまったような気がします。でも、生ゴミを捨てる大きな穴を掘ったり、ブロックを運んだり、汗いっぱいかきながら、一生懸命働いているスタッフの姿を見て、中、高生の子供たちは「すごいな！」と感嘆していました。半分手伝いながら、いかに大変かを痛感したからだそうです。その時、私はこの子供たちも、いずれ大人になった時、子供のため、人のために働く人になれると思いました。

とても意義のあるサマーキャンプでした。

光丘教会・永田妙子

幼稚園のできごと

湯川カトリック幼稚園

夏休み、ウソのように静かだった園舎も、二学期が始まると同時に子供たちの元気な姿が戻ってきました。やっと泣かずに登園できるようになっていた三歳児のA子ちゃん、またまた四月、五月の頃に逆戻り。A子ちゃんを抱いてなだめていると「わたしも抱っこして！」と目で訴え、なかなか部屋にあがろうとしないB子ちゃん。担任のひざの上に座ろうと、いつも二、三人の子供たちが「ぼくも！」「わたしも！」と奪い合っています。「せんせい、あのね…」と昨日の事を一気に話し始める子。カバンをかけたまま遊び始める子。担任に挨拶をしないと決して部屋に入ろうとしない子。五歳児ともなると、担任よりもまず友達、「今日は○○してあそぼー」と、さっそく約束です。どこの園でも見られる朝の光景でしょうか。

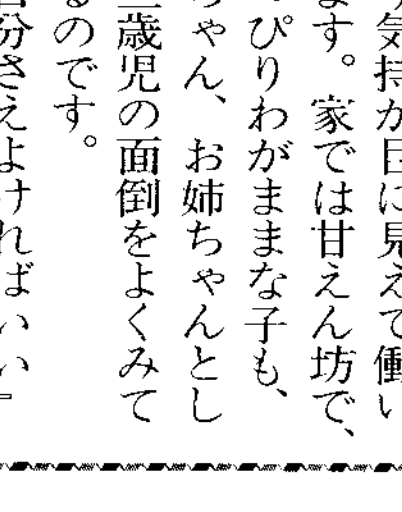
三歳児、四歳児を縦割りとする当園では、二学期ともなるとその差がはっきりしてきます。四歳児は自分より小さな子をいたわり、お世話するという気持が日に見えて働いています。家では甘えん坊で、ちょっぴりわがままな子も、お兄ちゃん、お姉ちゃんとして、三歳児の面倒をよくみてくれるのです。

『自分さえよければいい』という考え方の多くなった現代ですが、幼いこの時に、たくさんのお友達と遊び、たくさんのことを経験し、出会う人との触れ合いを大切にして、人を思いやる気持、人に優しくできる気持を育み、それをいつまでも失ってほしくないと願っています。

主任教諭

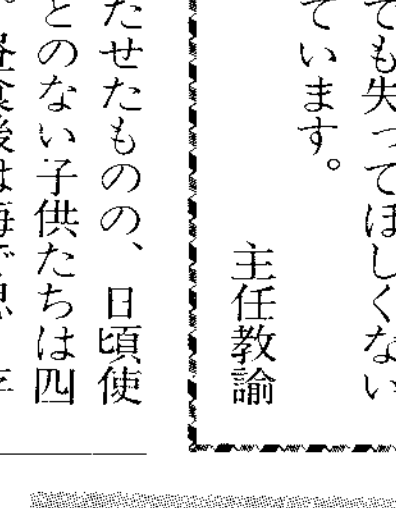
BOOK　読みま専科

★女であることの恵み
ブラキエール 著
福岡カルメル会訳



神の意図された女性像。女性であることを幸せに思う。著者の女性に対する神のご計画を観想した分かち合いの書。
女子パウロ会　一、二〇〇円

★家庭へのメッセージ
山内　清海著



本来の家庭のあり方を教皇ヨハネ・パウロ二世は「家庭」と「家庭権利憲章」によって示されました。

この本は前記の勧告を解りやすく、宗教・思想の異なるすべての家庭人に解説しています。
中央出版社　一、三〇〇円

『モニカ祭』行われる
＝カテドラルにて＝

八月二十七日、福岡地区婦人会の保護聖人「聖モニカ」の祝日に、今年も午前十時からミサと一年間に亡くなられた方々の追悼式が、堤要吉、山川辰幸両司祭の司式で行われました。各教会の会員と追悼者の御家族約百二十名が参加。堤神父様の聖モニカの生涯のお話は、妻、母の祈り、家庭の大切さをあらためて強く感じさせて下さいました。

家庭の祈りが世界を救うと信じ、一層祈りましょう。

浄水通教会・大山美穂子

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

十・十一月の行事

※ゴチックは司教日程

十月

「教皇文書勉強会」7・21・28日
2日　後期聖書講座第1回
9日　聖書講座第2回
12～16日　教区司祭黙想会
16日　助祭叙階式
聖書講座第3回
17日　デーケン師講演会
18日　小倉教会堅信式
23日　聖書講座第4回
25日　天草殉教祭
30日　聖書講座第5回

十一月

1日　教区和田墓地ミサ
笹丘教会堅信式
3日　大神学院召命の集い
6日　聖書講座第6回
9～11日　教区全司祭研修会
13日　聖書講座第7回
15日　光丘教会堅信式
教区広報研修会
19日　大神学院祭
20日　聖書講座第8回
22日　新田原教会堅信式
23日　今村信徒発見125周年祭
27日　聖書講座第9回

福岡黙想の家
4日　結婚式
5～6日　クルド・インマヌエル教団祈りの集い
9日　TEN・TEN祭り前夜祭
10日　第2回むなかたTEN・TEN祭り
12～16日　教区司祭黙想会
17～18日　奉らぎ会黙想
18～24日　サレジオ会黙想
浄水通教会婦人会
25日　黙想
26～30日　コロンバン会黙想
26～31日　パリミッション会黙想

日本文化とキリスト教

テーマ：東洋と西洋の出会い＝湯布院＝
とき：11月15日　13時半～15時
ところ：湯布院町大字川上庄屋の里
　福音の光修道会祈りの家
講演：「日本文化とキリスト教」
　＝新作能体験＝
講師：門脇佳吉神父(上智大教授・イエズス会)
　観世流仕舞、謡曲　福岡森本松涛会社中
入場料：2,000円
申込締切：11月5日（定員100名）
問合先：福音の光福岡修道院 ☎581-1663

風と共に去らないように

忘れられない台風十九号。めったに経験できないその凄さ。一年経つのに生々しく脳裏に残っている。筑後平野では未だに爪跡は消えない。当教会の司祭館のガラスは割れ、屋根ははがれ、部屋からは天空が顔をのぞかせていた。屋根のない家だった。聖堂も倉庫も瓦をまるで手裏剣の様に飛ばしていた。樹齢四十年の杉の大木も四十本位倒された。とんでもない事になったものである。明日は天下の堅信日というのに。司教様からは、「堅信式はできるかね」と心配のお声をいただいた。「大丈夫です」と返答はしたものの、どうなることやら。リハーサルはその夜、ろうそくの光の中で行った。電気のない時代が偲ばれる。リハーサル中にやっと通電した。当日のための食事の準備はその時から大急ぎで行われた。そして式は、嵐を忘れたかのように、厳かに、盛大に行われた。聖霊の力は式以前にも働いていたのを感じた。

神は時として私たちの思惑を超えて事をなさる。それは人間に神の存在と偉大さを悟らせ、つねに助けの与え主であることを学ばせる。それ故に、自分の思いよりも神のみ旨の前に謙虚でありたい。

かつて、人間のエゴは神より偉大になろうとし、逆になす術を失ってしまった。けれど、神の前にぬかずけば神は必ず立ち上がる力を与えてくださることも身をもって知ることができた。それは後世に亘っても変わることはない。

今、大相撲が人気を博しているが、先代の二子山理事長(元横綱・若ノ花)がNHKテレビでこう話したのを覚えている。聞き手のアナウンサーが「貴花田が優勝しましたが、そもそも力士の強さはどこにあると思いますか」理事長はすかさず、「頭を上げないで低い姿勢でやることです。そしてやる気を出して稽古することです。これは普通の人も同じではないですか」と言った。なる程、と思った。私たちは、キリスト様のように低い姿勢で、しかし自分の使命に奮起して前進しよう。

叙階して早九年になる。いろいろと心配をかけ、迷惑をかけてきた。人々の情け深さに今更ながら感謝している。司祭職という尊い仕事にくっついていることができるのも周りの人のお陰である。これからも宜しくお願いしたい。出合った事柄を大切にして、神と人人の前に相応しい自分を作りあげていきたいと思っている。「初心忘るべからず」である。

小郡教会・下町豊重神父

召命の集い'92ご案内

＊テーマ：イエス様しか見えない
　＝マラナタ　私の家庭に＝
＊とき：11月3日(火)
＊ところ：福岡サン・スルピス大神学院
＊対象：神様に呼ばれている全ての人々
＊申込み：10月10日まで
　主任司祭にお尋ねください

《プログラム》
8：30　受付開始
9：30　開会式
　(歌の練習)
10：15　召命祈願ミサ
11：30　昼食
　(12:10 神学校紹介ビデオ)
12：45　観劇
13：40　レクリエーション／神学校紹介ビデオ
15：00　閉会式・解散

＊作品募集〈問い合わせ先〉
☎092-864-4203　実行委員長　大水文隆
＊上記プログラムは晴天時のものです
　雨天の場合は当日詳しくご案内致します

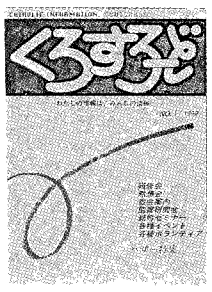
老いと死をみつめて

講師：アルフォンス・デーケン
　(上智大学文学部教授)
日時：10月17日(土)10 A.M.～12P.M.
場所：カテドラルセンター1F
入場料：500円（定員300名）
主催：生と老い・死をみつめる会
協賛：福岡信徒使徒職協議会

コンサート「祈りのクリスマス」
＝古楽器と歌による中世の
　クリスマス・キャロル＝
演奏：つのだたかし　と
　アンサンブルエクレジア
北九州：11月29日(日)　開演18：30～
　カトリック小倉教会
　入場料1,500円(全自由席)
福岡：11月30日(月)　開演19：00～
　カトリック大名町教会
　入場料2,500円(全自由席)
主催：テクラサウンド(女子パウロ会)
後援：カトリック大名町教会・スペイン大使館・英国文化センター・広島エリザベト音楽大学

※いずれも　問い合わせ先
聖パウロ書院　☎092-741-4588

◆情報誌発行◆



教区情報誌「くろすろーど」第一号が九月十五日に発行された。今回はバザー特集。購読申込者数は現在約五百名。年六回発行。講読料は年間三千円（送料込）で聖パウロ書院でも販売されている。（頒価三五〇円）申し込みは教区本部か聖パウロ書院へ。（住所、氏名、TELを）

主の道を求めて

汚れなき聖母の騎士 聖フランシスコ修道女会

汚れなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会は一九四一年八月十四日、聖母被昇天祭の前日、聖マキシミリアノ・マリア・コルベ（ポーランドのアウシュビッツの捕虜収容所で、一人の父親の生命を救うため自ら進み出て身代りとなり餓死刑を受けてキリストの愛を証し殉教。一九八二年十月十日教皇ヨハネ・パウロ二世によって列聖された）の意向にもとづき、死後八年目に創立されました。

日本では、最初の会員七名が、汚れなき聖母への全き奉献を通して神の御国のために活動する修道女会として、一九四九年十二月八日、聖母の無原罪の御やどりの祭日に、長崎県北高来郡小長井町の山奥の小さな聖堂で、創立者ミエチスラオ・ミロハナ師より修道服を受け、修道生活の第一歩をふみ出しました。

一九六〇年四月には、当時の福岡教区長深堀仙右衛門司教様の要請により、佐賀県鎮西町馬渡島に渡って愛苦会とその事業である養護施設聖母園の仕事をゆずり受けました。現在本会は、聖母のお望みに従って社会福祉事業、医療事業、教育事業、出版事業、難民救済事業などを行っています。

これらすべては聖マキシミリアノ・マリア・コルベの精神にもとづき、多くの人々を永遠の幸福に導くために捧げられています。

1992年度 天草殉教祭

期日：10月25日(日)
場所：祇園橋・殉教公園(千人塚)・本渡カトリック教会
式典行事：カトリックミサ(千人塚)
　17：00～18：00
　キャンドル行列(雨天の場合は中止)
　(千人塚～銀天街～本渡カトリック教会)
　出発　18：30(千人塚)
　お祈り　19：40
詳しくは、本渡カトリック教会へ
本渡市大浜町3－28
☎(0969) 22－2758

音楽と演劇の夕べ

新しいアジアのために'92
日本・フィリピン両国芸術家
ジョイント・イン・ジャパン
とき：10月14日(水)　18時30分開演
内容：劇《サンタローザへの帰郷》
　《紫－とりでー》／音楽
ところ：福岡市少年科学文化会館
協力券：一般 2,500円（当日 3,000円）
　中高生 1,000円（当日 1,300円）
　小学生 500円（当日 800円）
協力券は福岡パウロ書院／教区本部にあります
その他の問合せは劇団はぐるま座九州事務所へ
☎(092) 474－3960

◆お詫びと訂正
天草殉教祭ミサは**午後五時**からです。お詫びして訂正いたします。

十月命日の司祭

＊エミール・ラゲ師
（パリ外国宣教会）
一九二九年十月三日
福岡司教館
＊ジャン・バプチスト・ドラビ師（パリ外国宣教会）
一九六七年十月二十三日
元黒崎教会主任
＊ジュリオ・ベルトラン師
（パリ外国宣教会）
一九八七年十月二十七日
元門司港教会主任

編集室から

▼今月号は九月・十月の合併号となった。二カ月分は多過ぎて、まるで愛のように紙面に満ち溢れる。従って、お載せできなかったもの、文字を削らせてもらったものもある。紙面を借りてお詫びしたい▼常々思うのだが、忙しい中で、どの教会もグループも信仰を表すために頑張っておられる。全てお載せして、宣教の実りを紹介できたら良いのだが。

福岡地区教会学校リーダー会
教会学校における性教育
(生命は神のめぐみ)
日時：10月19日(月)　10：30～15：00
場所：カテドラル(大名町)1階講堂
会費：1,000円　弁当500円
申し込み：福岡教区本部　深堀邦枝

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る(つく)
FUJIKI **藤木工務店**
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
(平尾四ッ角)
TEL092－521－0568㈹

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町　豊重
TEL 092－522－5139
FAX 092－523－2152
振替口座 福岡6－20729
定価一部60円

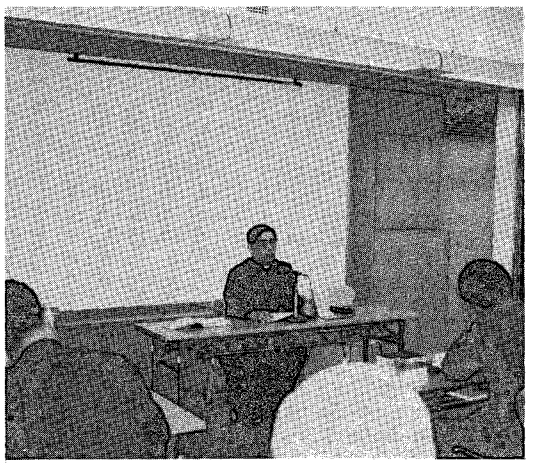
教区司祭黙想会

司祭も信者の一人

ともに喜びをもって生きよう

―教区長みずからが指導―

十月十二日から十六日まで、宗像市の御受難会黙想の家で教区司祭の黙想会が開かれた。現役の教区司祭全員が参加。教区長松永久次郎司教の指導を受けながら、祈りの中に信仰と司牧の原点を確認し合った。



信者一人一人を思いながら司祭団に語る松永司教

昨年の黙想会と同様、引退と病気療養中の司祭を除く全教区司祭三十五人と助祭一人が参加。教区長みずからの指導を受けながら、信仰と司牧の原点を確認し合った。

松永司教は計八回の説教を通して、信仰の原点である三位一体の教えを中心に、教会のあり方や聖母マリアについて語った。教義の説明に加えて教区司祭の司牧のあり方についても具体例を引きながら説明。参加司祭は教区長の神学を理解するとともに、各自の司祭職について黙想した。

教区長の説教は「司祭も信者の一人」という言葉で始まった。

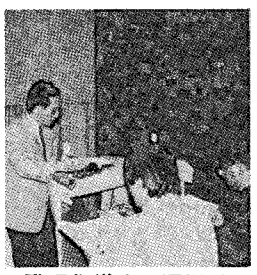
―ひびく歌ごえ―

黙想会の初日と二日目の夜は、福岡サン・スルピス大神学院教授の深堀純氏（大名町教会所属）を招き「教会の祈り」と「歌唱ミサ」の歌の練習が行われた。

「教会の祈り」は昨年の黙想会から歌うようになったが、今回は「歌唱ミサ」も含めて典礼での詩編の歌い方を正式に学ぼうと企画された。

指導にあたった深堀氏は、現代典礼研究会委員でグレゴリオ聖歌の造詣も深く信徒の典礼聖歌の研修会も二ヵ月に一度の割合で指導している。

二日目の「歌唱ミサ」の練習は一時間半に及んだ。今回の黙想会では、説教と食事の前後に歌で祈り、「教会の祈り」もすべて歌われた。歌声が響きわたった黙想会だった。参加司祭の一人は「あっという間に時間が過ぎてしまった。歌唱ミサも少しずつ歌えるように練習して行きたい」と述べ、指導した深堀氏は「司祭の真剣な姿勢に感動しました。教区司祭団の一致が感じられ指導させていただいたことに感謝しています」と語った。



歌唱指導する深堀氏

◆**教区司祭とは**――在俗司祭ともいう。一般社会に住んで宣教と信者の司牧を行う司祭で、修道会司祭、宣教会司祭と異なる。教区に所属し、その教区長と後継者に尊敬と従順を誓う。

司祭はキリストを信じる者の一人として謙遜の徳を身につけ、自分の弱さを自覚して祈りと修養に励まねばならない。ミサを大切にすべきであり、特に主日の説教については準備をしっかりしていただきたい。思いつきの説教をするのは「限りなく大罪に近い過失」とさえいうべきである。

聖アウグスチヌスは「司教は職の名前。信者は恵みの名前。信者の一人であるというのが喜びであり、慰めである」と言っている。司祭は奉仕のために呼ばれているのであり、よりよく奉仕するためには信者、修道者を愛をもってよく理解するように努めねばならない。司祭は他人の救いに奉仕することによって自分を救うのであり、その務めに専念することが自分の救いの道なのである。

参加司祭の一人は「教区長から直接に黙想の指導を受けたことに意義がある。教区長や他の司祭との関係も深まったし、すばらしい黙想会だった」と述べた。

これは参加者を代表する言葉といえるだろう。

今月のことば

吟味しない人生は悲劇である

（プラトン）

菊池　R・オウエンス

時の話題

森　清

十一月一日は諸聖人の祝日であり二日は死者の日です。聖人と言えば根源である十字架上の主の崇高な姿、痛ましい姿が想い浮かびます。主は友である私たちのために命を投げ出してくださいました。アウシュビッツのコルベ神父は隣人のために餓死刑を甘んじて受けました。

一粒の麦としてこの世を去りました。現世的に見れば惨めな死でしたが、コルベ神父の美しい愛の心に私たちは感動を覚え、憬れを感じます。

私たちが到達出来ぬ程の高い境地の聖者の美、心の美しさ。反面、私たちが嫌悪する醜の世界には美はなく、悪を楽しむ心、人間の弱さがあるようです。私たちは自分自身の心を見つめ、いわゆる凝視し、心の手綱を引き締め、心を御して行かねばなりません。愛の掟（天主の十戒、公教会の掟）に従いながら。

美（真理）への憬れ

一九九一年十月三十日、カナダ最北部の北極圏でカナダ軍輸送機が墜落。乗っていた十八人のうち五人が死亡し、事故時、無傷だった機長ジョン・コーチ大尉（32）が、負傷した要員を保護するため自分の防寒ジャケットを貸し与え、そのために極寒の中で凍死していたと言います。三浦綾子著『塩狩峠』の主人公の青年は暴走する客車の人を救うため、自己の身体を歯止めとして鉄路に身を投じます。一九五四年九月二十六日、青函連絡船「洞爺丸」が台風15号により転覆、千百五十五人が死亡した時、一外人宣教師は自己の救命ジャケットを隣人に譲って波間に消えたと伝えられています。常人の即座に実行出来る事ではなく、ご本人の日常の心掛け、修養の賜物、信仰の結実と言えるものかも知れません。

以上、美しい心の人の軌跡を羅列しましたが、地の塩である教会は、聖なる公教会であるところに値打ちがあり、それであるが故に、連綿と続いていくものであるかも知れません。

「あなたがたは地の塩である。だが塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである」（マタ5・13）

（八王寺教会）

信徒発見125周年を待つ今村教会



ご案内

今村信徒発見125周年記念式典を下記のように挙行いたします。

記

司式：福岡教区教区長
松永久次郎司教

日時：11月23日（勤労感謝の日）
午前10時　感謝ミサ・記念式典
午後12時30分　祝賀会

場所：大刀洗町立勤労者体育センター
三井郡大刀洗町本郷625

今村カトリック教会　主任司祭　中浜一男
本郷カトリック教会　主任司祭　川上惣一
今村信徒発見125周年記念式典実行委員会
委員長　青木康雄
副委員長　柳　義明

※問合先　川上惣一神父（本郷教会）　☎(0942)77－0011

＊会場案内図4面に掲載

NICE・キャッチ2

まず「課題」を

来年の秋に長崎で開かれる第2回福音宣教推進全国会議の課題は「家庭の現実から福音宣教のあり方を探る～神のみ旨に基づく家庭を育てるために」に決定（教区報八月号既報）。

この課題を達成するために日本の司教団は三つの段階に沿って準備するように勧めている。まず、この「課題」を一人でも多くの教区民が読むことが望まれる。

第一段階は「共感と共有を求めて家庭の現状を見つめること。

福岡教区では、昨年度中に四つの地区で公聴会が開かれ、今、家庭が直面している問題を挙げ、それについてある程度の話し合いをした。その結果は準備委員会でまとめられ、今年の五月に福岡教区の「課題案」としてナイス事務局に提出された。

今後は先の公聴会で出た問題を「共感と共有を求めて」各小教区や修道会、司祭団のいろいろなグループで分かち合う。すべての問題を取り扱う必要はない。

分かち合いのための「手引き」を準備委員会が用意し、今月中に配布されるので、それを利用していただきたい。

福音宣教コースI

「福音宣教を考える日～第2回全国会議に向けて」を各小教区で今年の待降節から来年の聖霊降臨祭までの間に設定するように、教区の全国会議準備委員会から指示が出ているが、この日は文字通り、「福音宣教を考える日」である。講演会を開いたり、ミサの中で共同祈願や「全国会議のための祈り」をしたり、分かち合いをすることなどが考えられる。

「日本カトリック研修センター」が企画した「福音宣教コースI」が宗像のカトリック黙想の家で十一月二十七日から二十九日に開かれる。同センターの出張研修は初めて。費用は一万八千円（通いの参加者は一万千円）。問い合わせ、申込みは黙想の家へ。

この研修会で福音宣教を考えてみてはどうだろう。

みちくさ

死者の月を迎えた。魂の行方を考えることは大切である。若いから関係ないのではない。自分の死はこの時にでもやってくるのである。「目を覚ましていなさい」（マタイ24・43）と「十人のおとめ」のたとえ（マタイ25）を用いて主は言われる▼では、どのようにして準備するのだろうか。「よく生きること」が準備することと言われる。それではよく生きることとは何か。旧約のノアの時代に思いをはせる。人々は飲んだり食べたりして世を楽しんでいた。ノアは神の言葉を伝えるのに必死だったが、人々は耳を傾けようとせず、悔い改めもしなかった。ましてや、ノアを罵倒した。神は生活様式を変えない人々を洪水によって滅ぼされた。ノアの一族を残して▼神は今も私たちに忠告を与える。よく生きるようにと。私たちの主は、神でありながら人としてこの世で他者のために、よく生きられた。ご自分の死を一つの目標にして、ご自身を他者に与えながら生きられた。そして最も有意義な死を迎えられた。その報いは『復活』であった。私たちにも、他者を大切にしながら生きるように言われた。それが信者の道であるとも諭された。できるだろうか▼「大切にする」これをある人は、大いに切ることと解する。自分をたくさん切って、自分を殺しながら生きることを言う。金太郎飴のような自分でいられるかどうか解らないが、切って食べられてもまだ自分が存在していながら、最後には神からおいしく食べていただける。そんな自分であったらすばらしい。いい味を保ちながら来るべきもののために準備していこう。祈りながら。【S】

死者を思う



何気なくテレビのスイッチを入れると、華やかな街角を、手提げ籠を持ち、質素な姿で、背を丸めて歩く老婆の姿が映し出されていた。外の華やかさとは対象的に、何とも孤独と寂しさを感じざるをえない像であった。

人には必ず誕生があり、人生の華やかさを一度は経て、老いていく。そして誰もこのことを止められはしない。若い時は多くの人と交わりながら生きるが、年を重ねるにしたがって、知人は一人、また一人と世を去る。その時になって人は初めて、交わりの大切さを覚えるのであろう。

ある教会での朝ミサのあと、一人のご婦人が熱心にロザリオを繰っていた。聞くところによると毎朝のようだ。婦人は言った。「子どもも孫も教会から離れてしまっとります。子どもたちの救霊のために、ロザリオを日に三環しよるとです」

老いていく親は次の世代の子たちにすべてをまかせ、ただ子どもと孫たちの健康と繁栄、つながりそして彼らの信仰のために祈る。次第に狭まり薄れいく関わりの中で、この人の経験者たちは懸命に社会、家族との交わりの大切さを祈りのうちに訴える。彼らの祈りは、先祖、子孫を思う心の表現であり、これまで支えられ生かされてきたことへの感謝の表現である。ロザリオの珠を爪繰る手が刻んだ年皺は、色々な関わりの中で、種々の苦労や困難を乗り切り、生きかつ他を生かしてきた先輩たちの勲章である。曲がりつつある背中をさらに曲げながら、神の前に身をかがめて祈る姿は、私たちに信仰と謙遜によって神との、他者との交わりを深めるべきことを諭す。

世を去る前、十字架上のキリストは言われた。「婦人よ、この人はあなたの子です。」…この婦人はあなたの母です」(ヨハネ19・26~27)。この世に残る者を思うキリストの心を表す言葉である。去る人によって、残される人はお互いに関わることが出来るのである。

さて、十一月は死者の月にあたる。私たちのために祈られた先祖のために、また一足先に世を去られたすべての霊魂のために、今、私たちが彼らを思い、その安息を祈る番である。神と隣人との交わりを深め、その関わりに感謝する時、私たちのために祈られた先祖の心に触れることができるのではないだろうか。

サン・スルピス大神学院
大山　悟神父

Q 神父様へ質問します

神さまは、どんな人も平等に愛してくださると教会学校で習いました。でも世界には、ごはんを食べたくても食べられない人もたくさんいます。神さまは、こんな人々をどうして助けないのでしょうか。神さまは、この人々を愛していないのでしょうか。
（K・M）

まず、Kさんが教会学校で習ったことは、その通りです。神さまがお造りになったこの世界、自然も動物も、そして人間も神さまはみんな大好きです。



ボリビアの子ども

神さまは、どれもみんな大切なものとしてお造りになりました。そしてその一つ一つを愛してくださいます。でも実際は、Kさんが言う通り、皆同じように大切にしておられないのではないかという疑問も起こります。テレビでは、しばしば食べる物がなくて栄養失調の子どもたちの映像が目に入ってきますね。神さまは、この子どもたちを少しも大切にしておられないのでしょうか。もう見捨ててしまわれたのでしょうか。

先日ブラジルで地球サミットというものが開かれました。わたしたちの地球を守っていこうという目的で、世界の指導者たちが集まって話し合いました。その中で、食べ物がなく困っている人が出てくるのは、多くの場合、人間のしわざであることが報告されました。たとえば、森林をはかいした結果、そこに住んでいた人々が、住まいを追われたり、排気ガスによって地球全体の空気が悪くなり、気候がおかしくなったりしています。それは、わたしたち人間が、もっとよい生活をしたい、自分だけがお金をもうけよう、そんな自分中心の心が、弱い立場の人々をますます苦しめたり、貧しくしたりしているのです。ですから、神さまは、食事がなく、苦しむ子どもたちをつくられたわけではありません。神さまは、そんな子どもたちを見て、よろこんだり、知らん顔をされる方では決してありません。だからといって、いつも奇跡をして人を助けようともされません。むしろ、「あなたたちが持っているものを人に分けてあげなさい。お互いにすすんで助け合いなさい。あなたの幸せを、そうでない人にも届けるよう行動しなさい」そう言われるのです。

小倉教会・森山信三神父

第一回NICEを継承
大人の日曜学校
＝水巻教会＝

大人の日曜学校は「第一回NICE」の精神に基づいた生涯教育を旨として、五年前から始まりました。

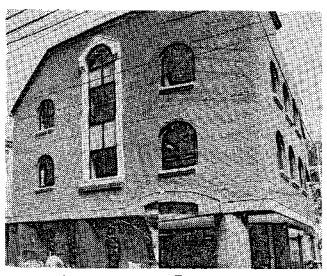
年間三回から四回、ミサ後行っています。テーマはその時の信者の最大関心事（例＝社会と教会、祈りとはなど）です。

単なる講演、講演と分散会の組み合わせ、ビデオ鑑賞とその鑑賞から得た個人の考え方を話し合ったり、パネルディスカッションの方法を取り入れるなど、実行にあたっては、マンネリにならないようにしています。

広報委員・山口一隆

新修道院典礼センター
「ピエタ」落成

師イエズス修道女会（日本地区長・シスター西田日出子）は浄水通教会と福岡小神学校の隣接地に福岡修道院と典礼センター「ピエタ」の新築工事を進めていたが、この度完成。十月三十一日に教区長松永久次郎司教司式のもとに落成・祝別式が行われた。



新修道院と「ピエタ」

本修道会は聖体礼拝と典礼面で奉仕をしている。祭服や聖具の制作、信徒のために信心用具の普及に努めている。センターは誰でも利用可。

修女連
共感・共有を求めて

教区修道女連盟（会長・シスター大木マリア）では、教区家族の一員としての交わりを深めるために、研修会を企画しているが、その第一回目の研修会が、九月二十三日に司教館別館で開かれた。

テーマは「教会における結婚の諸問題」で、離婚・再婚・別居などの問題をかかえている人々と修道者との関わりを考えた。講師は山元眞神父（修女連担当）。午後は典礼研究会会員の林裕美子さん（エリザベト音大講師・姫路教会信徒）の聖歌指導を受け「歌唱ミサ」で派遣の祝福を受けて散会した。参加者は七十人。

第二回目の研修は十月十九日に大名町カテドラル・センターで同じテーマのもとに開催。第一回と同じように講師に山元神父を招き、前回の続きの研修を行った。山元神父は、終わったばかりの教区司祭黙想会に触れ、本音で分かち合うことが、共感、共有につながることを強調した。午後はシスター菊地（聖パウロ書院）の指導のもとに視聴覚を使った福音宣教について考えた。参加者は五十五人。

福岡教区信徒使徒職協議会の本年度第二回役員会が九月二十七日、福岡カテドラル大名町教会で開かれ、北九州、福岡、佐賀、熊本地区の役員および使徒職団体の代表ら約二十人が出席した。

NICE・2について、教区担当山元眞神父から全国担当者会議と教区準備委員会の報告を聞き、先に司教団が出した「全国会議課題」の特に1・共感と共有を求めて家庭の現状を見つめる」に小教区や小グループでの分かち合いを通してじっくり取り組むことを確認した。出席者からは「NICEの動きが、いわゆる大会や行事の開催ではなく、実生活に目を向けた底辺の動きになりつつあることはうれしい」と評価する声と同時に、この種の分かち合いの難しさや無関心層の掘りおこし、家庭問題と福音宣教のかかわりなど問題も指摘された。

各地区の活動については、今回は特に熊本地区の「短期キリスト教講座」について報告を聞いた。広く一般市民を対象にしたこの公開講座は、一九八八年に熊本市内五教会の協力で始まり、一昨年からは人吉で、昨年からは水俣でも開講した。講師とテーマの選定に万全を期して講座の充実を図る努力は、受講者に「生きがい」を見いださせ、キリスト教に親しませる絶好の機会となって実を結びつつある。

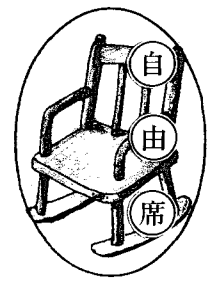
共感と共有を求めて
小さな分かち合いを
教区信徒協役員会

本部落成
お告げのマリア修道会
長崎

十月七日、長崎市小江原町にお告げのマリア修道会（会長・シスター中村鈴代）の本部修道院が落成した。

建物は中庭を中心に聖堂、修道院、管理、宿泊・研修、司祭館、エントランス、車庫の七棟から成り、中央の鐘楼からは「お告げの鐘」が鳴る。

福岡では、この四月から司教館に新しい共同体ができ、三人のシスターが奉仕している。



天の国を見いだす者たち

私たちには五感があります。視聴嗅味触。

世の中のあるものを見る時に、目で見て確かめて、耳で聞いて納得して、臭いでそれを判断し、舌でその深さを味わい、そのものに触れて感じる。そのような数々の中から、自分の好きなもの、あるいは必要なものを探しだすことができます。もし、この五感がなかったら暗闇の世界に身をおいているのと同じではないでしょうか。光がなかったら、光を求め、音が聞こえなかったら、音を求めないでしょうか。

つまり五感によって見、聞くことが出来るのです。

もし、私たちが天におられる神さまを見いだすことを欲するならば、一人ひとりが互いに支え合い、犠牲と奉仕、霊的花束などをもって、努めてまいりましょう。

菊池教会・M

助祭叙階式無期延期

十月十六日に行われる予定であった助祭叙階式は、無期延期になりました。

小神学校基金へのご寄付

故マリア・マグダレナ清川イサ様の香典返しとして、清川正雄様より金一封を小神学校基金としていただきました。

故人の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡小神学校　松井忠之

御受難修道会 福岡黙想の家
〈黙想会ご案内〉－申込受付中－
★11月14日(土)15:00～15日(日)昼食まで　＝マテオ神父指導＝
★12月5日(土)17:00～6日(日)16:00まで　＝マテオ神父指導＝
★12月19日(土)17:00～20日(日)16:00まで　＝ガブリエル神父指導＝
申込み・お問合せ
☎0940－32－3222・福岡黙想の家
〒811－41 宗像市名残1056
※ＪＲ赤間駅南口よりバス 自由ヶ丘南2丁目 下車

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 SOU-EN
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

むなかた・てんてん・まつり

好天に恵まれた十月十日、宗像市にある福岡黙想の家では、第二回「むなかた・てんてん・まつり」が開かれ、近所に住む人を中心に二千人以上の人出で賑わった。

黙想の家の門から玄関までの参道では、昨年の協力母体、北野学園の名物バザールをはじめ、今年は地元の商工会や福祉関係のボランティアなどの店が立ち並び、呼び込みの声や笑いの声で賑わい、一日中人波でごったがえした。聖堂では、ミサと聖体顕示。

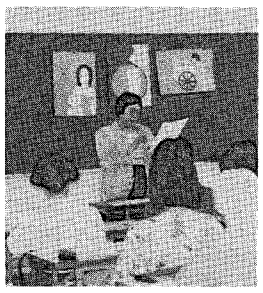
今年の「てんてん・まつり」の特徴はなによりも、地元との出会いと交流。前夜祭では「わいわいディスコ」に近所の若い家族連れやお年寄りが元気に参加。また大聖堂での中島淳一の独り芝居「ナザレのイエス」は、祈りの絶叫と主イエスへの愛と憧憬で観客の魂をゆるがせた。当日は自由が丘こども合唱団初演、むなかた太鼓の響き、宗像ユリックス館長井川良久氏の講演とすべて聴衆を魅了した。


うれしい触れ合いの場

教会学校で 性教育研修会

福岡

十月十九日、カテドラルで福岡地区教会学校リーダー研修会が行われた＝写真。十八の小教区から四十六人が参加。講師は聖母カテキスタ会のシスター吉永ユリ。テーマは「いのちは尊く、素晴らしい、神さまからのもの」。教会学校における性教育の観点からの研修は今回が初めて。



①ビデオを見る②感想を書く③小グループで分かち合う④小グループの感想を聞きながら全体のまとめ、という手順が紹介された。ビデオ「生命創造」は胎内での胎児の発育と出産までを感動的に伝えていた。

参加者の声＝教師としてより一人の母親、信徒としてこのテーマから目を外している自分に気付きました。子供より主人に見てもらいたい。②ビデオを見る③感想を書く④小グループで分かち合う⑤子供の感想を聞きながら全体のまとめ、という手順が紹介された。ビデオ「生命創造」は胎内での胎児の発育と出産までを感動的に伝えていた。

参加者の声＝教師としてより一人の母親、信徒としてこのテーマから目を外している自分に気付きました。子供より主人に見てもらいたい。

発会

「生と老い・死をみつめる会」

デーケン師記念講演

約一年かけて準備していた「福岡生と老い・死をみつめる会」（代表・鬼木保之）が十月十七日のアルフォンス・デーケン教授の記念講演をもって歩み始めました。

会場は三百五十余人で埋まり、老いと死に対する関心の高さを強く感じました。「老いと死をみつめて」という暗く重いテーマにもかかわらず、ユーモアたっぷりの巧みな話術で場内は笑いの渦、そして感動。人間は死の間際まで、愛する者のために大きな慰めを与えることが出来るのだと知りました。豊かに老いるために、よい一日を重ねていく、出来なくなったことにではなく、まだ出来ることに意識を向け、他人との出会いを大切にし、神さまに頂いている独自の可能性に死の際まで、挑み、応えて、生きた証を残したいと思いました。人生の最後まで人として生き、残された者が得心する死を迎えたいものです。そして迎えさせてあげたいとも思います。

会では、毎月最終日曜日（十四時から十六時）に定例会を大名町教会で開いています。

浄水通教会・大山美穂子

熱い思い

全国広報研修会

湯布院

十月五日から七日、湯布院の扶助者聖母会研修の家（大分）で「第12回教区広報担当者全国会議」が開かれた。今年のテーマは「教区報の理論と実際」。十二教区から三十二人の司祭・修道者・信徒が参加。共同通信の高橋紘整理部長（町田教会信徒）と産経新聞の芝沼隆一整理部長を講師に、教区報作りのポイントや特に読ませる見出しの付け方、レイアウトの仕方など実習を交えた熱のこもった研修となった。


講師の熱弁に耳傾ける

福岡教区報からは編集長以下三人のスタッフが参加。

講師の「福岡教区報が全体の中で一番良くできていますね」との評価に日頃の苦労が報われたと四人は大満足。「教区報作りの楽しさが見えたよう」とはその一人の声。

帰途、車中は早速次号の編集会議の様相を呈していた。

家庭 第2回全国会議に向けて

病院で老いるということ

「病院で死ぬということ」と言う本がベストセラーです。癌の末期医療における技術偏重の危険性を指摘し、人間らしい死を模索した著者の訴えには、少なからず共感するところでありますが、孤独に病院で亡くなっていく老人達を何人も診てきた私にとって、老いと死は、別の大きな問題と思われます。いくつになっても死は恐ろしいものですし、それにもまして孤独に死ぬ事、更には死までの残り少ない期間を孤独に生きるつらさはどんなだろうと思われます▲八十歳のSさんはもう十年以上も入院を続けています。そんなに重症ではないのですが、呼吸困難や気管支炎をたびたび繰り返す上、独り暮しのため、退院させられなかったようです。しかし最近になってSさんが採血のため針をさした後をわざとしぼって余分に出血させて貧血を作っていることが分かりました。退院したくない一心だったのでしょう。この天涯孤独と思われていたSさんが危篤状態になり、初めて子供さんがいることが分かりました。危機を脱して退院を許可されたSさんは家へ帰ることを希望しましたが、子供たちはそれを受け入れず、老人病院へ転院しました▲五十三歳のMさんは重症の糖尿病で入院が必要なのに、寝たきりの義父の世話でどうしても入院できないと無理を重ねています。家族にもう少し老人を受け入れる心の余裕があればと思うこともある一方、個人では解決できないことも多くあります▲私たちカトリック信者は死について、また老いても人間らしく生きることについてよく理解しているはずです。今、孤独な老人に手を差し伸べることを、個人のみでなく、組織的に模索することはできないものかと思います。

内科医・白水明代（若松教会）

佐賀カトリック幼稚園

幼稚園のできごと

園庭のすぐ隣にある聖堂。皆さんの教会と同じように、まわりはステンドグラスで囲まれ、中央には祭壇が、そしてその上に十字架のイエスさま。やさしくほほえんで下さるマリアさまも……。

私たち職員は、毎日朝と帰りに聖堂に入ることが義務付けられています。

就職した当時は何もわからず、ただ聖堂に入って二、三分で出てくる、そんなくり返しでした。別にマリアさまが現れるわけでもなく、神さまの声がするでもなく……。

でも、神父さまや先輩の先生方の熱心に祈られているお姿をみて、ちょっとだけまねて、一日のことを思い返していると、不思議なことに「あっ、部屋のカギ閉めそこねてた」とか「電話連絡入れるんだった」と、気づかされることが多々あり、おどろいてしまいます。その他にも、叱った子の顔や、元気のなかった子の顔がうかんできて、自分の対応を振り返りながら一日が終わっていきます。時には「ねー神さま聞いてよ！」とぐちを聞いてもらうこともしばしばあります。

あるシスターが、聖堂は神さまとの〝日なたぼっこ〟と話して下さったことがあります。コックリ、コックリと居眠りなんかして。

園児たちといっしょに神さまの家におじゃまることもあります。太陽に照らされた窓に興味を持ったり、十字架で痛々しく血を流しているイエスさまに励まされたり、子供たち一人ひとりの中に何かが響いているようです。

シスターから聖書に基づいた話を聞いたり、年間の宗教行事も多く、その度に（時には親子で）聖堂で祈りや聖歌を捧げます。

園行事の忙しさに追いまわされる毎日、聖堂は私たちにホッと一息つかせてくれ、日なたぼっこさせてくれるとこころです。

神さま、こんなにも近くにステキな場所を下さってありがとうございます。

主任・石田智子

大牟田の空にふれあいの輪満開

九月十三日、曇り空のもと大牟田市明光学園高等学校グラウンドにおいて、第八回筑後地区教会親善スポーツ大会が、盛大に行われました。

この大会は「神さまと共に遊ぼう、そして兄弟姉妹のふれあいの輪を広げよう」を目的にスタートしました。

今回の主な競技はソフトボールで、各試合とも珍プレー、好プレーが続出し、優勝トロフィーの獲得は、大人の部・本郷教会、少年の部・二日市教会でした。各試合とも、応援席では、日頃出したこともない大声を張り上げ、手振りよろしく、これまた笑いと涙で一杯の楽しい応援でした。

選手、応援の皆さま、お疲れさまでございました。

世話役の一人・平田正明


はりきっていこう

ヨゼフ糸永一師帰天

十月三十一日、医師会病院（朝倉）で帰天。葬儀ミサは、今村教会で十一月二日十一時

松永司教司式のもとしめやかに執り行われた。享年78歳。

BOOK 読みは専科

★フランシスコの祈り
石井健吾編訳



「できるかぎり完全にイエスにならって、イエスとまったくひとつになること」

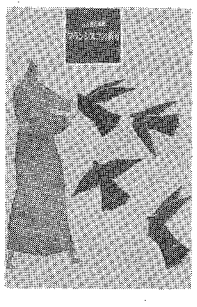
これが聖フランシスコの最高の望みだったのではないでしょうか。

この本は、八一一年も前に生まれた聖人とは思えないほど先駆的で、素朴で、生き生きとした聖人にまつわるエピソードと祈りがつづられており、どこからめくって読んでみても、聖フランシスコの素朴さとさわやかな生きざまが、心にしみてくる一冊です。

女子パウロ会　八〇〇円

◇　◇

★コルチャック先生のお話
ヤヌシュ コルチャック著
近藤康子訳



『王さまマチウシI世』

幼くして王位についたマチウシは、各大臣から助けられながらも子どもたちの権利を尊重して、次々と新しい制度を築き上げていきます。失敗にも負けず、経験から学びながら、国の秩序を取り戻そうと、真の王らしく成長していくマチウシ。

多くの子どもと共にガス室へと消えていったコルチャック博士の理想、平和への願いは、この改革王マチウシが力強く語っています。

女子パウロ会　一、五〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

11・12月の行事

※ゴチックは司教日程

11月

「教皇文書勉強会」18・25日
1日 教区和田墓地ミサ
笹丘教会堅信式
3日 **大神学院「召命の集い」**
聖書講座第6回
6日 **古賀教会堅信式**
8日
9～11日 教区全司祭研修会
13日 聖書講座第7回
15日 光丘教会堅信式
教区広報研修会
19日 大神学院祭
20日 聖書講座第8回
22日 新田原教会堅信式
23日 今村信徒発見125周年祭
27日 聖書講座第9回
31日 箱崎教会堅信式

12月

4日 「教皇文書勉強会」9・16日
聖書講座最終回
6日 門司教会「福音宣教を考える日」
13日 久留米教会「福音宣教を考える日」

福岡黙想の家

10/31～1日 今宿キリスト教会祈りの集い
1～3日 防府教会婦人の黙想
7～8日 北九州レジオ・マリエ黙想
8日 八王寺教会・ミサと聖時間
14～15日 御受難会主催黙想〝マテオ神父指導〟
15日 典礼・聖歌と祈り研究会
21～23日 愛徳カルメル会召命黙想会
27～30日 日本カトリックセンター・福音宣教コースI

典礼＝聖歌と祈りの集い

日　時　11月15日(日)14:00～18:00
場　所　福岡黙想の家（宗像市）
お　話　鈴木　忠一神父
指　導　深堀　純氏
参加費　1,000円
問い合わせ先　黙想の家
(☎0940－32－3222)

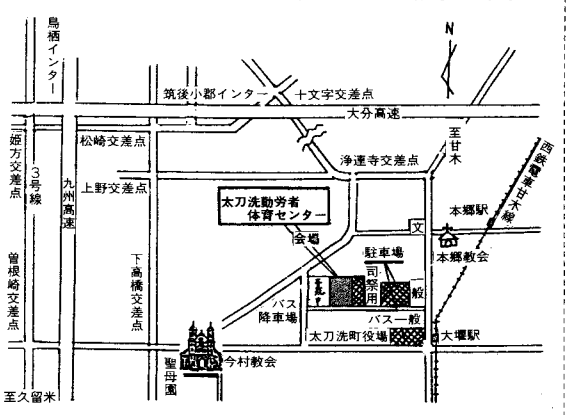
北九州教会学校リーダー研修会

日　時：11月17日(火)10:00～15:00
場　所：小倉カトリック教会
講　師：結城了悟神父
(イエズス会・日本26聖人記念館館長)
費　用：参加費1,000円　弁当代500円
申込み：門司教会シスター木俣
☎093-371-2944 またはハガキで ✓切11/12

広報研修会第３弾！

★★★広報紙の編集、レイアウト、
見出しのつけ方　など★★★
日　時：11月15日(日)　午後1時半
講　師：伊藤直枝〔編集工房ナオ代表〕
(「DODA」などの人気編集者)
場　所：大名カテドラル・センター1F
参加費：1,000円(当日払い)
主　催：教区広報委員会
申込先：教区本部事務局広報部
☎(092)522-5139　FAX(092)523-2152

今村信徒発見125周年式典会場案内図



※駐車場付近に係の者がおりますので指示に従ってください。
貸し切りバスでお越しの際は、一端会場前で降車され、バスのみ、係の者の指示に従ってください。

叱咤激励

秋になりますといつも「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と言うことわざがとても気になります。秋は司祭にとっても、黙想会や研修会と実り多い季節ですが、自分は豊かになっているか、謙遜になっているかと考えさせられます。

司祭は注意を受けたり、叱られることがほとんどありません。私自身が注意しなければ傲慢になったり、わがままになりがちです。私は今、小神学校におります。そのため、よく生徒を叱ります。しかし、傲慢になると自分のことを棚に上げて生徒に注意しがちです。

もちろん、褒めることもありますが、叱るにしても褒めるにしても、タイミングというものがあります。叱ったり、褒めたりするタイミングを外すと、子供は成長しません。子供の性格もそれぞれです。皆を同じように叱ったり褒めてもだめです。どのような子供なのか正しく把握しておかなければ、いくら叱っても褒めてもその子を育てる効果がありません。「一を聞いて十を知る」子供などはほとんどいないからです。特に現在の学生はマークシートできっちり選択しなければ点数にならない教育を受けているせいか、はっきり指示をしないと動けない傾向にあると思います。そのため、叱るにしても褒めるにしても、具体的に日々の生活の出来事の中で、どこが悪かったか、何が悪かったか、どうすれば良いかを共に考えます。褒める時も、もっと良くするためにはどうしたら良いかを共に考えます。これも私自身の養成であり、このとき私も神学生から多くのことを学びます。これが共に生かす教育であり共育(教育)だと思っています。

今、小神学生は明るく、伸び伸びと喜びをもって生活しています。不足な点もたくさんあります。しかし、彼らは明日の司祭を夢見て頑張っています。神学生たちの中にある偉大さを引き出すことが私の使命であると思うと、その責任の大きさを感じますが、彼らとの関わりを大切にしていけば、必ず偉大さを引き出せると思って頑張っております。

日々の生活の中で、彼らとの関わりを深めるために、これからも一人ひとりの毎日の表情に注意して、具体的に叱咤激励しながら大切に育てていきたいと思います。

司祭職への道は長く、指導するほうも指導を受ける生徒も、忍耐と根気と努力が必要です。

どうぞ私たちのために、忍耐強くお祈り下さい。

福岡小神学校
松井忠之神父

主の道を求めて



厳律シトー会
伊万里の聖母修道院

伊万里富士とも呼ばれる風光明媚な腰岳(海抜五〇〇M)の中腹に一九六五年、建てられた当院は「人を福音によって真のキリスト者にすることだけを目指す」と言われる聖ベネディクトの戒律に対する誠実さと、真理への絶対的渇望を持った聖ロベルトとその同志らによって、一〇九八年創立されたフランスのシトー会にその源を持っております。

生活は大別して戒律の主な三つの要素、祈り(共同体・個人的)、聖なる読書、そして仕事から成り、世を離れ、すべてが神のみ心のまま、教会のために行われるよう、沈黙と謙遜な従順のうちに営まれております。

「あなた方が修道院を出て直接奉仕することでなく、より深い方法によって社会の人人の中に臨在すること、キリストのみ心のうちにとどまることをこそ教会は望んでいる」(パウロ六世教皇本会宛書簡)とありますように、古来より使徒的生活と呼ばれていた隠棲修道生活を生きることは、私どもの存在そのものと言えましょう。時のしるしを見極め、回心の生活において教会と世界のため、共同体は日々修道生活を実践することを心がけております。

「自らの手で働き生活すること」を求める戒律を心とし、農耕、製菓その他各自の可能性に応じた仕事に従事致しております。

1992年 福岡市民クリスマス ご案内

★12月7日(月)　PM 6:30開演　PM 8:30終演
★福岡市民会館大ホール
★「クリスマスを音楽で」
ホルン演奏と証　宮田　四郎
メッセージと独唱　岩坂　憲和
小倉バプテスト教会協力牧師
問合先　☎092－522－5139　ブラザー杉山

11月命日の司祭

＊スヴァノニ・ゼヴェリーノ師
(ミラノ外国宣教会)
一九六二年十一月二十七日
元唐津教会主任
＊フレデリック・ボア師
(パリ外国宣教会)
一九七七年十一月三日
元援助修道会黒崎修道院付

編集室から

先頃、大分の湯布院で「教区広報担当者全国会議」があった。「読まれる教区報作り」を目指して見出しの表現と型、レイアウトの方法、記事の流し方など、編集とはこうあるべきだとの教えに胸が弾んだ。同時に伝えることの重責を認識した。教区の歴史を刻む一文字一文字を生かしていきたい▼この思いが湯けむりで消されないように。これからも皆様の心温まる投稿を期待したい▼研修会で当教区報が全国一だとの評価を頂いたことを報告しておきたい。

聖書週間に聖書新発見
聖書特別講演会

日　時：11月20日(金) 午後7時
テーマ：ルカ福音における富と救い
参加費：800円
日　時：11月22日(日) 午後2時
テーマ：福音書に表れたキリストの感謝の祈り
参加費：1,000円
講　師：シスター今道瑤子
(聖書学者・女子パウロ会)
場　所：大名町カテドラル・センター

「祈りのクリスマスコンサート」
演　奏：つのだたかし　と
アンサンブルエクレジア
北九州：11月29日(日) 開演18:30～
入場料1,500円 カトリック小倉教会
福　岡：11月30日(月) 開演19:00～
入場料2,500円 カトリック大名町教会
問合先：聖パウロ書院　☎092－741－4588

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ——安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
(平尾四ッ角)
TEL092－521－0568(代)

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL 092－522－5139
FAX 092－523－2152
振替口座 福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

父よ、
み名が尊まれますように
（マタイ6・9）
サン・スルピス　高木善行神父

1867～今村信徒発見を記念～1992

感謝ミサ　2600人がひとつに

十一月二十三日、「今村信徒発見一二五周年」記念式典が三井郡大刀洗町の町立勤労者体育センターで、教区長松永久次郎司教司式により執り行われた。前教区長の平田三郎司教ほか当地出身の司祭、修道者を含め、教区内外から二千六百人が参加。地元信徒によって一八六七年の信徒発見の様子も劇の形で再現された。



信仰を確かめ、強める125周年ミサ

感謝ミサの説教で、松永司教は、今村信徒発見の歴史について簡単に説明したあと、以下の点を強調して語った。

信仰は理論によって伝えられるよりも、実践によるところが大きい。約七代にわたって信仰が伝えられたのは、マリア信心など、生活と密着した宗教行為によるものであった。信徒発見も、直接的には小斎など、四旬節の務めを大切にしていたことから起こったことは意義深い。祖先の信仰を受け継ぎ、一五〇年記念祭に向かって新しく出発してほしい。

祝賀会では信徒発見劇が上演され、参加者に感銘を与えた。

詳しくは3・4面

時の話題

出口　周一

一九九二年もあとひと月を残そうとしています。昨年は冷戦の終結により大国間の雪解けによって世界平和の訪れを予想したものです。その矢先、中東戦争の勃発、国と国、民族と民族の争いは熾烈を極めるばかりです。ところで、毎年台風シーズンともなれば被害はつきものです。今年は昨秋のような倒木の被害はなかったにせよ、ハリケーン、群発地震による家屋の倒壊、崖崩れなど、犠牲が相次ぎました。自然の災害と言ってしまえばそれまでですが、その原因をつきとめ被害を最小限にくい止める方法はないのでしょうか。ここで聖書の種蒔きのたとえを思い起こします。「石地に落ちた種は根がないので枯れてしまった」。まさに大風が吹けば

家庭に深い根を

ひとたまりもないのです。

私たち行橋教会は、創立以来三十五年を経過しました。そして小さいながらも立派な神の家を建てることが出来ました。その家庭にずっしりと根を下ろすことにより福音宣教に励みたいものです。

昨今、私たちの家庭（小教区）でもNICE、ナイスの言葉が話題になるようになりましたが、その内容を深く掘り下げるまでには至っておりません。

第2回全国会議に向け、立派な家庭を築くため、一人ひとりを大切にして、キリストとの出会いを深め、愛の共同体を育てることが、小教区にとって最も急務であると信じます。そして、キリストがどのようなメッセージを与えてくださっているのか常に祈り、その声を聴き、探し求めていきたいものです。

（行橋教会）

研修会

司祭団「宣教」を見直す

教区内の全司祭を対象にした研修会が開かれ、回勅「救い主の使命」を学びながら、福音宣教の使命について考えた。「全国会議」を来年に控えて、司牧宣教のあり方を見直すよい機会となった。

一九九二年度の司祭研修会が十一月九日から十一日まで阿蘇観光ホテルで開かれた。この研修会は福岡教区内の全司祭を対象としたもので、今年は約半数の五十人が参加。

講師に林尚志師（イエズス会・下関労働センター）を招き、二年前に出されたヨハネ・パウロ二世教皇の回勅「レデンプトーリス・ミッシオ」（邦訳「救い主の使命」）を学んだ。

この回勅は、現代社会における宣教活動が緊急の課題であることを説くもので、日頃宣教司牧にあたる司祭にとって、宣教のあり方やその方法を見直すのに格好の材料となった。

本回勅は序文の他に八つの章から成っている。

①唯一の救いの主キリスト
②神の国
③宣教のおもな働き手である聖霊
④諸国の民に宣教する使命の果てしない広がり
⑤宣教する使命のさまざまな道
⑥宣教にたずさわる使徒職の指導者と働き手
⑦宣教活動における協力
⑧宣教にたずさわる霊性

講師の林神父は、三回に分けてこの回勅を説明。自分の体験などを含めて、各章のポイントを指摘した。

二日目は、講話の後に六つのグループで分科会。議論を


食卓を囲み集う司祭団

避けるように、との指導の下に、それぞれの司牧宣教体験の分かち合いの時間が持たれた。この分かち合いの内容は約一時間にわたって全体会で発表された。その中で、宣教のためには司祭団の間だけでなく、司祭と信徒、未洗者との間に温かい交わりが必要であること、などが確認された。夜には講師を交えて懇親会が開かれ、互いの交流を深めた。

最終日に教区長から、聖体拝領を丁寧にするよう信徒を指導してほしい、などの通達がなされた。

子供と共に応えよう

教区幼児教育連盟

十一月十七日、福岡カテドラルで「子供と共に応えよう」のテーマで教区幼児教育連盟の園長・主任研修会が五十九人の出席を得て行われた。

この研修会は、昨年の教区幼児教育者職員研修会で、松永久次郎司教より「現場での宗教教育は？」という問いかけに、今年六月、各幼稚園・保育園に対し行われたアンケートに基づくものである。

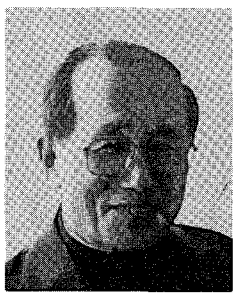
午前の部は、司教の「カトリック幼稚園における宗教教育を考える」という基調講演があり、カトリックの施設に於いて、よかれと思ってしている祈り（主祷文、天使祝詞、十字を切る）や宗教行事は、非キリスト者に対して、強制になっていないだろうか、人格や宗教を尊重する形、正しい信仰への道となっているだろうか、という問題提起をされた。午後の部は、この基調講演に基づき分科会で感想、現状、展望が分かち合われ、意義ある研修会であった。

墓地で共同の祈り

各地区で死者を偲んで墓地ミサが行われた。

福岡地区では、十一月一日午後二時より大橋の和田墓地にて。雨あがりの屋外ミサでは、松永久次郎司教が司式をし、司祭七人が式に加わった。司教は説教の中で「信者が共同体として死者のために祈ることは、その結びつきを証しするものである。天の父はそれを受け入れて下さる。共にキリストの死と復活の記念に与かりながら祈ろう。また、母マリア様にも祈ろう」と話した。参列者は約三百人を数えた。**北九州地区**でも、一日午前十一時から湯川の葛原墓地でミサが行われた。参列者は約百五十人。司式は湯川教会の平田寛師で、外一人の司祭が加わった。雨のため、式は納骨堂で挙行された。**佐賀地区**では、二日午後四時から佐賀の金立にある墓地で屋外ミサ。司式は佐賀教会のA・ディベルロ師。天候に恵まれ、参列者約三十人は厳粛な雰囲気の中に時を過ごした。同墓地には身寄りのない人も眠っているという。**熊本地区**は、八日正午から黒髪町にある納骨堂でのミサ。司式は牧山勝美師で、外司祭一人が加わった。参列者は約百二十人であった。

ヨゼフ 糸永一師十月三十一日帰天



午後十一時、甘木朝倉医師会病院で帰天。今年二月に亡くなられた糸永武男師の実兄にあたる。享年七十八歳。

十一月一日午後七時から通夜が、翌二日午前十一時から今村教会で松永久次郎司教司式のもと葬儀ミサ、ならびに告別式が執り行われた。

一九一三年大名町教会で生まれ、東京暁星中学、東京公教神学校哲学科を卒業後、ローマにて一九四〇年に司祭叙階。帰国後、今村教会に着任。約二年間、主任司祭を務め、小神学校の校長の職にも就いた。一九四七年には、再び今村教会主任に着任、昨年末に引退するまで、四十五年にわたって司牧宣教に奉仕した。

この間、保育園や養護施設、老人ホームなどの福祉事業にも力を注いだ。

持ち前の音楽的才能を生かして聖歌隊の指導などを行い、老人ホーム「聖母園」ではリハビリのために合奏を取り入れるなど、先駆的役割も果たした。同ホームの「すみれ楽団」は有名。

笑顔を絶やさない人柄は、多くの人々に親しまれた。今村信徒発見一二五周年を前に帰天されたのが惜しまれる。

みちくさ

町は早くもクリスマスの気配。ジングルベルの鈴の音高く、賑わいを醸し出しています。クリスマスの主人公であるイエス・キリストをこの上なく愛している私たちも、「いよいよクリスマスだ」という気持ちの高鳴りを隠せません。このクリスマスはどんな人にとっても魅力的なものとして到来しますが、同時に一年の生活の決算表を手にして来るようです。神の絶えない恵みと助けにどのように応えることが出来たのでしょうか。神からいただいたものと、それに応えることの出来た収支が合えばよいのですが。子供たちが大きな声で歌う『神さまの愛はしみ通る／私たちの心に／日の光のように』の詩が今、心に浮かんできます▼ところで私たちに対する神の愛の中で、特注があります。それは「永遠の幸福」です。それはどんな人でもいつかは願うもの―手に入るのは難しいが―「天国の幸福」です。そして実は、人がそれを得られるようにと、神は大切なひとり子を世に送ってくださったのです。それが私たちの祝うクリスマス、すなわちイエス・キリストの誕生なのです。このことをある人たちは知り、ある人たちは知らずしてお祝いするのです。全世界的に心のこもったプレゼントを胸にして▼クリスマス、それはまた、神の愛が人の手を伝って全てに及ぶのを祈願する日です。主人公のイエスは「人の愛の中に神は在す」と言われます。ですから私たちはお互いに愛でもって大切にし合わねばならないのです。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネ15・12）との最大の教えの中におられる方を発見し、その喜びを伝えましょう。【S】

待降節を迎えて

待降節がはじまりました。救い主をふさわしい心でお迎えできるよう、準備するときです。人間をこの上なく愛される神は、ご自分に似せて人間をお造りになり、神の永遠の喜びに参与できるように取り計らってくださいました。しかし、人間の身に余る神の愛情も、人間の身勝手によって、たびたび無駄にされてきました。人祖の原罪から救い主誕生までの人類の歴史は、神の愛の時間表ではなかったでしょうか。その中で、御ひとり子を与えるほどにわたしたちを愛される、神の救いの計画は着々と進められたのです。

救い主待望の旧約時代は、神の選民イスラエルを中心に、人間の救いの受け皿を準備する期間でした。太祖アブラハムから各時代の指導者、預言者の声と手本は、唯一神ヤーウェに対する信仰と誠実に満ちた生活の要求だったのです。「呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え、わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ」（イザヤ40・3）。ひたすら神を信じ、神をだまさない暮らしを行うときに、心の荒れ野に道ができると思います。その一例として、エルサレムのシメオン預言者をあげることができるでしょう。

「この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた」（ルカ2・25～26）。シメオンは幼子救い主を抱きしめ、満ち足りた心で、「今こそしもべを安らかに去らせてください」と願ったのです。

待降節中のわたしたちは、第二のシメオンを目指すべきでしょう。聖霊の光りと力を祈りながら、信仰・希望・愛をもって幼子イエスをしっかり抱きしめた生活を送りましょう。待降節の紫色の祭服は、高貴を表す一方で、反省と悔い改めを訴えているのです。この時期に共同回心式がない場合には、個人的にゆるしの秘跡を受け、聖霊に満たされた心をもって、これまでの歩いてきた道を見直しましょう。

待降節の四本のろうそくも教訓的に利用できます。待降節第一主日に一本、第二主日に二本と点火する度ごとに、愛の実行と犠牲を増加させる試みも有益になるのではないでしょうか。

久留米教会・山田成章神父

召命の集い

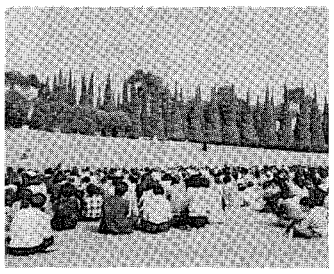
司祭召命の促進を願う「召命の集い」が、福岡市城南区のサン・スルピス大神学院で、十一月三日開催された。「召命の集いの時は晴れ」というジンクスどおり、すばらしい天候のもとで一日を過ごした。

松永久次郎司教司式による「召命祈願ミサ」では、四十人の司祭と千三百人余りの信徒が、心を一つにして祈り、司祭召命とすべての召命の苗床である家庭への恵みを願った。説教を担当した泉浩二助祭は、「イエス様しか見えない」という本年のテーマを、小道具（メガホン）を用いてユーモラスに、そして分かりやすく解説した。

午後からは、年々減少しつづける神学生の召命について家庭から考え直して欲しいという願いを込め、岩下壮一神父様をモチーフにした劇が上演された。神学生のダイナミックな演技が好評だった。

続いて小学生のクイズ大会、中高生のオリエンテーリング、綱引大会が行われた。

学院内では、大人を対象にビデオ「神学校の一年」を上映。このビデオは、日頃目にする機会の少ない選任式や叙階式を中心に編集されたもの。予定通り三時半には全プログラムが終了した。



神学生の劇に見入る参加者

当日参加された方、お祈り下さった方、ありがとうございました。

実行委員長・大水文隆

大神学院祭
学舎に集い 気持新たに

福岡

去る十一月十九日、晴天に恵まれ、神学院祭が厳かにとり行われた。日本各地から卒業生や諸関係者が集まり、ミサを共にし、司祭そしてキリスト者としての一致を確かめ、新たにした。説教に立った川上忠秋神父は「司祭とは自己奉献の人であり、奉仕者であり、愛する人である。足の裏が光る程までにキリストのために働く人でなければならない」と自分の司牧体験を分かち合いながら、若い司祭、神学生に諭した。ミサのあと昼食会が催され、その中で、今年叙階二十五周年、十周年を迎えた司祭が紹介された。叙階二十五周年を祝われた卒院司祭の中、福岡教区では、平田寛師（湯川）。



神学院後援会発足式

昼食会に引き続き、司祭、神学生、一般信徒の参加のもと、神学院後援会発足式が行われた＝**写真**。郡山健次郎師までの経過報告ならびに趣旨説明のあと、役員紹介が行われた。挨拶に立った後援会長、青木保師（福岡）は「神学生養成のために、外から協力できたらと思う」と述べ、司祭養成のために聖職者、信徒が一丸となって尽力するよう呼びかけた。

サン・スルピス大神学院
大山　悟神父

北九州教会学校リーダー研修会

小倉

十一月十七日、小倉教会で教会学校リーダー研修会が開かれた。今回のテーマは「初期キリシタンの福音宣教」。講師は結城了悟師（イエズス会、日本二十六聖人記念館館長）であった。

講話の内容は、一五四九年聖フランシスコ・ザビエルが二人の司祭と共に鹿児島に到着し、キリスト教がどのように伝えられ広まったか、また信者が増えると共に、幕府から禁教令が出され、鎖国となった時代に、宣教師はどのような手段や方法で、信仰を伝えようとしたか、また、信者はどのようにして信仰を守ろうとしたか、殉教者はどのようにして殺されたか、その時のキリシタンの態度、心はどうであったか等であった。

日本キリシタンの歴史を顧みる時、現在、キリストを信じている私たちは、共によろこびと希望をもって、キリストの福音を待ち望んでいる人人に伝えているだろうか。社会的迫害を受けた時、当時の信者と同じように、よろこんで命を差し出す信仰心をもっているだろうか。



信仰の証を熱弁する結城師

感謝と反省、希望と勇気を与えられた一日であった。

黒崎教会・河村弘美

一足先にナイス研修

―新田原―

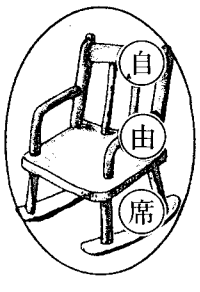
十一月八日、行橋市の新田原小教区（竹森勇主任）で「福音宣教を考える日」が催された。

この集いは、今年の夏から「第2回福音宣教推進全国会議」についての信徒の意識を高めるための研修会として計画されていたもの。

隣接墓地での慰霊ミサに続いて、十時半から山元眞神父（全国会議教区担当・教区本部事務局）の講演会が聖堂で開かれた。

山元神父は講演の中で、「全国会議」について考える前にまず、福音とは何かに気づかなければそれを伝えることができないことを強調。善いサマリア人のたとえを引用しながら、善いサマリア人はキリストであり、追いはぎに襲われて半殺しにされた人は私自身であることを説明。洗礼の恵みは、神ご自身が私を「見て憐れに思い、近寄って」救ってくださったこと。この事実に気づかなければ宣教もできないし、共感・共有を求めての分かち合いもできないと語った。後半は質疑応答。正午散会。参加者約二百五十人。

「タクトの先に見えるもの」



糸永神父様は音楽を大変愛された方であった。生き方そのものが壮大なるシンフォニーであったのかも知れない。私は神父様のその最終楽章あたりを聞かせてもらった、というところか。今村教会でそして聖母園で、十七年間のお付き合いであった。糸永神父様の今村教会への赴任当時から、戦後の混乱期、復興時代、聖歌隊の活躍、福祉事業への取り組み等聞くにつけ、あの温厚な人柄、そして真理を見つめる優しい視線が今更のように蘇ってくる。「音楽は人種や国境を越えます。時代や年齢差を越えて私達を一つに結び付けるのです」といつも口癖のように話されていた。神父様が結成された「すみれ楽団」は平均年齢八十歳になろうというのに、二十年間に亘り、福岡県内だけでなく長崎、佐賀、山口にまでも感動の渦を巻き起こした。タクトを必死にみつめるお年寄りの目は何かを求め、糸永神父様のタクトを振る指先は私達が何をすべきかを示し、その向こうには、明らかに天国が見えていた。糸永神父様の振る指先をしっかりと見つめている時は、だれも演奏を失敗することはなかったのである。

今村教会・鳥羽清治

ご会葬御礼

福岡教区司祭、故ヨゼフ糸永一神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜わり、温かいご芳志をいただき、心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡小神学校と社会福祉法人希望の丘に寄贈させて頂きましたのでご諒承くださいますようお願い申し上げます。実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

平成四年十一月　福岡教区長　松永久次郎

小神学校基金への寄附の御礼

故ヨゼフ糸永一神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄附を小神学校における司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。

生前故人の司祭召命への熱き思いを尊重し、司祭養成のため有意義に使用させていただき、ご芳志にお報いしたいと存じます。

平成四年十一月　福岡小神学校　松井忠之

社会福祉法人希望の丘への寄附の御礼

故ヨゼフ糸永一神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄附を老人福祉活動のためにいただきました。心よりお礼申し上げます。

平成四年十一月　希望の丘理事長　萩原アサエ

御受難修道会 福岡黙想の家
★待降節黙想会ご案内
・12月5日（土）17:00～6日（日）16:00＝マテオ神父指導
・12月19日（土）17:00～20日（日）16:00＝ガブリエル神父指導
申込受付中
★SADE（Sons And Daughters Encounter）
・12月11日（金）夕食後より～13日（日）16:00
＜対　象＞ 中学1年～高校2年の男女
＜スタッフ＞ リーダー6人・司祭4人
未洗者の友人も大歓迎
定員20人
お問合せ・申込み　カトリック福岡黙想の家　☎0940・32・3222
※JR赤間駅南口よりバス　自由ケ丘南2丁目　下車

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

祈りと犠牲に忠実な普通の家族の物語

今村信徒発見125周年

――2017年への出発――

十一月二十三日午前十時より、稲の刈り入れも終わった筑後平野の真中、大刀洗町立勤労者体育センターで「今村信徒発見一二五周年記念式典」が行われた。参加者約二千六百人。教区の各地から司祭、修道者、信徒がバスやマイカーで次々と会場まで続いた。　式典ミサは広い会場を埋め尽くした信徒と修道者が歌う「きょうこそ神がつくられた日」の典礼聖歌と共に松永久次郎司教をはじめ、地元出身の平田三郎司教他61人の司祭の入堂で始まった。大分教区の竹森道師と隣教区プサン教区（韓国）カテドラルの金主任司祭の共同司式参加は神の家族の想いを強くした。

この記念式典は先立つこと一年前、教区本部のカレンダー作りをしているスタッフの原稿を見ていた松永司教の「長崎信徒発見記念日より二月二十六日の今村信徒発見一二五年をいれなさい」という声に始まったように思う。スタッフの中に初耳の驚きと、いい知れない喜びがあった。

今年十一月二十三日の記念行事を決定してから九カ月、地元今村教会と本郷教会の両主任司祭と信徒の並々ならぬ努力の実りが式典の隅々に現れていたように思う。

（歴史を4面掲載）

参加者の声

オラッシャばしゅう

代々の言い伝えで知っとったけど自分が生きとる間に与かられてうれしか。自分を犠牲にして信仰ば守った祖先はすばらしかよ。私も子供の頃「オラッシャばしゅう」と言われてよく祈りばしたもんたい。先読み（先唱）は初聖体の準備の子がさせられて名誉だったもんよ。

（平田スミカ　今村教会）

燃えた

小神学生の声から

先輩の後に続きたいと思いました。

なにか気合が入りました。

なんか自分がすごいことをしようとしているような感じで燃えました。



私たちは先祖から受け継いだ信仰を伝えるだけでなくて神のみ栄のためにもっと働かなければならないと思います。また、働き手を出さなければと思います。

（青木保師　浄水通教会）

ここまで準備してくださった皆さんに頭が下がります。

信仰の力、恵みを強く感じています。何か、とても誇らしさを感じます。この事を召命の道につないでほしいと思いました。（Sr.野瀬ワカエ）

一つの目標・一人一役

大きな行事に慣れていない事で、一二五年の歴史をそれぞれが認識し記念式典をやろうという行動に持って行くのが苦労でした。

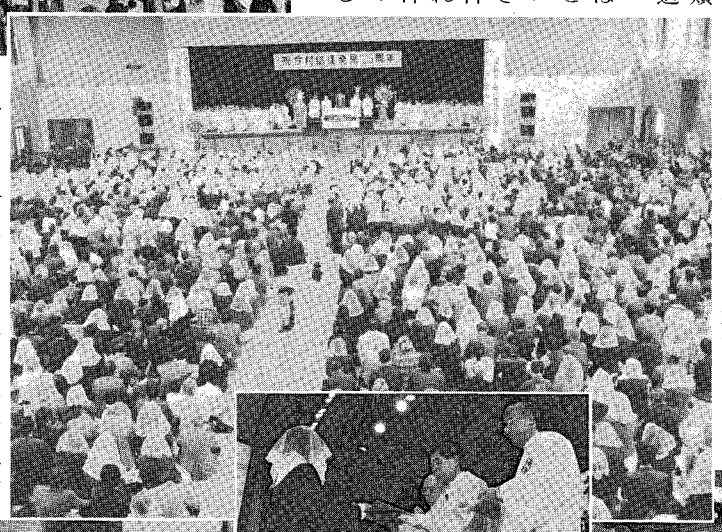
動き出すと一人一役で沢山の人が一生懸命がんばって下さいました。感謝と喜びで一杯です。

（柳義明　実行副委員長）

今村と本郷の信徒が一緒になって一つの目標に向かって準備したことはビックリしてます。チットも教会に行かないからと家族から聞いていましたし、私も心配してたのに…これも、信徒発見の思いです。

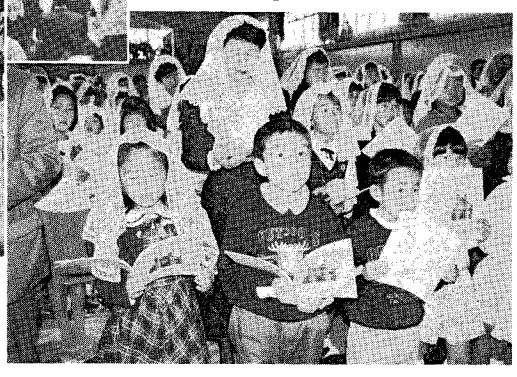
今村と本郷の司牧に尽力された神父様方が、この準備中に相次いで帰天なさいましたが奇しきものを感じます。きっと、先祖の方々と後輩の働きを喜んで下さっているでしょう。

（地元出身司祭）





▲奉納する中島貴子さん
150周年はぼくたちの出番▶
◀近隣の町長・議員の方々





迫害に本当に耐えていた人がいたんですね。今、迫害が起こったらどうするだろうと思うと自信がないです。

召命の道に続いて

地元出身の司祭、修道者

世界に類を見ない迫害の中で、信仰の種は尽きたかと思われていた時、生きている信仰が発見されたことに神様の特別の働きを感じますよ。

一五〇年は私たちで

お父さんが劇に出ました。一生懸命練習しているのを見てうれしかった。

二十五年したら私たちがやります。もう少しうまくやれると思いますよ。

（本郷教会　女子高校生）

一二五年目の信徒発見

今日、来てみたら身内の者が劇に出演しているんですよ。ビックリしてます。チットも教会に行かないからと家族から聞いていましたし、私も心配してたのに…これも、信徒発見の思いです。

今村と本郷の司牧に尽力さ

地域と共に

愛に根ざす信仰共同体の意識を高め、地域社会に貢献できる教会づくりを目指していきたい。今回の式典も大刀洗町はじめ地元町民の協力なしには実現できなかったことを忘れてはならないと思う。

（中浜一男師　今村教会主任）

今後の宣教活動に

信徒の皆さんが力を結集した成果だと思います。この一言に尽きます。この力を今後の宣教活動に生かしてほしい。

（川上惣一師　本郷教会主任）

一五〇年祭の第一歩

今回のさまざまな経験が今後の教会の活性化につながれば…。一五〇年祭に向けての第一歩を踏み出しました。特に若者たちに期待しています。

（青木康雄　実行委員長）

この史実を「劇」にして

長崎から来た四人の信徒と私たちの先祖がこの地で出会い、信仰を表明し、喜びを分かち合ってから一二五年。この事を記念しようと決定したのが今年の二月。先祖の信仰の強さと、発見当時の出来事を広く知っていただき、私たち自身が先祖をふさわしく継承するためでした。史実を「信徒発見物語」の劇として上演する事になり、史実をより忠実に、かつダイナミックに訴えるためとあれこれ悩んだ末、最初の台本が出来上がったのが八月末でした。



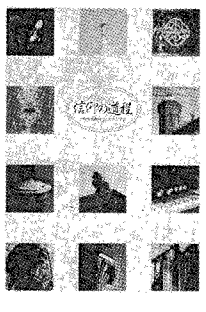
当初は子供中心に考えていたのを、私たちが受け継いだ信仰の喜びを分かち合い、守り伝えるためにもぜひ、今村、本郷の親子でということになり総勢百五十人が出演ということになりました。

学校や地域、教会の行事予定の合間をぬっての練習は大変でした。最初の恥ずかしさやぎこちなさも回を重ね、出演者が打ち解け合う中で熱の入った盛り上がりにかわっていきました。

三十七年前、今村教区から本郷教会と二つになって以来こんなに親密に、こんなに一生懸命、力を合わせ手作りの記念式典ができたことは何にも増して全員の喜びだと思います。この事を通して神の愛と、幾多の試練を乗り越えて信仰の喜びを伝えてくれた先祖に感謝すると共に、小教区を越えて過ぎ去ることのない信仰を次の世代へ伝えて行く使命感を強く感じています。

（平田真由美　本郷教会信徒）

記念誌「信仰の道程」発刊を終えて



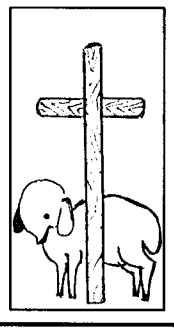
「私は何もできません」と謙虚？な言葉を吐きながらこの本ができあがった。快挙？なのか暴挙？なのか、そのことが一番嬉しかった。「何もできません」という人ばかりが十二人も集まったのである。

この人数も数奇である。半年余り、みんな夢中で精一杯取り組んだ。解らないこと、不思議なこと、感動することいろいろな体験を積み重ねながら……。特筆するような苦労は感じなかったような気がする。それよりも本当に多くの人に迷惑をかけたことをしみじみ思う。そして、何も知らない私たちにあたたかい多くの助言を下さった方々に心より感謝し、お礼を申し上げたい。

（鳥羽清治　編集委員）

泰星中・高等学校
校長 キース・ウーリック
平成5年度中学入試
2月7日（日）実施
※入試要項は学校事務室まで。お早めに。
〒810 福岡市中央区輝国1―10―10
電話092(712)7181

学校法人 福岡雙葉学園
理事長　金森美子
高等学校　小学校
中学校　幼稚園
〒810 福岡市中央区御所ヶ谷1番地
TEL(代)092-531-0438



今村教会の鐘の鳴る地に30余年
久留米信愛女学院
園校校学
稚学学大
幼中高等期
短期
学長　黒木俊子
校長　小井手恵美子
久留米市御井町2278―1
電話0942-43-4531

福岡海星女学院
福岡市南区老司5丁目29番

筑後の今村とジョアン又右衛門

今村というのは、現在の福岡県三井郡大刀洗町今を指す。今村にどのようにしてキリスト教が伝わったのかは明らかでない。

今から約400年ほど前、今村にジョアン又右衛門という信者がいた。彼は特に信仰が厚く、皆から尊敬されていた。当時、久留米藩では切支丹の取り締まりが厳しく、又右衛門も信仰のために捕われ、本郷村の俗に「ハタモン場」という所で磔刑に処せられた。彼は殺される前に、信徒に命じて宗教上の用具を残らず隠させ、信徒はその命に従い、一部は竹の筒に入れ裏屋根に隠し、残りの物は石櫃に収め、これを空井戸に隠して上から土をかぶせた。又右衛門が殺された後は、村全体で信者であることを隠し、静かに信仰を守り続けた。

徳三郎ら探検を試みる

今から125年前、長崎県浦上の信者は、風の便りに福岡県の久留米地方にも自分たちの仲間がいることを聞き、当時の浦上のロカーニュ師に申し上げた。師は中野の深堀徳三郎、土井の相川忠右衛門、上原の原田作太郎の三人に「今村探検を試みてはどうじゃ」と勧めた。彼等は喜び勇んでこれに応じ、道案内の深堀茂市を加え四人で一八六七年2月23日、天主堂に行き聖体拝領した上で浦上を出た。肥前の多良から船に乗って筑後の若津に渡り、陸行して久留米の上手にある府中に出た。府中から今村の近くに着いたとき、茶店で道を聞くと、「西目の今村か、北目の今村か」と尋ねられ、でたらめに西目と答え、その道を教えてもらい、教えられるまま四人はずんずん歩きだした。たまたま忠右衛門の草履の紐が解け、一人遅れてそれを結んでいると、茶店に立ち寄っていた一人が「北目なら藍もあれば椎茸もある。西目には米の外に何一つ無いのに、何のため行くのだろう」と言いだした。すると一人が「いやそこは変な所でな、昔は切支丹、今はころび宗というものを奉じ、他村と縁の取り結びもせぬそうだよ」と口走った。草履の紐を結んでいた忠右衛門は「さてよいことを聞き込んだ。いよいよそれに違いない」と、走って三人に追いつき、その話を告げて共に尋ね出して昼食を頼み座敷に上がって悠々と座り込んだ。村の人々は長崎から怪しい男が入り込んだというので、男も女も老人も子供も、来ては覗いて行った。四人はついに一夜の宿を貸して貰いたいと頼んだ。店の主人は驚いて頭を振った。

主人「ここは旅籠屋ではない。旅籠屋でないのに旅人を泊めると、旅人調べからとがめられても言い訳が立たぬ。府中に宿らっしゃれ。府中には傾城もいれば愉快も出来る。そして用事があれば明日またお出になったらいいじゃありませんか」

四人「そう言わずに泊めて下さいな。出来ぬとおっしゃるのに、強いてお願いするのは、ちょっと無理のようですけれども、それはここに懐かしいことがあるからです。是非今夜は泊めて下さい」

主人「いや、出来ません」

四人「そうおっしゃらずに泊めてください」

主人「何としても出来ません」

と争っていると、たまたま友次郎と言う人の姉で、本郷の字古河に縁付いている婦人が来合わせた。

婦人「お前さん方はそんなに争ってみたところで、らちの明く話ではない。是非この辺りに宿りたいお望みならば、ちと遠方ですけれども、うちまでお出なさい。泊めてあげますから」

四人「どうぞそうしてください」



今村の人徳三郎らを宿泊させない

ついに今村について道端の家に入った。煙草の火をもらうのを口実に話を聞く魂胆であった。あいにく留守宅で、火はあっても人気がない。家の中には、神棚も、仏壇もなく、表札すらない。どうも切支丹の家らしいが、誰に尋ねようもない。そうしているうちに昼になり、小店を喜んだ。

シマとの出会い

四人は飛び上がらんばかりに喜んで後からついて行った。

今村の端までくるとそこに一銭屋がある。名をおシマと呼び、元は天草の生まれで、今村の平田新吉という人の妻となっていた。友次郎の姉もおシマとは、かねて懇意の仲であったとみえて、通りがけにちょっと立ち寄った。

シマ「どこのお方ですか」

友次郎の姉「長崎のお方で宿を貸す者がなくて困り抜いておられるから、うちへ案内するところです」

シマ「古賀は遠方ですよ。此処に泊まっては如何ですか。話があれば明日でも行かれますもの。旅人調べが来たときは、私の兄弟ですと言っておきますさ。それにうちは一銭屋ですから、いくらでも申し開きは出来ます」

と懇ろに言ってくれたから、そのまま厄介になることにした。時は午後の六時頃であった。

シマ「夕食は炊きますか」

四人「どうぞ」

シマ「お菜は何にいたしますか。鶏はいかがですか」

おシマもさるもの、遠くから探りをいれた。なるほど今村でも今悲節（かなしみせつ）夫の新吉は留守でおシマ一人しかいない。浦上の四人をじろじろ見て、友次郎の姉に尋ねた。

シマ「どこのお方ですか」

友次郎の姉「長崎のお方で宿を貸す者がなくて困り抜いておられるから、うちへ案内するところです」

シマ「古賀は遠方ですよ。此処に泊まっては如何ですか。話があれば明日でも行かれますもの。旅人調べが来たときは、私の兄弟ですと言っておきますさ。それにうちは一銭屋ですから、いくらでも申し開きは出来ます」

と懇ろに言ってくれたから、そのまま厄介になることにした。時は午後の六時頃であった。

シマ「夕食は炊きますか」

四人「どうぞ」

シマ「お菜は何にいたしますか。鶏はいかがですか」

おシマもさるもの、遠くから探りをいれた。なるほど今村でも今悲節（かなしみせつ）を務めているのだなと四人は悟った。

四人「いや、鶏は食べません」

シマ「お好きではないのですか」

四人「好かぬのではないが、今は食べる時ではありませんから…」

シマ「そんなら卵はいかがですか」

四人「鶏も卵も一切食べません。食べてはならぬ時ですから」

二人の婦人は、互いにニッコリと微笑んだ。四人はいよいよ切支丹に違いないと見て取ったので、まだ庭に立っているときに、コンタツを一本ずつ取り出して二人に与え、座敷に上がって遠慮無く教えの話を切りだした。すると二人も自分らの切支丹宗門であることを隠さず打ち明けた。

今村切支丹の信仰

このようにして、一八六七年2月26日、今村の信徒が発見された。浦上で信徒が発見されてから2年後のことである。

今村の人たちは、日本に残っている信者は自分たちだけだろうと思っていた。それで今村の人たちは、最初この四人を幕府の隠密だと決めつけ、絶対に自分たちが切支丹であることを言わなかった。四人が本当の切支丹かどうか、四人の話が正しいかどうかを確かめるため、今村から平田弥吉と信右衛門という二人を長崎へ使いに出したくらいである。

当時、今村の戸数は百戸ほどで、付近にも百戸ほどの切支丹が潜んでいたという。

信徒発見とは——潜伏切支丹が、鎖国の終わった日本へやって来た外国の宣教師によって見出されたことをいう。

参考資料
浦川和三郎著
「浦上切支丹史」

典礼センター　Aピエタ

■ 典礼用品　・祭服・聖器具など
■ 信心用品　・焼物ご像・ロザリオ・ヴェール
■ 絵　　画　・色紙・ご絵・カードなど

この度、浄水通カトリック教会の隣接地に典礼センターピエタが完成。
聖体礼拝を中心に、信徒への奉仕に従事しております。

※静かにお祈りしたい方は、小笹の修道院で一日静修もできます。

師イエズス修道女会（TEL526—9176）

典礼センターピエタ
〒810 中央区浄水通37(526—9176)
〒810 中央区小笹4—11—35(531—0486)

長崎・純心女子短期大学

入試説明会　12月20日(日)10：00～12：00

福岡試験場　試験期日　2月13日(土)
出願期間　1月18日(月)～2月1日(月)

ところ：大名町教会
福岡市中央区大名2—7—7（西鉄グランドホテル前）
TEL 092—741—3687

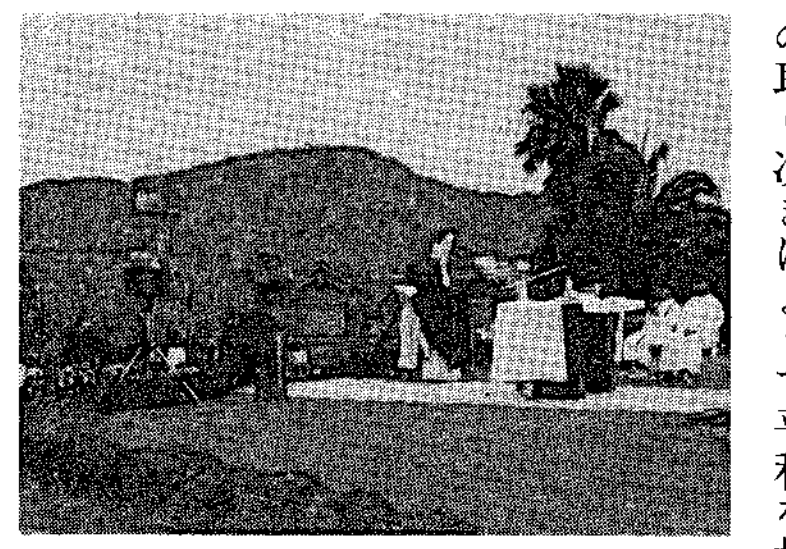
問い合わせ先：長崎市三ツ山町235　教務課　入試係
TEL 0958—46—0084

燃える信仰の足跡
—天草殉教祭—
天草

十月二十五日に、第37回天草殉教祭が挙行された。天草島原の乱の激戦地であった本渡市街を貫流する町山口川の祇園橋（多脚式石橋）の上で、午前九時から神式による鎮魂、午後四時には殉教戦千人塚の前で仏式による供養、続いて五時からカトリックの荘厳ミサで、平和の祈りを捧げるという宗派を越えた大祭典であった。

メーンイベントであるキャンドル行列は午後六時半開始。天草三教会の信徒に、熊本方面から貸し切りバス二台で参加の各小教区の信徒、また昨年に引き続き横浜の聖ヨゼフ学園高校の女生徒百人も参加した。地元の子供会、一般の人々が加わって約七百人のそれぞれの手のキャンドルの光が、暗くなった千人塚をあとにし山を下って行った。本渡市中心街を一巡して本渡教会のルルド洞窟の前までの小一時間の行程であった。

「四郎軍、幕府軍の別なく、天草の乱で倒れた人々の魂を鎮め、慰め、そしてマリア様の取り次ぎによって平和な世界が来ますように」との、松永司教の祈りで幕を閉じた。


ミサを通して平和を祈る

本渡教会・辻　久

もっと強い信仰を
—教区青年巡礼団—

二年続けてこの殉教祭に参加しました。去年は大変寒かったのですが、今年も風の強い、大変寒い一日でした。そんな中、小さい子どもからお年寄りの方まで、たくさんの人が参加されていました。

今年は、去年行かなかった資料館の方も見学しました。資料館では、天草四郎の生い立ちや、かくれキリシタンの当時の信仰生活などを知る、たくさんの資料を見ました。当時は、信仰を貫くということは、死を覚悟するのに等しい行動だったのです。その後、千人塚（天草四郎の乱での無名の死者の墓）でミサが行われました。皆が心を込めて祈りを捧げる姿は、大変厳かなものでした。また、ろうそく行列も最後に行われ、一人ひとりが殉教者のための祈りを捧げながら歩きました。

来年もまた是非参加し、殉教者に見倣い、強い信仰心を持ちたいと感じました。

健軍教会・池田紋仁香

上映

幻の映画
「日本26聖人」

十月十八日、太宰府市公民館において「日本26聖人」が上映され、近隣の教会の方も含め百二十余名が鑑賞しました。この映画はもちろん白黒の活動写真ですが、「フランシスコ会神父、修道士の来日から、秀吉の保護のもとでの教会の落成や布教活動、殉教の引き金となったスペイン船の難破事件、禁教令、26聖人の逮捕、京都から長崎への苦難の道のりと殉教の模様が解りやすく脚色されています。12歳のアントニオ少年、13歳のルドビコ茨木少年、14歳のトマス尾崎少年たちをはじめ、信仰のため喜んで殉教の道を歩む姿に、多くの方々が深い感動の涙を流しました。

二日市教会・初田良二



家庭
第2回全国会議に向けて

性教育は自然に

性教育の必要性がにわかに叫ばれています。エイズ流行の恐怖からでしょうか。また最近、小学校で始まった性教育（性器教育?）はマスコミでも話題になりました。

ある日、中学生になった娘が「気持ちが悪い」と言ってきました。おりものことです。女性の体について話すいい機会がやってきました。実は私も娘と同じ年頃に、そのことで不安と不快な思いをした経験があったのです。長年、自分の体と付き合ってきますと、女性の体の仕組みは何となくわかってくるものですが、正しい教育を受けず知識もないままに過ごすのは、とても残念であることがわかりました。四年前に私は講演会とワークショップに参加し、排卵法を学んだからです。

更年期を迎えた私は勿論、これから妊娠と出産を体験する娘のために、とてもいい勉強ができました。アンナ・カペラ著『自然な家族計画』と、ビリングス博士著『ビリングス・メソッド』で目が覚めました。

女性の体は、精密につくられた神の作品です。なんと神秘的で、すばらしい仕組みでしょう！　そのことに気づいた女性は自分の体を大切にします。また男性も、女性を大切にすることを学ぶのです。

「健康なおりものは、正常な証拠よ。赤ちゃんが生まれるために、大切な働きをするの。神さまは、女性の体をそのように作ってくださったのよ」

私が自信をもって娘に話すと、彼女は素直に、そして安心して、自分の女性としての性と体を受け入れてくれたのです。

性や体のことは、何となく避けてしまいがちですが、家庭の中で何のためらいもなく、神さまがおつくりになった、と自然に話し合えた私たちは幸せだと感じました。

平田悠貴子（手取教会）

編集を学ぶ
〜広報研修会〜

十一月十五日、カテドラル・センターで各小教区の広報担当者を対象に研修会が行われた。講師は伊藤直枝（編集工房ナオ代表）氏。各教会や聖公会から十五人参加。

研修は実際の広報紙を教材に①写真の位置②見出しの付け方③読まれる新聞づくり、といった具体的で編集の根幹に関するものだった。

伊藤氏は、このような広報紙は教会の内側に目が向きがちだが「地域の特性、つまりその土地の血、魂、歴史」が基本となる必要を力説した。

東洋と西洋の出会いを求めて

十一月十五日、大分県湯布院町の「福音の光修道会祈りの家」で東洋と西洋の出会いを求めて集いがもたれた。主催は同修道会福岡修道院。

門脇佳吉神父（上智大学・イエズス会）が「日本文化とキリスト教」の題で講演。キリスト教と能楽の共通性を自分の能体験を通して語った。

福岡森本松涛会社中が観世流仕舞、謡曲を披露した。地元と福岡から約百人が参加。

幼稚園のできごと

西新カトリック幼稚園

《挨拶　その意味するもの》

「おはようございます」明るい、元気な挨拶から幼稚園の一日は始まります。お母さんたちの集まりで「どんなお子さまに育って欲しいと思われますか」と、よくお尋ねすると、おおむね「他人に迷惑をかけない、嘘をつかない子」という返事がかえってきます。

そこで「迷惑をかけたり、嘘をつかない人ってどんな人でしょうかね」と、更に問いかけてみますと「尊敬している人」「信頼し、信頼されている人」「愛し、愛されている人」などと答えが即座にかえってきます。

「挨拶」は相手に対する「人格の容認」「尊敬」「愛」の証、表現で、基本的人権の涵養の具体的な第一歩です。欧米社会で、子供の教育の基本が「他人に迷惑をかけないこと」をはるかに凌駕する「人格の尊重」に置かれ、家庭で幼い頃から両親や周囲の人々に真心から敬意を表す躾から具体的にはじめられているのを垣間見せられる時、本当に深い感銘を受けます。新学期当初から基本課題として重視し、こだわり続けてきた「挨拶」も、最近では、その本当の意味を肌で感じとり、解ってきたのか、園児一人ひとりがすすんで笑顔で、丁寧に、深々と頭を下げて、大声で挨拶します。しかも、一人ひとりの先生に！　園児たちの顔には「親しみ」と「尊敬」と「信頼」の情が漲ってみえます。自己を主張し、他人を蔑ろにしがちな現代、人に一番大切なこの心が、毎日の挨拶を通して豊かに育ち、園児たち同士も、互いに睦み合って欲しいと心から願っています。そして、園児たちが、私たち教師の生き様を通して、神さまの愛と慈しみを感じとり、祈る心を育み、同時に各自に与えられた諸能力を十分に生かし、各々の分に応じて、伸ばし続けて欲しいと期待しながら、私たちが、その良き助け手、道具となれるように一丸となって努力しているこの頃の保育です。

園長・平田　敬神父

マリアさまを訪問
小郡

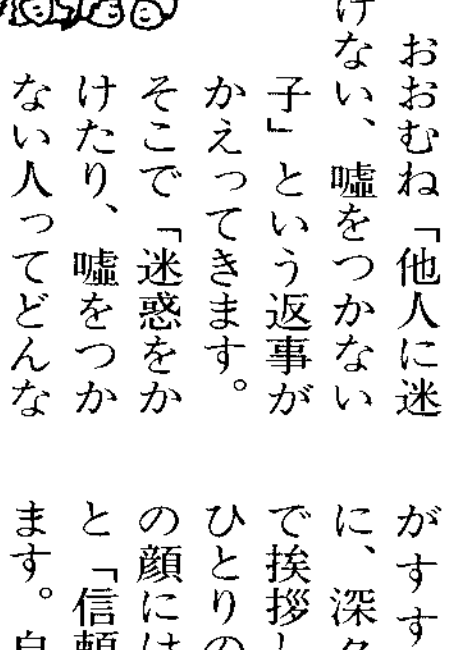
十月はロザリオの月でした。小郡教会の子どもたちは、十月二十五日ミサ後、聖母訪問をしました。マリアさまのご像の前に集まり、ハンド・ベルで「マリアさまのこころ」を演奏しました。そして、乙女マリアさまがお受けになった「イエスさま誕生の知らせ」のお話を聞きました。その後、みんなで作ったロザリオを持って、一人ひとり、めでたしの祈りをマリアさまにおささげしました。二年生の中には、まだはっきり言えない子どももいました。家庭でおかあさんといっしょに声を出して、聖歌を歌ったり、めでたしを唱えたりしてほしいと思いました。教会や教会学校で体験したことを、みんなで大切に育てていけたらいいですね。


自作のロザリオで聖母訪問

教会学校担当・I

BOOK 読みま専科

ちいさな　さんた
丸山明子　文／絵



クリスマスのまえの夜、のぶくんと妹のえりちゃんは、サンタクロースになって、大好きな動物たちにプレゼントを配りました。大きな袋に〝愛と夢〟をたくさんつめて……。

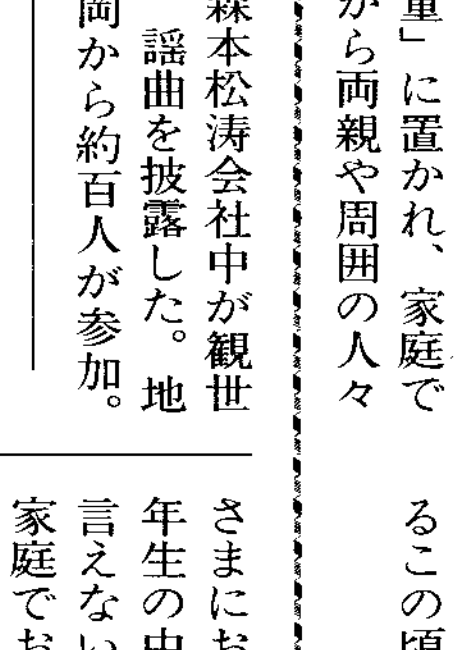
さあ動物たちはどんなに喜ぶことでしょう。

兄妹の美しい思いやりが、ほのぼのと伝わってきます。

中央出版社　八五〇円

◇

やさしいひつじかい
文・光原　百合
絵・佐々木洋子



クリスマスは、イエス様がお生まれになった日。イエス様は、弱い者、心貧しい者をこそ、命がけで愛してくださいました。自分の弱さに立ちすくむことの多い私たちにとって、それはなんと大きな喜びでしょう。愛される喜びは、そのまま愛する勇気となります。

そんな気持ちを、やさしい羊飼いのおじさんに託してみました。小さい羊も大きい羊も、おろかな羊も心のさびしい羊も、同じように大切にしていた羊飼いが、ふしぎな星に導かれてかわいい小屋に着きました——。

女子パウロ会　八八〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2−21
TEL096−352−2417

会合と催し

12・1月の行事

※ゴチックは司教日程

12月

4日　聖書講座最終回
19日　第2回全国会議準備委員会
◎教皇文書研究会
12・1月休み

1月

15日　司祭叙階式
18～25日　祈祷一致週間
……
福岡黙想の家
5～6日　御受難会主催黙想会―指導・マテオ神父
11～13日　SADE（サン&ドーター・エンカウンター）
19～20日　御受難会主催黙想会―指導・ガブリエル神父
24日　クリスマス・イブミサ（24時～）
25日　クリスマス・ミサ
27～1/5日　幼きイエズス会黙想
'93 1/6～12日　―休館―（午前11時～）

24日クリスマス・ミサ

教会	時間	教会	時間	教会	時間
大楠	19:00	八王寺	20:30	唐津	20:00
笹丘	20:00	門司	20:00	佐賀	20:00
浄水通	19:00	門司港	19:30	多久	20:00
高宮	18:00 20:00	湯川	19:30 23:00	武雄	20:00
大名町	18:00 20:30 24:00	若松	19:30	鳥栖	21:00
茶山	20:00	飯塚	19:30	馬渡島	24:00
西新	19:00	今村	21:00	呼子	19:00
糸島	20:00	大牟田	9:00	荒尾	19:00
箱崎	20:00	小郡	19:00	大江	20:00
光丘	20:00	久留米	19:00 22:00	帯山	9:30
美野島	20:00	古賀	19:00	菊池	20:00
吉塚	19:30	新田原	20:00	健軍	20:00
志免	20:00	田川	18:30	島崎	20:00
老司	19:30	直方	19:00	崎津	20:00
黒崎	19:00 22:00	二日市	20:00	玉名	19:00
小倉	18:00 20:00 23:00	本郷	20:00	手取	19:00 23:00
天神町	20:00	水巻	18:30 21:00	人吉	20:00
戸畑	20:00	行橋	19:30	本渡	19:30
		伊万里	20:00	水俣	20:00
		鹿島	20:00	武蔵ヶ丘	19:30
				八代	19:30

【福音宣教を考える日】

12月6日　門司教会
12月13日　久留米教会
12月20日　唐津教会
2月14日　飯塚教会
2月21日　帯山・小郡教会
2月28日　佐賀教会
5月2日　美野島教会

1993年　結婚準備セミナー

【福岡会場】福岡カテドラルセンター
1F講堂
日程　1月16日・21日・23日・28日・30日
2月4日・6日・13日
申込み　福岡市南区皿山4―14―27
問合先　TEL　092―541―6207
FAX　092―552―5022

【熊本会場】手取カトリック教会
信徒会館2Fホール
日程　1月18日・20日・24日・25日・27日
2月1日・3日・8日
申込み　熊本市上通町3―34(手取教会)
問合先　TEL　096―352―3030
＊いずれも毎回午後7:00～9:20

神と富

昨年の四月、小教区の司牧、宣教の任を離れて、十年ぶりに司教館に戻って来た。それまで国道沿いの教会で生活していたため、騒音と排気ガスに悩まされていたが、豊かな緑と静かな雰囲気の中で、感動しながらの新しい生活が始まった。

新しく、教区会計と財産管理というたいへんな任務をいただいた。そして「神と富とに仕えることはできない」（マタイ6・24）というイエスのみ言葉を心に留め精一杯歩めたらという思いであったが、いくら算数が好きでも、現実は、算数のようにできるはずもなく、日々が、慌ただしく過ぎていった。でも、神が与えてくださったものをよりよく生かすことの大切さも職務の中で改めて教えられた。多くの信者の皆様の維持費、ミサ献金の一部が教区本部に寄せられてくる。特別献金が祈りの中、集められて寄せられてくる。この尊い献金が、教区の運営、日本、世界の教会の活動に役立てられていくのだと考えると、一円でも大切にという思いにかられる。守銭奴になりたくないが、一円でも侮れないと思う。

今、この世界の富を通して、教会が目指す神の国の建設の一助、一つの証ができるようにとの願いを忘れたくない気持になる。富を生かすことが人の名誉とか争いのもとになるのではなく、富が正しく用いられることによって、人々の助け合い、友を得ること、キリストの愛を証しすることへとつながっていくことを祈りたいと思う。

松永司教様が富は賜物、魔物ですと話されたことがありました。このことばを肝に銘じ、今、与えられている使命を果たしていくことができるようにと歩んでいます。どうぞ、ユダのように富でイエス様を裏切ることのないようにお祈りください。

最後に、この紙面を通して、福岡教区の信徒の皆様に心からお礼申し上げます。いつも維持費、神学校後援会費、ミサ献金、特別献金と心から信仰をもってささげてくださっていることに。また、多くの信徒の皆様の善意ある献金を快く世話し、いやな思いをされることがあっても、喜びをもって奉仕してくださる会計実務担当の方々、献金など呼びかけてくださる教会委員の方々に、そして、ご協力くださる神父様方に。

教会でのいろいろな献金も信仰を証しすることの一つだと思っています。

教区会計・深堀勝人

主の道を求めて



コングレガシオン
ド・ノートルダム

コングレガシオン・ド・ノートルダムは、フランスの聖マルグリット・ブールジョワによって、一六七六年、当時未開の地であったカナダに創設された、聖母のご訪問の精神を生きることを目指す修道会である。

時代の枠にとらわれず、本質を見抜く女性であったマルグリットは、旅するマリアに倣い、人々の必要に応じてどこへでも赴くことができるよう、当時、まだ存在していなかった、囲いのない修道会を設立した。

聖マルグリット・ブールジョワは、聖母の招き―お行きなさい。私はあなたを見捨てません―に、全幅の信頼をおき、一六五三年、三十二歳のときカナダに渡った。一六五七年には現在のモントリオールに学校を開設し、移民や先住民の教育にあたったが、創立者在世の頃、すでに二人の先住民会員がいたのである。

現在本会は、カナダ、アメリカ、日本、中南米、アフリカの各地で幅広い教育の使徒活動を行っている。

日本には、今からちょうど六十年前に、カナダから五人のシスターが来日、東北の福島にまず根をおろした。

現在、福島、北九州、東京、奈良、大分で幼稚園・小・中・高・短大の教育や、小教区のカテキスタとして、使徒活動に従事している。

12月命日の司祭

＊ミシェル・ソーレ師（パリ外国宣教会）
一九一七年十二月二十日
元久留米教会主任

＊パウロ青木功師
一九七三年十二月十九日
元行橋教会主任

＊ジェームス・マグラ師（聖コロンバン会）
一九七六年十二月十八日
元荒尾教会主任

＊アンドレ・ベニエ師（パリ外国宣教会）
一九八三年十二月二十三日
元飯塚教会主任

＊ミカエル・コニリー師（聖コロンバン会）
一九九〇年十二月十七日
元島崎修道院付

司祭叙階式決定

中村信哉助祭の司祭叙階式が一月十五日午後一時に大名町カテドラルにて挙行される。

◈お詫びと訂正

前月号の筑後地区親睦スポーツ大会でのソフトボール少年の部優勝は今村教会でした。

ミカエル村岡久義師

十一月十八日、別府国立病院で帰天。今村教会で助任司祭を務めた後、一九五五年から六五年まで、本郷教会の初代主任司祭。同教会の創成期に尽力された。以後、大分教区に移籍。享年68歳。

ステファノ山頭栄師

十一月十三日、姫路マリア病院にて死去。司祭叙階後約三十年間ブラジルにて宣教。同師はコンベンツアル聖フランシスコ会員。山頭原太郎師（熊本信愛）の実弟。享年57歳。

編集室から

先輩諸師の読みごたえのある教区報を受け継いできた。時には『偏集』になったり、『変集』になったりしたことで、ご迷惑をおかけしたことをお詫びしたい▼皆様のご期待に沿えるよう頑張りますので、来年もよろしくお願い致します。鬼が笑うのでなく、天使が微笑みかけることを祈りつつ。

クリスマスフェアー開催
hotな贈り物
（カード・テープ・書籍・聖品各種）
とき：12月14日(月)～23日(水)
午前9：30～午後5：00
ところ：福岡市中央区小笹4－11－11
聖パウロ修道院　1F
☎092－531－0924
お気軽にお越し下さい

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株)メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL　092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810　福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社　092-761-5885　自宅　092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

内科・胃腸科・循環器科・呼吸器科
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾2－13－24
(平尾四ッ角)
TEL092－521－0568㈹